

財団法人広島市文化財団発刊調査報告書 第4集

# 大町七九谷遺跡群

— 広島市安佐南区大町所在 —

1999

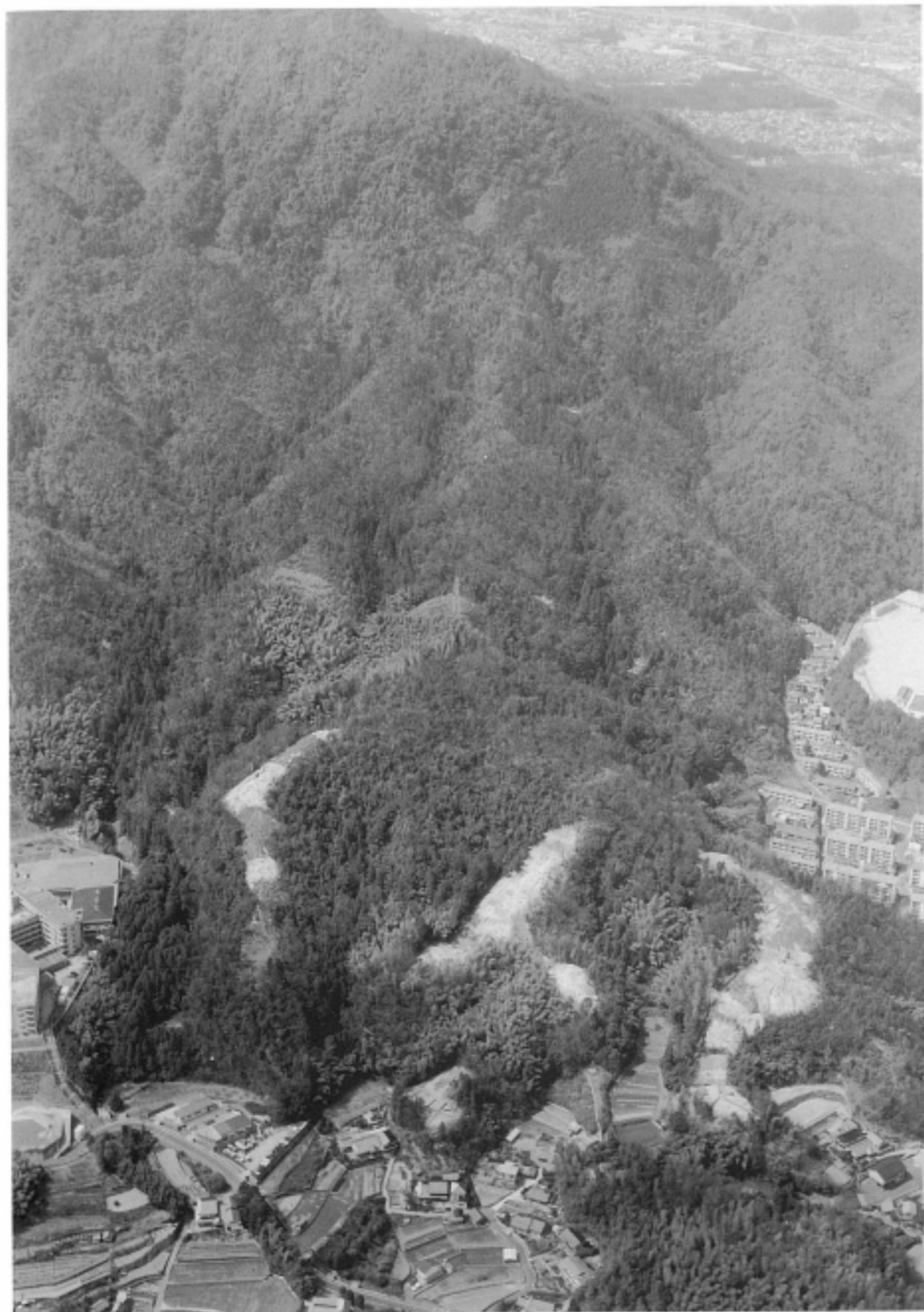
財団法人広島市文化財団



大町七九谷遺跡群遠景（調査前・南西から・航空写真）



大町七九谷遺跡群遠景（調査後・北東から・航空写真）



大町七九谷遺跡群遠景（調査後・東から・航空写真）



A地点遺跡遠景（調査後・北西から・航空写真）



B地点遺跡遠景（調査後・北西から・航空写真）



C地点遺跡遠景（調査後・西から・航空写真）



a A地点遺跡近景（調査前・東から）



b B地点遺跡近景（調査前・北西から）



a C地点遺跡近景（調査前・北西から）



b B地点遺跡墳墓群土器群C出土土器

## はしがき

安佐南区大町地区は、アストラムラインをはじめとする交通網の整備や宅地造成によって、近年急速に都市化が進んできた地域です。また、大町地区から祇園地区にかけての武田山東麓の丘陵部からは、開発に伴って多くの埋蔵文化財が発見されております。

今回報告する大町七九谷遺跡群も、住宅団地の造成計画に伴ってその存在が明らかになったものですが、工事によって消滅することとなり、記録保存の措置をとるため発掘調査を実施したものです。

調査の結果、3箇所尾根からは、弥生時代後期から古墳時代前半期にかけての住居跡土坑、土壙墓、石棺墓、古墳などが確認され、これらの時期の集落や墓地の姿や当時の人々の生活を知る上で、貴重な資料を得ることができました。

この報告書が、地域学習の資料として広く活用され、郷土に対する愛着と理解を深め、地域のさらなる発展に役立つことを願ってやみません。

なお、最後になりましたが、発掘調査にあたって、ご指導・ご助言いただきました諸先生方、ならびに現地調査・整理作業にご協力いただきました関係機関・調査補助員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成11年12月

財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課

## 例 言

1. 本報告書は、広島市安佐南区大町における住宅団地造成事業に伴い、平成811年度に実施した大町七九谷遺跡群の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東亜建設工業株式会社から委託を受け、財団法人広島市歴史科学教育事業団文化財課（現財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課）が実施した。
3. 本報告書の執筆・編集は、村田亜紀夫が行った。
4. 遺構の実測及び写真撮影は、村田・樽谷秀幸・宮田浩二・福原茂樹・高下洋一・荒川正己・篠原達也・大室謙二・山脇一幸・玉置和弘・田村規充が分担して行った。
5. 遺物の実測及び写真撮影、また、遺構・遺物の製図・トレースは、村田・高下・荒川・楢木敬太・岡野孝子が分担して行った。
6. 本報告書に使用した遺構表示記号は次のとおりである。  
SH：竪穴住居跡    SB：掘立柱建物跡    SK：土坑    SS：石棺墓  
ST：土壙墓    SP：土器棺墓・土器蓋土壙墓    SX：テラス状遺構
7. 本報告書に掲載した航空写真の撮影は、スタジオ・ユニに委託した。
8. 炭化材の樹種同定及び赤色顔料の成分分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. 第1図に使用した地図は、建設省国土地理院発行の50,000分の1の地形図（広島）を使用した。

# 目次

1 はじめに	1
2 位置と環境	3
3 大町七九谷A地点遺跡	7
(1) 調査の概要	
(2) 遺構と遺物	
〈付表〉	
第1表 大町七九谷A地点遺跡土坑計測表	
第2表 大町七九谷A地点遺跡土墳墓計測表	
第3表 大町七九谷A地点遺跡出土土器観察表	
第4表 大町七九谷A地点遺跡出土土製品観察表	
第5表 大町七九谷A地点遺跡出土鉄製品観察表	
第6表 大町七九谷A地点遺跡出土石製品観察表	
4 大町七九谷B地点遺跡	26
(1) 調査の概要	
(2) 遺構と遺物	

〈付表〉	
第7表 大町七九谷B地点遺跡土坑計測表	
第8表 大町七九谷B地点遺跡土城墓計測表	
第9表 大町七九谷B地点遺跡出土土器観察表	
第10表 大町七九谷B地点遺跡出土土製品観察表	
第11表 大町七九谷B地点遺跡出土鉄製品観察表	
第12表 大町七九谷B地点遺跡出土石製品観察表	
5 大町七九谷C地点遺跡	45
(1) 遺跡の概要	
〈付表〉	
第13表 大町七九谷C地点遺跡土墳墓計測表	
第14表 大町七九谷C地点遺跡石棺墓計測表	
第15表 大町七九谷C地点遺跡出土土器観察表	
第16表 大町七九谷C地点遺跡出土鉄製品観察表	
6 まとめ	54

# 挿図 目次

第1図 周辺主要遺跡分布図	59
第2図 周辺地形図	60
第3図 大町七九谷A地点遺跡遺構配置図	折込み 61
第4図 S K 1 実測図	63
第5図 S K 2 実測図	〃
第6図 S K 3 実測図	〃
第7図 S T 1 実測図	〃
第8図 S X 1 実測図	折込み 65
第9図 S H 1 実測図	67
第10図 S H 2 実測図	〃
第11図 S H 3 実測図	68
第12図 S H 4 実測図	〃
第13図 S H 5・S K 5 実測図	折込み 69
第14図 S K 4 実測図	71
第15図 S K 5 実測図	〃
第16図 S H 6 実測図	72
第17図 S H 7・8 実測図	折込み 73
第18図 S K 6 実測図	75
第19図 S K 7 実測図	〃
第20図 S K 8 実測図	〃
第21図 S K 9 実測図	〃
第22図 S K 12 実測図	76
第23図 S K 10 実測図	〃
第24図 S K 11 実測図	〃

第25図 S X 2 実測図	折込み 77
第26図 S H 9・S K 13 実測図	79
第27図 S H 10・S K 14・15 実測図	80
第28図 S K 13 実測図	81
第29図 S K 14 実測図	〃
第30図 S K 15 実測図	〃
第31図 S K 16 実測図	82
第32図 S K 17 実測図	〃
第33図 S X 3 実測図	83
第34図 S H 11 実測図	84
第35図 S H 12 実測図	85
第36図 S B 1 実測図	86
第37図 S K 18 実測図	〃
第38図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 1 ]	87
第39図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 2 ]	88
第40図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 3 ]	89
第41図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 4 ]	90
第42図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 5 ]	91
第43図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 6 ]	92

第44図	大町七九谷A地点遺跡出土遺物 実測図 [ 7 ]	93	第87図	S T 19 実測図	124
第45図	大町七九谷B地点遺跡遺構配置図 折込み	95	第88図	S T 20・21 実測図	〃
第46図	S H 1 実測図	97	第89図	S T 22 実測図	125
第47図	S K 1 実測図	98	第90図	S T 23 実測図	〃
第48図	S K 2 実測図	〃	第91図	S T 24 実測図	〃
第49図	S K 3 実測図	〃	第92図	S T 25 実測図	〃
第50図	S K 4 実測図	99	第93図	S T 26 実測図	126
第51図	S H 3・4 実測図 折込み	101	第94図	S T 30 実測図	〃
第52図	S H 3・4 断面図	103	第95図	S T 27 実測図	〃
第53図	S H 3 土器出土状況実測図	〃	第96図	S T 28・29 実測図	127
第54図	S X 1 実測図	104	第97図	S T 31 実測図	〃
第55図	S X 2・S H 2 実測図	105	第98図	S P 1 実測図	〃
第56図	S X 2・S H 2 断面図	106	第99図	土器群A・B・C 実測図	128
第57図	S K 5 実測図	〃	第100図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 1 ]	129
第58図	S K 6 実測図	〃	第101図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 2 ]	130
第59図	S H 5 実測図	107	第102図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 3 ]	131
第60図	S B 1 実測図	108	第103図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 4 ]	132
第61図	S H 6 実測図	109	第104図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 5 ]	133
第62図	S H 7 実測図	110	第105図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 6 ]	134
第63図	S K 7 実測図	111	第106図	大町七九谷B地点遺跡出土遺物 実測図 [ 7 ]	135
第64図	S K 8 実測図	〃	第107図	大町七九谷C地点遺跡遺構配置図	136
第65図	S K 9 実測図	112	第108図	大町七九谷C地点遺跡第I墳墓群 遺構配置図	137
第66図	S K 10 実測図	113	第109図	S S 1 実測図	138
第67図	S K 11 実測図	〃	第110図	S S 2 実測図	〃
第68図	大町七九谷B地点遺跡墳墓群遺構 配置図 折込み	115	第111図	S S 3 実測図	〃
第69図	大町七九谷古墳主体部実測図	117	第112図	S T 1 実測図	139
第70図	S T 1 実測図	118	第113図	S T 2 実測図	〃
第71図	S T 2 実測図	〃	第114図	S T 5 実測図	〃
第72図	S T 4 実測図	〃	第115図	S T 8 実測図	〃
第73図	S T 3・5 実測図	119	第116図	S T 3・4 実測図	140
第74図	S T 6 実測図	〃	第117図	S T 6・7 実測図	〃
第75図	S T 9 実測図	120	第118図	S T 9・10 実測図	141
第76図	S T 8 実測図	〃	第119図	S T 11 実測図	〃
第77図	S T 7 実測図	〃	第120図	S T 12 実測図	〃
第78図	S T 10 実測図	121	第121図	大町七九谷C地点遺跡第II墳墓群 遺構配置図 折込み	143
第79図	S T 11 実測図	〃	第122図	S S 4 実測図	145
第80図	S T 12 実測図	〃	第123図	S S 6・S P 2 実測図	〃
第81図	S T 13 実測図	122			
第82図	S T 14 実測図	〃			
第83図	S T 15 実測図	〃			
第84図	S T 16 実測図	123			
第85図	S T 17 実測図	〃			
第86図	S T 18 実測図	〃			

第124 図	S S 5 実測図	146	第156 図	S T 39 実測図	155
第125 図	S S 8 実測図	〃	第157 図	S T 40 実測図	〃
第126 図	S S 7 実測図	〃	第158 図	S T 41 実測図	156
第127 図	S S 9 実測図	147	第159 図	S T 42 実測図	〃
第128 図	S S 11 実測図	〃	第160 図	S T 43 実測図	〃
第129 図	S S 10 実測図	〃	第161 図	S T 45 実測図	〃
第130 図	S S 12 実測図	148	第162 図	S T 44 実測図	157
第131 図	S S 14 実測図	〃	第163 図	S T 48 実測図	〃
第132 図	S S 13 実測図	〃	第164 図	S T 46 実測図	〃
第133 図	S S 15 実測図	149	第165 図	S T 49 実測図	〃
第134 図	S S 17 実測図	〃	第166 図	S T 47 実測図	〃
第135 図	S S 16 実測図	〃	第167 図	S T 51 実測図	158
第136 図	S T 13 実測図	〃	第168 図	S T 50 実測図	〃
第137 図	S T 14 実測図	150	第169 図	S P 1 実測図	〃
第138 図	S T 16・25・27 実測図	〃	第170 図	大町七九谷C地点遺跡第Ⅲ墳墓群 遺構配置図	159
第139 図	S T 15 実測図	〃	第171 図	S T 52 実測図	160
第140 図	S T 18 実測図	〃	第172 図	S T 53 実測図	〃
第141 図	S T 19・20・23・24 実測図	151	第173 図	S T 54 実測図	〃
第142 図	S T 17 実測図	152	第174 図	S T 55 実測図	〃
第143 図	S T 21 実測図	〃	第175 図	S T 56 実測図	161
第144 図	S T 22 実測図	〃	第176 図	S T 58 実測図	〃
第145 図	S T 26 実測図	〃	第177 図	S T 57 実測図	〃
第146 図	S T 28 実測図	153	第178 図	S T 59 実測図	〃
第147 図	S T 29 実測図	〃	第179 図	S T 60 実測図	162
第148 図	S T 30 実測図	〃	第180 図	S T 61 実測図	〃
第149 図	S T 31 実測図	〃	第181 図	S T 62 実測図	〃
第150 図	S T 32 実測図	154	第182 図	大町七九谷C地点遺跡出土遺物 実測図[1]	163
第151 図	S T 35 実測図	〃	第183 図	大町七九谷C地点遺跡出土遺物 実測図[2]	164
第152 図	S T 33・34 実測図	〃			
第153 図	S T 36 実測図	155			
第154 図	S T 37 実測図	〃			
第155 図	S T 38 実測図	〃			

## 図版 目次

巻頭図版 1	大町七九谷遺跡群遠景 (調査前・南西から・航空写真)		(調査後・西から・航空写真)	
巻頭図版 2	大町七九谷遺跡群遠景 (調査後・北東から・航空写真)		巻頭図版 7 a A地点遺跡近景(調査前・東から) b B地点遺跡近景(調査前・北西から)	
巻頭図版 3	大町七九谷遺跡群遠景 (調査後・東から・航空写真)		巻頭図版 8 a C地点遺跡近景(調査前・北西から) b B地点遺跡墳墓群土器群C出土土器	
巻頭図版 4	A地点遺跡遠景 (調査後・北西から・航空写真)		図版 1 a S H 1 (北から) b S H 2 (北から)	
巻頭図版 5	B地点遺跡遠景 (調査後・北西から・航空写真)		図版 2 a S H 3 (北東から) b S H 4 (北から)	
巻頭図版 6	C地点遺跡遠景		図版 3 a S H 5・S K 5 (北から) b S H 6 (北東から)	

- 図版 4 a S H 7 炭化材検出状況 (北から)  
b S H 7 (北東から)
- 図版 5 a S H 8 (南東から)  
b S H 9・S K 13 (北東から)
- 図版 6 a S H 10・S K 14 (北西から)  
b S H 11 (東から)
- 図版 7 a S H 12 炭化材検出状況 (北東から)  
b S H 13 (北東から)
- 図版 8 a S B 1 (北西から)  
b S X 1 (南東から)
- 図版 9 a S X 2 (北から)  
b S X 3 (北西から)
- 図版 10 a S K 1 (南から)  
b S K 2 (東から)  
c S K 3 (北東から)  
d S K 4 (北東から)
- 図版 11 a S K 6 (北東から)  
b S K 7 (南東から)  
c S K 8・9・10 (南東から)  
d S K 11・12 (北東から)
- 図版 12 a S K 15 (南西から)  
b S K 16 (北西から)  
c S K 17 (北から)  
d S K 18 (南東から)  
e S T 1 (南東から)
- 図版 13 a B地点遺跡近景(調査後・北西から)  
b B地点遺跡墳墓群近景  
(調査後・南西から)
- 図版 14 a S H 1 (東から)  
b S H 2・S X 2 (東から)
- 図版 15 a S H 3 (北から)  
b S H 3 土器出土状況 (北東から)
- 図版 16 a S H 4 (北東から)  
b S H 4 鉄器出土状況 (北東から)
- 図版 17 a S H 5 (北から)  
b S H 6 (北西から)
- 図版 18 a S H 7 (南東から)  
b S B 1・S K 7 (北から)
- 図版 19 a S X 1 (西から)  
b S X 2 (南から)
- 図版 20 a S K 1 (東から)  
b S K 2 (北から)  
c S K 3 (北東から)  
d S K 4 (南西から)  
e S K 5 (南から)  
f S K 6 (北西から)
- 図版 21 a S K 7 (東から)  
b S K 8 (南東から)  
c S K 9 (東から)  
d S K 9 土器出土状況 (南から)
- 図版 22 a S K 10 (北東から)  
b S K 11 (北から)  
c B地点遺跡墳墓群検出状況(西から)
- 図版 23 a 大町七九谷古墳周溝検出状況西から)  
b 大町七九谷古墳主体部 (南西から)
- 図版 24 a 大町七九谷古墳主体部 (北西から)  
b 大町七九谷古墳主体部鉄器出土状況  
(南東から)
- 図版 25 a S T 1・2 (北西から)  
b S T 3・5・6 (南東から)
- 図版 26 a S T 4 (北東から)  
b S T 7・10 (北西から)  
c S T 8 (北西から)
- 図版 27 a S T 9 (北西から)  
b S T 10 (南東から)  
c S T 11 (南西から)
- 図版 28 a S T 13 (南東から)  
b S T 15 (北西から)  
c S T 16 (南から)
- 図版 29 a S T 12・26 (南西から)  
b S T 13・14・15 (北西から)
- 図版 30 a S T 17 (北東から)  
b S T 18 (南から)  
c S T 19・S P 1 (南から)
- 図版 31 a S T 20・21 (南東から)  
b 土器群A検出状況 (南東から)
- 図版 32 a S T 22・23 (北から)  
b S T 24 (北から)  
c S T 25 (北から)
- 図版 33 a S T 28・29 (北東から)  
b 土器群B・C検出状況 (東から)
- 図版 34 a S T 27 (南西から)  
b S T 30 (東から)
- 図版 35 a S T 31 (南東から)  
b S P 1 (北西から)
- 図版 36 a C地点遺跡第I墳墓群近景(西から)  
b S S 2 (南西から)
- 図版 37 a S S 1 (西から)  
b S S 1 蓋石除去後 (西から)  
c S S 3 (西から)
- 図版 38 a S T 1 (北東から)  
b S T 2 (東から)

- c S T 5 (北から)
- 図版 39 a S T 3・4 (北東か4))  
b S T 6 (東から)
- 図版 40 a S T 7 (東から)  
b S T 8 (北西から)  
c S T 9・10 (東から)
- 図版 41 a S T 9直上土器出土状況 (南東から)  
b S T 11 (西から)  
c S T 12 (西から)
- 図版 42 a C地点遺跡第Ⅱ墳墓群近景 (北西から)  
b S S 4 (南東から)
- 図版 43 a S S 5 (南東から)  
b S S 6・S P 2 (南西から)  
c S S 6蓋石除去後 (南西から)
- 図版 44 a S S 7 (南東から)  
b S S 8 (北西から)  
c S S 8蓋石除去後 (北西から)
- 図版 45 a S S 9 (北西から)  
b S S 9蓋石除去後 (北西から)  
c S S 10 (北東から)
- 図版 46 a S S 10蓋石除去後 (北東から)  
b S S 11 (北東から)  
c S S 11蓋石除去後 (北西から)
- 図版 47 a S S 12 (北から)  
b S S 12蓋石除去後 (北から)  
c S S 13 (西から)
- 図版 48 a S S 13蓋石除去後 (西から)  
b S S 14 (南西から)  
c S S 14蓋石除去後 (北東から)
- 図版 49 a S S 15 (南東から)  
b S S 15蓋石除去後 (南東から)  
c S S 15土器出土状況 (南西から)
- 図版 50 a S S 16 (北から)  
b S S 16蓋石除去後 (北から)  
c S S 17 (北西から)
- 図版 51 a S S 17蓋石除去後 (南東から)  
b S T 13 (北西から)  
c S T 14 (南東から)
- 図版 52 a S T 15 (西から)  
b S T 16・25・27・S S 7 (北西から)
- 図版 53 a S T 17 (南東から)  
b S T 18 (南東から)  
c S T 19 (北西から)
- 図版 54 a S T 20・23・24 (北西から)  
b S T 21 (北東から)
- 図版 55 a S T 26 (南から)
- b S T 28 (東から)  
c S T 29・S S 12 (北西から)
- 図版 56 a S T 30 (南東から)  
b S T 31 (南東から)  
c S T 32 (北東から)
- 図版 57 a S T 33・34 (南東から)  
b S T 35・S S 17 (北西から)
- 図版 58 a S T 35鉄器出土状況 (南西から)  
b S T 35鉄器出土状況 (南東から)
- 図版 59 a S T 36 (北西から)  
b S T 37 (北東から)  
c S T 38 (南東から)
- 図版 60 a S T 39 (北西から)  
b S T 40 (東から)  
c S T 41 (北西から)
- 図版 61 a S T 42 (南から)  
b S T 43 (南東から)  
c S T 44 (南東から)
- 図版 62 a S T 45 (南東から)  
b S T 46・48 (南から)  
c S T 47 (南東から)
- 図版 63 a S T 48 (南東から)  
b S T 49 (南東から)  
c S T 50 (南東から)
- 図版 64 a S T 51 (北西から)  
b S P 1 (北西から)  
c S P 1土器一部除去後 (南東から)
- 図版65 a C地点遺跡第Ⅲ墳墓群近景(北東から)  
b S T 52～59 (北東から)
- 図版 66 a S T 52 (北西から)  
b S T 53 (北西から)  
c S T 54 (北から)
- 図版 67 a S T 55 (北西から)  
b S T 56 (南東から)  
c S T 57 (南東から)
- 図版 68 a S T 58 (南東から)  
b S T 59 (北西から)  
c S T 60 (北東から)
- 図版 69 a S T 61 (北西から)  
b S T 62 (南から)
- 図版 70 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 [1]
- 図版 71 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 [2]
- 図版 72 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 [3]
- 図版 73 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 [4]
- 図版 74 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 [5]
- 図版 75 大町七九谷A地点遺跡出土遺物 [6]

図版 76	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 1 ]	図版 81	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 6 ]
図版 77	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 2 ]	図版 82	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 7 ]
図版 78	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 3 ]	図版 83	大町七九谷B 地点遺跡 (上)・ C 地点遺跡 (下) 出土遺物
図版 79	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 4 ]	図版 84	大町七九谷C 地点遺跡出土遺物
図版 80	大町七九谷B 地点遺跡出土遺物 [ 5 ]		

# 1 はじめに

広島市教育委員会（以下、市教委とする）は、平成7年6月に東亜建設工業株式会社（以下、東亜建設とする）から広島市安佐南区大町の住宅団地造成事業地内の埋蔵文化財の有無並びに取り扱いについての照会を受けた。市教委は、当該地域の現地踏査及び試掘調査を実施した結果、造成区域内の3箇所の尾根に埋蔵文化財の存在を確認し、平成8年3月に、東亜建設にその旨を回答した。以後、この遺跡群の取り扱いについて、市教委と東亜建設は協議を重ねたが、地形的に計画変更が困難であることから、現状保存は困難であるとの結論に達し、記録保存の措置を講ずることとなった。

東亜建設は、同年6月財団法人広島市歴史科学教育事業団（現財団法人広島市文化財団、以下事業団とする）に調査対象面積約11,000㎡中約5,000㎡についての範囲確認調査実施を依頼した。事業団では同年7月8日から7月31日まで確認調査を実施した。この結果、調査対象面積は8,800㎡となり、同年9月東亜建設から事業団に本調査及び報告書作成の依頼があり、事業団は平成9年5月12日から平成10年3月27日まで現地調査を実施した。

さらに、東亜建設の開発計画の一部変更に伴って、造成区域が拡大したことから、市教委は、平成11年1月に、当該範囲の埋蔵文化財の有無並びに取り扱いについての照会を受け市教委は、試掘調査を実施した結果、当該範囲の一部に埋蔵文化財の存在を確認し、同年2月に東亜建設にその旨を回答した。東亜建設は、同年2月財団法人広島市文化財団（以下財団とする）に追加調査の実施を依頼し、財団は同年4月19日から5月14日まで追加現地調査を実施した。なお、報告書作成は、事業団から業務を移行した財団が、追加調査分も含めて同年12月にかけて実施した。

調査関係者は、次のとおりである。

調査委託者	東亜建設工業株式会社
調査主体	財団法人広島市歴史科学教育事業団（平成8・9年度） 財団法人広島市文化財団（平成10・11年度）
調査担当課	財団法人広島市歴史科学教育事業団文化財課（平成8・9年度） 財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課（平成10・11年度）
調査関係者	平成8・9年度 中原 照雄 常務理事（現佐伯区長） 佐川 清 文化財課長（現財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課長） 宮田 浩二 文化財課事業係長（現文化科学部交通科学館教育普及係長） 平成10年度 竹本 輝男 常務理事 堂官 正昭 文化科学部長 佐川 清 文化科学部文化財課長

宮田浩 二 文化科学部文化財課主任（現文化科学部交通科学館教育普及係長）

平成 11 年度

竹本 輝男 常務理事

堂官 正昭 文化科学部長

佐川 清 文化科学部文化財課長

福原 茂樹 文化科学部文化財課指導主事

調査者

平成 8 年度確認調査

福原 茂樹 文化財課事業係指導主事

大室 謙二 文化財課事業係学芸員（現文化科学部広島城学芸員）

平成 9 年度本調査

村田亜紀夫 文化財課事業係指導主事

樽谷 秀幸 文化財課事業係指導主事（現広島市立観音小学校教諭）

平成 11 年度追加調査

村田亜紀夫 文化科学部文化財課指導主事

田村 規充 文化科学部文化財課学芸員

調査補助員（50 音順）

天野千敏 井手口陽子 岩村京子 大下一人 岡野勝行 岡野トヨ子 岡村せつ子

岡本隆幸 岡本真澄 沖田健太郎 柿田美也子 梶谷ミエ子 川田勝 川手京子

河野幸子 国本敬子 久保なずな 坂本明久 貞森真弓 佐藤信子 山王哲司

重森正樹 住広真 高木素子 高本すがこ 武本良広 長力初江 塚井数馬

筒尾俊宏 中村巖 西本弘 畑直樹 波谷康弘 濱田由倭子 広田武子 本田春子

間瀬未明 宮田政子 村越幸三 室積淑美 森川ミヨ子 森田信枝 森田美恵子

矢島とみえ 山崎瞳 養祖昭 養祖エミ 横光美里

整理作業員（50 音順）

河合淳子 酒本由理郁 菅原彰子 住川香代子 橋本礼子

また、東亜建設工業株式会社、日野原富士コンサルタント株式会社、広島市教育委員会、大町小学校、安佐南中学校、祇園北高等学校、古市公民館の職員の方々及び周辺住民の皆様には、調査を円滑に進めるにあたり、多大なご配慮とご協力をいただいた。さらに、現地発掘調査並びに報告書執筆にあたり、埋蔵文化財発掘調査指導委員会の広島大学名誉教授潮見浩氏、同文学部教授川越哲志氏、同教授河瀬正利氏、同助教授古瀬清秀氏から広範なご指導、ご助言をいただいた。また、出土遺物の整理、報告書の執筆にあたっては、以下の方々から広範なご教示をいただいた。ここに記して謝意を表したい。

佐賀県教育庁 大橋康二氏、山口県宇部市教育委員会 大林達夫氏、広島県歴史民俗資料館 伊藤実氏（順不同）

## 2 位置と環境

大町七九谷遺跡群は、広島市安佐南区大町字七九谷に所在する。

広島市は、広島県西部の広島湾最奥部に位置する中国地方最大の都市であり、その中心をなす市街地は、太田川河口に形成された三角州上に広がっている。本遺跡群が所在する安佐南区は、この市街地の北西に隣接し、昭和46～48年に広島市に合併する以前からベッドタウンとして開発が進んできた。今日ではアストラムライン（新交通システム）や祇園新道の開通等によって、市街地化がさらに進み、拡大する都市圏へ組み込まれつつある。

中国山地を源とした太田川は、市北部の安佐北区可部町で北から根の谷川、東から三篠川が合流し、南へ大きく流路を変えて幅約2kmの河谷平野を形成している。この帯状の平野は河口の三角州まで続いているが、両側に南北に連なる山塊からは、平野の縁辺へ中小の河川が流れ込み、無数の小河谷と低丘陵を形成している。大町七九谷遺跡群が所在する大町地区も、安佐南区のほぼ中央に費える武田山（標高410.9m）の東麓にあって、太田川や安川河岸に連なる沖積地と小河谷、低丘陵からなる地区である。かつては一面に田畑が広がっていた田園地帯であったが、戦後進んだ宅地開発は、昭和40年代には丘陵地に波及し、丘を削って住宅団地や学校の建設が進んだ。これらの造成工事に伴って、弥生時代から中世に至る時期の遺跡が確認されている。

大町七九谷遺跡群は標高40～100mの3本の尾根に立地している。これらの尾根は、武田山山頂から東へ下る尾根が、標高100～150m付近で傾斜を緩め形成した一つの平坦地から派生したもので、平面形がアルファベットのEの形状を呈している。3本の尾根は、北からそれぞれA地点遺跡・B地点遺跡・C地点遺跡と呼称することとするが、A地点遺跡の北側に連なる丘陵には住宅団地と小・中学校が建設されており、C地点遺跡の南側に隣接する尾根にも高等学校が建設されている。これらの造成工事に伴って、周辺の地形は大きく改変されているが、かつては、本遺跡群と同様の尾根が何本も並び、その間に狭い谷が入り込んだ地形であったと考えられる。

さて、大町七九谷遺跡群周辺の太田川下流域における歴史的環境について述べてみたい。

太田川下流域では、旧石器・縄文時代の遺跡の確認例は極めて少ない。発掘調査のほとんどが丘陵地に限られていることもあり、二次堆積層から単発的に遺物が出土することはあるものの、明確な遺構を確認できた例はない。

弥生時代の遺跡についても、前期と中期についての確認例は少ない。西岸地域では、太田川放水路固定堰遺跡1)で現水面下約4mの粘土混じりの砂層中から前期～後期の土器が出土しており、長う子遺跡2)・芳ヶ谷遺跡3)からも、中期に位置づけられる土器が若干出土している。また、東岸地域では、弘住遺跡4)の配石遺構と大明地遺跡5)の第9号住居跡に中期の土器が伴っており、中期の遺構の数少ない検出例となっている。

弥生時代後期になると、遺跡数は急増する。これは、水稻耕作の発展から人口が増加し、調査対象となる丘陵部に集落が数多く営まれるようになったためと考えられる。特に東岸地域の旧高陽町では、住宅団地造成に伴う発掘調査が数多く実施され、集落の様相が明らかにされた6)。それによれば、集落は標高50～80mの丘陵尾根上に立地し、「集落の規模も小さくせいぜい3～4戸を一単位と

する小さな集団」が散在するという特色を持っている7)。そして、周囲の水田面までの比高はいずれも30m前後となっており、谷水田や畑作地を生活基盤とした集落の様相が想定できる。この傾向は、一部を除いて西岸地域でも認められ、概ね太田川下流域全体の共通した様相ととらえる事ができよう。

さて、大町地区を中心とした太田川西岸地域の当該期の遺跡としては、毘沙門台遺跡8)、毘沙門台東遺跡9)、恵木遺跡10)、矢ヶ谷遺跡11)、長う子遺跡、芳ヶ谷遺跡、大谷遺跡12)、寺山遺跡13)、池の内遺跡14)、九郎杖遺跡15)等があげられる。毘沙門台遺跡および毘沙門台東遺跡では、一つの谷を囲む標高100～180mの5本の尾根上から約120軒の住居跡が確認されたが、これらは太田川下流域の弥生時代の集落跡としては例外的に大きな規模の拠点集落と考えられる。一方、長う子遺跡、芳ヶ谷遺跡大谷遺跡の3遺跡では、隣接する3本の尾根上から18軒の住居跡が確認されており、一つの尾根に数軒の住居を営み、周囲の谷の水源や水田を共有する小規模な集落の姿が窺える。また、墳墓については、安川流域の恵木遺跡で、標高70mの尾根上から住居跡2軒と土壌墓12基、石棺墓4基が、大町七九谷遺跡群の北側に隣接する大町矢ヶ谷遺跡で、標高80～90mの2本の尾根上から住居跡3軒、土坑15基、土壌墓39基、土器棺墓2基が確認されており、尾根上に営まれた集団墓の様子が窺える。ところで、太田川東岸では、後期後半から終末期になると西願寺山墳墓群16)、西願寺北遺跡17)、梨ヶ谷遺跡B地点18)など、堅穴式石室を埋葬主体にもつ特定集団墓や特定個人墓が出現するが、太田川西岸ではまだ明確には確認されていない。

古墳時代になると、集落は丘陵上から徐々に姿を消し、かわって墳丘をもつ古墳が築造される。4世紀後半に築造された太田川東岸の中小田第1号古墳19)、太田川西岸の神宮山第1号古墳20)、宇那木山第2号古墳21)は、墳形が前方後円形もしくは前方後方形で、埋葬主体に堅穴式石室を採用し、中国製青銅器や鉄器、玉類などを副葬している、いわゆる畿内型の古墳であり、いずれも周辺地域を統率した首長墓と考えられる。5世紀代には古墳の数は増加し、粘土槨や組合せ式石棺、堅穴式石室などを埋葬主体として、やや規模は小さいながらも鉄製武器類や農工具類などを副葬した古墳が見晴らしの良い丘陵上に築造された。6世紀後半以降には、太田川下流域の古墳築造は下火となり、横穴式石室を埋葬主体としたこの時期の古墳の多くは、北部の安佐北区可部町や白木町に分布している。

大町地区周辺では、尾首古墳22)、芳ヶ谷古墳群23)が確認されている。尾首古墳は、直径約20mの円墳で、中世の山城築造による削平によって埋葬主体は不明であるが、U字形鋤先1、短冊形鉄斧1、円筒形埴輪、土師器、須恵器などが出土しており、5世紀後半の築造と考えられる。芳ヶ谷古墳群は3基からなる古墳群である。第1号古墳は、明瞭な墳丘は確認されなかったが、尾根の先端部を方形に区画した溝と礫群が確認されており、方墳の可能性もある。埋葬主体は割竹形木棺を埋置した土壙で、棺外と考えられる位置から獣形鏡1、碧玉製勾玉、管玉21、ガラス小玉13、刀子1が出土しており、これらから5世紀後半の築造と考えられる。また、第2号古墳は、埋葬主体が小型の組合せ式石棺である。第3号古墳は方形ないしは楕円形の墳丘をもち、埋葬主体は大小2基の組合せ式石棺で、大型の石棺内から、熟年女性の人骨1体が出土した。両者の築造時期については、遺物が出土していないため明確ではない。

また、大町地区の南側の武田山南麓にあたる山本地区でも同時期の古墳が確認されている。三王原古墳(24)、寺山古墳群(25)、空長古墳群(26)、池の内古墳群(27)などである。山王原古墳は、川原石を用いた竪穴式石室から獣形鏡1、鉄鉾などの鉄器、甲冑片、馬具などが出土しており・5世紀中頃の築造と考えられる。寺山古墳群は、円墳5基、方墳1基、墳丘下の埋葬主体6基からなり・出土遺物から4世紀代～5世紀前葉と5世紀後半～6世紀前葉の2時期に築造されたと考えられる。このうち第6号古墳は、埋葬主体は確認できなかったが、方形に整形盛土した墳丘に貼り石を施しており、隣接する第1号古墳との関係などから4世紀代に築造された可能性が指摘されている。また、第3号古墳は、竪穴式槨と組合せ式石棺の要素を併せもつ主体に組合せ式木棺を埋置しており、直刀1、小刀2、鎌12などの武器類、U字形鋤先1、曲刃鎌1などの農具、斧1、刀子5、金槌1などの工具類といった多量の鉄器が出土しており、これらから5世紀後半の築造と考えられる空長古墳群は、円墳4基からなり、このうち2基の埋葬主体は竪穴系横口式石室である。第1号古墳からは、金銅製三輪玉、蛇行剣身などが出土し、周溝からは古式須恵器が出土している。これらから5世紀後半から6世紀初頭頃の築造と考えられる。

6世紀後半以降の古墳としては、山本地区の上組古墳(28)、部谷山古墳(29)などが知られている。上組古墳は、全長5.7mの横穴式石室をもつ円墳で、石室内から須恵器などが出土している。部谷山古墳もほぼ同規模の横穴式石室をもつ円墳である。

以上のように、大町地区周辺では、5世紀中頃から6世紀初頭にかけて相次いで丘陵上に古墳が築造されており、その副葬品などからは、武力のみならず・土地開発などにも力を入れた被葬者の姿が推測される。

ところで、古代から中世にかけての大町地区は、安佐南区中筋付近で太田川を渡った山陽道が武田山の麓に沿って横切り、安川の谷に進入していく位置にあたる(30)。また、背後に聳える武田山(銀山城跡)や尾首城跡(31)など、中世には山城も構えられ、太田川下流域を一望することができる交通の要衝として注目されたものと考えられる。

## 注

1. 藤田等「太田川放水路固定堰発見の弥生式土器」『広島考古研究』第4集 広島考古学会 1965年
2. 広島市教育委員会『広島経済大学構内遺跡群発掘調査報告』1984年
3. 注2に同じ
4. 広島市教育委員会『弘住遺跡発掘調査報告』1983年
5. 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「大明地遺跡」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ』1987年
6. 広島県教育委員会『高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告』1977年
7. 広島市編『高陽町史』1979年
8. 未報告のため詳細は不明である。
9. 広島市教育委員会『毘沙門台東遺跡発掘調査報告』1990年
10. 恵木遺跡発掘調査団『恵木遺跡発掘調査報告』1982年

11. 矢ヶ谷遺跡発掘調査団『矢ヶ谷遺跡発掘調査報告』1984年
12. 注2に同じ
13. 財団法人広島市歴史科学教育事業団『寺山遺跡発掘調査報告』1997年
14. 広島市教育委員会「池の内遺跡発掘調査報告』1985年
15. 広島市教育委員会『九郎杖遺跡・権地遺跡発掘調査報告』1984年
16. 広島県教育委員会『西願寺山墳墓群』1974年
17. 広島市編『中山村史』1991年
18. 財団法人広島市歴史科学教育事業団『梨ヶ谷遺跡発掘調査報告』1998年
19. 広島市教育委員会・広島大学文学部考古学研究室『中小田古墳群』1981年
20. 広島市役所編『新修広島市史第1巻 総説編』1961年
21. 注20に同じ
22. 広島県教育委員会『尾首城跡発掘調査報告』1984年
23. 注2に同じ
24. 中田昭「広島市祇園町三王原古墳について」『芸備』第1集芸備友の会 1973年
25. 注13に同じ
26. 広島市教育委員会『空長古墳群発掘調査報告』1978年
27. 注14に同じ
28. 祇園町誌編纂委員会『祇園町誌』1970年
29. 注28に同じ
30. 財団法人広島市歴史科学教育事業団『古路・古道調査報告』1992年
31. 注22に同じ

### 3 大町七九谷A地点遺跡

#### (1) 調査の概要

大町七九谷A地点遺跡は、本遺跡群の3本の尾根の内、北側に位置している。本遺跡が位置する尾根は、近年に至るまで植林や畑作等の土地利用が行われており、調査開始時点で標高約40mから約68mにわたり6ヶ所の平坦面が形成されていた。調査は平坦面を主な単位として調査区を設定して行い、遺構は平坦面上及びその周辺の斜面から確認された。調査の結果、竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡1棟、テラス状遺構3ヶ所、土坑18基、土壙墓1基等を確認した。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器のほか、土製品、砥石、すり石、鉄器銅銭等が出土しているが、遺構に伴わないものも多い。

以下、遺跡内の地形の特徴及び堆積状況、遺構の分布についての概要を述べる。

本遺跡の尾根は逆S字状に蛇行している。尾根の先端部にあたる最下段の平坦部は、標高約40mで周辺の水田面からの比高は約15mである。面積約600m<sup>2</sup>のほぼ水平な平坦部の周囲に一段低い通路状の平坦面が巡っているが、これらは最近まで畑として利用されており、地表下も地山まで耕作による攪乱が及んでいた。この平坦部からは土坑3基（SK1～3）と土壙墓1基（ST1）、及びテラス状遺構1ヶ所（SX1）が確認された。土坑は、SK1・2は遺存状況が不良で、その性格も不明であったが、尾根の中軸上に位置するSK3は、良好に遺存しており、貯蔵穴と考えられる。ST1は尾根の北側斜面に位置し尾根線と直交した主軸方向であった。SX1は、尾根の南側斜面を削平・盛土して造られており、堆積状況の観察から、SX1を後に埋め立てることで平坦部を南側に拡張し、現在の広い平坦部を造成していることが判明した。なお、本平坦部の北西半部分については、造成の際に尾根の原地形が著しく削平されており、トレンチ調査で遺構が確認できなかったことから調査範囲より除外した。

2段目の平坦部は標高約46m、面積約150m<sup>2</sup>で、緩やかに南東方向に傾斜していた。ここも近年畑として造成・利用されたと考えられたが、調査の結果、竪穴住居跡4軒（SH1～4）が確認された。これら住居跡の床面の標高や位置関係から、住居の建築に伴って尾根の削平が繰り返し行われ、平坦部の原形が形成されたと考えられる。また、同時期に存在した可能性があるのは最大2軒で、南西隣を通る里道の浸食によって平坦部の南西側が失われたことも判明した。

3段目の平坦部は標高約49m、面積約120m<sup>2</sup>で、上部の平坦部との比高が約11m、下の平坦部との比高が約3mと、尾根の最も急な傾斜地に造成された狭小な平坦面である。ところが調査の結果、本遺跡最大の床面積を持つ竪穴住居跡1軒（SH5）及び土坑2基（SK4・5）が確認された。本平坦面も近年まで畑として利用されており、平坦部の山側には、通路と排水路を兼ねた溝が巡っていた。また、平坦部の中央付近は耕作による攪乱が地山まで及んでいた。しかし、上方斜面を削り込んだ部分については、早い段階で崩落土により埋没していたため遺存状況は良好であった。SH5は本平坦部のほぼ中央に位置し、この平坦部が本住居の建設に伴って造成されたことが窺われる。SK4はSH5の東約2mに位置し、上部が削平されている。SK5はSH5の床面中央やや東寄りに位

置し、深さが110cmと深いため本住居に伴う可能性も考えられる。

4段目の平坦部は尾根の分岐点にあたり、標高約55～57m、面積約500m<sup>2</sup>である。南東方向に緩やかに下ってきた尾根はこの分岐点で東方向と南方向に分かれるため、南東直下の谷の水田面からの比高は約25mで、眺望は良好である。調査の結果、竪穴住居跡3軒（SH6～8）、土坑7基（SK6～12）、テラス状遺構（SX2）を確認した。本平坦部の北西部は原地形を削平して造成されており、遺構は上部を削平されたSK6が確認されたのみであった。一方、南東部は斜面を削平した東向きの平坦部にSH7・8、SK7～12、SX2といった多数の遺構が近接あるいは重複して確認されており、住居跡については、ほぼ同位置で数回建て替えられていることを確認した。また、南端部でも斜面を掘り込み谷側に盛土を施して建てられたSH6を確認した。なお、これらの遺構群は、自然に埋没した後、本平坦部の造成時に厚さ1m以上の盛土によって埋め立てられていた。この盛土には弥生土器の細片と古代の須恵器片が混入していたため、造成の時期は古代以降と考えられる。

5段目の平坦部は4段目との比高がわずか1m程度で、標高約58m、面積約270m<sup>2</sup>である。南西側に深く浸食が進んだ里道が隣接しているため、平坦部の南西部は流失していた。調査の結果、尾根の中軸にあたる本平坦部の西半部で、竪穴住居跡2軒（SH9・10）、土坑3基（SK13～15）を確認した。SH9・10は、近接しており、同時に使用されたとは考えられない。また、それぞれ建て替えがあったことを確認した。なお、SK13～15については、どれも住居跡の床面に位置するが、柱穴や壁との位置関係から住居に伴うものとは考えられない。

5段目の平坦部の背後は本遺跡の尾根の最高所で、自然地形を残している部分である。この部分の尾根上平坦部には所々で岩盤が露出しており、トレンチ調査でもほとんど埋土が認められなかった。ただ、尾根の南側斜面は大型の角礫を含む崩落土が厚く堆積しており、その下から竪穴住居跡1軒（SH11）、土坑2基（SK16・17）、テラス状遺構1ヶ所（SX3）を確認した。なお、これらの遺構の南側にも遺構の存在が推定されたが、里道による浸食が及んでおり、崖面で貝塚の貝層の一部を確認したものの、全体像は確認できなかった。

本遺跡の調査範囲の北西端部では、尾根が鞍部を形成している。この鞍部の西側に6段目の平坦部が位置している。標高約67m、面積約220m<sup>2</sup>で、南の谷に向かっての眺望が開け、谷の水田面からの比高は約30mである。調査の結果、竪穴住居跡1軒（SH12）、掘立柱建物跡1棟（SB1）、土坑1（SK18）を確認した。平坦部は原地形を削平して造成され畑として利用されたようで、SB1もSK18も上部が削平されている。なお、現在この鞍部を通過する里道は盛土によって土橋状の通路となっているが、この里道の盛土の下から、平坦部の南端部を削平して建てられたSH12を確認した。また、本住居は焼失住居であった。

## （2）遺構と遺物

住居跡については、個々に論じることとし、他のものの詳細については付表で一括して取り扱うこととする。

### S H 1 (第9図, 図版1 a)

立地 尾根の中軸線上を掘り込んで造られている。

形態・規模 平面形は方形と推定され、南東を除く三方の壁が遺存する。規模は南西―北東4.2 m, 北西―南東4.0 m以上である。

壁 壁は、北角で最大43 cmが遺存する。

床面 壁溝は、明瞭なものは認められないが、壁に沿って深さ約5 cmの楕円形のピットが4個みられ、壁溝の部と考えられる。床面には8個のピットがあるが、壁との位置関係から、このうち主柱穴と考えられるのは2個(P 1・P 2)で、2本柱構造の竪穴住居が想定される。

遺物 埋土中から土器(1・2)が出土した。どれも床面からやや浮いた位置であるが、これらは弥生時代後期後葉から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

### S H 2 (第10図, 図版1 b)

立地 尾根上平坦面の北東端に位置する。S H主の東に隣接し、尾根の東側斜面を掘り込み造られている。

形態・規模 後世の削平と斜面側の崩落のため、確認できたのは西側の壁と壁溝及び床面の一部であるが、その形状から平面形は方形と推定される。規模は南北3.7 m, 東西は不明である。

壁 壁は削平が著しく、最大18.5 cmが遺存するのみである。

床面 斜面側である東に向かって緩やかに傾斜している。床面は花南岩のバイラン土を主体とする灰褐色土による貼床を施している。壁溝は、西辺全体に明瞭に遺存しており、幅30 cm, 深さ10 cmである。壁溝の中には、径20 cm前後の小ピットが10個ある。床面には主柱穴と考えられるピットが2個(P 1・P 2)があるが、その位置が西に偏在していることから、流失した東側に対応する柱穴が存在した可能性が高い。主柱穴はP 1・P 2を含めた4個と考えられ、4本柱構造の竪穴住居が想定される。

遺物 本遺構に伴う遺物はない。

### S H 3 (第11図, 図版2 a)

立地 現状では平坦面の南西側の崖に接しているが、里道に浸食される以前の原地形では、尾根上平坦面の西端に位置したと考えられる。

形態・規模 平面形は円形で、南西側約半分が里道によって流失している。規模は残存部からの想定で直径約5.5 mである。

壁 壁は北東部で最大40 cmが遺存する。

床面 壁溝は明瞭に遺存しており、東半では一部二重に巡っている。規模は幅10 cm, 深さ5 cmである。壁溝の中には径10 cm前後の小ピットが36個ある。なお、二重の部分は外側の壁溝のレベルが約5 cm高く、2枚の床面が確認され、最低1回の建て直しが想定できる。埋土セクションの観察によれば、下の床面aが上の床面bより古い。床面には7個のピットがあるが、位置や形状から、P 1～P 3の3個が床面aの主柱穴と考えられる。これらの位置と壁溝の平面形状から、全体では6本柱構

造の竪穴住居が想定される。なお、P 4・P 5は、位置や深さから、床面bの主柱穴の可能性が高い。

遺物 埋土中から土器（3・4）が出土した。これらは弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 4（第12図，図版2b）

立地 原地形の尾根のほぼ中軸上に位置したと考えられる。

形態・規模 平坦面の造成あるいは耕作などによって、遺構の大部分が消失しているが、壁及び壁溝の一部から、平面形は円形と考えられる。また、規模は残存部からの想定で直径約6mである。

壁 北西側の約4mが確認できるのみで、最大20cmが遺存する。

床面 北西部約4分の1が遺存する。壁溝は幅15cm、深さ8cmで、遺存する約4mの中に、径10～20cmの小ピットが9個ある。床面には柱穴と考えられるピットが6個あるが、壁との位置や形状から、P 1～P 4の4個が主柱穴と考えられ、4本柱構造の竪穴住居が想定される。なお、住居跡のほぼ中央には長径80cm、短径50cm、深さ8cmの楕円形の浅いピット（P 7）がある。これは、その位置・形状から炉跡と考えられる。

遺物 本遺構に伴う遺物はない。

#### S H 5（第13図，図版3a）

立地 急傾斜地の山側を約2m掘り込んで造られた小平坦面の中央に位置する。

形態・規模 耕作による削平のため、壁や壁溝の大部分が消失しているが、山側からの崩落土によって斜面に埋没していた北側部分は遺構の保存状態が良好で、この部分の壁及び壁溝から、平面形は円形で、周辺部分に貼床によって一段高くした高床部分が巡る構造であると考えられる。規模は直径8.1mである。

壁 北部が良好に遺存しており最大60cmである。

床面 遺存状況の良好な北部の状況から、中央の直径約6mの床面と、外側の壁沿いに巡る幅約1mの高床部の二段構造と考えられる。土層観察により、高床部は当初中央部床面と同レベルに削平した床面に10～15cmの貼床を施していることが判明した。両床面とも、ほぼ水平であるが、後世の排水溝より南側の部分では、中央部の床面直上まで削平が進み、高床部は消失している。壁溝は、北部と削平部分の西半部で遺存しており、住居跡全体の西半分で確認できる。規模は幅10～20cm、深さ5～10cmである。また、遺存している壁溝の中には径10～20cmの小ピットが13個ある。なお、南側の壁溝の部に、壁溝が二重になる箇所を確認した。ここでは、長さ約2mにわたって壁溝の約50cm内側に別の壁溝が掘られている。この2本の壁溝に挟まれた部分と住居内の床面との間には、5～10cmのレベル差が認められる。高床部の土留め施設の可能性もあるものの、幅が北部の二分の一と狭いため、住居の出入りに伴う階段の土留め施設と考えた。また、床面からは柱穴と考えられるピットを多数検出した。その分布状況と壁との位置関係から、P 1～P 8を主柱穴とする9本柱（1本は後世の排水溝内に想定）の住居と、P 9～P 17を主柱穴とする10本柱のほぼ同規模の住居（同

様に排水溝内に柱穴を想定)が想定でき、ほぼ同位置で最低2回の建て替えがあったと考えられる。なお、P 18～P 22といった6本柱の柱配置も想定されるが、壁や壁溝は確認できず、詳細は不明である。また、住居跡の中央部には、長径90cm、短径60cm、深さ10cmの楕円形で揺り鉢状のP 23がある。これは、その位置・形状から、炉跡と考えられる。

遺物 本遺構は住居の中央部床面の直上まで耕作の潰乱が及んでいるものの、床面すべてが削平されているわけではなく、床面に伴う遺物として土器(5)、土玉(57)、鉄器(63・68)が、また、埋土中からも土器(6)、鉄器(64～67)が出土した。出土した土器は、主に弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### SH 5 (第16図, 図版3b)

立地 分岐する尾根に挟まれ、眺望が開けた平坦面南端部の傾斜変換点に位置し、急斜面の谷に面した平坦面の肩を約1.2m掘り込み造られている。

形態・規模 地山を掘り込んだ部分が遺存している。平面形は方形で、壁と柱穴の位置関係から、規模は4m×4.5mと想定される。

壁 北西の山側で良好に遺存しており、現状で最大75cmである。

床面 地山をほぼ水平に削平した後に、花崗岩のバイラン土で厚さ10～30cmの貼床が施されている。また、谷側に拡張した部分は大部分が流失していたものの、南側の]部で赤褐色の粘質土を盛土している状況を確認した。この土は山側を掘り崩した花崗岩のバイラン土とは明らかに異なり、約20m離れたこの平坦面の北側斜面に見られるもので、意図的に採取され、盛り土に利用されたものと考えられる。壁溝は、地山には掘り込まれていないものの、壁に沿って5個の小ピットが確認できること、土層観察から、貼床の壁沿いに溝が確認できることから、貼床上に掘り込まれたと考えられる。なお、床面には柱穴と考えられるピットが2個ある。壁との位置関係から、この2個の柱穴(P 1・P 2)が支柱穴と考えられ、2本柱構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面上から土器(7)、鉄器(69・71)が、埋土中から鉄器(70・76)、石器(87)が出土した。土器は、その特徴から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### SH 7 (第17図, 図版4a・b)

立地 尾根の分岐点にあたる緩斜面の南端部を掘り込み、造られている。北側約三分の一がSH 8およびSK 12と重複しており、土層観察からSH 8→SH 7→SK 12と考えられる。

形態・規模 斜面の崩落により東端部は流失しているが、遺存状況は良好である。壁や柱穴の配列から、平面形は円形で規模は直径約6.5mである。

壁 斜面上方にあたる西側で遺存しており、最大60cmである。

床面 この付近で地山が花崗岩のバイラン土(真砂土)から赤褐色の粘質土(赤土)に変化しており、特に赤土部分の床面の検出作業が困難であった。壁溝は確認できなかったが、床面の遺存状態が良好な南西部の壁に接した部分で、幅約1m、厚さ20cmの貼床を確認した。しかし、これが全周するのか、あるいは一部のみかのベッド状遺構となるのかは確認できなかった。また、床面には柱穴

と考えられるピットが6個ある。規模と位置から、このうちの4個とSH8の床面にある2個(P1～P6)が支柱穴と考えられ、6本柱構造の竪穴住居が想定される。なお、本住居は埋土中に多量の焼土や炭化物、炭化材を含んでおり、焼失住居である。出土した炭化材は、分析の結果アカガシ垂属、スタジイ、ヤブツバキ、クリといった広葉樹が主体であった。

遺物 床面あるいは炭化材検出面から土器(8～14)、鉄器(72・73)が、埋土中から土器(15)、鉄器(74)、石器(89)が出土した。土器は、その特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### SH8 (第17図, 図版5a)

立地 分岐点から東に下る尾根の中軸上に位置する。尾根の緩斜面を削平して造成された平坦面(SX2)を掘り込み造られている。南側の]部がSH7と重複しているほか、SK11・12とも重複している。土層観察から本住居はほぼ同一の位置で最低4回の建て替えを確認した。

形態・規模 繰り返し建て替えが行われた結果、壁や柱穴の重複が著しいが、部分的に遺存している壁や柱穴の配置から、平面形は一辺が5.5～7mの隅丸方形と考えられる。

壁 斜面上方の南西側と北西側の遺存状態が良好であるが、拡張しながら建て替えが行われた結果、壁は順次削平され、最後の8dの壁が最大58cm残存する。

床面 調査の結果8a～8dの4層の堅くしまった床面を確認した。8aのレベルが最も低く、8b→8c→8dと床面が拡張するにつれて床面のレベルも上がっている。これは、建て替えに伴って床面を拡張する際に、周囲の壁を削った土で床面を整地したためと考えられる。壁溝は、明瞭なものは確認できなかった。また、床面には柱穴と考えられるピットが多数あり、組合せの特定は困難であるが、P7～P9の3個と東側の想定位置(赤土のため検出困難であった)の4本柱構造が本住居の基本的な柱配置と思われる。

遺物 床面及び埋土中から土器(16～22)、土製品(60)、鉄器(75)、石器(90～92)が出土した。土器は、複数の住居に伴うものと考えられるが、その特徴から弥生時代後期後葉から弥生時代後期終末の時期に属すると考えられる。

#### SH9 (第26図, 図版5b)

立地 長方形を呈する平坦面の中央部南西側に位置する。現状では南西側に里道による崖面が迫っているが、原地形では、尾根上平坦面のほぼ中軸上に立地していたと考えられる。

形態・規模 柱穴の位置や壁の形状、埋土断面の観察などから、2軒の住居跡が重複していると考えられる。9aは、9bによって壁が破壊されており、平面形は不明である。9bは、平面形が隅丸の六角形で、規模は各辺が約3m、対角線の長さが約6mである。

壁 9bのものと考えられる壁が全周にわたって遺存している。壁高は西部で最大44cm遺存している。

床面 9bの床面がほぼ完全に遺存している。壁溝は、南東側を中心に遺存している。規模は、幅10～20cm、深さ3～5cmである。なお、壁溝の中及び壁に沿った位置に、径10cm前後の小ピットが

合計 25 個ある。床面は現状で南から北へ緩やかに傾斜しているが、北部や西部の壁溝が部分的に消失していることから、本来の床面は、貼床によってほぼ水平であった可能性が高い。床面には柱穴と考えられるピットが 12 個ある。このうち P 1～P 4 が 9 a の支柱穴と考えられ、4 本柱構造の竪穴住居が想定される。また、P 5～P 9 が 9 b の支柱穴と考えられ、S K 13 と重複していると考えられる

ピットを合わせて 6 本柱構造の竪穴住居が想定される。

遺物 床面および埋土中から土器 (48)、鉄器 (9)、石器 (93・94) が出土した。土器は、その特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 10 (第 27 図, 図版 6 a)

立地 S H 9 の北側に近接し、本平坦面の北西端にあたる。S H 9 と同様に、原地形では尾根上平坦面のほぼ中軸上に立地していたと考えられる。S H 9 と同時期のものとは考えにくい。新旧関係は確認できなかった。また、S K 14・15 の 2 基の土坑と重複しているが、これも新 1 日関係は確認できなかった。

形態・規模 壁の形状や埋土断面の観察から、少なくとも 3 軒 (10 a～c) の住居跡が重複して建て替えられていると考えられる。平面形も多様で、残存している壁や壁溝、柱穴の配置などから 10 a は隅丸方形、10 b は 9 b と相似形の隅丸六角形、10 c・d は方形と推定される。規模は 10 a が一辺約 5 m、10 b が一辺約 3 m、対角線約 6 m、10 c が 4.5 m×6 m である。

壁 建て替えの結果、壁が比較的良好に遺存しているのは 10 b の西半部と 10 c の北東端のみであった。10 b は最大 80cm、10 c は最大 40 cm 残存していた。

床面 床面には断続的に壁溝が遺存している。遺存状況が良好なのは 10 b に伴うもので、とくに山側にあたる北半部と南東部に幅 10 cm、深さ 5～10 cm の溝とその中に多数の小ピットを確認し心ここの他、10 a や 10 c についても、同規模の壁溝が部分的に確認できた。また、多数の柱穴が確認されたが、壁や壁溝との位置関係から、P 6～P 8 と S K 15 内想定 of 4 本柱構造 (10 a)、P 1～P 5 と S K 15 内想定 of 6 本柱構造 (10 b)、P 9～P 12 の与本柱構造 (10 c) の竪穴住居が想定される。

遺物 埋土中から土器 (32～34)、土製品 (61)、石器 (95～97) が出土した。土器は、その特徴から古墳時代前期の時期に属すると考えられる。

#### S H 11 (第 34 図, 図版 6 b)

立地 尾根上平坦面の肩から約 2 m 下った南西向きの斜面に位置する。

形態・規模 住居跡内には大型の角礫を含む斜面上方からの崩落土が厚く堆積しており、遺構の遺存状況は良好である。平面形は隅丸の方形で、規模は一辺が約 2.5 m である。

壁 壁は斜面の下方に当たる南側を除いて残存しており、北部で最大 64.5 cm である。

床面 平坦な床面がほぼ完全に遺存している。壁溝は明瞭に遺存しており、北西隅を除いて連続している。規模は幅 5～10 cm、深さ 10 cm である。床面には柱穴と考えられるピットが 11 個あるが、位置や形状から、P 1～P 4 の 4 個が支柱穴と考えられ、4 本柱構造の竪穴住居が想定される。このほ

か炉跡の周辺と西辺の壁溝内に小ピットが7個あるが、これらは屋根を支える柱穴というよりも、炉跡周辺等屋内の設備を支える柱穴と考えられる。ところで、西・北・東辺の壁の平面形は壁溝と異なりやや歪んでおり、壁溝の間に最大幅40cmの平坦面が巡っている。本住居跡の本来の平面形は主柱穴の位置から見ても壁溝の平面形と考えられるため、この平坦面は拡張部分と考えられ訓また、床面中央には、長径70cm、短径50cm、深さ5～10cmの楕円形のピットと焼土があり、炉跡と考えられる。なお、壁溝内側の床面に対して、壁溝の周囲を巡る平坦面は約10cm高いが、炉跡の東30cmに遺存していた台石の下面のレベルが周囲の平坦面とほぼ一致することから、本住居の廃絶時の床面レベルは周囲の平坦面と同一であり、このことから床面が拡張されていたと考えられる。遺物 床面及び埋土中から土器片が出土したが、細片のため復元できなかった。また、床面から台石およびこれとセットとなる棒状の叩き石4点が出土した。

#### S H 12 (第35図, 図版7 a・b)

立地 尾根の鞍部の南東端部を約1m掘り込み造られている。

形態・規模 2軒の住居(12 a・b)が重複している。12 bは西側約三分の二の遺存状況が良好で、壁や壁溝から平面形は円形、規模は直径約6mであつた。東側は鞍部に直交する溝によって削られていたが、さらに下層に12 aを確認した。壁溝の形状から平面形が円形で直径約7mと推定されるが、全体を確認するに至らなかった。新旧関係は土層観察から12 a→12 b→溝である。

壁 12 aは西端部のみ確認したが、削平されているため最大30cmであつた。12 bは西半分が良好に遺存しており、高さ50cmの壁の外側に幅40～60cmの平坦部が巡り、さらに最大50cmの壁が巡って

いる。これは床面のレベルが異なった2軒の住居が重複しているように見えるが、床面から出土した炭化材の一部が外側まで連続していることから、外縁部は壁の高さを整えるための施設と考えられる。

床面 12 aは、遺存する壁のほぼ全域で壁溝を確認し、外縁部の壁にも壁溝及び小ピットを確認した。12 bも遺存する壁の大部分に壁溝が存在した。床面には柱穴と考えられるピットが多数あり、壁や壁溝との位置関係から12 aについてはP 1～P 6の6本柱構造の竪穴住居が想定される。なお、12 aは埋土中に多量の焼土や炭化物、炭化材および土器片を含んでおり、焼失住居である。出土した炭化材は分析の結果クリ、ツブラジイ、スダジイが主体で、もう一軒の焼失住居であるS H 7とは住居構築材の種類構成が明確に異なっていることがわかった。

遺物 床面及び埋土中から土器(39～45)、ミニチュア土器(56)、鉄器(83・84)、石器(100)が出土した。土器は、その特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### 注

本報告書における編年的な位置づけについては、上深川Ⅰ式を弥生時代後期前葉、上深川Ⅱ式を弥生時代後期中葉～弥生時代後期終末、上深川Ⅲ式古段階を古墳時代初頭、新段階を古墳時代前期として取り扱い記述した。

広島市教育委員会『一般県道原田五日市線(石内バイパス)道路改良工事事業地内遺跡群発掘調査報告』1988年  
財団法人広島市歴史科学教育事業団『城ノ下A地点遺跡発掘調査報告』1991年

第 1 表 大町七九谷 A 地点遺跡土坑計測表

遺構番号	規模 (cm)	伴出遺物	備考
S K 1	底径 85 深さ 20		
S K 2	底径 75 深さ 21		
S K 3	底径 105 深さ 108		
S K 4	底径 80 深さ 38		
S K 5	底径 83 深さ 122		S H 5 内
S K 6	底径 90 深さ 48		
S K 7	底径 105 深さ 165		
S K 8	底径 137 深さ 169	No.23 (埋土中)	
S K 9	底径 90 深さ 87	No.24 (埋土中)	
S K 10	底径 145 深さ 83	No.25, 26, 27, 28	
S K 11	底径 70 深さ 97		S H 8 内
S K 12	底径 125 × 80 深さ 90		・隅丸方形 ・ S H 8 内 ・底部中央に二次坑有り (90cm×60cm×20cm)
S K 13	底径 80 深さ 61		S H 9 内
S K 14	底径 114 深さ 47		S H 10 内
S K 15	底径 179 深さ 78	No.35, 36, 37 (埋土中)	
S K 16	底径 140 深さ 63		
S K 17	底径 115 深さ 73		
S K 18	底径 75 深さ 58		

第 2 表 大町七九谷 A 地点遺跡土壇墓計測表

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
S T 1	129	70	55	N29° E		

第3表 大町七九谷A地点遺跡出土土器観察表

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器 形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備 考
1	甕形土器	SH1 埋土中	口径 14.7 底径 5.0 器高 25.7 胴部最大径 20.0	口縁部は「く」の字状に外反し端部は平たくおさめている。底部は凹み底である。	外面： 内面：口縁部ナデ。以下ヘラ削り、底部ナデ調整。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	外面の風化著しい。胴部外面中位に炭化物付着。
2	甕形土器	SH1 埋土中	口径 14.8 胴部最大径 10.8	口縁部は「く」の字状に外湾気味に外上方に延び、端部は器厚を減じつつ丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ハケ目後にナデ。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ削り。	(外)明赤褐色 (内)暗褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
3	甕形土器	SH3 埋土中	口径 15.5 胴部最大径 15.0	口縁部は「く」の字状に外湾気味に外上方に延び、端部は器厚を減じつつ丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ削り。	(外)明赤褐色 (内)明黄褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	口縁部から胴部にかけての外面に、広範囲に炭化物付着。
4	甕形土器	SH3 埋土中	口径 17.6	口縁部は「く」の字状に外反し端部は平たくおさめている。	外面：不明 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	口縁部内面に炭化物付着。
5	高坏	SH5 床面上	口径 28.5	口縁部はわずかに器厚を減じつつ緩く外方向に外湾し、端部は丸くおさめている。口縁部と坏部の境目に鈍い段を有している。	外面：口縁部はヨコナデ、坏体部はヘラ削り後にナデ。 内面：ナデ。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	口縁部内面に炭化物付着。
6	壺形土器	SH5 埋土中	口径 11.0	口縁部は「く」の字状に外反し端部は僅かに肥厚させている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ナデ。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下肩部のかなり低い位置からヘラ削り。 肩部外面にヘラ状工具による押し引き紋を施す。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
7	甕形土器	SH6 床面上	口径 13.7	口縁部は強く外湾しながら外上方に延び、器厚を減じつつ端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下肩部ハケ目、胴部平行タタキ目。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り後ナデ。	明黄褐色	0.5~1mm大の砂粒を含む。金雲母を含む。		
8	甕形土器	SH7 埋土中	口径 26.8	口縁部は強く外湾しながら外上方に延び、端部は平たくおさめている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下不明。 内面：口縁部はハケ目調整後に一部ヨコナデ、以下ヘラ削り。 口縁端部及び肩部に刺突紋有り。	淡黄褐色	緻密	良好	

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器 形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備 考
9	甕形土器	SH7 埋土中	口径 14.0 胴部最大径 12.4	口縁部は「く」の字状に外反し端部近くでさらに外側に屈曲させた後に丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目後にヨコナデ。以下ハケ目後にヘラミガキ、胴部最大径あたりからハケ目後にナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
10	甕形土器	SH7 埋土中	口径 25.8	口縁部は器厚を減じつつ、外湾しながら外上方に延び、端部は丸くおさめている。	口縁部ない外面共にハケ目、後に端部近くはヨコナデ。	(外)明赤褐色 (内)暗褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
11	甕形土器	SH7 埋土中	口径 14.6 胴部最大径 14.8	口縁部は緩く外湾気味に外上方に延び、端部は丸くおさめている。 体部は丸胴化している。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目後にナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	明赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	二次焼成のため風化著し。
12	鉢形土器	SH7 埋土中	口径 11.0 器高 6.1	口縁端部は器厚を減じつつ丸くおさめている。	内外面共に口縁端部はヨコナデ、以下ナデ。	明赤褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	初圧痕有り。
13	鉢形土器	SH7 床面上	胴部最大径 10.5	半球形の体部から、器厚を減じつつ外湾気味に口縁部が延びている。	外面：胴部はハケ目、底部はヘラ削り後にナデ。 内面：胴部はハケ目、底部は指ナデ。	(外)明橙褐色、一部二次焼成による赤変箇所有り (内)明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
14	鉢形土器	SH7 埋土中	口径 9.6 胴部最大径 9.8	球形の胴部から、短い口縁部が器厚を減じつつ外上方に延びている。口縁端部は丸くおさめている。	外面：口縁部、胴部共にナデ。 内面：口縁部はナデ、以下ヘラ削り。	明赤褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
15	壺形土器	SH7 埋土中	口径 14.8	口縁部は「く」の字状に外反し端部は肥厚させている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ナデ。 内面：口縁部上半はハケ目、下半ヨコナデ。屈曲点以下ヘラ削り後にナデ。 口縁端部に6条の波状文、肩部に押引文が施される。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を含む。	良好	
16	壺形土器	SH8	口径 15.5	強く外反する口縁に内反気味にたちあがり部が接合する複合口縁である。端部は平たくおさめている。 頸部には刻目格子文の貼り付け突帯をめぐらす。	外面：口縁たちあがり部はヨコナデ、以下ハケ目後にヨコナデ。 内面：ヨコナデ。 施す。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
17	甕形土器	SH8	口径 14.8 胴部最大径 12.5	口縁部は外上方に直線状に延び端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目後に一部ヨコナデ，以下ヘラ磨き 内面：口縁部はヨコナデ，以下ヘラ削り。	明橙褐色			
18	碗形土器	SH8	口径 15.0 底径 0.5 器高 10.7	平底の底部から斜め上方に立ち上がった胴部は，中位からやや内湾気味に上方に延び，端部は丸くおさめている。	外面：ナデ 内面：ヘラナデ	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
19	碗形土器	SH8	口径 12.6 底径 1.5 器高 8.9	小さな凹み底の底部から斜め上方に立ち上がった胴部は，上位1/3あたりから急激に器厚を減じつつ，端部は丸くおさめている。	外面：口縁端部付近はナデ，以下ヘラ削り，底部はナデ。 内面：口縁端部付近はハケ目，以下ヘラ削り，底部はナデ。	赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
20	不明	SH8	底径 5.6	やや凹み気味に平底。	外面：ハケ目後に底部付近はナデ。 内面：ヘラ削り後にナデ。	暗褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
21	不明	SH8	底径 2.0	小さな平底を有する底部である。	外面：指ナデ。 内面：不明。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	風化著しい。
22	高坏	SH8	口径 23.6 坏部高 7.0	浅い坏部から明瞭な段を成し外湾する口縁部に続く。口縁部は長く延び，端部は平たくおさめている。	外面：口縁部はハケ目後にヘラ磨き，坏部はヘラ磨き。 内面：不明。	明黄褐色	精緻。0.5~2mm大の砂粒を少量含む。金雲母を含む。	やや軟調	
23	甕形土器	SK8 埋土中	口径 17.2 底径 5.6 器高 28.0 胴部最大径 19.5	口縁部は外湾気味に外上方に器厚を減じつつ延び，端部は平たくおさめている。胴部は球形を成し，底部は平底気味である。	外面：口縁部はハケ目後に端部周辺をヨコナデ，以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目後に端部周辺をヨコナデ，体部は肩部あたりまでハケ目，以下ヘラ削り。	(外)橙褐色 (内)暗褐色	0.5~2mm大の砂粒を含む。	良好 堅緻	
24	碗形土器	SK8 埋土中	口径 11.8 底径 2.9 器高 7.3	平底気味の底部から半球形の体部につながる。口縁端部は丸くおさめている。	内外面共にナデ。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器 形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備 考
25	甕形 土器	S K10 土器群	口径 17.8 胴部最大径 20.8	口縁部は球形の胴部から器厚を減じつつ外湾気味に外上方に延び、端部はやや平たくおさまられている。端部には2条の凹線が施されている。	外面：口縁部付近ヨコナデ、以下ハケ目後にヘラ磨き、胴部も同様。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
26	甕形 土器	S K10 土器群	口径 13.8 器高 17.4 胴部最大径 15.4	口縁部は球形の体部から器厚を減じつつ直線的に外上方に延び、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	暗黄褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	胴部下半は二次焼成により赤変しており外面に炭化物が付着している。
27	小型 丸底 壺	S K10 土器群	口径 13.8 胴部最大径 11.6	口縁部は半球形の胴部から器厚を減じつつ直線的に外上方に延び、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部及び胴部上半はヨコナデ胴部中央以下はハケ目。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り。	明赤褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
28	不明	S K10 土器群	底径 3.5	しっかりした平底の底部である。	外面：ハケ目。 内面：ヘラ削り後にナデ。	(外)明赤褐色 (内)暗褐色	0.5~5mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	外面に炭化物付着。
29	甕形 土器	S X 2 床面上	口径 12.9	外反する口縁の端部を垂直に上方に拡張した複合口縁である。端部は丸くおさめている。	内外面共にヨコナデ、以下内面はヘラ削り。 口縁拡張部外面に櫛歯状工具による5条の凹線文。	淡橙褐色	0.5~1mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
30	碗形 土器	S X 2 床面上	口径 9.8 器高 8.0	胴部中央付近から器厚を減じつつ垂直に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめている。	外面：胴部は粗いハケ目、底部付近はナデ。 内面：ナデ。	淡黄褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
31	手焙り形 土器	S X 2 床面上	開口部 幅 14.4 高さ 10.3 器高 17.3 胴部最大径 18.1	手焙り形土器の完形品である。	外面：上半部は平行タタキ目、下半部は平行タタキ目後にナデ。 内面：ナデ。	明橙褐色	精緻。0.5~1mm大の砂粒を僅かに含む。	良好	上半部内面及び開口部周辺に炭化物付着。
32	壺形 土器	S H10 埋土中	口径 11.1 器高 28.8 胴部最大径 23.9	口縁部は器厚を減じつつ強く外湾し、端部は丸くおさめている。胴部は倒卵形を呈している。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	暗赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。金雲母を含む。	良好	

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
33	高坏	SH10 埋土中	口径 21.5	口縁部は緩く外方向に外湾し、端部は丸くおさめている。 口縁部と坏部の境目に僅かに鈍い段を有している。	不明。	淡黄褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	軟調	
34	甌	SH10 埋土中	下部口径 9.0	甌の下半部の破片である。把手接合部より上半部を欠失している。	外面：ヘラ削り後にナデ。 内面：ハケ目。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
35	壺形土器	SK15 埋土中	口径 24.1	複合口縁の口縁部である。強く外湾する口縁端部の内側上方に断面三角形の拡張部が付く。	外面：口縁部はヨコナデ。 内面：口縁部はヨコナデ後にヘラ磨き、屈曲点周辺はナデ。 拡張部外面に2個一対の鋸歯文が施されている。	明橙褐色	精緻。0.5~1mm大の砂粒を僅かに含む。	やや軟調	
36	壺形土器	SK15 埋土中		口縁部は器厚を減じつつ上方に直線的にのび、端部付近で急激に外湾する。	外面：口縁端部周辺はヨコナデ、以下ヘラ磨き。 内面：口縁端部周辺はヨコナデ、以下ナデ。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	外面に赤色顔料付着。
37	甕形土器	SK15 埋土中	口径 14.4 胴部最大径 14.5	口縁部は外反し、端部は丸くおさめている。胴部は長胴気味である。	外面：ハケ目。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り後にハケ目。	(外)明赤褐色 (内)暗褐色	0.5~5mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	外面に炭化物付着。
38	甕形土器	SX3 床面上	口径 11.5 底径 8.0 器高 14.6 胴部最大径 13.3	口縁部は「く」の字状に外反し端部は丸くおさめる。底部は不明瞭な平底を呈する。	外面：口縁部はヨコナデ、肩部はナデ、胴部中位までヘラ磨き、以下ナデ。 内面：口縁部はヘラ削り後にナデ、胴部中位までヘラ削り、以下ナデ。	明赤褐色	0.5~1mm大の砂粒を多く含む。	良好	胴部外面中央に炭化物付着。
39	甕形土器	SH12 床面直上	口径 9.6 底径 2.1 器高 12.7 胴部最大径 12.0	口縁部は器厚を減じつつ内湾気味に上方に延び、端部は丸くおさめている。底部は僅かに凹み底である。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目後にナデ及びヘラ磨き。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	明黄褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
40	壺形土器	SH12 埋土中	口径 13.0 底径 3.0 器高 29.8 胴部最大径 23.5	口縁部は器厚を減じつつ強く外湾し、端部は丸くおさめる。胴部は倒卵形を呈し、底部は僅かに平底である。	外面：口縁部はヨコナデ後にヘラ磨き、以下胴部中位までハケ目後にヘラ磨き、胴部下半ハケ目一部ナデ。底部はナデ。	橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	胴部最大径付近外面に炭化物付着。

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器 形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備 考
41	甕形土器	SH12 埋土中	胴部最大径 29.5	二重口縁の甕形土器である。口縁部は大半を欠失している。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はヨコナデ、肩部はハケ目、以下ヘラ削り。 肩部外面に貝殻腹縁による波状文有り。	明橙色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	二次焼成による赤変部分あり。
42	甕形土器	SH12	口径 17.0 胴部最大径 15.0	口縁部は「く」の字状に外反し端部は平たくおさめられている。	外面：口縁部及び肩部はハケ目後にヨコナデ、以下胴部中位までハケ目、胴部下半ハケ目後にヘラ磨き。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
43	甕形土器	SH12 埋土中	口径 11.9 胴部最大径 12.4	口縁部は「く」の字状に外反し端部は丸くおさめられている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目、以下胴部中位までユビナデ、下半ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
44	甕形土器	SH12 埋土中	口径 16.3	口縁部は直線的に外上方に延び端部は丸くおさめられている。	内外面共に調整不明。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
45	鉢形土器	SH12 埋土中	口径 12.2 底径 5.0 器高 10.6 胴部最大径 12.0	口縁部は器厚を減じつつ外上方に延び、端部は丸くおさめている。底部は平底である。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目後にナデ。	(外)明黄褐色 (内)明橙色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
46	鉢形土器	SH7 周辺	口径 7.1 底径 2.5 器高 11.8 胴部最大径 10.1	口縁部は直線的に上方に延び、端部は平たくおさめている。底部はやや凹み気味の平底である。	外面：口縁部及び肩部はハケ目後にナデ、以下ヘラ削り後に粗いヘラ磨き。 内面：口縁部はナデ、肩部はハケ目、以下ナデ。	褐色	0.5~5mm大の砂粒を多く含む。	良好	
47	甕形土器	SH7 周辺	口径 15.0	口縁部は外方向に大きく開き、端部で上方に直線的に拡張している。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、屈曲点周辺はヘラ磨き、以下ヘラ削り。	明黄褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
48	壺形土器	SH9 周辺	口径 24.6 底径 5.2 器高 33.9 胴部最大径 28.5	口縁部は器厚を減じつつ緩く外湾し、端部は平たくおさめている。胴部最大径は中位にあり、底部は平底である。	外面：口縁部はヨコナデ、胴部中位までハケ目以下ナデ。 内面：口縁部はヨコナデ後にハケ目、肩部はヘラ削り後にヨコナデ、以下ヘラ削り後にナデ。	橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	胴部中位外面及び底部内面に炭化物付着。底部に内面からの穿孔有り。

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器 形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備 考
49	鉢形 土器	調査区内	口径 16.2 底径 4.2 器高 12.2 胴部最大径 14.8	口縁部は外湾気味に外上方に延び、端部は平たくおさめている。底部は、僅かに凹む平底である。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り後にナデ。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ削り後にナデ。	明橙褐色	0.5~4mm大の砂粒を多く含む。	良好	
50	蓋坏 (身)	調査区 中央	口径 12.7 器高 1.4 つまみ径 2.2 つまみ高 0.4	浅い天井部からのびた口縁端部を僅かに下方に拡張している。中央に擬宝珠様のつまみを張りつけている。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。ロクロ回転右。	灰褐色	0.5~3mm大の砂粒を含む。金雲母を含む。	良好 堅緻	外面に自然釉付着。
51	蓋坏 (身)	調査区 中央	口径 13.2 器高 3.5 高台径 9.8 高台高 0.4	口縁部は外上方に直線的に延び端部は丸くおさめる。底部には貼付高台が付く。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。ロクロ回転右。	淡灰褐色	0.5~2mm大の砂粒を含む。	良好 堅緻	
52	蓋坏 (身)	調査区 中央	口径 15.6 器高 4.6 高台径 10.2 高台高 0.6	口縁部は外上方に直線的に延び端部は丸くおさめる。底部には貼付高台が付く。	マキアゲ、ミズビキ成形。ロクロ回転右。	(外)暗灰褐色 (内)淡灰褐色	精緻。0.5~1mm大の砂粒を含む。	良好 堅緻	外面に自然釉付着。
53	皿	調査区 中央		口縁部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面に回転ヘラ削り後ナデ。ロクロ回転右。	淡灰褐色	0.5~2mm大の砂粒を含む。	やや 軟調	
54	鉢	調査区 中央	口径 21.5	胴部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部付近で僅かに外湾させ、平たくおさめる。	マキアゲ、ミズビキ成形。胴部外面1/3以下回転ヘラ削り、他は回転ナデ。ロクロ回転右。	淡灰褐色	0.5~1mm大の砂粒を含む。	やや 軟調	
55	鉢	調査区 中央	口径 21.5	胴部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部付近で僅かに外湾させ、平たくおさめる。	マキアゲ、ミズビキ成形。胴部外面1/3以下回転ヘラ削り後に回転ナデ。他は回転ナデ。ロクロ回転右。	(外)暗灰褐色 (内)青灰褐色	0.5~1mm大の砂粒を含む。	良好 堅緻	

第4表 大町七九谷A地点遺跡出土土製品観察表

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	色調	胎土	焼成	備考
56	てづくね 土器	SH12埋土中	器高 4.5 口径 6.2	明赤褐色	1～2mm大 の砂粒を多 く含む。	やや軟調	
57	土製丸玉	SH5埋土中	直径 3.2 高さ 2.5	にぶい黄橙 色	1～2mm大 の長石、石 英を含む。	良好	孔は未貫通。
58	土製丸玉	SH9埋土中	直径 3.0 高さ 2.3	明赤褐色	1mm大の砂 粒及び微砂 粒を含む。	良好	未製品。
59	紡錘車	SH10北東	直径 5.6 厚さ 1.3 孔径 0.8	褐色	1～3mm大 の砂粒を多 含む。	良好	
60	紡錘車	SH8埋土中	直径 6.0 (復元) 厚さ 1.1 孔径 0.9	橙色	2～3mm大 の砂粒を含 む。	良好	
61	紡錘車	SH10埋土中	厚さ 1.4	にぶい赤褐 色	精緻	良好	

第5表 大町七九谷A地点遺跡出土鉄製品観察表 \*：残存部分

番号	器種	出土位置	寸法				備考
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
62	鍬	SH1埋土 中	全 11.3 身 7.1	身 2.7 茎 1.5	身 0.3 茎 0.5	29.2	有茎・柳葉形
63	鍬	SH5床面 上	2.2	1.9	0.1	2.0	無茎・三角形 両脚
64	鍬	SH5埋土 中	全 *5.0 茎 2.0	身 1.5 茎 0.4	身 0.4 茎 0.3	*6.1	有茎・圭頭形 茎部に木質
65	鍬	SH5埋土 中	2.1	1.15	0.2	1.7	無茎・三角形 平基
66	—	SH5埋土 中	全 *4.2 刃 1.9	刃 1.2 茎 0.7	刃 0.2 茎 0.2	3.4	
67	刀子	SH5埋土 中	全 *13.0 刃 *10.0	刃 1.15 柄 0.8	刃 0.2 柄 0.2	*9.9	両関 柄に木質
68	不明	SH5床面 上	*3.6	2.7	1.15	11.3	

番号	器種	出土位置	寸法				備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
69	鍬	SH6床面上	*3.3	1.5	0.2	2.3	無茎・三角形 凹基
70	鍬	SH6埋土中	*3.2	1.7	0.1	1.7	無茎・三角形 両脚
71	不明	SH6埋土中	*3.4	0.7	0.2	2.5	
72	—	SH7床面上	*11.8	刃 茎 1.2 0.9	刃 茎 0.3 0.3	16.2	
73	—	SH7床面上	*14.0	刃 茎 0.9 0.85	刃 茎 0.5 0.3	23.8	
74	鑿	SH7埋土中	7.4	1.3	0.5	27.7	
75	—	SH8埋土中	全 茎 *8.5 7.3	茎 0.9	茎 0.3	10.6	
76	—	SK6埋土中	全 *6.4	刃 茎 1.0 0.8	刃 茎 0.15 0.35	8.6	
77	鍬	SK8埋土中	全 茎 *4.4 2.6	身 茎 1.9 0.4	身 茎 0.2 0.15	*6.4	有茎・柳葉形
78	摘鎌	SX2埋土中	7.7	2.15	0.1	14.0	
79	鍬	調査区内	2.75 刃 1.0	身 茎 0.8 0.5	身 0.2 0.2	1.9	有茎・柳葉形
80	—	調査区内	2.2 4.1	1.1 1.2	0.2 0.3	1.9 3.0	同一個体 破片付着
81	刀子	SH9埋土中	全 柄 *6.3 1.5	身 柄 1.5 1.3	身 柄 0.2 0.3	*8.0	柄部に目釘穴・ 木質
82	鍬	調査区	全 身 3.7 2.0	身 茎 1.3 0.5	身 茎 0.25 0.2	4.2	有茎・圭頭形
83	劍	SH12埋土中	全 身 *8.7 *6.2	刃 茎 2.80 1.8	刃 茎 0.2 0.15	18.9	関・茎に目釘穴 二個づつ
84	—	SH12埋土中	全 刃 *3.4 2.0	刃 柄 0.9 0.7	刃 柄 0.2 0.2	*1.7	

第6表 大町七九谷A地点遺跡出土石製品観察表

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)			備考
			長さ	幅	厚さ	
85	砥石	S H 4 付近	4.9	3.4	1.5	使用面： 4 一部折損。
86	砥石	S H 5 付近	12.5	9.1	1.9	使用面： 1 一部折損。
87	砥石	S H 6 埋土中	5.1	4.8	1.6	使用面： 4 一部折損，折損後 再使用。
88	砥石	S H 6 付近	6.4	6.2	2.5	使用面： 4 (小口1) 一部折損。
89	砥石	S H 8 埋土中	10.0	3.6	1.3	使用面： 7 (小口1) 一部折損，残存部 分も2つに分離後 再使用。
90	砥石	S H 8 床面上	8.1	5.4	1.1	使用面： 2
91	砥石	S H 8 埋土中	6.1	5.2	1.6	使用面： 1
92	砥石	S H 8 埋土中	10.0	3.6	1.3	使用面： 1
93	砥石	S H 9 床面上	9.2	6.4	5.6	使用面： 5 (小口1)
94	砥石	S H 9 埋土中	10.4	3.2	1.2	使用面： 3
95	砥石	S H 10 床面上	15.4	3.9	2.4	使用面： 2 2つに折れた状態 で出土。A-98と接 合可能。
96	砥石	S H 10 床面上	21.9	10.2	2.2	使用面： 1
97	砥石	S H 10 埋土中	3.9	2.1	2.0	使用面： 4 一部折損。
98	砥石	S H 10 付近	7.7	4.3	2.2	使用面： 4 一部折損， A-95との折損後 に再使用。
99	砥石	S H 10 付近	8.4	2.8	1.4	使用面： 4
100	砥石	S H 12 埋土中	6.5	2.3	1.4	使用面： 1

## 4 大町七九谷B地点遺跡

### (1) 調査の概要

大町七九谷B地点遺跡は、本遺跡群の3本の尾根の中央に位置している。本遺跡の尾根は北西から南東へほぼ直線上に伸びており、標高約50mから約80mにわたり4ヶ所の平坦面が認められた。また、これとは別に、東に分岐した枝尾根に標高約55mの独立丘陵状の高まりが認められるが、A地点遺跡に比べ自然地形の残る斜面が多く見られ、地形の改変の状況は比較的緩やかである。

調査は平坦部を主な単位として調査区を設定して行い、遺構は平坦面上およびその周辺の斜面から確認された。調査の結果、竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土坑11基、テラス状遺構2ヶ所、土壙墓31基、土器棺墓1基、古墳1基を確認した。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、鉄器石器、玉類等が出土している。

以下、本遺跡内の地形の特徴および堆積状況、遺構の分布等について、概要を述べる。

本遺跡の尾根の先端部にあたる最下段の平坦部は、標高約54m、面積約600m<sup>2</sup>で、周囲の谷の水田面との比高は約10mである。最下段のこの平坦部は畑として利用されていたようで、地山面まで耕作による攪乱が及んでいた。この平坦部からは竪穴住居跡1軒(SH1)と土坑3基(SK1~3)等を確認した。SH1は、平坦部の北端付近に位置し、2段目の平坦部から約5m下った急斜面の直下にあたる。当初現地地形は、なだらかな尾根が中世以降に一拳に削平され形成されたと考えていたが、住居跡と3基の土坑の存在から、弥生時代の終末期には尾根の削平が始まっていた事が判明した。なお、SK3はSH1の主柱と重複しており、SH1の周辺の柱穴群は、削平された建物跡の存在を想起させる。これらから何度かにわたって造成が行われ、住居等が営まれたと考えられる。

2段目の平坦面は、尾根の分岐点にあたり、標高約60m、面積約40m<sup>2</sup>である。南東に緩やかに下ってきた尾根は、この部分で東方向と南方向に分かれ、急激に下って行く。南東直下の谷の水田面までの比高は約25mで現在は竹林によって視界が遮られているが、かつては眺望が良好であったと考えられる。この狭小な平坦部では、試掘トレンチを入れた段階で、赤色の熱を受けたと考えられる床面が確認されたため、住居跡の存在を想定していた。しかし、調査の結果、緩やかな斜面を幅約12m、奥行き約5m削平したテラス状遺構(SX1)を確認し心遺構面から4ヶ所の焼出面と柱穴4基を確認したが、その性格は不明である。なお、この平坦部の北側及び東側は崖状の急斜面となっており、土砂の崩落が進んでいた。

3段目の平坦部は標高約63m、面積約220m<sup>2</sup>、南西の谷の水田面との比高は約10mである。A地点遺跡の最下段と同様に近年まで畑として利用されており、遺構も削平されていることが予想されたが、調査の結果、平坦面および隣接する斜面から竪穴住居跡3軒(SH2~4)、土坑3基(SK4~6)、テラス状遺構1ヶ所(SX2)を確認した。SH2は、平坦面の北側斜面から床面の北側約四分の一が確認されたが、大部分は造成によって削平されていた。また、SH2内のSK5・6は、底面のレベルから住居に伴うものではないと考えられる。SH3・4は、ともに直径が8mを超える大型住居であるが、部で重複しており、土層観察からSH3→SH4と考えられる。なお、SH3は焼失住居で、SH4は、最低2回の建て替えが認められた。また、SH3・4に重複するSK4は・

底面のレベルから、住居に伴うものではなく、土層観察からこれらの住居に先行するものと考えられる。S X 2は、尾根の斜面を幅約12 m削平して平坦面を造り出している口削平で生じた排土は斜面下方に盛土されたと見られ、こうした造成が繰り返された結果、本平坦部は厚い盛土に覆われ遺構が良好に保存されたと考えられる。

4段目の平坦部は標高約69～72 m、面積約250 m<sup>2</sup>で東側の谷の水田面からの比高は約30 mである。全体が緩やかに傾斜しており、地形観察では一連の平坦面と考えられた。しかし、調査の結果、尾根上の2ヶ所と西側斜面の1ヶ所の平坦面に細分された。いずれも斜面をカットして平坦面を造り出しており、下方の平坦面では竪穴住居跡1軒(S H 5)・掘立柱建物跡1棟(S B 1)・土坑1基(S K 7)を、西側斜面の平坦面では竪穴住居跡1軒(S H 6)を、上方の平坦面では竪穴住居跡1軒(S H 7)、土坑4基(S K 8～11)をそれぞれ確認した。S H 5とS B 1、S K 7は、近接しているものの柱並びや配置に規則性が見られ、同時期に使用されていた可能性が高い。S H 6は尾根の西側斜面を深さ約2 m掘り込んだ幅約15 mの平坦面に造られているが、斜面のカットがS H 5直近にまで及んでいることから、両者の時期は異なると考えられる。S H 7は本遺跡群中最高の標高約71 mに位置する。尾根の中軸部分を深さ約3 m、幅約10 m、長さ約15 m削平した平坦面の中央に位置し、住居の北側周辺には4基の土坑がある。このうちS K 10はS H 7と重複しているが、住居の床面に連なる階段を持っていることからS H 7に伴う貯蔵穴と考えられる。また、S K 9は床面の平面形が三角形を呈し、一部がアーチ状の天井を持つ横穴状となる特殊な形態の土坑で、内部奥壁付近から完形の土器が出土しており、貯蔵穴の一種と考えられる。なお、入り口部分の位置がS H 7の壁と近接しており、住居とは時期が異なると考えられる。

本遺跡の2段目平坦部から東に分岐した尾根に位置する独立丘陵状の高まりは、頂上平坦面の標高約55 m、面積約90 m<sup>2</sup>、北側の谷の水田面との比高は約20 mである。調査の結果、平坦面及び東側の斜面から土壙墓31基(S T 1～31)、土器棺墓1基(S P 1)、古墳1基(大町七九谷古墳)を確認した。

## (2) 遺構と遺物

住居跡、古墳については個々に取り扱い、土壙墓については概要を述べるに留め、他のものの詳細は付表に委ねることとする。

### S H 1 (第46図, 図版14 a)

立地 尾根が分岐点から南へ急激に下った直下のほぼ中軸上に位置する。

形態・規模 壁の。上部がやや削平されているものの遺存状況は良好で、平面形は円形、規模は直径約3.4 mである。

壁 全周遺存し、北西部で最大60 cm遺存している。

床面 平坦な床面がほぼ完全に遺存している。壁溝は幅10～15 cm、深さ5 cmで、断続的に遺存しているが、支柱穴と近接した部分および南側の支柱穴間には見られない。床面には支柱穴と考えられる4個のピットP 1～P 4があり、4本柱構造の竪穴住居が想定される。なお、床面中央に直径約50

cm, 深さ約 10 cmの浅いピットがある。これはその位置・形状から炉跡と考えられる。

遺物 埋土中から土器（1・2）、壁に接して鉄器（52）が出土した。土器は、その特徴から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 2（第 55・56 図，図版 14 b）

立地 尾根のほぼ中軸上に位置し、大型住居（S H 3・4）が2軒重複して建てられていた平坦面の上方斜面に位置する。本住居は斜面を削平して造られたテラス状遺構（S X 2）から掘り込まれており、その床面のレベルは下方の2軒の住居と比べて約工. 5 m高い。なお、南側約三分の二は後世の畑の造成によって削平されているため、S H 2と位置的に重複するS H 4との新旧関係は不明である。また、S H 2はS K 5・6と重複しているが、土層観察から、これらの土坑はいずれもS H 2に先行するものである。

形態・規模 北側約三分の一が遺存しており、壁や柱穴の配置から、平面形は円形で規模は直径約 8 mと推定される。

壁 南側は削平されており、北部で最大 60 cmが遺存している。

床面 北側約三分の一が遺存している。壁溝は床面の遺存状況が良好な北東部で確認でき、規模は幅 20 cm, 深さ 5 cmである。床面には柱穴と考えられるピットが5個あるが、間隔が不規則で主柱穴の想定には至らなかった。ただ、住居の規模から、10本柱程度の構造であったと考えられる。

遺物 床面及び埋土中から土器（7・8）、鉄器（53）が出土した。土器は、その特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 3（第 51～53 図，図版 15 a・b）

立地 尾根の中軸上に位置し、緩やかな斜面を削平した平坦面中央に造られている。北西部でS H 4及びS K 4と重複しているが、新旧関係は、土層観察からS K 4→S H 3→S H 4である。

形態・規模 斜面にかかる東部の一部を除き、遺存状況は良好で、平面形は円形で、規模は直径 7. 8 mである。

壁 地山を掘り込んだ北半部が良好に遺存しており、最大 65 cmである。

床面 床面は、主柱穴内側の直径約 6 mの低床部とその外縁を壁沿いに巡る高床部の二段構造である。高床部は地山を約 10 cm削り残した上で花崗岩バイラン土を厚さ 10～15 cm貼り、水平に整えている。壁溝は、ほぼ全周で遺存しており、規模は幅 10～15 cm, 深さ 10 cmで、溝内には多数の小ピットがある。床面には、柱穴と考えられるピットが5個あり、その位置関係からP 23～P 31を主柱穴とする9本柱構造の竪穴住居が想定される。また、P 32～P 35は床面中央部に方形に配列されており、大規模な上屋構造を支える副柱穴と考えられる。なお、中央部には 120 cm×80 cm, 深さ 15～20 cmの不整形のピット（P 36）があり、内部や周辺から焼土、灰等が確認されたことから炉跡と考えられる。と

ここで、本住居は床面上や埋土中に多量の焼土、炭化物を含んでおり、焼失住居である。炭化材も確認されたが、細片のため樹種の確認はできなかった。

遺物 床面及び埋土中から土器（9～11）、土製品（51）、鉄器（54～60）が出土した。このうち土器（9）は、いわゆる「コシキ形土器」と呼ばれるもので、（10）の甕形土器と共に、炉跡直上で横倒しになって破碎した状態で出土した。なお、（10）はその特徴から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 4（第51・52図、図版16 a・b）

立地 緩やかに傾斜する尾根を削平した平坦面の西寄りに位置し、S H 2・3及びS K 4と重複している。

形態・規模 柱穴の配置や壁溝の形状、土層観察等から、形態・規模の異なる少なくとも3軒（4 a～4 c）の住居が重複して建て替えられている。4 aは平面形が円形または隅丸の六角形で、規模は直径約5 mである。4 bは平面形が楕円形で、規模は直径8.6～9 mである。4 cは平面形が方形または隅丸方形で、規模は一辺約5.5 mと推定される。なお、新旧関係は土層観察から4 a→4 b→4 Cである。

壁 4 aは4 bによって大部分が削平されており、壁も北東部で最大5 cm残存するのみである。4 bの壁は斜面上方の北半部で良好に遺存しており、最大55 cmである。4 cは4 bの埋土に掘り込まれているため、土層断面の観察で確認されたが、壁は北東隅付近で最大40 cmである。

床面 各住居の床面が良好に遺存しているが、4 cについては土層断面での確認にとどまった。4 aは、壁溝が部分的に確認でき、規模は幅10～20 cm、深さ3 cmである。床面には多数のピットがあるが、壁の形状からP 1～P 6を主柱穴とした6本柱構造の竪穴住居が想定される。4 bは、西端部が斜面の崩落により流失しているが北半部で壁溝が明瞭に遺存しており、規模は幅10～20 cm、深さ5 cmである。なお、壁から幅約1 mの外縁部には、厚さ10～15 cmの花崗岩バイラン土の貼床が全周に施されており、床面はS H 3と同様に中央の低床部と外縁の高床部の2段構造となっている。床面には多数のピットがあるが壁との位置関係等からP 7～P 16を主柱穴とした10本柱構造の竪穴住居が想定される。また、S H 3と同様に床面中央には長方形に配列された副柱穴（P 17～P 20）がある。4 cは、埋土中に炭化物を多く含み、セクションベルトの断面観察によってその範囲・形状が推定された。この位置関係から、P 21・P 22・P 5・P 1を主柱穴とする4本柱構造の竪穴住居が想定される。

遺物 4 bの床面及び埋土中から土器（12～14）、鉄器（61～63）、管玉（81）、石器（82・83）が出土した。土器は、その特徴から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 5（第59図、図版17 a）

立地 尾根の中軸上の緩やかな斜面を削平した平坦面に位置する。尾根はここから傾斜を増すため、眺望は良好である。本住居の南西約70 cmには、S H 6の地山整形面の上端部が近接しているため、両住居は同時に営まれたものではないが、新旧関係は確認できなかった。また、北側には1間×2間の6本柱構造の掘立柱建物跡（S B 1）とS K 7が近接して存在するが、柱配列の方向や位置関係にS H 5との規則性が認められるため、これらについては同時期に使用された可能性が高い。

形態・規模 上部は削平されているが、ほぼ全体が遺存しており、平面形は隅丸方形で、規模は一辺約5mである。

壁 斜面上方を掘り込んでいる北側の遺存状況が良好で、現状で最大60cmである。

床面 ほぼ水平な床面が遺存している口壁溝は、壁の遺存状況が良好な北辺及び東辺で断続的に確認でき、規模は幅10cm、深さ5cmである。床面には柱穴と考えられるピットが8個あるが、規模や位置関係から、P1～P4を支柱穴とした4本柱構造の竪穴住居が想定される。なお、P5～P8は、規模が小さいことから支柱穴間を補う副柱穴と考えられる。また、中央部に90cm×60cm、深さ10cmで、内部に灰や焼土が詰まった不整形なピットがあるが、位置や状況から炉跡と考えられる。

遺物 床面から土器(20)、鉄器(64・65)が出土した。土器は、その特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

#### S H 6 (第61図, 図版17b)

立地 尾根上平坦面の南西端部から約3m下った南斜面に位置し、斜面を約2m削平してつくられた平坦面から掘り込まれている。

形態・規模 斜面を掘り込んだ北東部分の遺存状況が良好で、壁や柱穴の位置関係などから平面形は方形で、規模は5m×4mと推定される。

壁 斜面上方の北東辺で最大55cm遺存する。

床面 北東辺から幅約50cmの部分はほぼ水平であるが、これより南西部は約10cmの段差があり、緩やかに傾斜している。斜面下方にあたる南西部の柱穴は浅く、その底部のレベルが北東側の柱穴と同一であることから、床面には北東端部と同レベルの貼床が施されていたと考えられる。壁溝は、北東辺に遺存しており、規模は幅10cm、深さ5cmで、溝内に多数の小ピットがある。床面には、柱穴と考えられるピットが6個あるが、位置や形状からP1～P4の4個が支柱穴と考えられ、4本柱構造の竪穴住居が想定される。

遺物 埋土中から土器(21)が出土した。土器は、その特徴から古墳時代初頭の日寺期に属すると考えられる。

#### S H 7 (第62図, 図版18a)

立地 尾根の中軸上に位置し、斜面を削平して造られた緩斜面に掘り込まれている。本住居の北側周囲には、4基の土坑があるが、このうちSK9とは近接しており、両者は時期が異なると考えられる。また、SK10は位置的に重複しているが、住居床面に連なる階段を確認したため、住居に付属する貯蔵施設の可能性がある。

形態・規模 上方が削平されているが遺存状況は良好であら平面形は円形で、規模は直径約6.5mである。

壁 斜面上方の北半部の遺存状況が良好で、最大65cmである。

床面 支柱穴より内側の低床部と外縁部の高床部に分かれる。両者は支柱穴間を結んだ直線で仕切られており、低床部の平面形は七角形である。高床部は一部2段に分かれる部分もあるが、概ね幅

50～150 cm，低床部との高低差約10～20 cmである。壁溝は壁が明瞭な北半部で遺存しており，規模は幅10 cm，深さ5 cmである。また，溝内には多数の小ピットがある。主柱穴と考えられるピットは7個で，7本柱構造の竪穴住居が想定される。なお，床面中央には，一辺約70 cmの方形の浅いピットがある。ピット中やその周辺には焼土層が見られ，その形状からも炉跡と考えられる。

遺物 床面及び埋土中から土器（25・26），鉄器（66～69）が出土した。土器は，その特徴から古墳時代初頭の時期に属すると考えられる。

## 大町七九谷古墳

### 外観（第68図，図版23 a）

本古墳は，大町七九谷遺跡群の存在する南に伸びる三つの尾根の中央，B地点遺跡の存在する尾根の中央部分から東に派生する支尾根上に位置している。墳頂平坦面の標高は55.5 mを計り，水田面との比高は約20 mである。現状では，僅かな高まりは存在したものの古墳の墳丘と認識しえるほどのものではなかった。後世の地形改変によるためか墳丘のほとんどは削平を受けており，西側の周溝でその存在を確認し得たのみである。周溝は幅2.5 m，長さ10 m，深さ0.4 mである。古墳の規模・形状については，西側周溝及び土層観察の結果を総合的に検討した結果，周溝が直線的にのびていることもあり一辺10 m程度の方墳である可能性が高い。高さについては，現状では周溝の底部から1.5 mを計りその内0.3 m程が盛土であるが，主体部が現地表面から二次塘底部まで0.7 mと浅く，さらに0.5 m程度の盛土はあったものと考えられる。

### 主体部（第69図，図版23 b，24 a・b）

主体部は，墳丘平坦面の中央あたりに位置しているものと考えられ，主軸をN67° Eにとる。墓壙はほぼ長方形を呈しており，東側が若干膨らんでいる。構造は二重土堤で，東端部分が土壙墓と重複しているため明確にしえないが，北東隅部分がすでに南側に曲がりかけており，長さについてはこの位置での計測値をそれほど超えないものと考えられる。一次堤の規模は中央で残存長325 cm，幅150 cm，深さ32 cmを計る。そのほぼ中央に二次壙が掘り込まれており，規模は上端で残存長230 cm，幅47 cm，深さ14 cmを計る。東端は土壙墓と重複しているため明確にしえないが，二次土壙西端部分には長さ71 cm，幅30 cm，一次壙からの深さ26 cmを計る小口穴が掘り込まれている。

埋納された木棺の規模・形状については，東端部分が不明確なため長さは明確にしえないが，土層観察によれば幅60 cm程度で底部の断面がU字型の木棺が使用されており，割竹形木棺であった可能性が高い。

頭位については，一次壙の幅も東側が広がっており，二次壙底部も東側が高くなっていることから東側にあるものと考えられる。

### 遺物（第104～106図）

本古墳に伴う遺物としては，木棺内遺物として鉄剣（80）1及び刀子（79）1が出土しており，周溝内からは土師器（48・49）2が出土している。詳細は観察表に譲る。

### 時期

本古墳の時期は，周溝内から出土した土師器から5世紀初頭と考えられる。また，墳墓群との関

係でいえば、その多くを墳丘下に含んでおり、明らかに異なる時期のものと考えられる。

墳墓群（第69図，第71～99図，図版22c，25a～35b）

B地点からは、土壙墓31基，土器棺墓1基を検出している。土壙墓を形態から概観すれば，小口等に木棺の痕跡を確認できるものが8基，前者と同様で且つ二次的な掘り込みがあるものが3基，二次的な掘り込みのみを行うものが8基，木棺等の痕跡を残さないものが12基で構成されている。これらは，頭位も種々であり，切り合い関係等から推測される時期的な関係も互いに前後しているため，単純に時期的な相違と捉えることは困難である。規模の点からみれば，240cmを超えるものが10基，240cm未満170cm以上のものが9基，170cm未満のものが4基，不明が8基である。伴出した遺

物等でみるならば，小口に石を置くもの1基，墓標石と考えられる石材を伴うもの2基，土器を供献していると考えられるもの4基，鉄器を副葬しているもの4基があげられる。特に，遺物を共伴した土壙墓がすべて240cmを超える規模のものである点が注目される。

時期の点から見れば，供献された土器の大部分は上深川Ⅱ式末～上深川Ⅲ式古の段階に属するものでS T29で検出した土器群Cのみが上深川Ⅲ式新に属する時期のものとして捉えることができよう。古墳出土の土器を除けば調査区内から出土した土器の中でこの土器群C出土のものが最も新しく，この土器の時期をもって当墳墓群が廃棄された時期と考えて大過なからう。一方，形成開始の時期であるが，調査区内出土のものを含めても最も古く位置づけられる土器（47）は上深川Ⅱ式でも後半のものであり，これがほぼ当墳墓群の形成開始時期を示している可能性が高い。そうするとA地点及びB地点の集落の存続時期とほぼ重なることとなり，当墳墓群の被葬者を考える上でその地理的な条件等も含め興味深い。

また，C地点の墳墓群との比較でいえば，①石棺墓が全くない②240cmを超える規模のもの割合がかなり高い③土器供献が行われている④成人墓に対して未成人墓の占める割合が低い等の相違が指摘できる。特に②については，当墳墓群同様に土器供献の行われた大久保遺跡1)の場合にやはり同様な状況がうかがわれ，その示す意味に興味を引かれるところである。

#### 注

1. 財団法人広島市歴史科学教育事業団『大久保遺跡発掘調査報告』1992年

第7表 大町七九谷B地点遺跡土坑計測表

遺構番号	規模 (cm)	伴出遺物	備考
S K 1	底径 138 深さ 95	No.3, 4 (埋土中)	
S K 2	底径 106 × 95 深さ 63	No.5, 6 (埋土中)	
S K 3	底径 102 深さ 33		中央に柱穴有り。 S H 1 内
S K 4	底径 178 深さ 106	No.16, 17, 18, 19 (埋土中)	S H 4 内
S K 5	底径 115 深さ 85		S H 2 内
S K 6	底径 118 × 90 深さ 45		S H 2 内 隅丸方形
S K 7	底径 118 深さ 132	No.22, 23 (埋土中) No.24 (埋土中)	
S K 8	底径 135 深さ 113		
S K 9	底径 225 × 180 深さ 125	No.27, 28, 29 (床面上)	
S K 10	底径 120 × 100 深さ 109		S H 7 内
S K 11	底径 180 × 130 深さ 86	No.30 (埋土中)	

第8表 大町七九谷B地点遺跡土壇墓計測表

遺構番号	規模 (cm)			主軸方向	伴出遺物	備考
	長辺	短辺	深さ			
大町七九谷古墳主体部	残存長 310	(一次壇) 50 (二次壇) ・上端 47 ・下端 25	32 14	N67° E	No.79 80	二重土壇。 二次壇西端に小口穴有り。(長71, 幅10, 深25) 断面U字形, 幅60cmの木棺を使用。(土層観察による) 東側でS T 17・S T 25と切り合う。
S T 1	246	80	33	S 53° W		北側でS T 2と切り合う。
S T 2	255	80	25 0	N67° E		西側に小口穴有り。(長52, 幅10, 深10) 南側でS T 1と北側でS T 3と切り合う。

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
ST 3	205		34	S 50° W		高低差3cmの段有り。 南側でST 2と北側でST 5と切り合う。
ST 4 二次墳	— 100	115 50	25 6	N 29° W		二重土壌。
ST 5	222	145 90	53	N 71° E		東側に小口穴有り。(長133, 幅15, 深5) 南側でST 3と重複。
ST 6	240	100	25	N 51° E		
ST 7	230	90	75	N 68° E		長さ180cm幅90cm程度の木棺を使用。 (土層観察による) 高低差10cm前後の平坦面有り。
ST 8	120	38	48	S 53° W		高低差8cm前後の平坦面有り。
ST 9	147	80	15	N 62° E		裏込め石有り。 両側壁沿いに溝有り。(深; 北側12・南側3)
ST 10	270	90	75	N 53° E		
ST 11	234	80	43	N 53° W		
ST 12 二次墳	—	—	62 20	N 76° E		二重土壌。 二次墳両端に小口穴有り。(東側: 長80, 幅37, 深16・西側: 長42, 幅35, 深9・小口穴間145) 南側でST 26と西側でST 27と切り合う。
ST 13	125	85(?)	55	S 59° W		両小口穴有り。(東側: 長70, 幅25, 深12・西側: 長80, 幅25, 深9・小口穴間98) 高低差4cmの段有り。
ST 14	240	—	78	S 58° W	No.72	東側に小口穴有り。(長55, 幅22, 深9) 北側に幅20cm前後, 深さ10cm前後の溝有り。 北側でST 13と南側でST 15と切り合う。
ST 15	210	60	54	S 59° W		両端に小口石有り。(両小口石間164) 北側でST 14と重複する。
ST 16	135	50	40	S 82° W		高低差10cm前後の平坦面有り。
ST 17	258	95	68	S 69° E	No.73 74	北東側でST 18と切り合い, 北西側でST 25・古墳主体部と重複している。
ST 18	235	100	46	N 88° W		両端に小口穴有り。(東側: 長85, 幅18, 深10・西側: 長90, 幅20, 深10・小口穴間181) 東側をST 23と西側をST 17・28と重複している。

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
S T 19	245	85	85	N74° W	No.31 32 33	土器供献有り。
S T 20	255	90	64	N45° E	No.34 35 36 37 75	土器供献，墓標石有り。 東側でS T 21と切り合う。
S T 21	228	(北東) (南西) 60 40	27	N50° E		墓標石有り。 西側でS T 20と重複。
S T 22	185	77	46	S 87° W		北西側でS T 23と切り合う。
S T 23	—	80	60	S 48° W		南西側に小口穴有り。(長69, 幅18, 深3) 西側でS T 18と切り合い，南東側で S T 22と重複する。
S T 24 二次墳	—	75 35	37 20	S 70° W		二重土壙。
S T 25	205	95	25	S 77° W		南側でS T 17・18と切り合い，西側古 墳主体部と重複する。
S T 26 二次墳	— 110	— 40	43 10	S 74° E		二重土壙。二次墳西側に小口穴有り。 (長26, 幅15, 深10) 西側でS T 27と切り 合い，北側でS T 12と重複する。
S T 27 二次墳	142 107	60 30	60 15	N25° W		二重土壙。 斜面を南北230cm, 東西200cm, 深さ70 cm程度方形に削平し，その中央部に墓 壙を掘り込んでいる。
S T 28	288	140	83	N88° E	No.38 39 40 41 42 43 77	土器供献有り。 南側でS T 29と切り合う。
S T 29	285	110	74	N88° E	No.44 45	土器供献有り。 東西両端に小口穴有り。(東側：長90, 幅25, 深17・西側：長90, 幅20, 深14・ 小口穴間210) 北側でS T 28と切り合う。
S T 30	—	—	21	S 9° E		南北両端に小口穴有り。(南側：長45, 幅20, 深28・西側：長35, 幅17, 深6・ 小口穴間60)
S T 31	—	90	43	S 53° W		
S P 1	52	41	33	S 58° W	No.46 47	

第9表 大町七九谷B地点遺跡出土土器計測表

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
1	甕形土器	SH1 埋土中	口径 16.6 胴部最大径 17.4	口縁部は器厚をわずかに減じつつ外上方に延び、端部付近でわずかに外湾する。端部は丸くおさめている。胴部は最大径を中位あたりに持っている。	外面：口縁部はヨコナデ後にヘラナデ以下ハケ目後にヘラナデ、中位周辺はヘラ磨き、底部周辺はナデ。 内面：口縁部はハケ目後にナデ、以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	口縁部及び胴部外面中位周辺に炭化物付着。
2	甕形土器	SH1 埋土中	口径 15.7	口縁部は短く外に湾曲し、そこから一段鈍い稜を成して外湾気味に立ち上がる複合口縁である。たちあがり部の端部は平坦面を成している。	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	淡黄褐色	0.5~1mm大の砂粒を含む。	やや軟調	
3	碗形土器	SH1 埋土中	口径 14.0	口縁部は短く外に開き、そこから比較的鋭い稜を成して外湾気味に立ち上がる複合口縁である。たちあがり部は中位あたりで若干外に開き、端部は外方向に尖らしている。	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部以下ヨコナデ、肩部あたりからヘラ削り。	淡黄褐色	0.5~1mm大の砂粒を含む。	軟調	
4	甕形土器	SK1 埋土中	口径 18.4	口縁部は器厚を減じつつ外湾気味に外上方に延び、端部は平たくおさめている。胴部は球形状にひろがる。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はヨコナデ、屈曲点付近はナデ、以下ヘラ削り。 口縁端部に一条の凹線が巡り、肩部にハケ状工具による波状文巡る。	淡橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	口縁部外面に炭化物付着。
5	碗形土器	SK2 埋土中	口径 11.7 底径 3.2 器高 5.6	平底気味の底部下から内湾気味に外上方にたちあがり、口縁端部周辺で急速に器厚を減じつつ端部は丸くおさめている。	外面：ナデ。 内面：ヘラナデ。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
6	甕形土器	SK2 埋土中	胴部最大径 14.0	口縁部は器厚をわずかに減じつつ外湾気味に上方に延び、胴部最大径は比較的高い位置にある。	外面：ヘラ磨き。 内面：口縁部はヨコナデ、肩部周辺からヘラ削り。	暗褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	外面に炭化物付着。一部二次焼成による赤変部分有り。
7	甕形土器	SH2 床面上	口径 16.6	口縁部は外上方に短く延び、比較的鋭い稜を一段成した後に外湾気味に上方に立ち上がる複合口縁である。端部は丸くおさめられている。	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部以下ヨコナデ、肩部周辺からヘラ削り。	灰白色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	軟調	
8	甕形土器	SH2 床面上	口径 20.7	口縁部はやや外湾気味に外上方に延び、端部は平たくおさめている。	外面：ハケ目。 内面：ハケ目後にナデ。	(外)明赤褐色 (内)淡橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
9	甕形土器	SH3 床面上	上部口径 13.8 下部口径 48.0 器高 59.5 (把手) 長 11.5 幅 3.2 厚 2.5	上部口縁部直下に断面三角形の突帯を造り出している。端部は平たくおさめている。筒状に延びた胴部は下半1/3程度の位置から急激に「ハ」の字状に開き下部口縁部に至る。端部は比較的丸くおさめられている。下部口縁部の若干上に口縁部に水平に貼り付けの把手が1対付く。	外面：上部口縁部以下ハケ目、胴部中位以下ハケ目後にヘラ磨き。把手貼り付け箇所以下ヘラ磨き。 内面：突帯造り出し箇所周辺ナデ、以下ハケ目後にナデ。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	把手貼り付け箇所に対応する位置の突帯に焼成前に造られた切り欠きが有る。

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
10	甕形土器	SH3 床面上	口径 13.8 胴部最大径 18.6	口縁部は器厚を減じつつ外上方に延び、端部は丸くおさめている。胴部は球状を呈する。	外面：口縁部はヨコナデ、屈曲点周辺以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り。	明赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	口縁部外面に炭化物付着。
11	碗形土器	SH3 埋土中	口径 10.6 器高 5.2	丸底の底部から器厚を減じつつ緩やかに外上方にたちあがり、端部近くで内湾し端部は丸くおさめている。	外面：二次焼成による摩滅のため、調整不明。下半にしぼり痕有り。 内面：ナデ。	(外)赤褐色 (内)褐色	0.5~5mm大の砂粒をわずかに含む。	良好	二次焼成を受ける。
12	甗形土器	SH3 埋土中	口径 6.6	甗形土器の口縁部である。口縁部は鈍い突帯から内反気味にたちあがり、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目後にナデ、突帯上半はナデ、下半はハケ目。 内面：ハケ目後にナデ。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
13	鉢形土器	SH4 床面上	口径 10.2 胴部最大径 8.3	口縁部は器厚を減じつつ外上方に直線状に延び、端部は丸くおさめている。	外面：ハケ目後にナデ。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ。胴部はヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
14	碗形土器	SH4 埋土中	口径 8.8 器高 3.8	丸底の底部から内湾気味に外上方に立ち上がり、端部近くで急速に器厚を減じ、端部は丸くおさめている。	外面：不明。 内面：ナデ。全面に指頭圧痕有り。	淡褐色	0.5~2mm大の砂粒を含む。	やや軟調	
15	不明	SH4 埋土中	底径 7.3	指でひねり出すことによって整形された台脚部から外上方に直線的に立ち上がる胴部を持つ。	外面：胴部はヘラ削り後にナデ、底部周辺はユビナデ。 内面：胴部はヘラ削り、底部周辺は指ナデ。	暗赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
16	壺形土器	SK4 埋土中	口径 16.4	口縁部は中位あたりまで垂直にたちあがり、後に大きく外湾している。端部は平たくおさめられている。	外面：ハケ目後にナデ。端部付近ヨコナデ。 内面：ハケ目。端部付近ヨコナデ。	明褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	内面に赤色顔料を塗布する。
17	鉢形土器	SK4 埋土中	口径 13.2 底径 1.6 器高 11.2 胴部最大径 10.6	底部は僅かに平底を呈し、胴部は内湾しつつたちあがり、中位あたりから直線状に上方に延びる。口縁部は器厚を減じつつ外湾し、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目、胴部中位以下ハケ目後にヘラ磨き。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ削り後にナデ、胴部中位以下ヘラ削り。	明赤褐色	1~5mm大の砂粒多く含む。	良好	

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
18	甕形土器	SK 4 埋土中	口径 15.4	口縁部は強く外碗しながら外上方に延び、端部周辺で内湾気味に上方に立ち上がる。端部は平たくおさめている。	外面：口縁端部周辺はヨコナデ、以下口縁部はヘラ磨き、胴部は不明。 内面：口縁端部周辺はヨコナデ、以下口縁部はヘラ磨き、胴部はヘラ削り。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
19	甕形土器	SK 4 埋土中	口径 18.4	口縁部は器厚を減じつつ外上方に延び、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目、以下屈曲点周辺はヨコナデ。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り。	(外)暗褐色 (内)淡橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	口縁部外面に炭化物付着。
20	碗形土器	SH 5 床面上	口径 12.8 器高 6.3	胴部は内湾気味にたちあがり、中位辺りから急速に器厚を減じつつ、端部は丸くおさめている。	外面：口縁端部はナデ、以下ハケ目。 内面：口縁端部はナデ、以下ヘラナデ。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
21	小型丸底壺	SH 6 埋土中	口径 11.8 器高 7.0 胴部最大径 8.8	口縁部は小さな体部から直線的に外上方に延び、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ削り後に指ナデ。指頭圧痕有り。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り後に指ナデ。指頭圧痕有り。	赤褐色	0.5~1mm大の砂粒をわずかに含む。	良好	
22	甕形土器	SK 7 床面上	口径 16.5 胴部最大径 20.2	口縁部は、球形の胴部から外上方に器厚を減じつつ延び、端部は丸くおさめている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。 貝殻腹縁による5条の波状文を肩部に施す。	淡黄褐色	1~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	胴部下半に炭化物付着。
23	不明	SK 7 床面上	底径 7.0	平底の底部である。	外面：ナデ。 内面：ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	内面に炭化物付着。
24	碗形土器	SK 7 埋土中	口径 16.4 器高 9.7	丸底の底部から器厚を減じつつ直線状に外上方にたちあがり、端部は丸くおさめている。	外面：端部周辺はヨコナデ、以下ハケ目後にナデ。 内面：端部周辺はヘラ削り後にヨコナデ、以下ヘラ削り後にナデ。	明赤褐色	1~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
25	甕形土器	SH 7 床面上	口径 19.9	口縁部はやや外湾気味に外上方に延び、端部は丸くおさめている。	外面：ハケ目後にヨコナデ。 内面：端部周辺はヨコナデ、以下ハケ目。	赤褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	外面に炭化物付着。

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
26	碗形土器	S H 7 埋土中	口径 12.0 器高 8.4	丸底の底部から器厚を減じつつ内湾気味にたちあがり、端部は丸くおさめている。	外面：ハケ目。 内面：胴部ハケ目、底部はナデ。	赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
27	壺形土器	S K 9 奥壁	胴部最大径 12.1	長頸壺の体部である。	外面：体部下半1/3までハケ目後にヘラ磨き、以下ヘラ削り後にナデ。 内面：ナデ。下半に明瞭なシボリ痕を残す。	明赤褐色	0.5~1mm大の砂粒を多く含む。特に長石多し。	良好	
28	甕形土器	S K 9 奥壁	口径 15.0 器高 25.7 胴部最大径 20.7	口縁部は器厚を減じつつ外上方に延び、端部は丸くおさめている。体部は球形である。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。胴部中位以下は不明。 内面：口縁部はヨコナデ、屈曲点周辺はヘラ削り後にヨコナデ、以下ヘラ削り。 肩部に7条の波状文、後に7条の平行沈線文を貝殻腹縁により施す。	明橙色	1~2mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	胴部下半に炭化物付着。
29	甕形土器	S K 9 奥壁	口径 16.6 底径 4.6 器高 26.7 胴部最大径 21.0	口縁部は器厚を減じつつ強く外湾し、端部は平たくおさめている。胴部は倒卵形を呈し、底部は僅かに平底を残している。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。 口縁端部に1条の凹線。肩部にかすかにヘラ状工具による波状文が残る。	明橙色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	胴部外面下半部及び内面底部に炭化物付着。
30	甕形土器	S K 11 奥壁	口径 12.2 胴部最大径 11.8	口縁部は内湾気味にたちあがり端部は丸くおさめている。	外面：不明 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。	暗赤褐色	0.5~4mm大の砂粒を多く含む。石英、長石目立つ。	軟調	
31	壺形土器	S T 19 直上	胴部最大径 14.2	長頸壺の胴部である。胴部は玉葱形を呈している。	外面：ヘラ磨き。中位までは、ナデ。指頭圧痕を顕著に残す。中位以下はハケ目。	赤褐色	0.5~1mm大の砂粒をわずかに含む。	良好	底部穿孔有り。焼成後、外部からのもの。
32	鉢形土器	S T 19 直上	口径 12.2 底径 3.4 器高 10.8 胴部最大径 15.0	玉葱形の胴部に外上方に直線的に短く延びる口縁部を持ち、端部は平たくおさめている。底部は小さな平底であり、小規模な突起を施してある。	外面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ヘラ磨き。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ、以下ハケ目、後に胴部中位に接合の際の指頭圧痕が残る。	赤褐色	0.5~1mm大の砂粒をわずかに含む。	良好	
33	小型丸底壺	S T 19 埋土中	口径 9.6 器高 7.3 胴部最大径 6.8	口縁部は器厚を減じつつ外上方に直線的に延び、端部は丸くおさめている。体部は半球状を呈している。	外面：口縁端部はヨコナデ、口縁部はヘラ磨き、体部はハケ目。 内面：口縁端部はヨコナデ、口縁部はヘラ磨き、体部はナデ。	赤褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
34	壺形土器	土器群A (S T20)	口径 19.4 底径 5.4 器高 41.5 胴部最大径 29.0	口縁部は器厚を減じながら外湾気味に外上方に延び、端部内面から内傾する拡張部を造り出している。端部は平たくおさめている。体部は倒卵状を呈し、底部は平底である。	外面：口縁部はハケ目、拡張部はハケ目後にヨコナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目、拡張部はハケ目後にヨコナデ、以下ハケ目。 拡張部に、5条の波状分及び刺突文を施す。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	肩部1ヶ所、胴部下半2ヶ所に外面からの穿孔  有り。
35	壺形土器	土器群A (S T20)	口径 10.8 器高 21.2 胴部最大径 14.6	口縁部は器厚を減じつつ、上方に直線的に長く延び、端部は丸くおさめている。体部は球形である。	外面：口縁部はナデ、以下ハケ目後にナデ、体部1/3以下ヘラ削り。 内面：口縁部はナデ、指頭圧痕が残る。胴部はナデ、体部1/3以下ヘラ削り。口縁部屈曲点周辺に粘土貼付け痕跡残す。	明橙褐色	1mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	胴部中位に外面からの穿孔1ヶ所有り。
36	甕形土器	土器群A (S T20)	口径 14.1 底径 2.8 器高 12.7 胴部最大径 13.0	口縁部はやや外湾気味に外上方に延び、端部は丸くおさめている。底部は凹み気味の平底である。	外面：口縁端部はヨコナデ、以下ハケ目、胴部中位以下はハケ目後にナデ。 内面：口縁端部はヨコナデ、口縁部はハケ目、以下ヘラ削り。	明橙褐色	1~1.5mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	胴部中位に外面からの穿孔1ヶ所有り。
37	鉢形土器	土器群A (S T20)	口径 13.8 底径 3.0 器高 10.0 胴部最大径 12.9	口縁部は器厚を減じつつ短く外反し、端部は丸くおさめている。底部は凹み底である。	外面：口縁部以下ハケ目、胴部中位はヘラ削り後にハケ目、以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り。	明赤褐色	1~2mm大の砂粒多く含む。	やや軟調	口縁部内面に赤色顔料の塗布有り。
38	壺形土器	土器群B (S T28)	口径 34.0 器高 43.0 胴部最大径 40.7	口縁部は大きく外湾しながら外上方に延び、端部は下方に拡張することにより二重口縁としている。口縁部屈曲点周辺に貼付突帯を有する。胴部は玉葱状を呈し、底部周辺は僅かに尖る傾向を見せる。	外面：口縁部はハケ目、屈曲点周辺はヘラ磨き、以下タタキ目後にヘラナデ、下半以下ヘラ削り後にヘラナデ。 内面：口縁部はハケ目、屈曲点周辺はナデ、屈曲点以下指頭圧痕、以下ハケ目、底部周辺指頭圧痕。 口縁拡張部に9状態程度の櫛歯状工具による鋸歯文。 貼付突帯にヘラ状工具による綾杉文。	(外)明橙褐色 (内)暗褐色~黒褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	外面に赤色顔料を塗布。底部中央に内面からの穿孔有り。
39	壺形土器	土器群B (S T28)	口径 32.4 底径 2.8 器高 39.6 胴部最大径 41.0	口縁部は強く外湾しながら外上方に延び、端部は平たくおさめている。胴部は玉葱状を呈し、底部付近は僅かに尖り、底部は小さな突起状の平底である。	外面：口縁部は、端部周辺がヨコナデ以下ハケ目、肩部はハケ目後にヘラ磨き、中位は叩き目後にハケ目後にヘラ磨き、以下ヘラ削り後にハケ目。 内面：口縁部は不明、肩部指頭圧痕、以下ヘラ削り後にハケ目。 口縁部屈曲点付近に小規模な列点文。	(外)明橙褐色 (内)暗褐色	精緻。0.5~2mm大の砂粒及び金雲母を含む。	良好	底部付近に内面からの穿孔1ヶ所有り。
40	壺形土器	土器群B (S T28)	口径 17.0 器高 43.3 胴部最大径 21.5	口縁部は直線的に上方に延び、端部は丸くおさめる。胴部は倒卵形を呈し、底部は丸底である。	外面：口縁部はハケ目後に粗いヘラ磨き、以下ハケ目後にナデ、胴部中位以下不明。 内面：口縁部はハケ目、屈曲点周辺に指頭圧痕、以下ヘラ削り、胴部1/3以下ヘラ削り後にナデ。	黄褐色	精緻。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	頸部外面に赤色顔料塗布。底部に内面からの穿孔有り。
41	壺形土器	土器群B (S T28)	口径 17.4 器高 35.2 胴部最大径 18.5	口縁部は直線的に上方に延び、端部は丸くおさめる。胴部は球形を呈し、底部は丸底である。	外面：口縁部はヘラ磨き、以下ハケ目後にナデ。 内面：口縁部はハケ目後にナデ、屈曲点周辺はヘラ削り。胴部屈曲点周辺は指頭圧痕、以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を含む。	良好	外面一部に赤色顔料の塗布有り。

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器 形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備 考
42	甕形土器	土器群B (S T 28)	口径 17.4 胴部最大径 12.2	口縁部は器厚を減じつつ外湾気味に外上方に延び、端部は丸くおさめている。	外面：ハケ目後にナデ。 内面：口縁部はハケ目後にナデ，以下ヘラ削り。	淡黄褐色	緻密。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。	良好 堅緻	外面に赤色顔料を塗布する。
43	高坏	土器群B (S T 28)	口径 29.6 底径 17.1 器高 17.4 胴部最大径 10.0	口縁部は強く外湾しながら外上方に延び、端部は平たくおさめられている。坏部は比較的深く、脚部は直線的に開く。脚端部も平たくおさめられている。	外面：口縁部はハケ目後にヘラ削り，以下ヘラ削り後にハケ目，後にヘラ磨き。 内面：口縁部及び坏部はハケ目後にヘラ磨き，脚部上半はヘラ削り後にナデ，以下はハケ目。 脚部に5ヶ所の透かし穴有り。(外部穿孔)	明赤褐色	緻密。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。	良好	内外全面に赤色顔料の塗布有り。
44	壺形土器	土器群C (S T 29)	口径 18.8 底径 5.3 器高 29.4 胴部最大径 23.0	口縁部は器厚を減じつつ強く外湾し，端部は丸くおさめられている。胴部は長円形を呈し，底部は明確な平底である。	外面：口縁部周辺はハケ目後にヨコナデ，以下ハケ目，胴部下半1/4以下ハケ目後にヘラ磨き。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ，以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5～5mm大の砂粒を多く含む。	良好	
45	鉢形土器	土器群C (S T 29)	口径 16.2 底径 2.6 器高 11.3 胴部最大径 11.8	口縁部はわずかに器厚を減じつつ直線的に外上方に延び，端部は丸くおさめられている。底部は窪み気味の平底である。	外面：口縁部はナデ，胴部上半はハケ目後にナデ，下半はヘラ削り後にナデ。 内面：口縁部はハケ目，以下ヘラ削り。	明赤褐色	1～2mm大の砂粒多く含む。	やや軟調	
46	壺形土器	S P 1	底径 7.8 胴部最大径 32.6	口縁部は外湾気味に上方に延び端部内側から拡張部が立ち上がり，二重口縁となる。口縁部屈曲点周辺に貼付突帯が施されている。胴部は長円形を呈し，底部はしっかりした平底である。	外面：口縁部周辺はヨコナデ，以下口縁部ハケ目，胴部ハケ目後にナデ，底部周辺ヘラ削り後にナデ。 内面：口縁部以下ハケ目，胴部下半からハケ目後にナデ。 貼付突帯にヘラ状工具による刻み目文。	明橙色～明黄褐色	0.5～3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
47	鉢形土器	S P 1	口径 29.5 底径 5.8 器高 24.2 胴部最大径 27.7	口縁部は強く外湾し，端部は平たくおさめている。底部は平底である。	外面：口縁部は，端部周辺ヨコナデ，以下ハケ目。胴部は，ハケ目後に部分的なナデ，底部周辺に指頭圧痕有り。 内面：口縁部周辺ヨコナデ，以下ハケ目。胴部下半以下ヘラ削り後にハケ目及びナデ，底部ナデ。	(外) 橙褐色 (内) 暗褐色	0.5～3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
48	甕形土器	大町七九谷古墳周溝内	口径 14.4	口縁部は内湾気味に上方に立ち上がり，端部は僅かに内側に肥厚気味に平たくおさめられている。	外面：口縁部はヨコナデ，以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目後にヨコナデ，肩部ナデ，以下ヘラ削り。	橙褐色	緻密。0.5～2mm大の砂粒をわずかに含む。	良好	
49	高坏	大町七九谷古墳周溝内	坏部口径 14.9	坏口縁部は，浅い坏底部から内湾気味に立ち上がり，端部は丸くおさめている。坏底部と口縁部の境に僅かに段を有する。	外面：坏口縁部はヨコナデ，以下ヘラ削り後にナデ。 内面：ヨコナデ	明赤褐色	1～2mm大の砂粒多く含む。	良好	内面赤色土による化粧掛け有り。

第10表 大町七九谷B地点遺跡出土土製品観察表

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	色調	胎土	焼成	備考
50	てづくね 土器	SK7埋土中	器高 2.5 口径 4.3	(外)明赤褐色 (内)赤褐色	3mm大の砂 粒含む。	良好	
51	土製丸玉	SH3床面上	直径 3.5 高さ 2.7 孔径 0.6	橙色	1mm大の砂 粒を多く含 む。	良好	

第11表 大町七九谷B地点遺跡出土鉄製品観察表

\* : 残存部分

番号	器種	出土位置	寸法				備考
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
52	—	SH1埋土 中	全 *6.9	0.9	0.3	14.6	茎に木質
53	鍬	SH2埋土 中	全 5.8 刃 4.0	身 1.4 茎 0.6	身 0.2 茎 0.25	5.7	有茎・柳葉形
54	鍬	SH3床面 上	3.8	2.45	0.2	6.2	無茎・三角形 両脚 木質
55	鍬	SH3床面 上	全 4.5 刃 1.7	身 1.1 茎 0.9	身 0.35 茎 0.4	5.4	有茎・圭頭形
56	—	SH3床面 上	全 *4.8 茎 3.7	刃 1.0 茎 0.7	刃 0.2 茎 0.3	3.9	
57	錐状鉄製品	SH3床面 上	全 7.8 身 3.8	0.9	0.5	9.1	茎に木質
58	不明	SH3床面 上	6.1	0.4	0.2	2.9	
59	不明	SH3床面 上	9.1	0.4	0.3	16.2	
60	不明	SH3埋土 中	4.6	1.1	0.2	4.4	
61	斧	SH4柱穴 内 (P13)	8.6	基 2.0 刃 3.35	0.7	107.5	
62	鍬	SH4埋土 中	3.5	1.95	0.2	5.4	無茎・三角形 凹基
63	鍬	SH4埋土 中	全 *4.3 茎 1.5	身 1.4 茎 0.4	身 0.2 茎 0.2	4.9	有茎・柳葉形
64	鍬	SH5床面 上	3.6	2.1	0.2	4.7	無茎・三角形 平基

番号	器種	出土位置	寸法				備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
65	鏃	SH5床面上	全 *3.8 身	0.9 茎	0.25 0.25	7.3	有茎・柳葉形
66	鏃	SH7床面上	全 *2.9 身	1.4 1.0	0.3 0.2	3.0	有茎・圭頭形
67	鏃	SH7床面上	全 2.6	1.6	0.1	2.3	無茎・三角形 両脚
68	鏃	SH7床面上	全 *3.25	1.5	0.15	3.7	無茎・三角形 平基
69	鏃	SH7埋土中	全 5.5 身 3.5	刃 1.6 茎 1.10	刃 0.25 茎 0.2	4.4	有基・圭頭形
70	鏃	調査区内	*7.0	1.3	0.4	15.6	
71	鏃	調査区内	10.6	0.8	0.5	24.8	
72	不明	ST15床面上	*22.7	0.9	0.35	50.2	
73	—	ST18床面上	全 *6.7 刃 *3.1	刃 1.3 茎 1.1	刃 0.3 茎 0.2	3.0	
74	不明	ST18床面上	6.0	0.25	0.2	2.4	
75	—	ST21 土器群A	全 *6.2 茎 4.5	刃 1.7 茎 1.3	刃 0.2 茎 0.2	6.0	
76	鏃	ST29床面上	2.9	2.15	0.1	3.2	無茎・三角形 平基 目釘穴
77	刀子	墳墓群内	全 20.2 刃 12.3	刃 1.2 柄 1.2	刃 0.2 柄 0.2	24.0	素環頭 木質
78	不明	墳墓群内	*14.4	0.9	0.30	21.0	木質・繊維
79	刀子	古墳主体部内	全 10.1 刃 6.1	刃 1.40 柄 0.9	刃 0.2 柄 0.15	8.4	
80	劍	古墳主体部内	全 46.4 身 35.7	身 2.9 茎 2.3	身 0.4 茎 0.3	204.3	関 目釘穴1 茎 目釘穴2

第 1 2 表 大町七九谷 B 地点遺跡出土石製品観察表

番号	器 種	出土位置	寸法 (cm)			備 考
			長さ	幅	厚さ	
81	管玉	S H 4	1.5	(直径) 0.6	(孔径) 0.2	材質：碧玉製
82	砥石	S H 4 床面上	9.0	4.3	3.2	使用面： 3
83	砥石	S H 4 埋土中	3.4	4.1	2.6	使用面： 7 一部折損。
84	石斧	B 地点墳墓群 東側	13.3	6.0	1.9	重量：199.8 g
85	石斧	S X 1 埋土中	15.0	6.8	4.0	重量：548.0 g
86	石錘	S H 5 付近	9.2	7.4	1.0	重量：129.08 g

## 5 大町七九谷C地点遺跡

### (1) 遺跡の概要 (第172～186図, 図版36 a～69 b)

C地点遺跡は、南に派生する3本の丘陵の最も西側の丘陵上の標高77mから110mの間に位置しており、土壙墓62基、石棺墓17基、土器棺墓2基を検出している。これらは、東からそれぞれ標高78m前後の平坦面に分布する第Ⅰ墳墓群、標高95m前後の平坦面に分布する第Ⅱ墳墓群、標高105m前後の平坦面に分布する第Ⅲ墳墓群の3カ所に分かれて分布している。個別の墳墓の計測値等については計測表にゆずることにし、ここでは群としての特徴を概観することとする。

第Ⅰ群は、土壙墓12基、石棺墓3基から構成されており、土壙墓については形態の特徴から小口部分等に木棺の痕跡を残すもの6基、前者と同様で且つ二次的な掘り込みを行うもの4基、二次的な掘り込みのみを行うもの2基から構成されている。また、規模の点からみれば、長辺が240cm未満170cm以上のもの10基、170cm未満のもの1基、不明1基である。石棺墓については、規模の明確なものについては何れも小児用と考えられる。

以上のことから、墓壙底面に木棺の痕跡を残さないタイプのを全く含まない点、240cmを超える規模のを全く含まない点、遺構に伴う遺物を全く持たない点が、第Ⅰ群の特徴としてあげられよう。形成された時期については供伴する遺物がないため明言し難いがS T 9直上から出土した壺や調査区内から出土した甕形土器等何れも弥生時代中期終末ころの特徴をしめしており、少なくともそのころには当墳墓群の形成が始められているものと考えられる。

次に第Ⅱ群についてであるが、土壙墓39基、石棺墓14基、土器棺墓2基からなっており、土壙墓について形態の特徴からみれば、小口部分等に木棺の痕跡を残すもの10基、前者と同様のものでも二次的な掘り込みを行っているもの7基、二次的な掘り込みのみ観察できるもの7基、木棺の痕跡を確認できないもの15基に分類できる。次に規模の点からみれば長辺が240cm以上のもの2基、240cm未満170cm以上のもの25基、170cm未満のもの5基、不明7基となる。次に石棺墓についてみれば、規模の明確なものの内成人用の可能性を持つものは1基(S S 7)のみであり、不明のものも含めてほとんどが未成人者のための墳墓と考えられる。また、その中の6基が土壙墓と重複しているが、互いに切り合い関係を有していることから、土壙墓と石棺墓とは並存していたものと考えられる。ただ、木棺の痕跡を残さないタイプの土壙墓については1基の重複もなく注意される。

次に伴出した遺物等でみるならば、小口石を伴うもの4基、墓標石と考えられる石材を伴うもの11基、鉄器を副葬しているもの3基があげられる。特に、副葬された鉄器はすべて鉄鎌であり、出土状態を見れば鉄鎌6本(9・10・11・12—遺存状態が悪かったため4本のみ図示)が出土したS T 35の場合墓壙の中心を取り囲むように若干散乱した状態で鉄鎌が分布しており、「副葬」というよりは体にささった状態とも受け取れ興味深い。

第Ⅱ群の形成時期であるが、鉄器以外に遺構に伴う遺物が僅かであるため明言しがたいが、土器棺墓に使用された土器や石棺墓の蓋に詰められていた土器等は上深川Ⅰ式から上深川Ⅱ式前半のものであり、上深川Ⅰ式の時期に墳墓群の形成が開始されたものと考えられる。次に廃棄された時期

についてであるが、鉄器の副葬はあるもののB地点のように土器の供献は行われておらず、また殊更に新しくする要素もないことから、少なくともB地点よりは早く廃棄されたものと考えられる。

第Ⅲ群は、土壙墓11基からなり、構造的に小口部分等に木棺の痕跡を残すもの2基、前者と同様のもので二次的な掘り込みを行っているもの2基、木棺の痕跡を確認できないもの7基に分類できる。次に規模の点からみれば長辺が240cm以上のもの2基、240cm未満170cm以上のもの4基、170cm未満のもの4基、不明1基となる。伴出した遺物等でみるならば、鉄器を副葬しているもの1基、赤色顔料を散布しているもの1基となる。形成開始の時期については、時期決定の参考となる遺物が供伴していないため明言し難いが、調査区内からは上深川Ⅰ式の特徴を持つ土器が出土していること、一基とはいえ鉄器を副葬する土壙墓がある点等から第Ⅱ群の存続期間とそれほど相違しない時期のものと考えられる。

以上のように、出土遺物から推測すれば、第Ⅰ群が若干古式の様相を示すもののある一定の期間についてはほぼ三群が並存している可能性が高く、三群に分かれる必然性に疑問が残る。ただ、石棺墓との関係で三群を概観すれば、石棺墓のいくつかが土壙墓を切って築造されている中で、木棺の痕跡の確認できない形態のもののみ石棺墓に切られていない事実は、木棺の痕跡を確認できない形態のものが他の形態のものより後出する可能性を示すものと考えられ、木棺の痕跡の確認できない形態のものが優勢を示す第Ⅲ群の形成が全くこの形態のものを含まない第Ⅰ群の形成に後出する可能性も想定できよう。その場合、第Ⅰ群が石棺墓を含み第Ⅲ群が含まない事実もそれを傍証している可能性を示すものと考えられる。ただ、個別に土壙墓間の切りあい関係に着目すれば、三つの形態の前後関係は種々雑多であり、形態のみから個々の土壙墓の前後関係を論じるのは困難なため、明言し難い。また、あくまでも可能性の上での推測であるが、第Ⅱ群の形成開始時期が第Ⅲ群の開始時期と同一時期であるならば、石棺墓の存在の問題や墳墓数の圧倒的な相違の問題等、説明の困難な問題が多く残されることになる。何れにしろ、三群に分かれる必然性について、併存している期間がある程度あった可能性が高いため単純な時期差ともいい得ず、その様相の相違も含めて慎重な考察が必要と考える。

第 1 3 表 大町七九谷 C 地点遺跡土墳墓計測表

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
S T 1 二次墳	230 203	75 上端 40	25 16	N26° W		二重土墳。 南側に小口穴有り。(長25, 幅10, 深25)
S T 2	188	70	57	N4° W		南側に小口穴有り。(長40, 幅10, 深16)
S T 3	220	(南東) 80 (北西) 60	95	S46° E		墓墳底部南東寄りに幅45cm, 深さ16cm 程度の掘り込み有り。
S T 4	236	80	64	N42° W		南北両側に小口穴有り。(北側:長70, 幅22, 深17・南側:長60, 幅19, 深23・ 小口穴間205)
S T 5 二次墳	236 157	70 30	38 10	S76° E		二重土墳。
S T 6	205	75	43	S9° W		南北両端に小口穴有り。(南側:長25, 幅34, 深8・北側:長55, 幅20, 深12・ 小口穴間180) 南側で S T 7 と切り合う。
S T 7	—	(北) 85 (南) 60	37	N14° E		北側に小口穴有り。(長70, 幅32, 深11) 北側で S T 6 と切り合う。
S T 8 二次墳	205 135	上端 85 70	43 10	N26° E		二重土墳。 北側に小口穴有り。(長60, 幅35, 深1,) 高低差20cmの平坦面有り。
S T 9 二次墳	60 30	上端 — 22	25 24	N27° E		二重土墳。 南側及び二次墳内北側に小口穴有り。 (南側:長30, 幅8, 深8・北側:長22, 幅4, 深6・小口穴間45) 西側で S T 10 と切り合う。
S T 10	228	65	40	S7° W		南北両端に小口穴有り。(南側:長35, 幅21, 深15・北側:長57, 幅22, 深15・ 小口穴間180)
S T 11	215	(南) 70 (北) 57	62	S6° E		南北両端に小口穴有り。(南側:長65, 幅33, 深15・北側:長54, 幅21, 深15・ 小口穴間175)
S T 12	202	60	59	S6° W		北側に1カ所, 南側に2カ所の小口穴有 り。(南南側:長35, 幅15, 深11・南北 側:長60, 幅14, 深10・北側:長58, 幅18, 深21・小口穴間<南南側>183< 南北側>165) 西側に高低差25cmの平坦面有り。
S T 13	205	75	34	S56° W		墓標石有り。 東西両端に小口石有り。小口石間175 cm。その内側に小口穴有り。(西側:長 58, 幅31, 深12・東側:長44, 幅21, 深6・小口穴間137)

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
S T 14	195	(西) 78 (東) 65	36	S 57° W		
S T 15	208		37	39	S 4° E	南北両側に小口穴有り。(南側:長55,幅26,深12・北側:長47,幅25,深12・小口穴間173) 高低差11cm前後の平坦面有り。
S T 16	202		95	43	N 26° E	幅10cm,深さ5cmの溝が北壁を除いて全周している。 南側及び東側でS T 25・27と重複している。
S T 27			50	24	N 18° E	南側に小口穴有り。(長28,幅14,深5) 北側でS T 16と切り合う。
S T 17	180		95	37	N 73° E	東西両側に小口穴有り。(東側:長55,幅21,深14,・西側:長52,幅25,深9・小口穴間152)
S T 18	138		45	30	S 50° W	東西両側に小口穴有り。(西側:長34,幅15,深4・東側:長52,幅25,深9・小口穴間85)
S T 19	207		65	59	N 41° E	北半の壁に沿って幅15cm,深4cmの溝が巡る。 底面中央付近に段差5cmの段がある。
S T 20	204	(北東) 85 (南西) 70	52		N 36° E	墓標石有り。 南西側に小口穴有り。(長47,幅20,深27) 底面中央に高低差9cmの段有り。 東側でS T 19を削平している。
S T 21	—		70	24	N 82° W	東西両側に小口穴有り。小口石間200cm。
S T 22	—		72	40	N 60° W	
S T 23 二次墳	218		88 40	62 7	N 37° E	二重土壇。墓標石有り。 南北両端に小口穴有り。(北側:長73,幅20,深14・南側:長57,幅15,深19・小口穴間209) 西側でS T 24を切り込んでいる。
S T 24	208		60	43	N 35° E	東側壁の2/3をS T 23により削平されている。
S T 25	144		—	16	N 36° E	南北両端に小口穴有り。(北側:長33,幅11,深5・南側:長18,幅11,深4・小口穴間50) 西側でS T 16と切り合う。
S T 26	200		40	58	S 79° W	高低差30cm前後の平坦面を伴う。 形状にS T 23の影響がある。

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
S T 28	220	80	38	N28° W		高低差5cm前後の平坦面を伴う。
S T 29	226	(北) 90 (南)	110 90	55	N34° E	No.7 墓標石有り。 高低差10cm前後の平坦面及び高低差5cm前後の段を伴う。
S T 30	200	(西) 52 (東)	60 52	51	S 53° W	高低差8cm前後の平坦面を伴う。
S T 31	177		50	35	S 59° W	東西両側に小口石有り。小口石間165cm。 後世の攪乱が著しい。
S T 32	228		70	45	N22° W	墓標石有り。 高低差20cm前後の平坦面を伴う。
S T 33	230		60	63	S 42° W	No.8 墓標石有り。 北西側でS T 34と切り合う。
S T 34	225		—	60	S 39° W	南東側でS T 33と切り合う。
S T 35	210		60	68	N31° E	No.9 10 11 12 鉄鏃6個伴出。墓標石有り。 南東側でS S 17に切られる。
S T 36 二次壙	—		60 25	56 6	N53° E	二重土壙。 赤色顔料の散布有り。
S T 37	240	(北) 78 (南)	95 78	75	N32° W	墓標石有り。 北側でS T 40と重複する。
S T 38	73		30	23	S 66° W	東西両側に小口石有り。小口石間57cm。
S T 39	83		37	50	N40° E	墓標石有り。 北東側に小口穴有り。(長30, 幅15, 深3) 高低差20cm前後の平坦面有り。
S T 40	238		85	60	S 1° W	南側でS T 37と切り合う。
S T 41	207		67	65	N66° E	北・東・南側の壁沿いに深さ3cm程度の 溝が断続的に巡り、西側には小口穴有 り。(長65, 幅25, 深5) 東側でS T 37と西側でS T 42と切り合う。
S T 42	245	(西) 85 (東)	95 85	79	S 72° W	墓標石, 赤色顔料散布有り。 西側に小口穴有り。(長43, 幅15, 深5) 東側でS T 41と切り合う。
S T 43	230		60	69	N66° E	東西両側に小口穴有り。(東側:長60, 幅15, 深3・西側:長72, 幅30, 深15・ 小口穴間207)
S T 44 二次壙	133 77	(南) (北)	63 45	41 3	S 18° W	二重土壙。 南側に小口穴あり。(長34, 幅26, 深11) 南側でS T 45と切り合う。

遺構番号	規模 (cm)			主軸 方向	伴出 遺物	備 考
	長辺	短辺	深さ			
S T 45	225	75	60	N70° E		北と東及び南と西の一部の壁に沿って、深さ5cmの溝が巡る。
S T 46	—	83	65	N88° S		北側でS T 48と重複する。
S T 47	185	(東) 60 (西) 50	33	N61° E		
S T 48	—	46	58	N82° E		墓標石有り。 高低差20cmの平坦面が周囲を巡る。
S T 49	216	68	62	S 56° E		
S T 50	—	65	43	N62° E		
S T 51 二重墳	206 134	65 40	29 8	N55° E		二重土壇。 東西両側に小口穴有り。(東側:長50,幅35,深10・西側:長45,幅23,深10・小口穴間174)
S P 1	140	55	19	N40° E	No.2 3	高低差11cm前後の段有り。
S P 2	—	40		S 86° W	No.4	
S T 52	260	90	39	N43° E		
S T 53	158	55	49	N24° E	No.14 15 16	南北両側に小口穴有り。(北側:長66,幅18,深10・南側:長63,幅17,深5・小口穴間140)
S T 54	218	110	48	N58° E		
S T 55	197	(南西) 73 (北東) 50	28	S 45° W		
S T 56	240	85	52	N89° E		赤色顔料の散布有り。 東側小口穴有り。(長80,幅25,深8) 高低差5cm,幅10cm程度の平坦面が,東側1/3の両側壁に沿ってある。
S T 57	184	35	42	S 25° W		北側に小口穴有り。(長35,幅20,深8) 高低差3cm前後の平坦面が北側1/2の両側壁に沿って有る。
S T 58	230	50	60	N36° E		北側小口及び両側壁を「コ」の字状に囲むタイプの小口穴有り。(長<東西>64, <南北>20,幅6,深5)
S T 59	138	(北) 75 (南) 55	44	N24° E		
S T 60	145	55	30	N68° W		
S T 61	87	50	46	N46° E		
S T 62	—	65	20	N22° E		

第14表 大町七九谷C地点遺跡石棺墓計測表

(cm)

遺構番号	土壇規模(下端)			石棺規模(内法)			主軸 方向	備 考
	長辺	短辺	深さ	長さ	幅	深さ		
SS1	94	53	28	63	31	25	S25° W	
SS2	—	—	10	—	—	—	S59° E	
SS3	—	—	—	52	30	17	S23° W	掘り方不明。
SS4	—	60	74	—	38	30	N34° E	
SS5	100	36	15	80	—	28	N65° E	南側側壁欠失。
SS6	100	68	10	—	28	25	N37° W	
SS7	200	—	20	155	45	37	N38° E	掘り方北側2/3不明。 ST16・25・27より後。
SS8	—	—	—	58	20	25	N57° E	掘り方不明。 ST26より後。
SS9	—	—	—	65	20	20	N43° E	掘り方不明。 ST23より後。
SS10	123	42	18	98	30	25	N67° W	ST23より後。
SS11	122	48	29	83	30	20	S46° E	ST26より後。
SS12	—	—	—	60	25	17	S72° W	北西側, 下方に流出。 ST29より後。
SS13	126	66	37	100	40	27	N19° W	
SS14	92	52	23	70	25	20	N47° W	
SS15	90	60	52	84	27	30	N60° E	蓋石の間詰め土器 (No.5)を使用。
SS16	96	60	52	84	27	30	S77° W	掘り方不明。 ST23より後。
SS17	84	—	38	98	30	25	N67° W	ST35により西側側壁を 消失する。

第15表 大町七九谷C地点遺跡出土土器観察表

番号	器種	出土位置	寸法 (cm)	器形	調整・成形	色調	胎土	焼成	備考
1	壺形土器	ST9 直上	口径 14.2 底径 8.8 器高 32.4 胴部最大径 25.6	口縁部は「く」の字状に外反し端部は平たくおさめている。胴部は、最大径を中位あたりにもち、以下直線的に底部につながる。底部にやや窪み気味なしっかりした平底である。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ハケ目後にナデ、中位以下丁寧なナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラナデ、2/3以下ヘラ削り。底部は指ナデ。 口縁端部に2条の凹線、肩部にヘラ状工具による刺突文を施す。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	やや軟調	
2	甗形土器	SP1	口径 17.1 底径 5.0 器高 27.0 胴部最大径 21.1	口縁部は「く」の字状に外反し端部は僅かに肥厚させて平たくおさめている。胴部最大径は比較的低い位置にあり、底部は窪み底である。	外面：口縁部はヨコナデ、肩部はハケ目、以下ハケ目後にヘラ磨き。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。 口縁端部に3条の凹線を施す。	明橙褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	胴部下半に帯状に炭化物が付着。
3	甗形土器	SP1	口径 15.6 胴部最大径 21.4	口縁部は「く」の字状に外反し端部は平たくおさめている。底部は窪み底である。	外面：口縁部はナデ、以下ヘラ磨き。 内面：口縁部はナデ、以下ヘラ削り。	淡褐色	0.5~5mm大の砂粒を少量含む。	良好 堅緻	
4	甗形土器	SP2	口径 16.4 底径 4.4 器高 25.9 胴部最大径 20.5	口縁部は「く」の字状に外反し端部は僅かに下方に肥厚しており、平たくおさめられている。底部は窪み底である。	外面：口縁部はナデ、以下ハケ目。 内面：口縁部はハケ目、以下ヘラ削り後にナデ。	淡褐色	0.5~5mm大の砂粒を少量含む。	やや軟調	
5	壺形土器	SS15 蓋石中	口径 14.2 胴部最大径 25.8	口縁部は「く」の字状に外反し端部は肥厚させている。	外面：口縁部はヨコナデ、以下ナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、以下ヘラ削り。 口縁端部に2条の凹線。 肩部にヘラ状工具による刺突文が2列巡る。	(外)暗赤褐色 (内)暗黄褐色	0.5~3mm大の砂粒を多く含む。	良好	
6	甗形土器	第Ⅲ墳 墓群調査区内	口径 12.8 胴部最大径 13.5	口縁部は「く」の字状に外反し端部は平たくおさめている。	外面：口縁部はヨコナデ、肩部はナデ以下ハケ目後にナデ。 内面：口縁部はヨコナデ、肩部ナデ以下ヘラ削り。	明橙褐色	0.5~2mm大の砂粒を多く含む。	良好	風化が著しい。

第16表 大町七九谷C地点遺跡出土鉄製品観察表

\* : 残存部分

番号	器種	出土位置	寸法				備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
7	鍬	S T29床面上	*3.2	1.3	0.1	1.2	無茎・三角形 凹基
8	鍬	S T33床面上	*2.2	1.6	0.1	0.8	無茎・三角形 凹基
9	鍬①	S T35床面上	2.9	*1.2	0.1	1.2	無茎・三角形 凹基 木質
10	鍬②	S T35床面上	4.0	*1.55	0.1	1.6	無茎・三角形 凹基
11	鍬⑤	S T35床面上	*3.6	1.8	0.1	1.7	無茎・三角形 凹基
12	鍬⑥	S T35床面上	*2.9	1.3	0.1	2.4	無茎・三角形 平基 木質
13	鍬	調査区内	2.8	1.7	0.1	1.6	無茎・三角形 両脚
14	鍬	S T53床面上	3.5	3.9	0.1	3.0	無茎・三角形 両脚 目釘穴
15	鍬	S T53床面上	*3.4	1.6	0.1	1.5	無茎・三角形 凹基
16	鍬	S T53埋土中	*3.4	0.7	0.2	2.5	無茎・三角形 両脚 木質 目釘穴

## 6 ま と め

大町七九谷遺跡群からは、集落跡2ヶ所、墳墓群4ヶ所を検出している。遺物としては多量の鉄鏃や?を始め、市内初出土の素環頭刀子、摘鎌等の鉄製品や砥石等の出土数の多さは特筆すべきものである。また、墳墓群についてみれば、8基を数える鉄器の副葬や4基を数える土器の供献等・市内の弥生時代の墳墓群としては希有な様相を示しており、注目される。ここでは一応、このような墳墓群全体の様相について考察を加えることでまとめに代えることとする。

大町七九谷遺跡群からは、土壙墓93基、石棺墓17基、土器棺墓3基を検出している。これらの墳墓は4ヶ所にまとまった形で分布しており、それぞれが集団基地を形成していたことが推測される。これら4ヶ所について概観すれば、B地点墳墓群が、土壙墓、土器棺墓で構成されているのに対して、C地点の2ヶ所の墳墓群で石棺墓を含んでおり、隣接した位置に造営しているにもかかわらずその組成の相違が注目される。また、土壙墓の形態の点からみても、木棺墓の痕跡を残さないタイプのものの含む比率に大きな差があり、その相違の示す要因に興味をひかれるところである。これについては、木棺の痕跡を残さないタイプの占める割合の高いB地点墳墓群及びC地点第Ⅲ墳墓群が石棺墓を含んでおらず、B地点墳墓群が相対的に造営開始時期が遅い可能性が高いだけに、その意味するところが容易に予想可能である。ただ、実際に個別の切り合い関係等から見れば、形態の相違による新旧関係については強弁し難く、明言は避けておきたい。また、C地点遺跡での三つの墳墓群の新旧についても、出土遺物の点から見れば第1群が中期に遡り得る可能性を持った土器を若干出土していることから比較的早くからの形成が考えられるが、他の二群からの出土遺物もそれほど大きく後出すとは考えられないため、同一丘陵上での三群に分かれての墳墓群形成の必然性に大いに疑問の残るところである。

次に、土壙墓の規模の点からみても240cmを超えるタイプのものは圧倒的にB地点が多く且つその中に土器供献を伴うものが4基もある点でも極めて異なる様相を示しているものと考えられよう。

土器供献という点で考察するなら、大久保遺跡2)例が最も類似した例である。大久保遺跡からは35基の土壙墓を確認しているが、そのうち13基が240cmを超える大型のものであり、土器の供献を伴う土壙墓4基が何れもこれに属している点は示唆的である。①供献土器の時期が古墳時代直前直後ともいえる上深川Ⅱ式末～Ⅲ式古の時期である点、②供献土器を伴う土壙墓の埋葬をもって集団墓地が廃棄されていると考えられる点等は、当墳墓群の造営時期の相対的な新しさを想起させ、当遺跡が他の墳墓群に比して240cmを超える土壙墓が占める割合が極めて高い理由が奈辺にあるかを示唆しているものと考えられる。その場合、上深川Ⅱ式でも古い要素を持つ土器が全く出土しておらず、240cmを超える土壙墓が占める割合が高いB地点の成立時期についても、大町七九谷の他地点に比して相対的に新しい可能性が高いものと考えられる。実際、供献された土器の中には古墳時代前期の土器(Ⅲ式新)も含まれており、当地点墳墓群の存続時期を示唆しているものと考えられる。

一方、鉄器の副葬という点で見れば、BC地点とも4基確認しており、鉄器や勾玉の副葬でしられる直近の大町矢ヶ谷遺跡1)も含めてほとんど遺物の出土しない他の地域の状況と著しく異なる当地域特有の事象と考えられる。特にC地点の土壙墓に副葬された鉄器のほとんどが鉄鏃である点は、

鉄鏃6本を出土したC地点S T 35があたかも体に突き刺さっていたかのような出土状態を示している点をあわせ考えると極めて興味深い事象と考えられよう。ただ、B地点の墳墓群の場合には農工具を副葬した例もあり明言し難い。

前述したようにB地点墳墓群の場合は、B地点（弥生時代後期後葉～古墳時代前期）及びA地点（弥生時代後期後葉～古墳時代初頭）の集落跡と時期的に重なることとなり、これらに囲まれるような位置にあることから、これらの集落の住民が埋葬されている可能性が極めて高いものと考えられる。また、その場合、これらの集落からの鉄鏃の出土量は尋常ではなく、C地点遺跡も含めた副葬品を伴う土壙墓の多くが鉄鏃を副葬品として持つという事実は、（一般に弥生時代の集団墓地においては遺物の副葬は行われておらず、それに反する稀な例として当遺跡B地点・C地点・大町矢ヶ谷遺跡・梨ヶ谷遺跡3）等があげられるが、これらの遺跡の確認された副葬品のほとんどが鉄鏃である。）この地域が弥生時代終末から古墳時代初頭におかれた状況を考える上できわめて興味深い。その場合、地理的に近接した位置にある毘沙門台東遺跡からも多量の鉄鏃が出土しているという事実を忘れてはならないであろう。

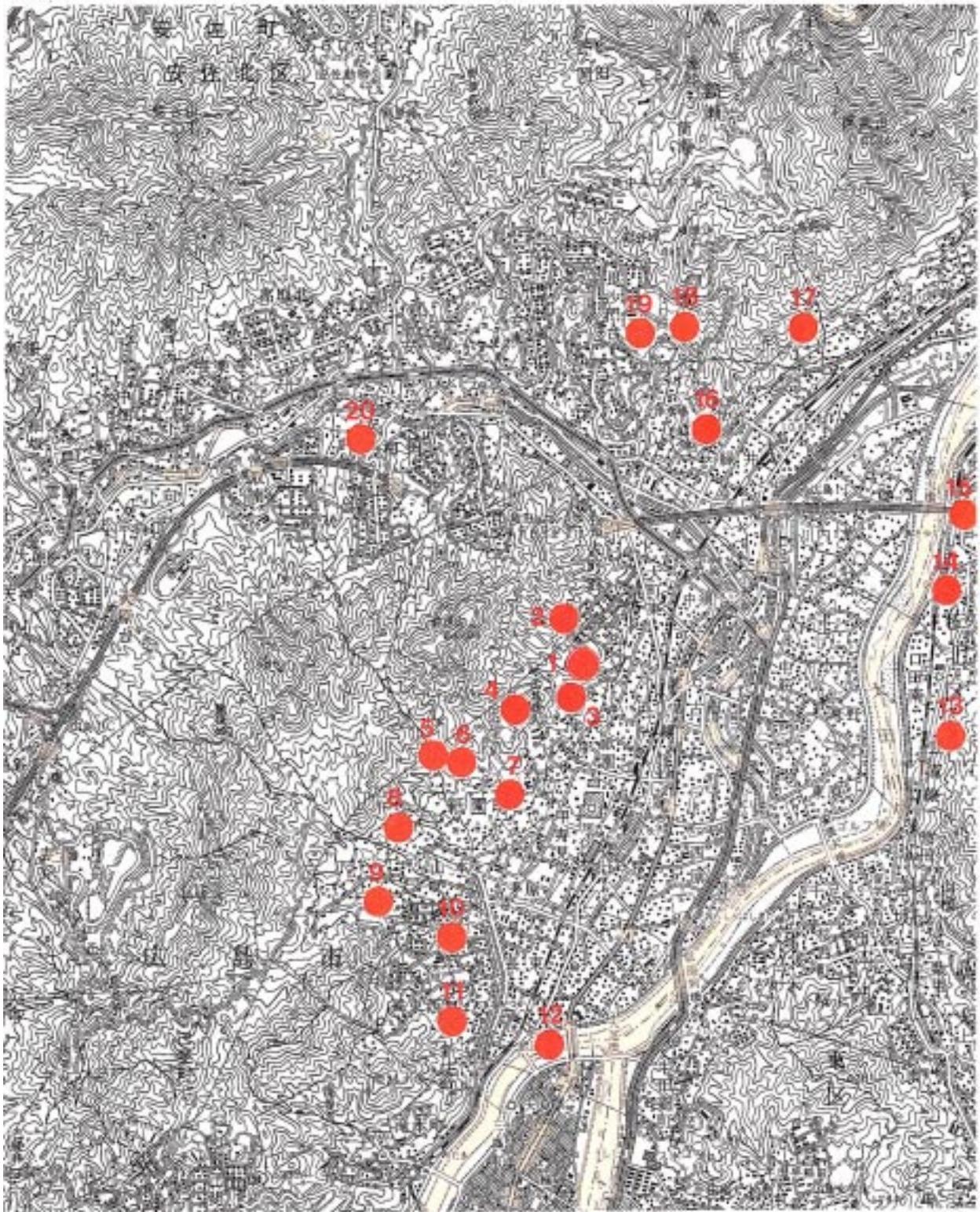
しかし、一方で同時期の他の地域の遺跡からは当地域のような状況は確認できず、弥生社会から古墳社会へと移り変わる社会情勢の中で当地域が如何なる役割を果たしたのか、今後さらなる調査例の増加を待って検討して行く必要があると考える。

#### 注

1. 矢ヶ谷遺跡発掘調査団『矢ヶ谷遺跡発掘調査報告』1984年
2. 財団法人広島市歴史科学教育事業団『大久保遺跡発掘調査報告』1992年
3. 財団法人広島市歴史科学教育事業団『梨ヶ谷遺跡発掘調査報告』1998年

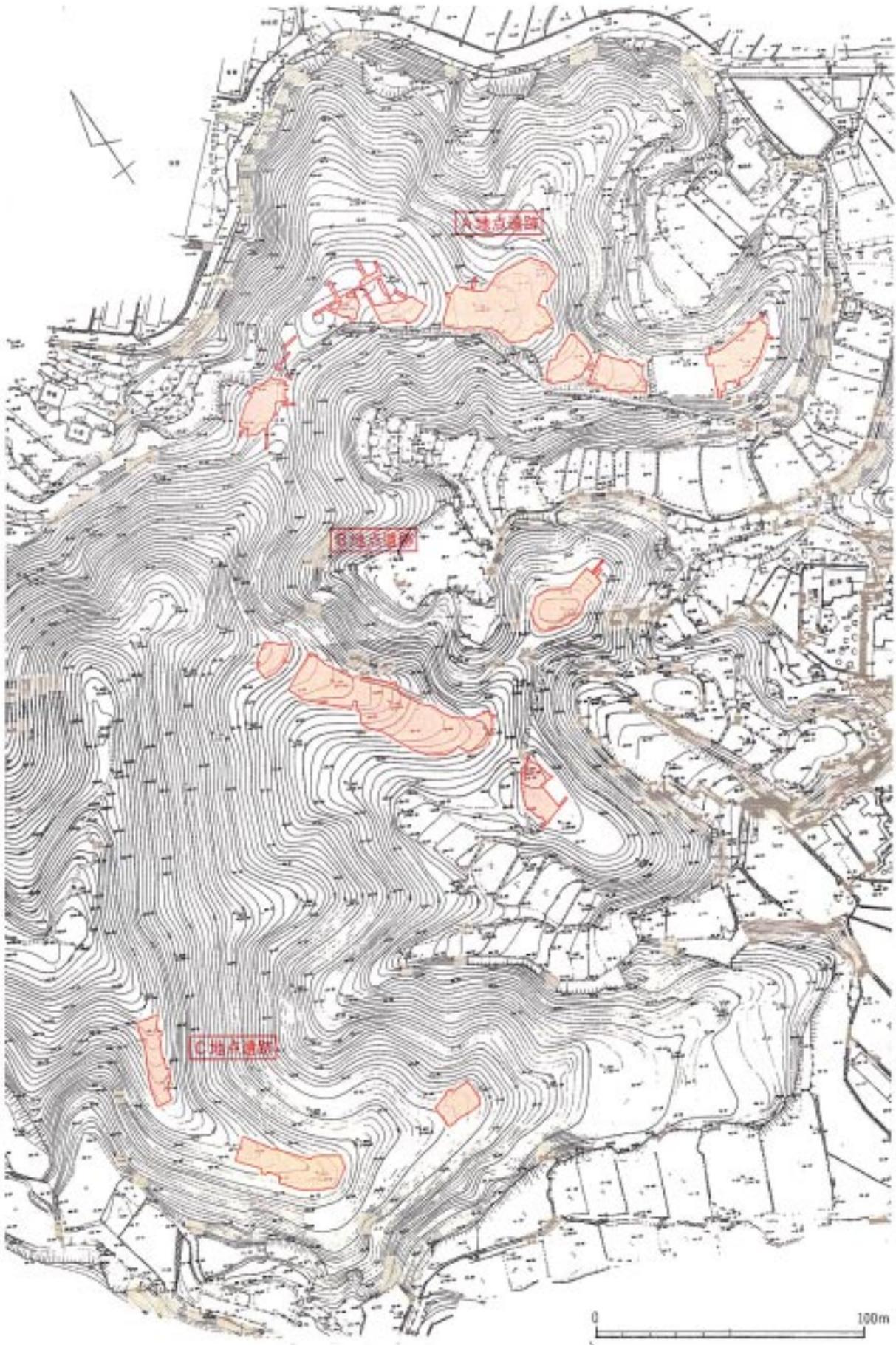


插 圖

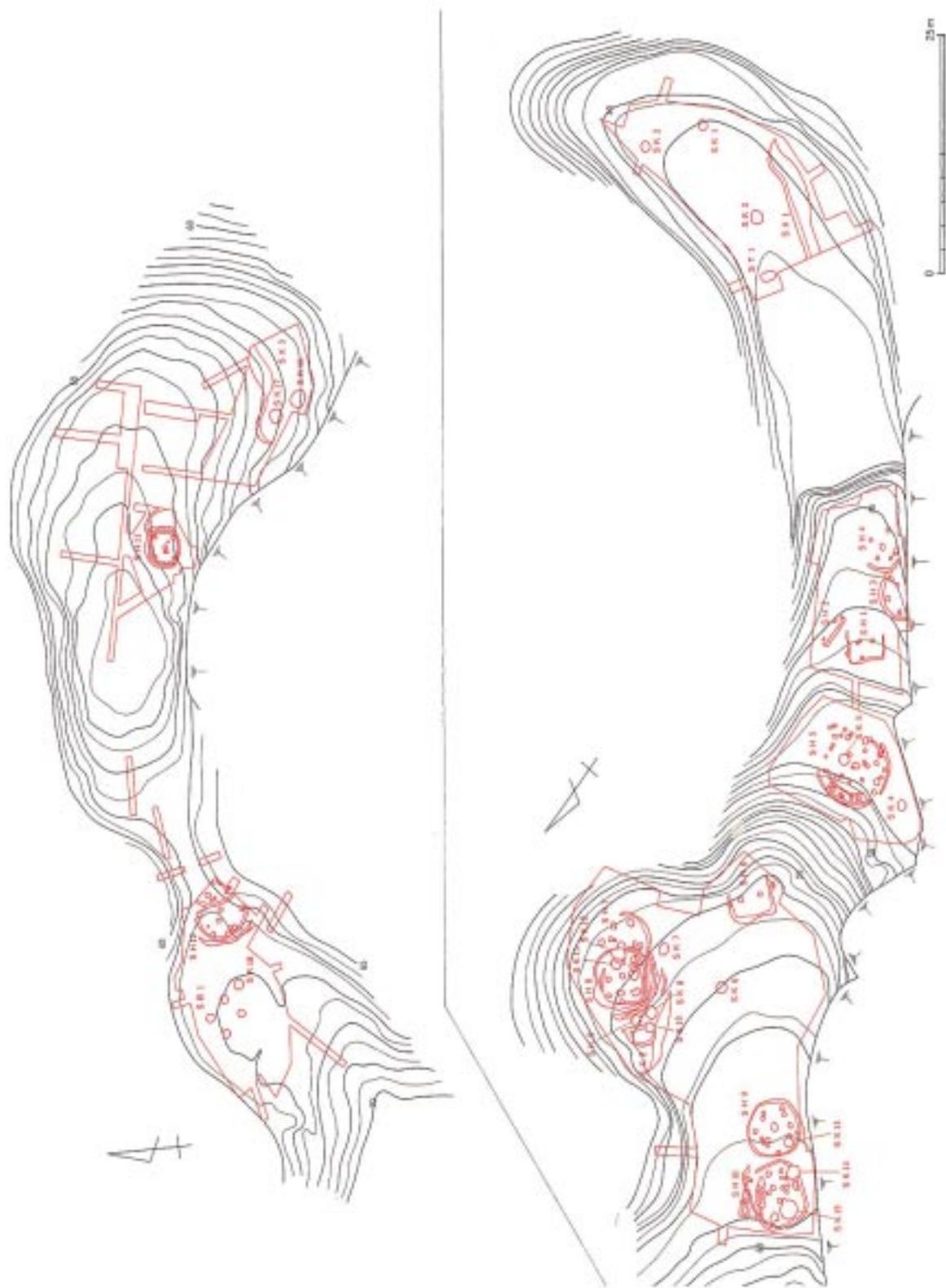


- 1. 大町七九谷遺跡群    2. 大町矢ヶ谷遺跡    3. 尾首古墳
- 4. 広島経済大学構内遺跡群（長う子遺跡・芳カ谷遺跡・大谷遺跡）    5. 上組古墳
- 6. 戸谷山古墳    7. 三王原古墳群    8. 寺山遺跡    9. 空長古墳群    10. 池の内遺跡
- 11. 九郎杖遺跡    10. 太田川放水路固定堰遺跡    13. 中小田古墳群    14. 弘住遺跡
- 15. 大明地遺跡    16. 神宮山古墳群    17. 宇那木山古墳群    18. 毘沙門台東遺跡
- 19. 毘沙門台遺跡    20. 恵木遺跡

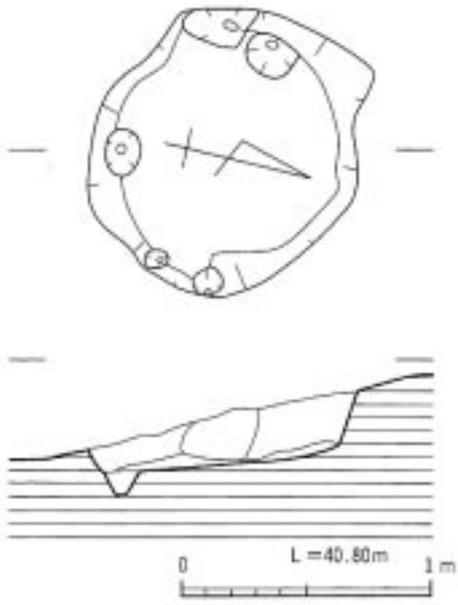
第1図 周辺主要遺跡分布図（S = 1 : 50,000）



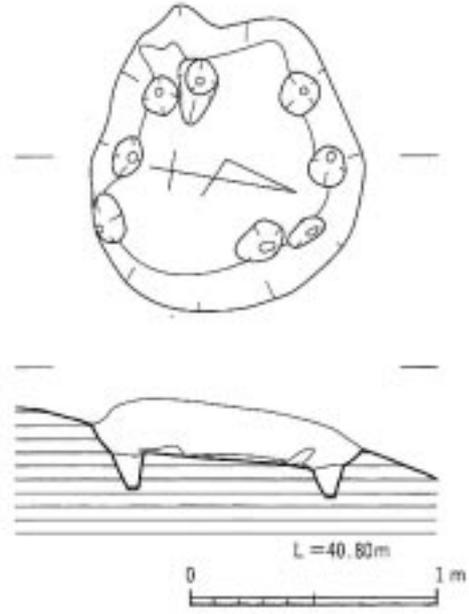
第2図 周辺地形図 (S = 1 : 20,000)



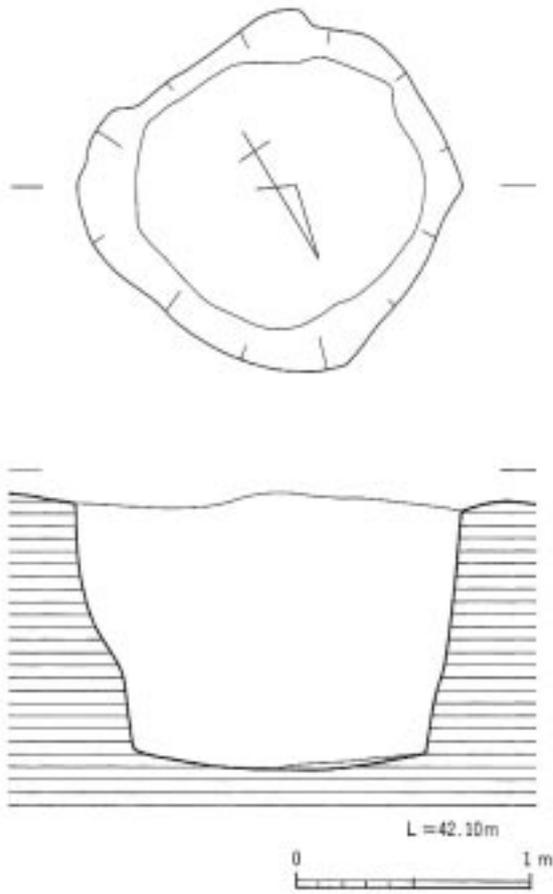
第3圖 大町七九谷A地点遺跡構想配置圖 (S = 1 : 500)



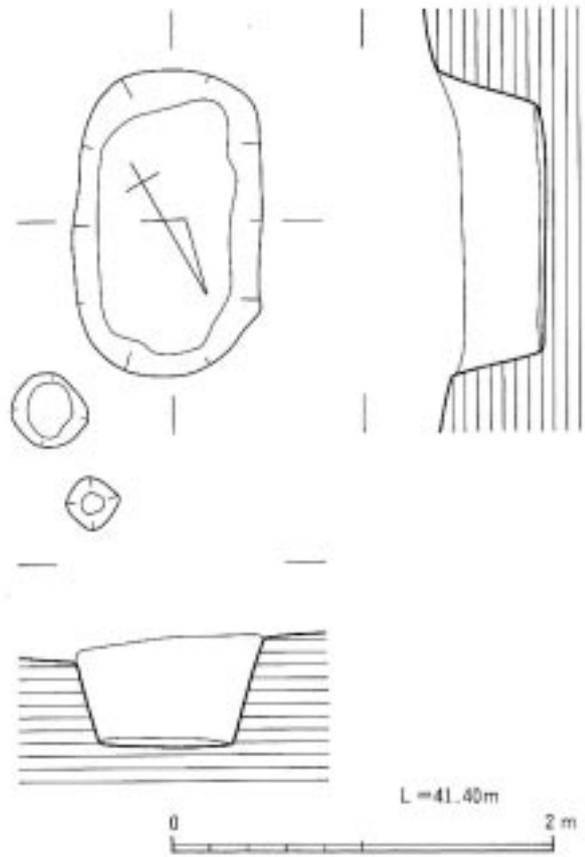
第4図 SK 1実測図 (S = 1 : 30)



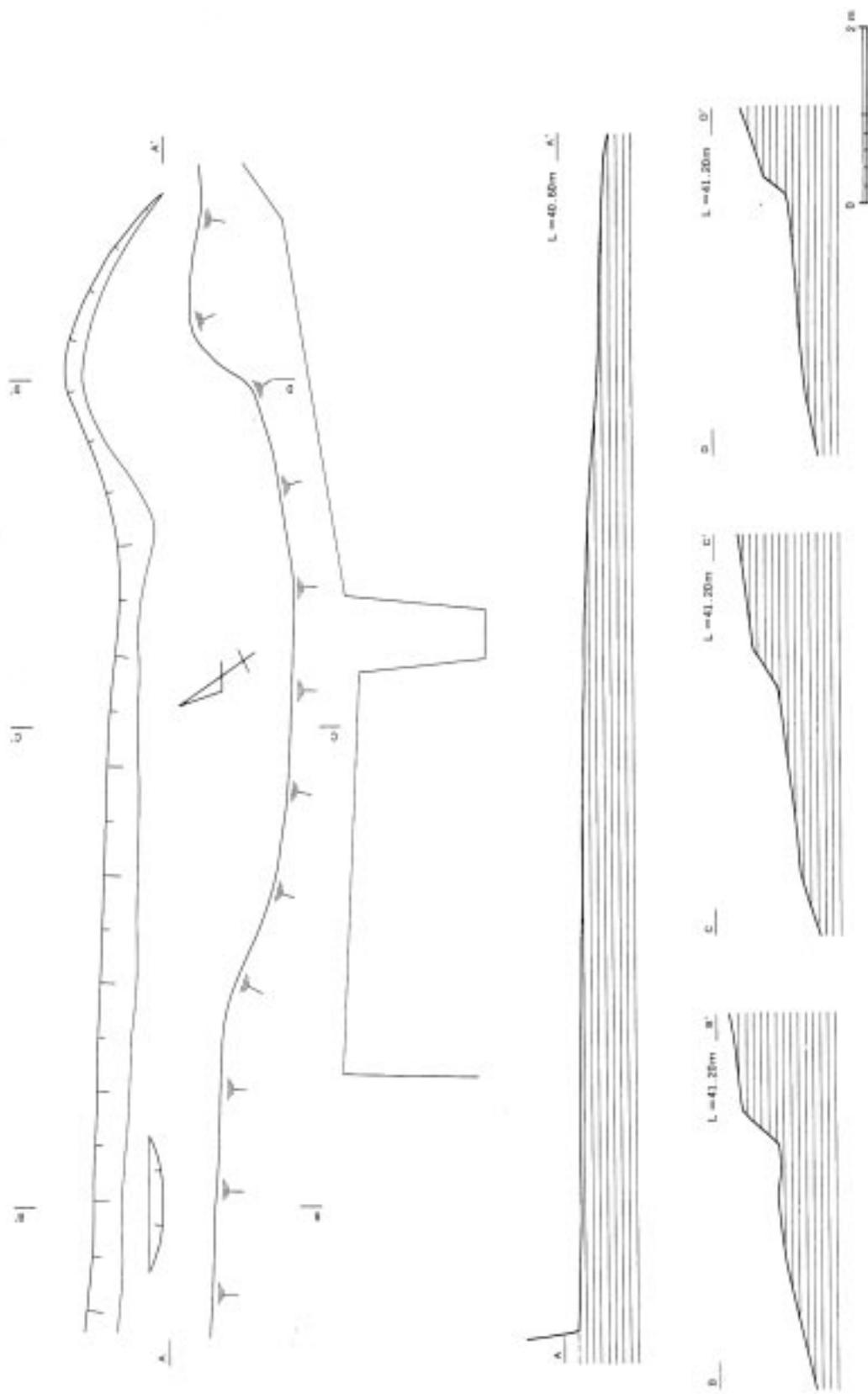
第5図 SK 2実測図 (S = 1 : 30)



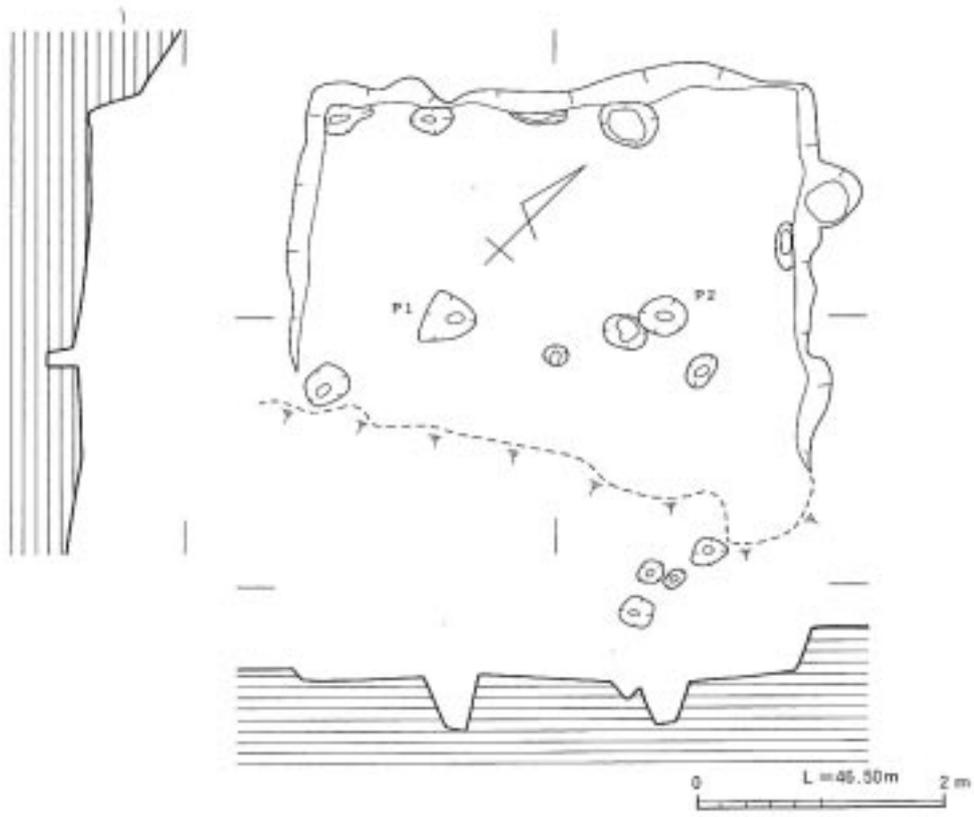
第6図 SK 3実測図 (S = 1 : 30)



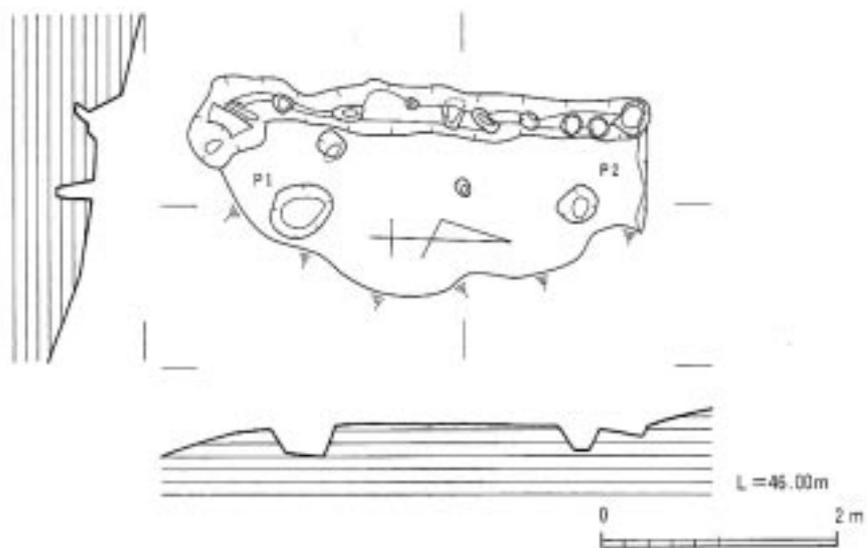
第7図 ST 1実測図 (S = 1 : 40)



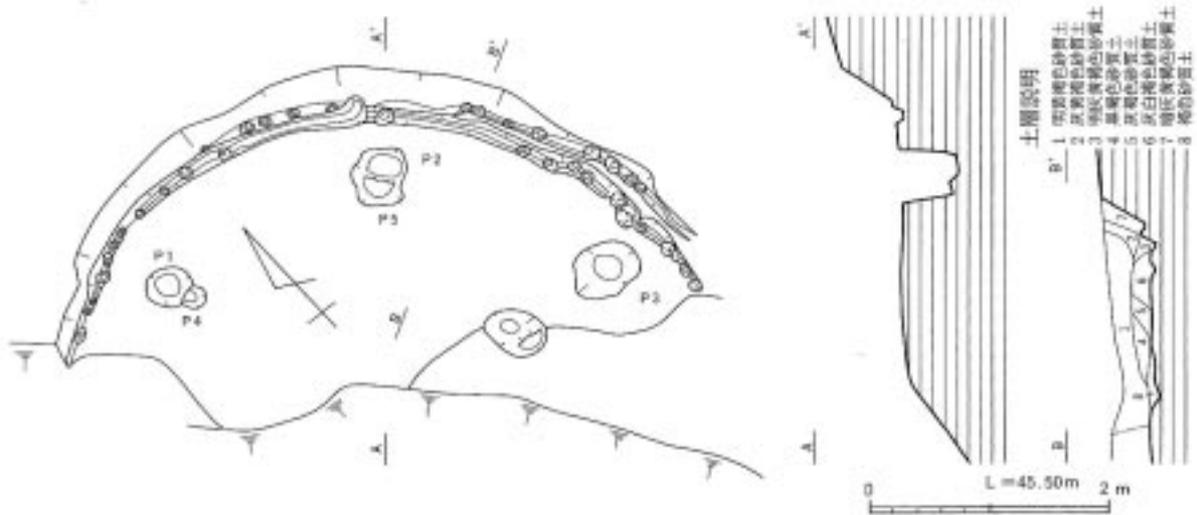
附B图 S.X.1 实景图 (S-1:60)



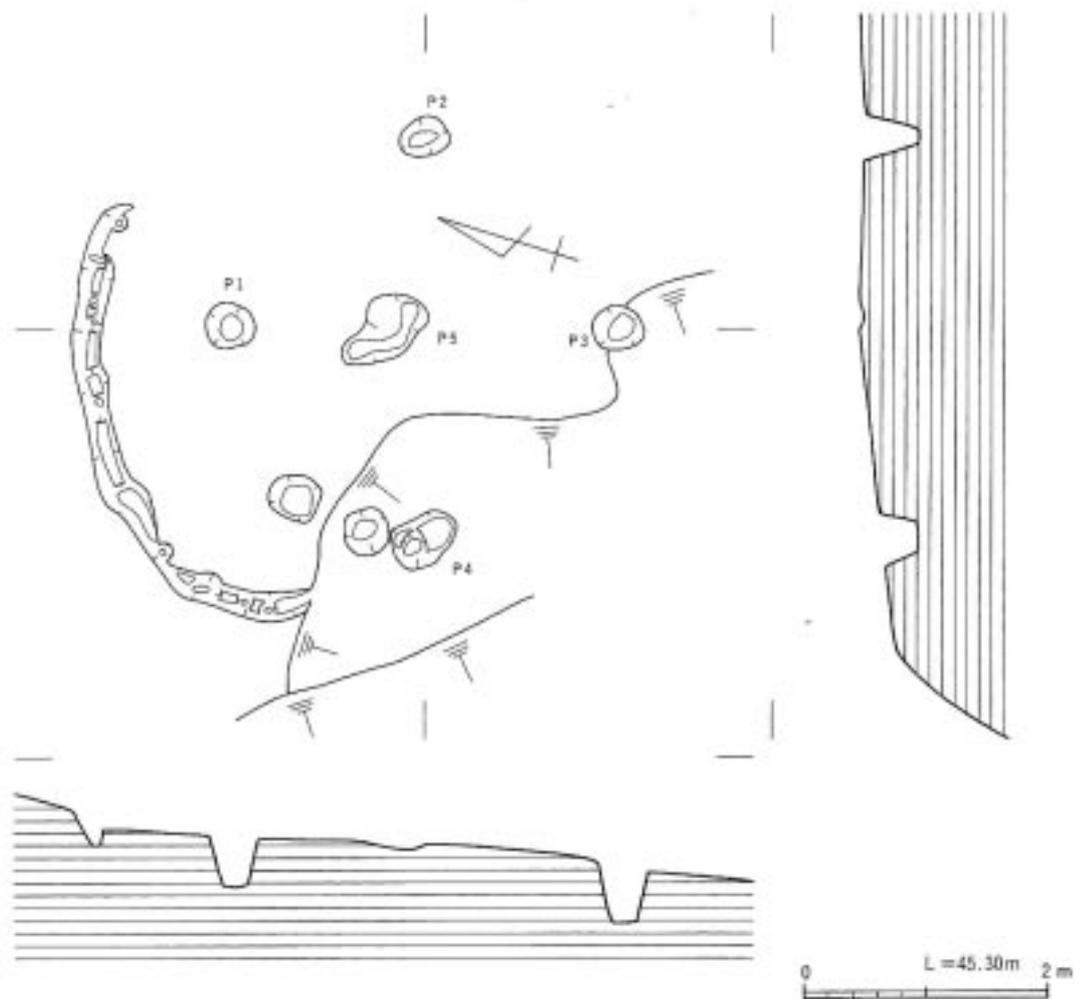
第9図 SH1実測図 (S = 1 : 60)



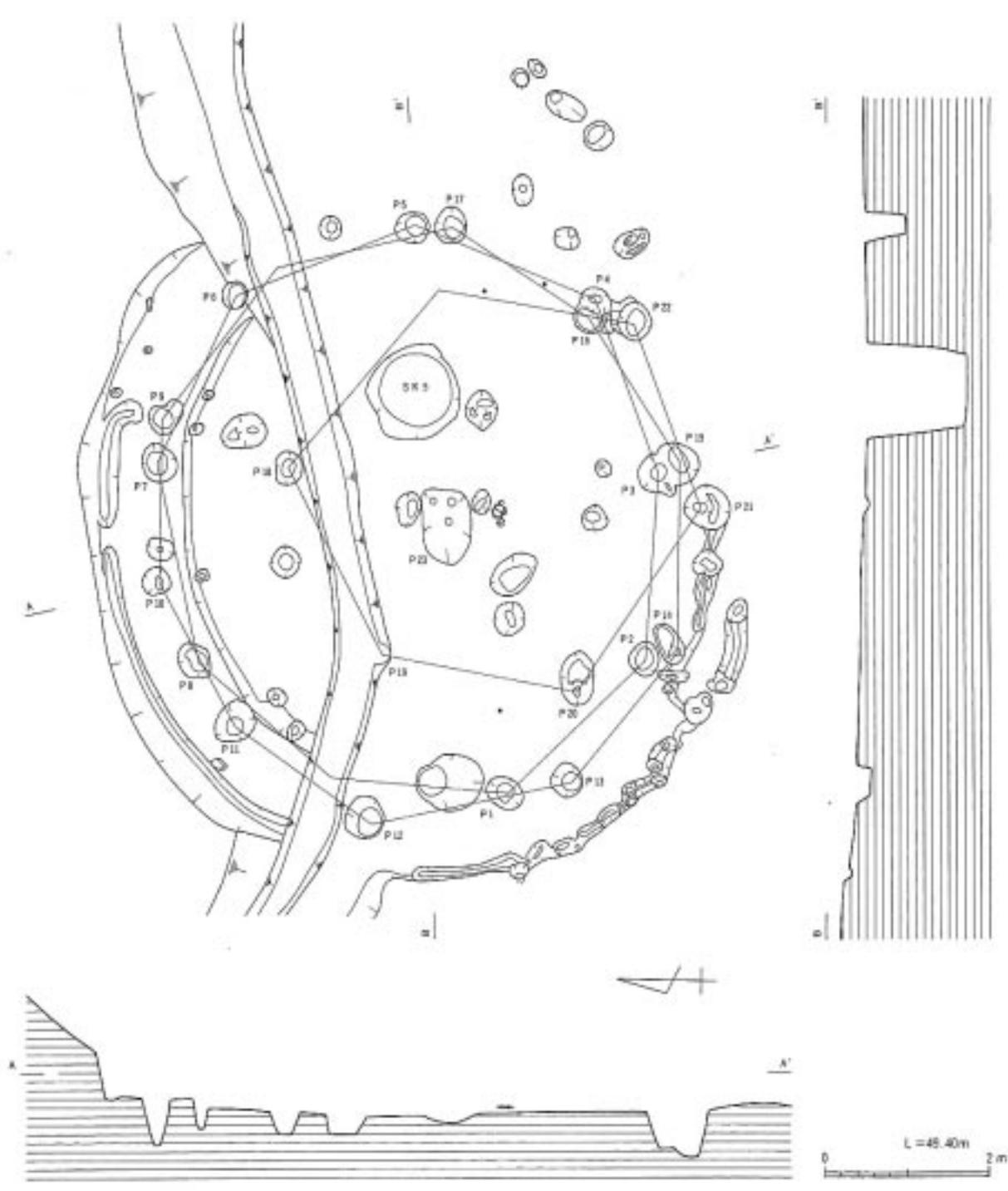
第10図 SH2実測図 (S = 1 : 60)



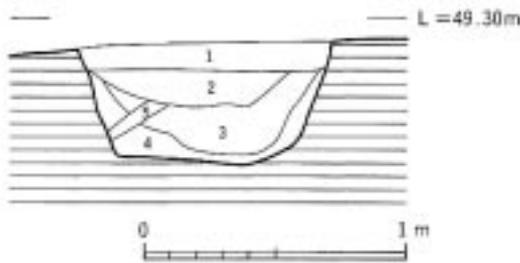
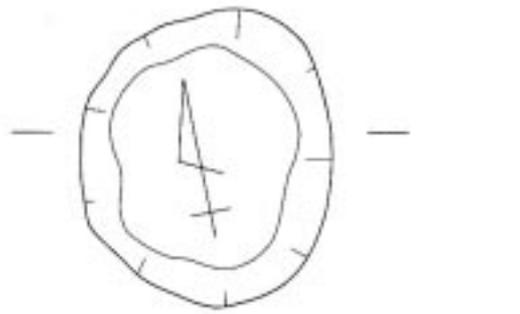
第11図 SH3実測図 (S = 1 : 60)



第12図 SH4実測図 (S = 1 : 60)

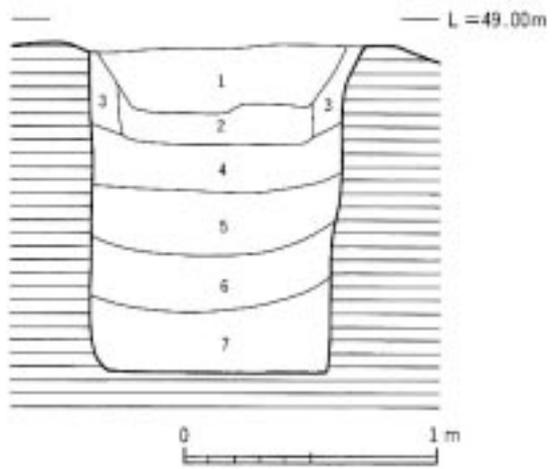


第13図 SH5 · SK5実測図 (S = 1 : 60)



土層説明

- 1 灰黄褐色砂質土
- 2 明黄褐色砂質土
- 3 明橙褐色砂質土
- 4 黄褐色砂質土
- 5 根穴

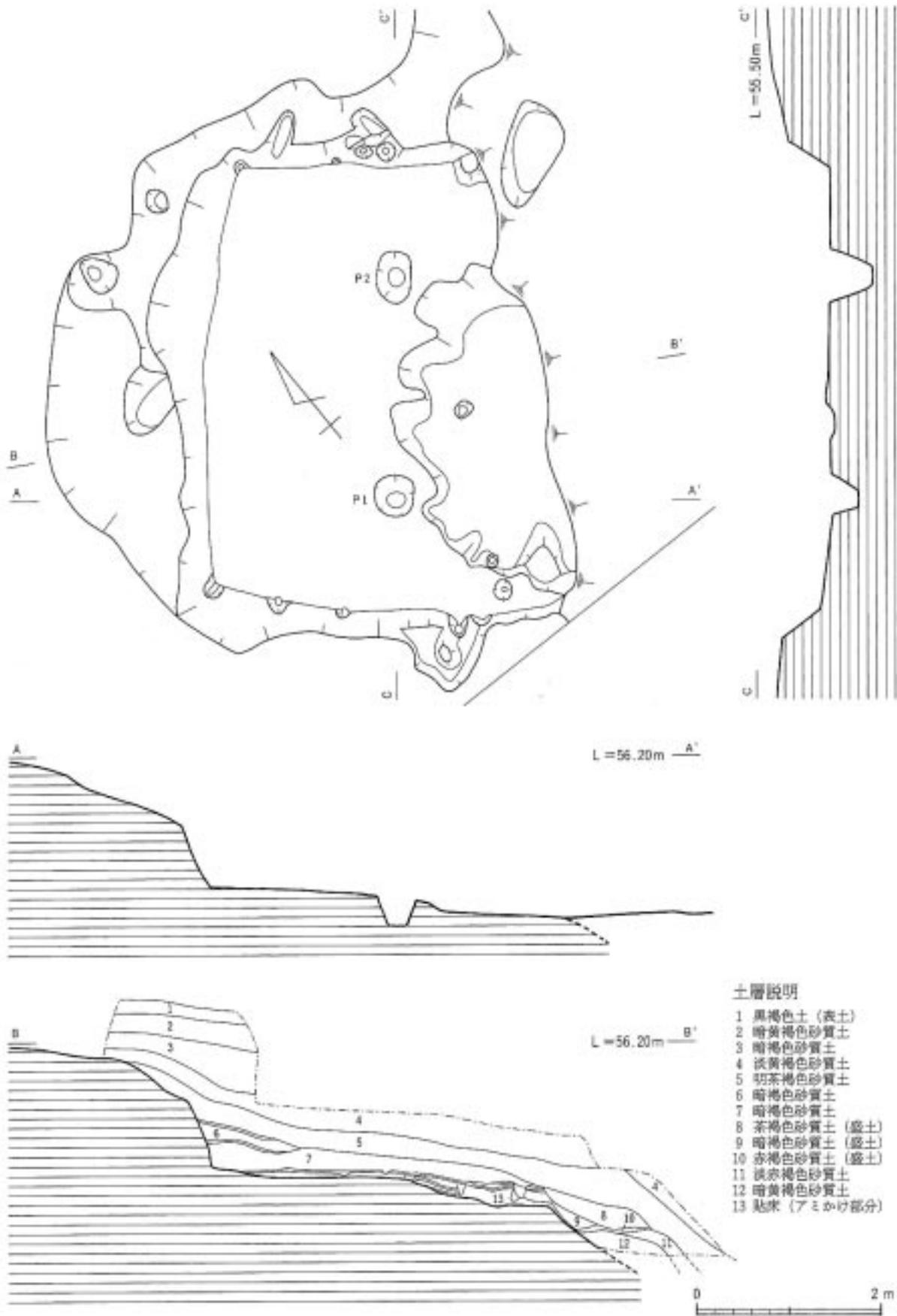


土層説明

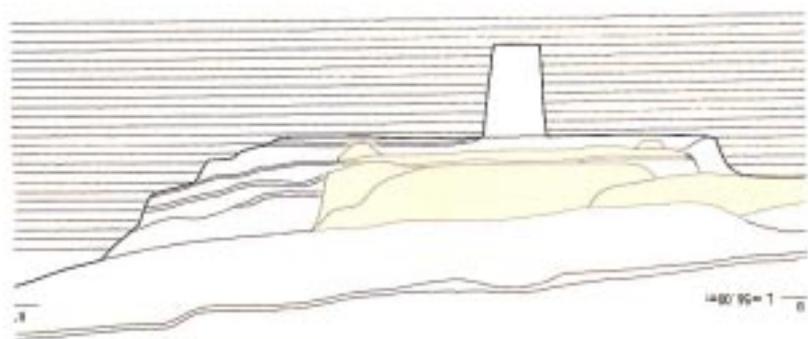
- 1 暗黄褐色砂質土
- 2 淡灰褐色砂質土
- 3 暗褐色砂質土
- 4 淡灰褐色砂質土
- 5 暗灰褐色砂質土 (炭含む)
- 6 灰褐色砂質土 (土層片含む)
- 7 灰白褐色砂質土

第14図 SK4実測図 (S = 1 : 30)

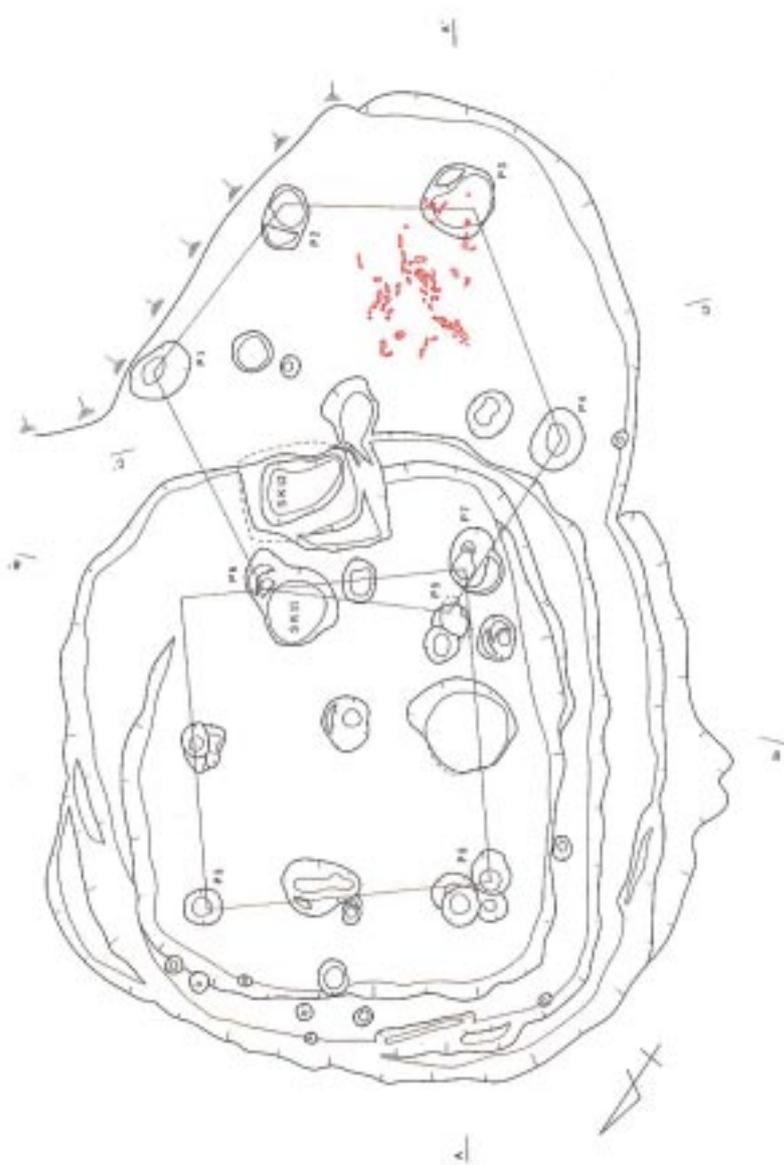
第15図 SK5実測図 (S = 1 : 30)



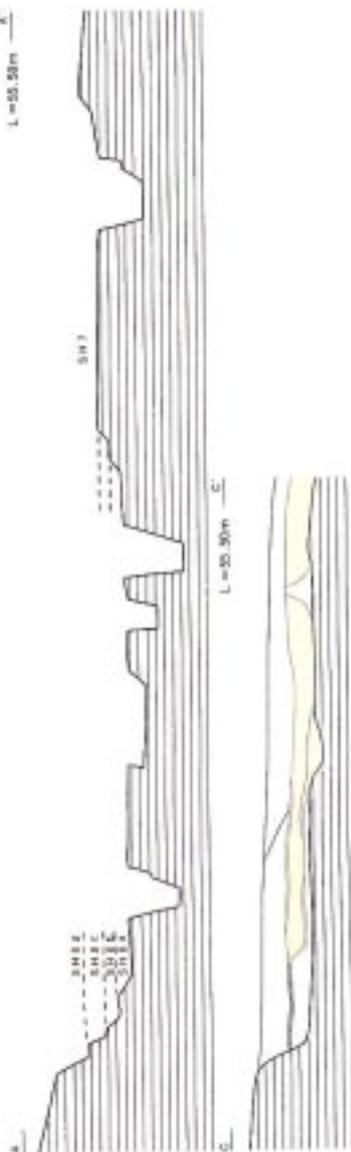
第16図 SH6実測図 (S = 1 : 60)



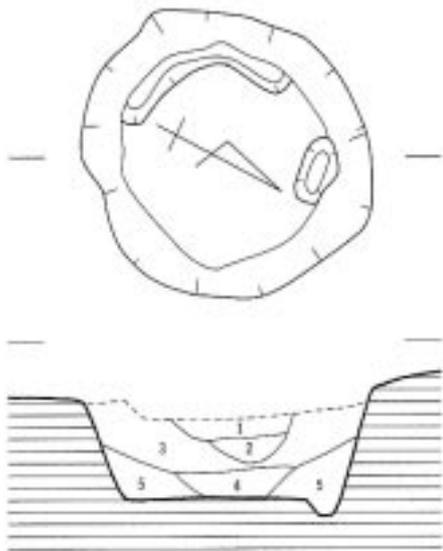
- ※1 遺跡跡面位置
- ※2 アニシロ石片埋藏層位置



L=55.50m



第17圖 SHY・8 実測図 (S=1:60)



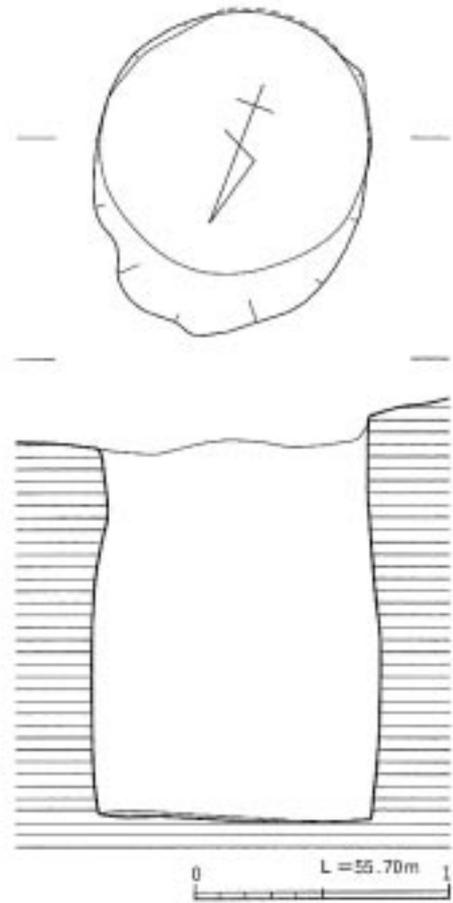
土層説明

- 1 黄褐色砂質土
- 2 黒黄褐色砂質土 (灰・灰含む)
- 3 黄褐色砂質土
- 4 灰白色砂質土
- 5 暗黄褐色砂質土

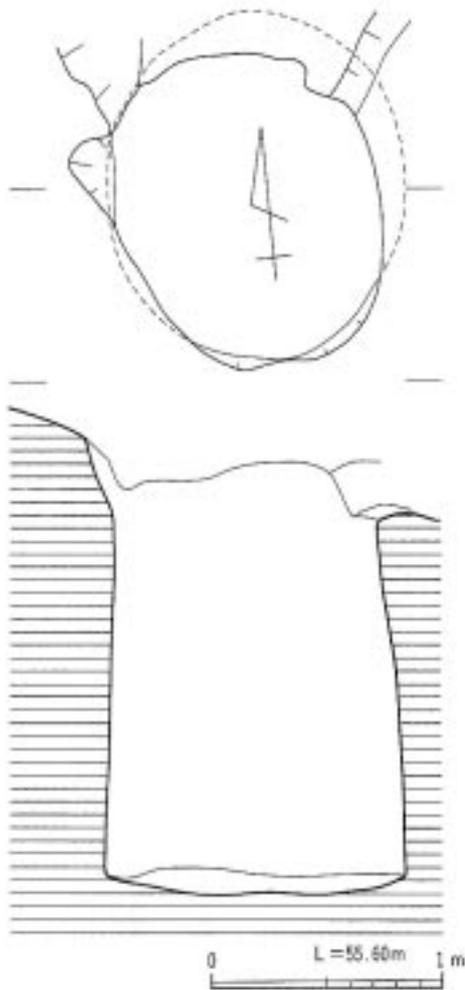
L=55.90m

0 1 m

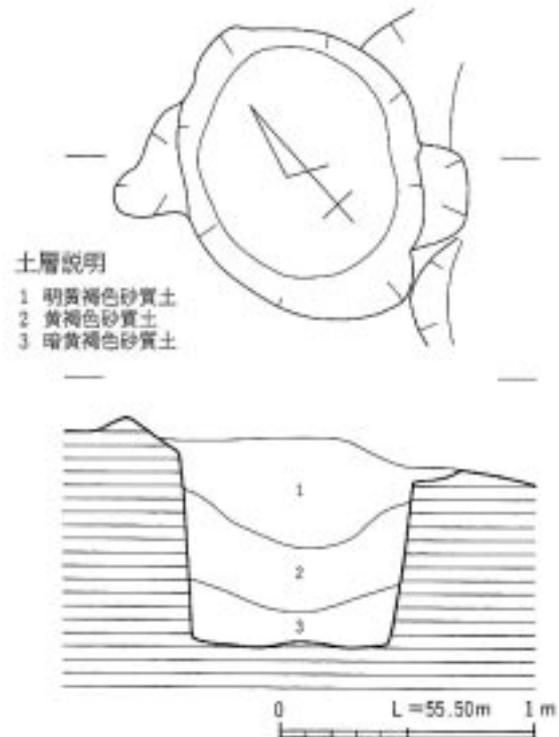
第18図 SK 6 実測図 (S = 1 : 30)



第19図 SK 7 実測図 (S = 1 : 30)



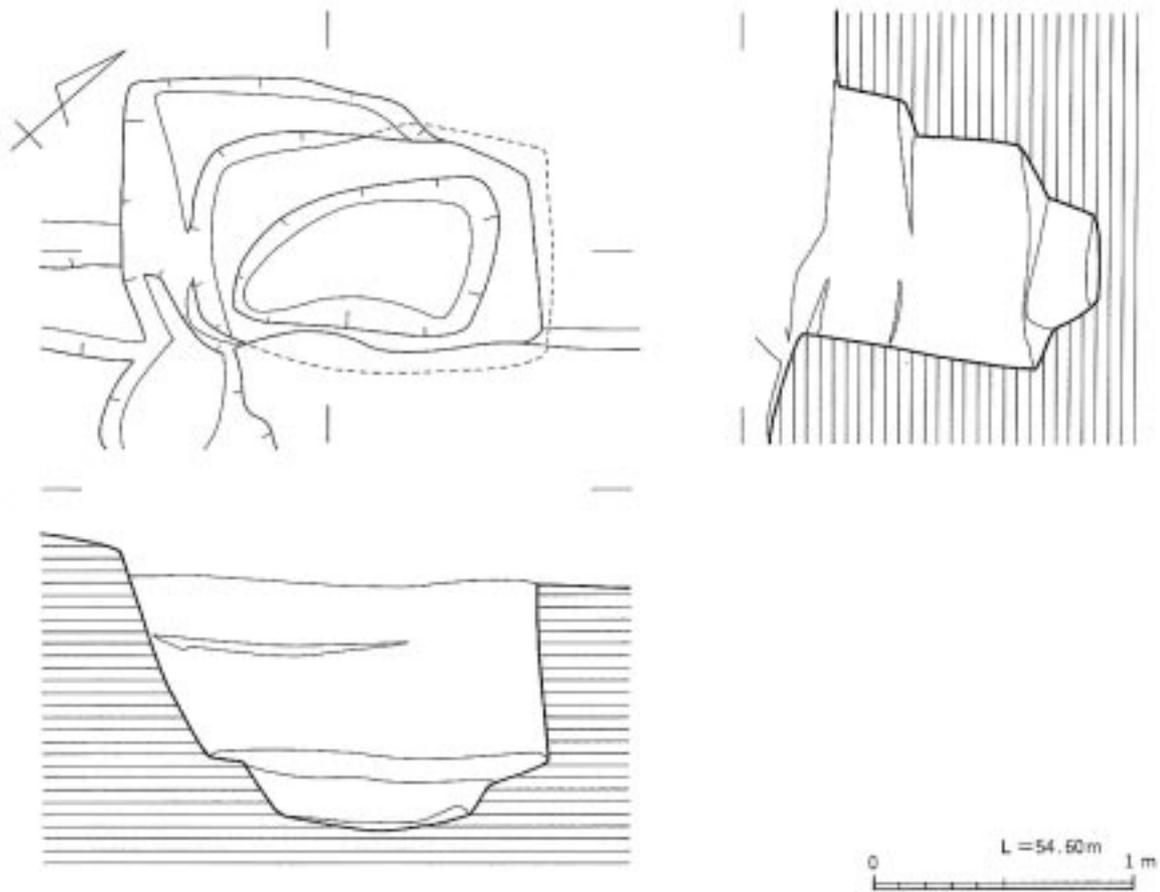
第20図 SK 8 実測図 (S = 1 : 30)



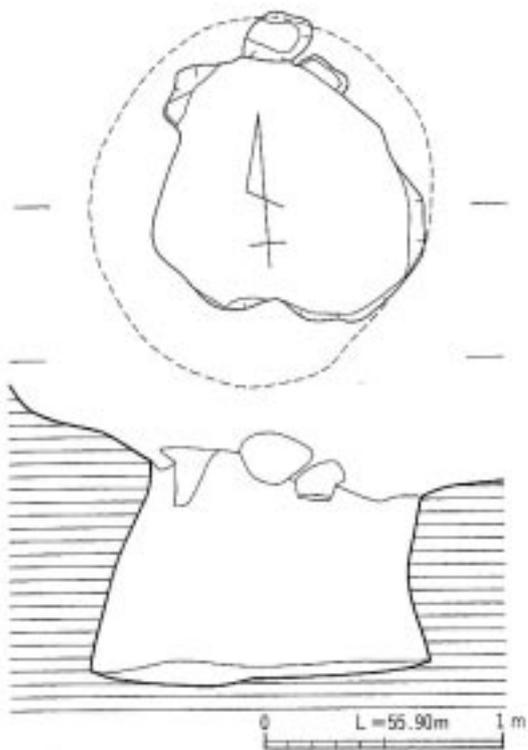
土層説明

- 1 明黄褐色砂質土
- 2 黄褐色砂質土
- 3 暗黄褐色砂質土

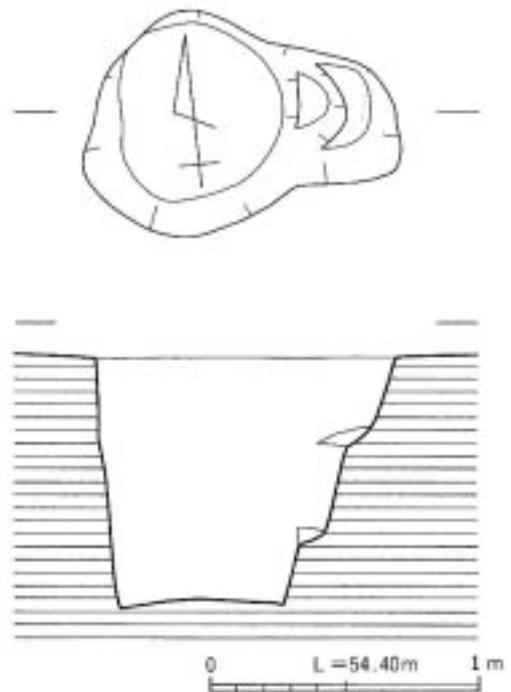
第21図 SK 9 実測図 (S = 1 : 30)



第22図 S K 12実測図 (S = 1 : 30)



第23図 S K 10実測図 (S = 1 : 30)



第24図 S K 11実測図 (S = 1 : 30)

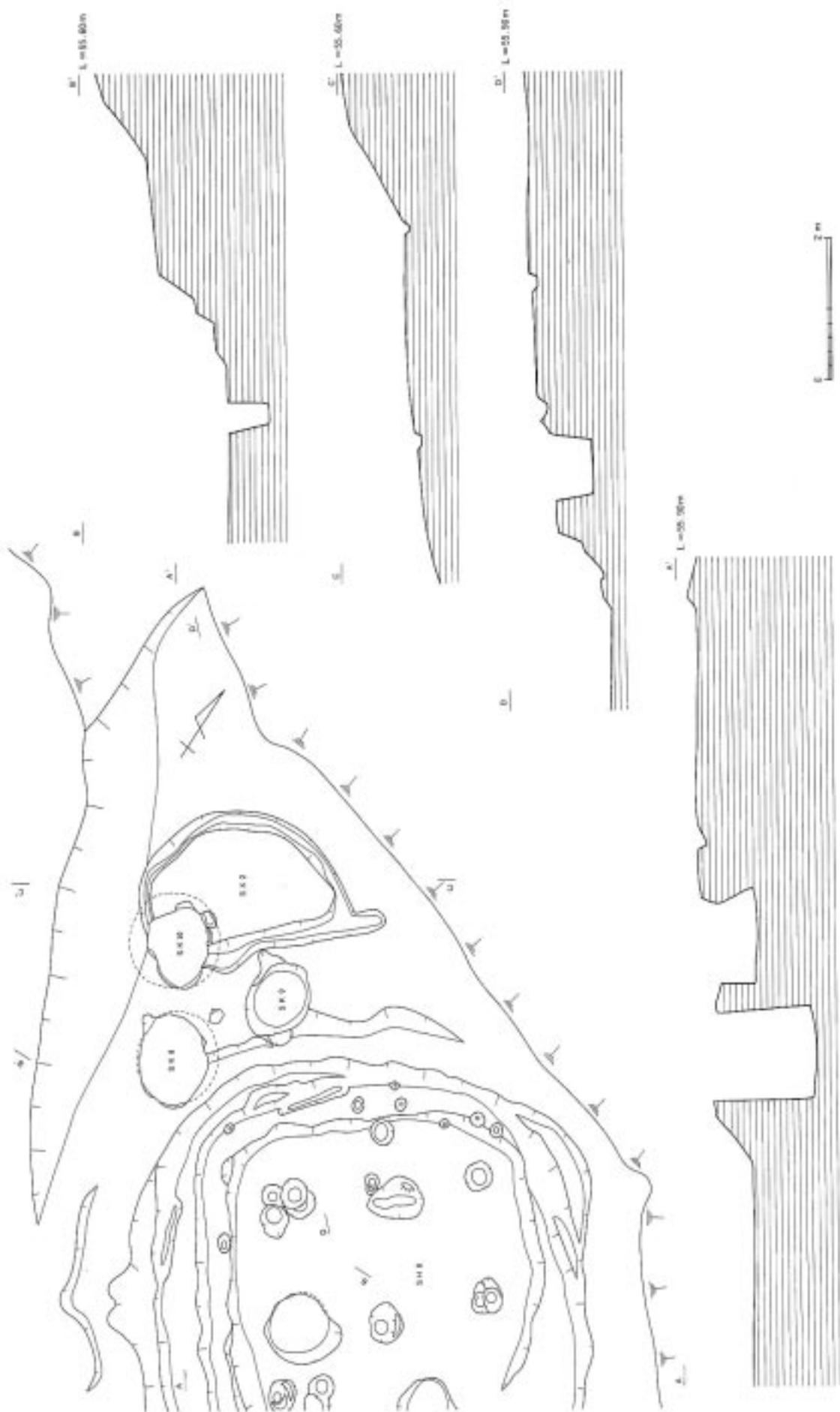
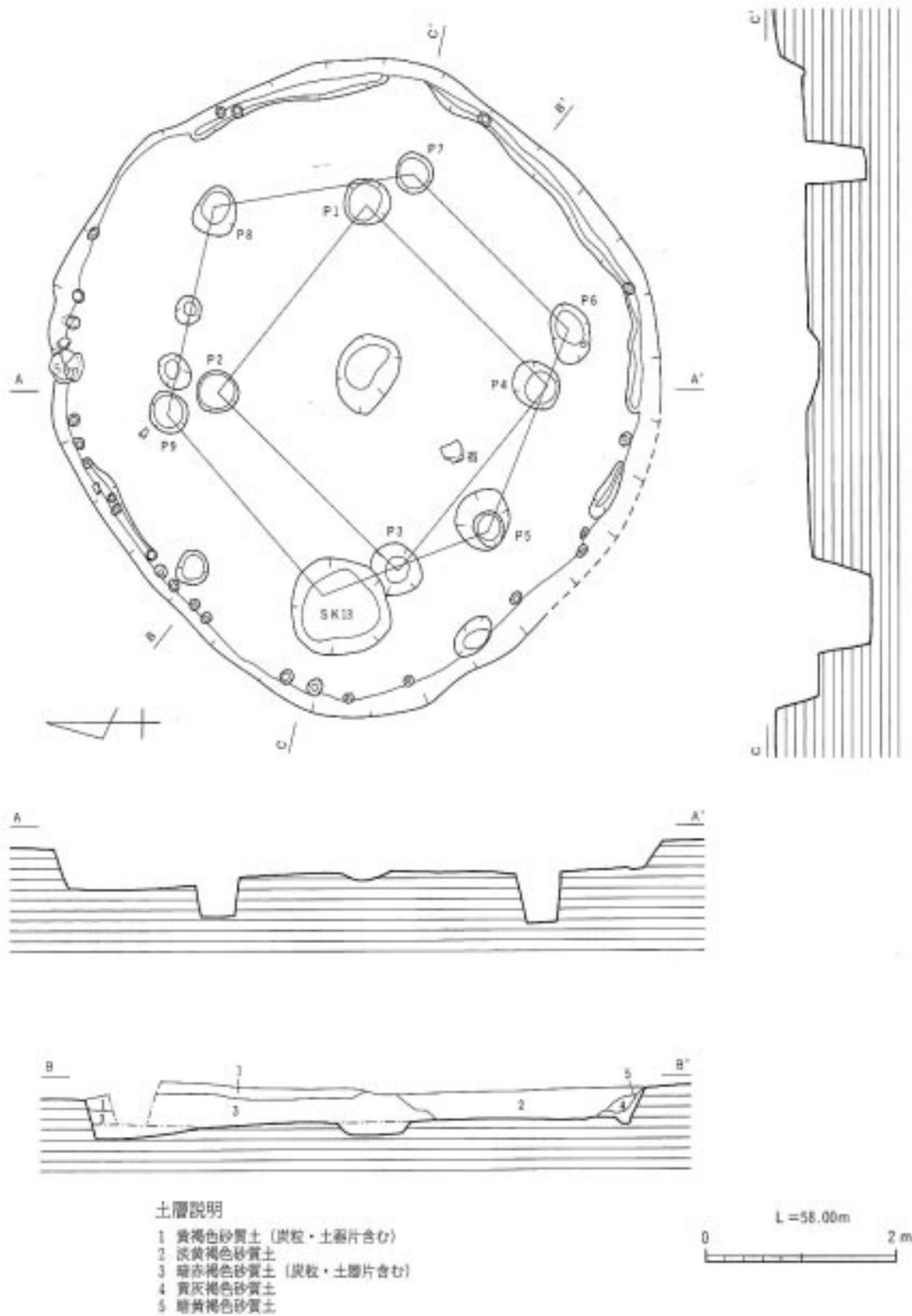
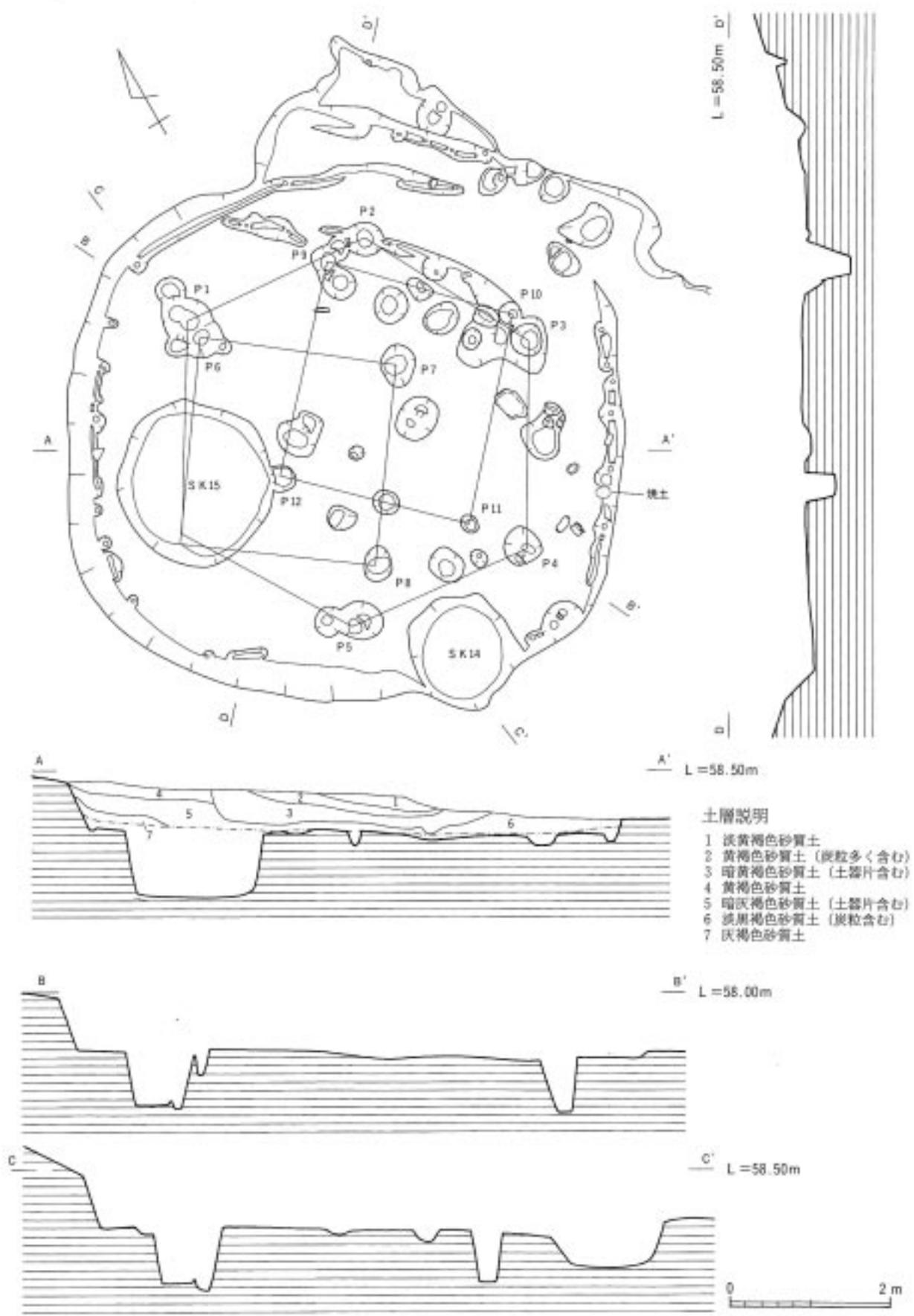


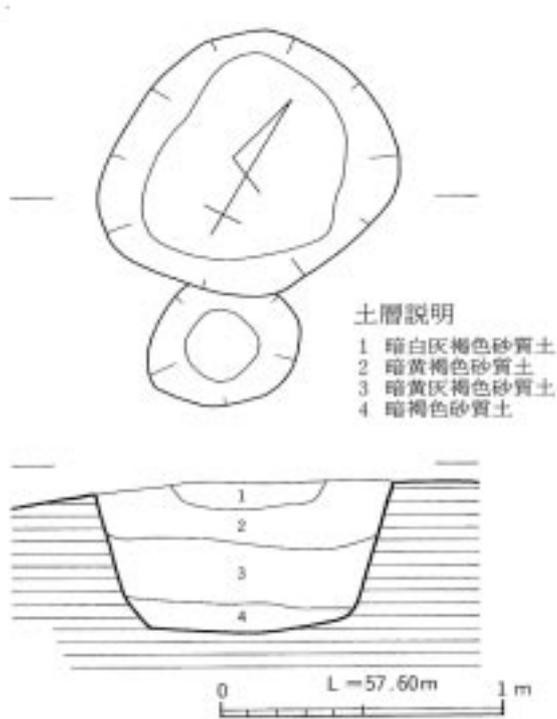
图25 图 2 实例图 (S = 1 : 60)



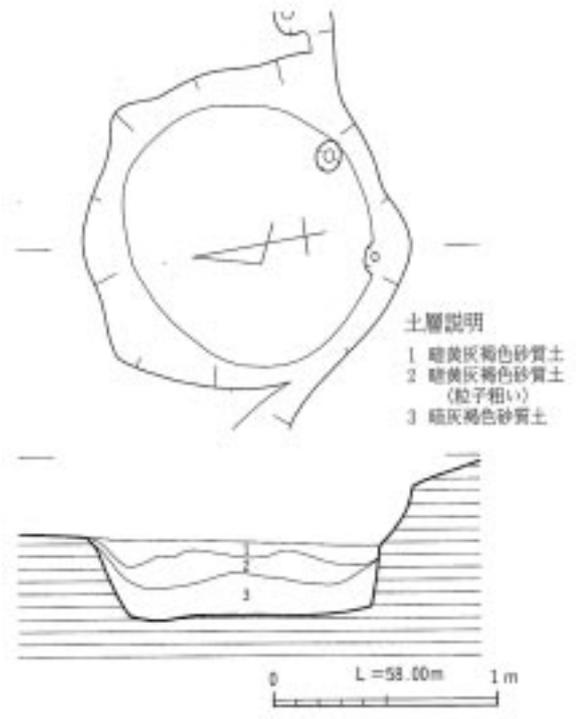
第26図 SH9 · SK13実測図 (S = 1 : 60)



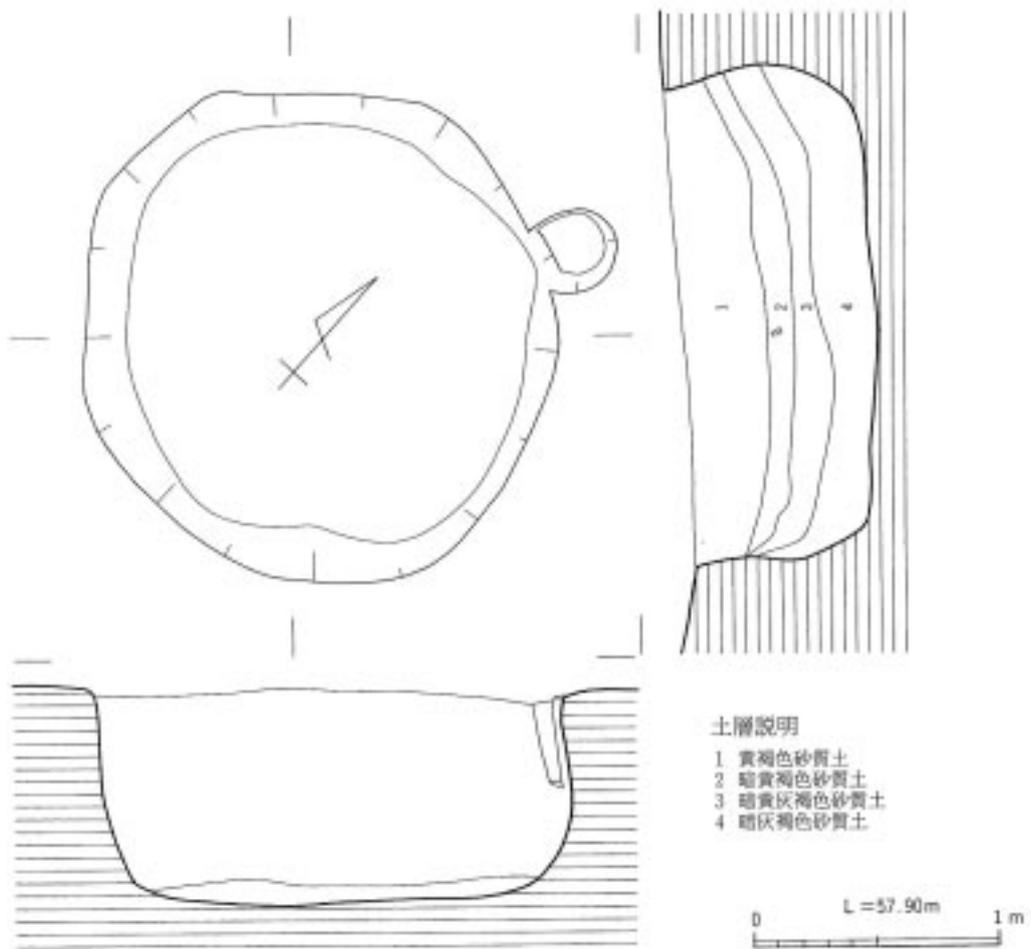
第27図 SH 10 · SK 14 · 15 実測図 (S = 1 : 70)



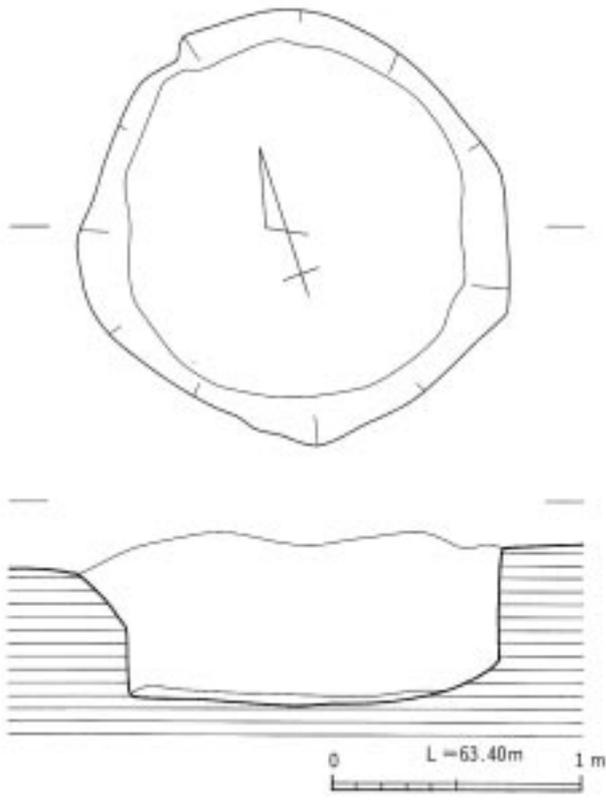
第28図 SK 13実測図 (S = 1 : 30)



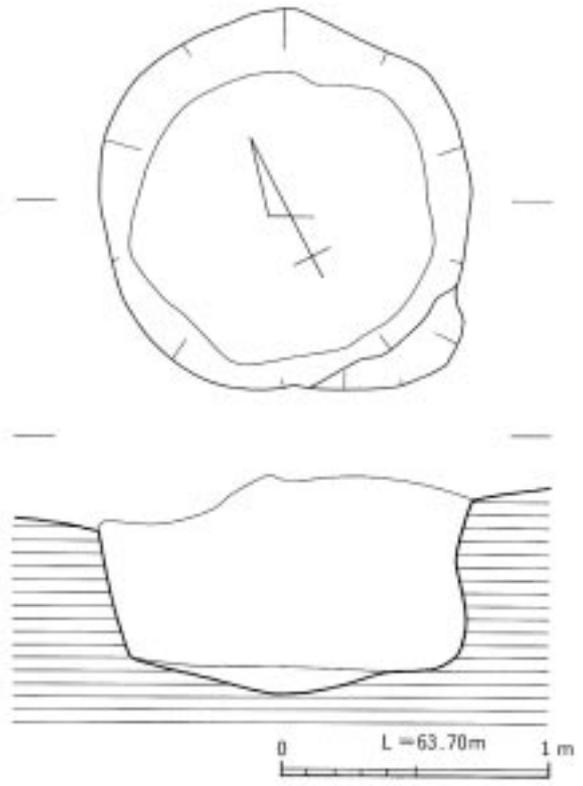
第29図 SK 14実測図 (S = 1 : 30)



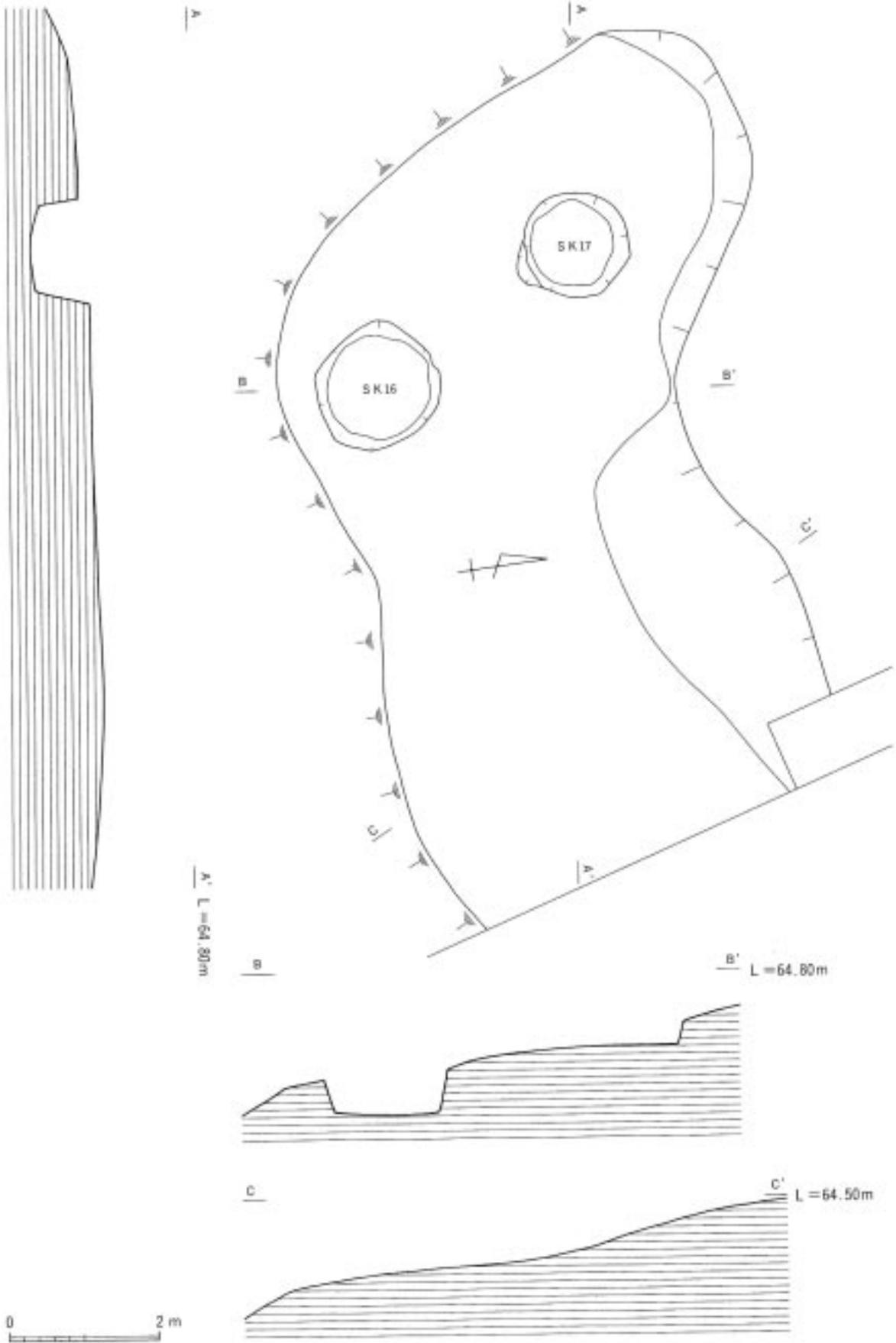
第30図 SK 15実測図 (S = 1 : 30)



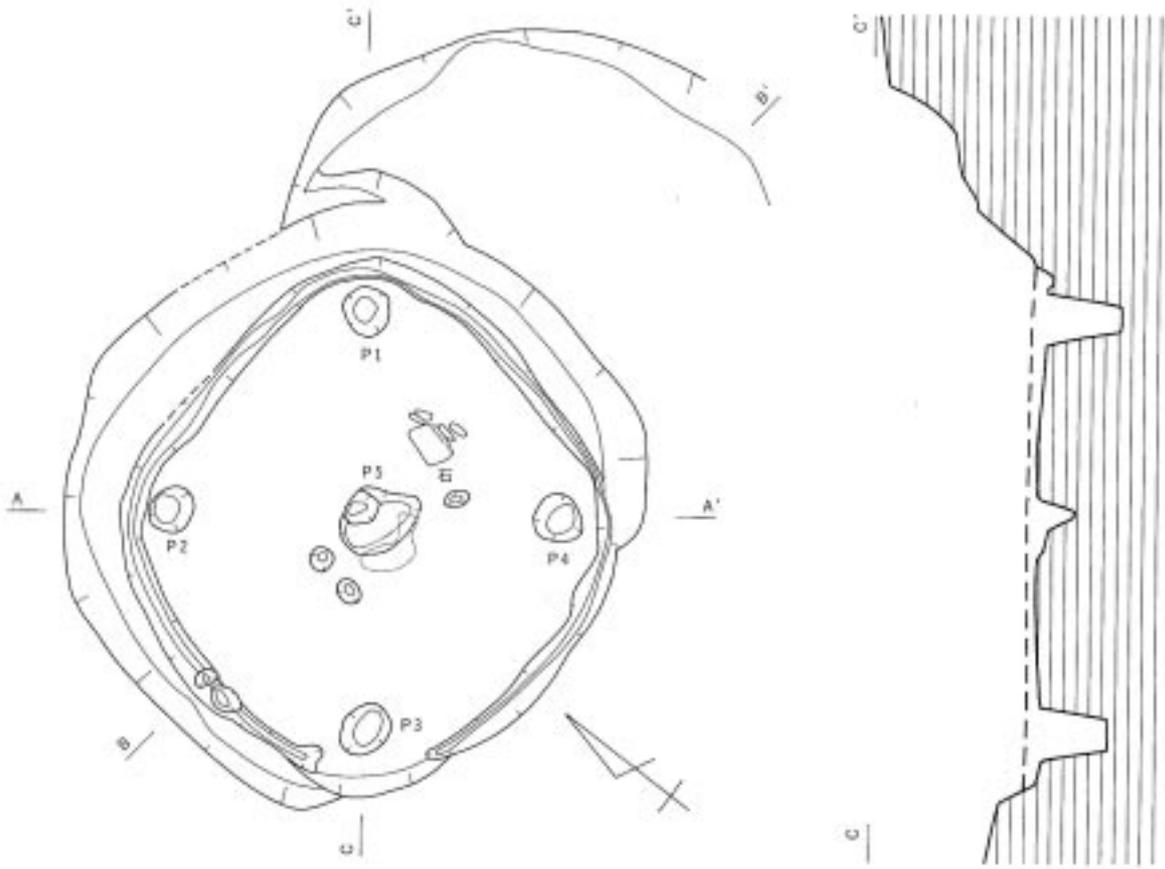
第31図 SK 16実測図 (S = 1 : 30)



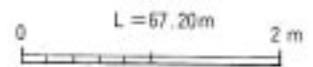
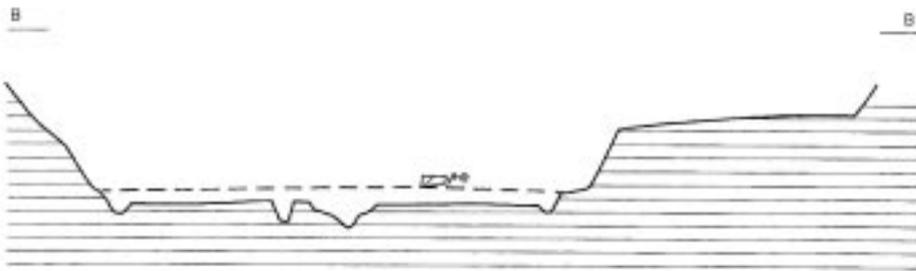
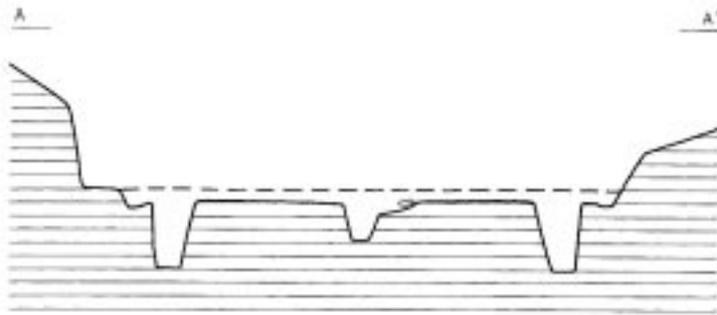
第32図 SK 17実測図 (S = 1 : 30)



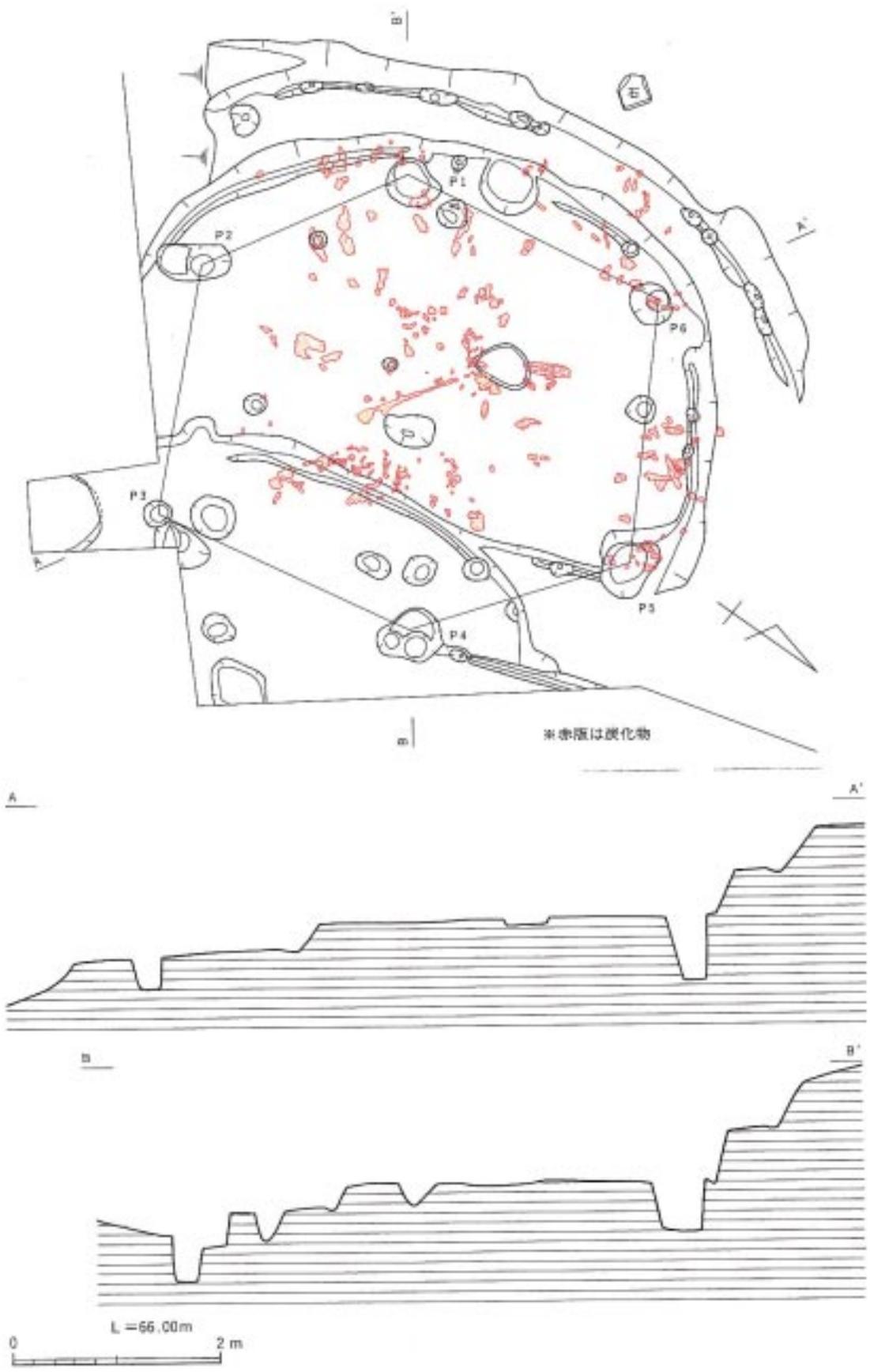
第33図 SX3実測図 (S = 1 : 80)



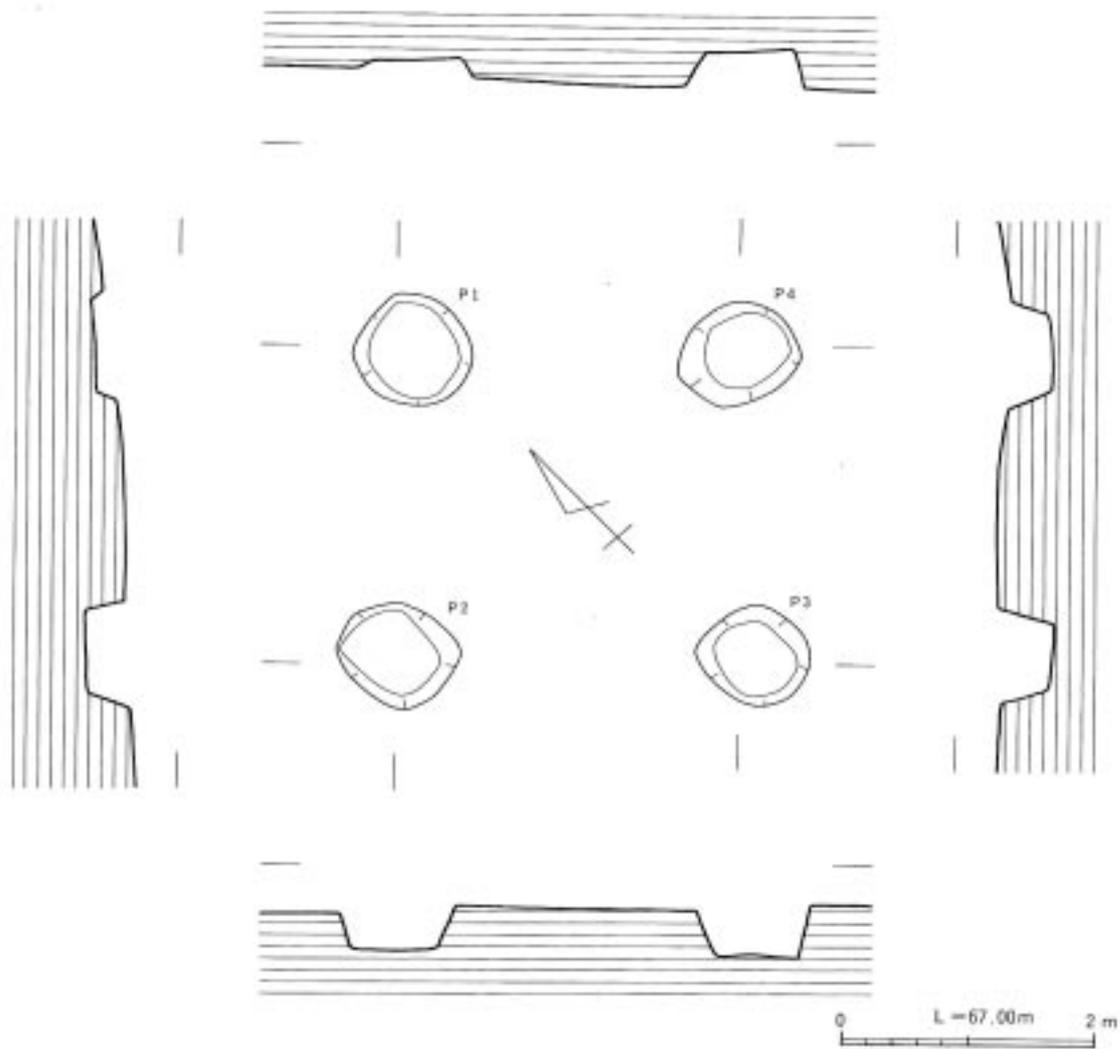
アミ：焼土の範囲



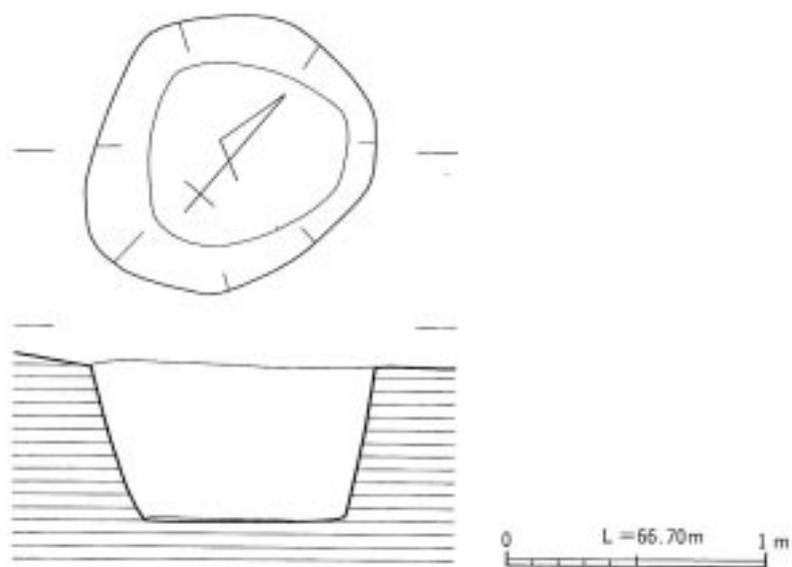
第34図 SH 11 実測図 (S = 1 : 60)



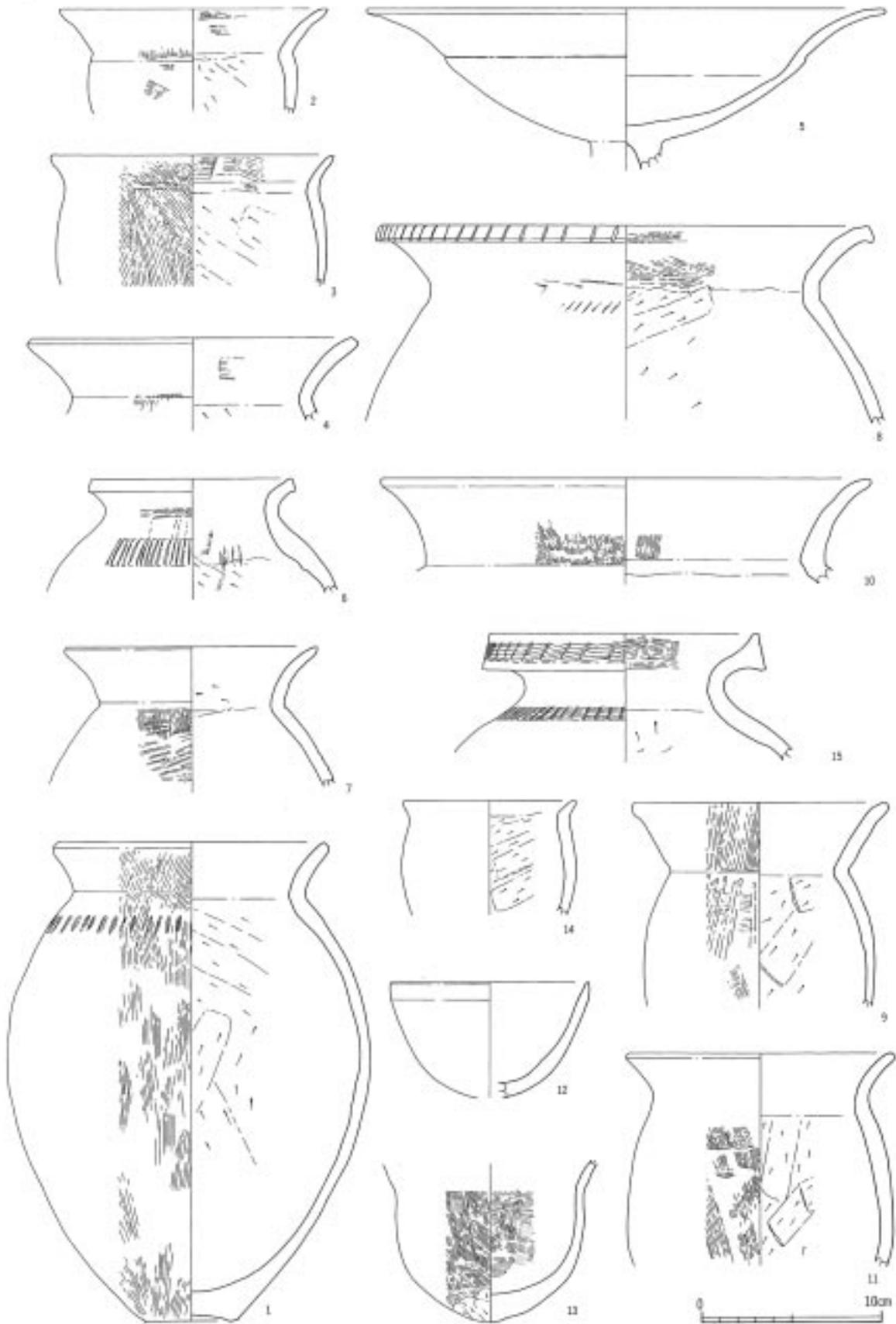
第 35 図 SH 12 実測図 (S = 1 : 60)



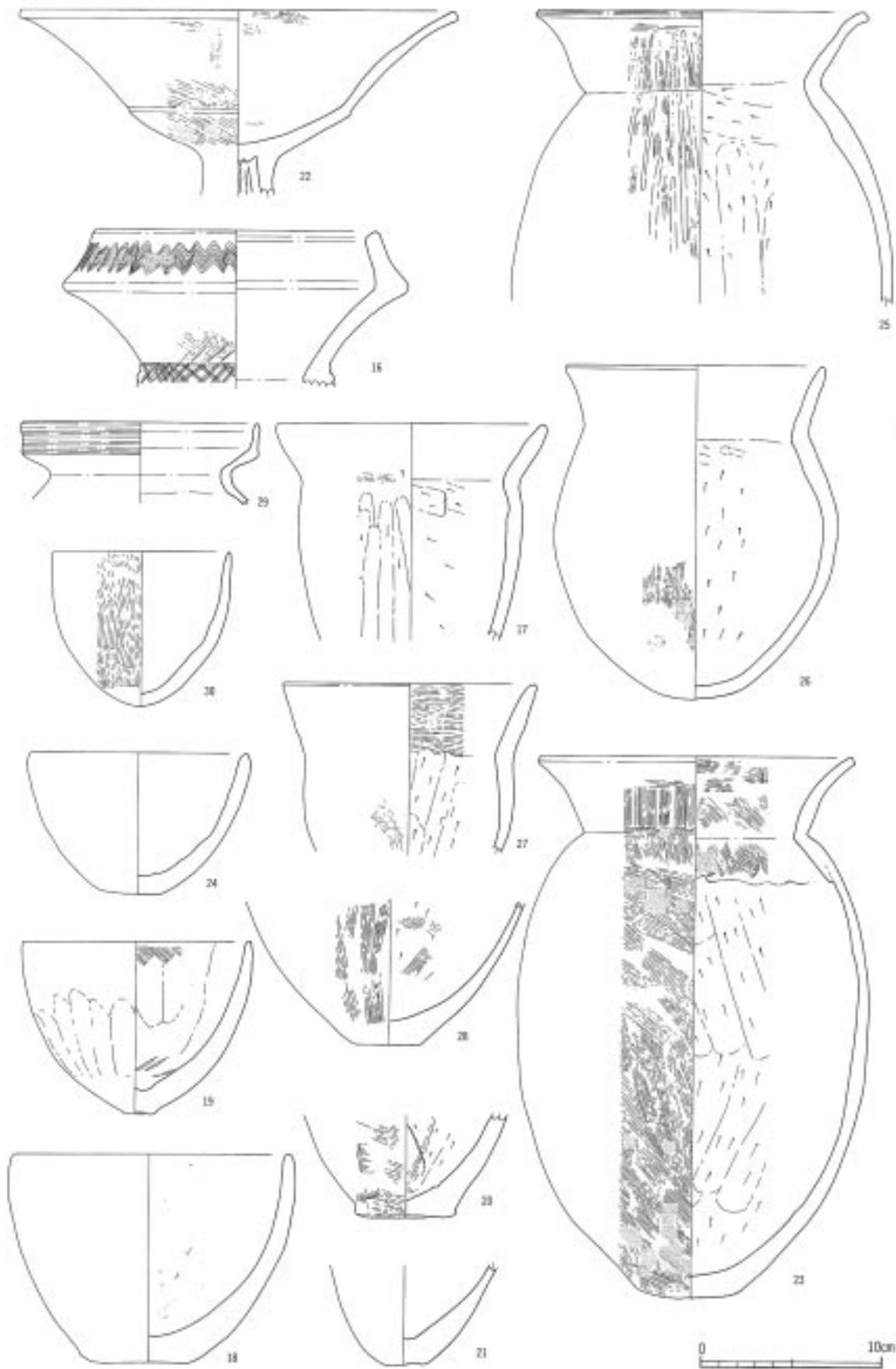
第36図 SB 1 実測図 (S = 1 : 60)



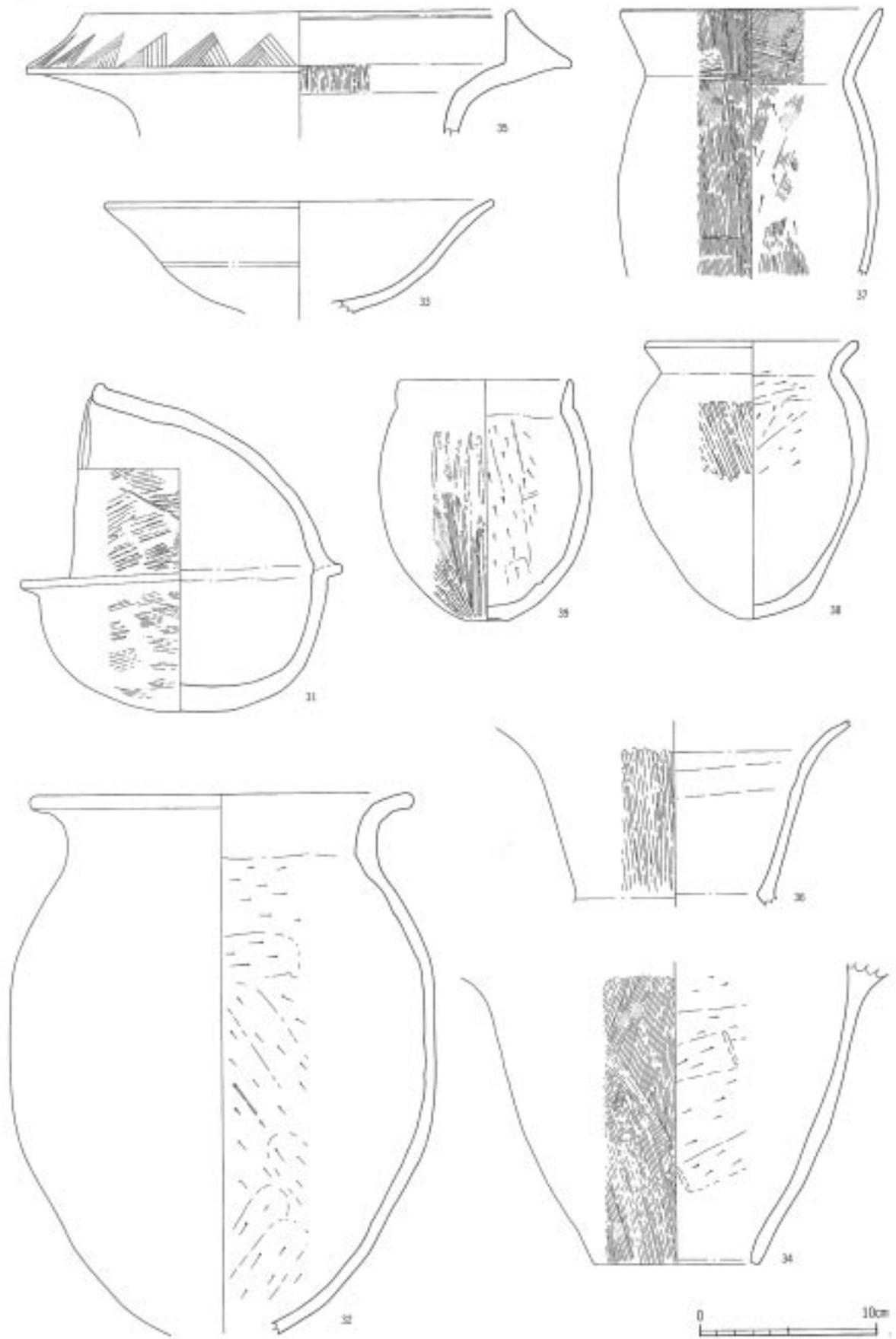
第37図 SK 18 実測図 (S = 1 : 30)



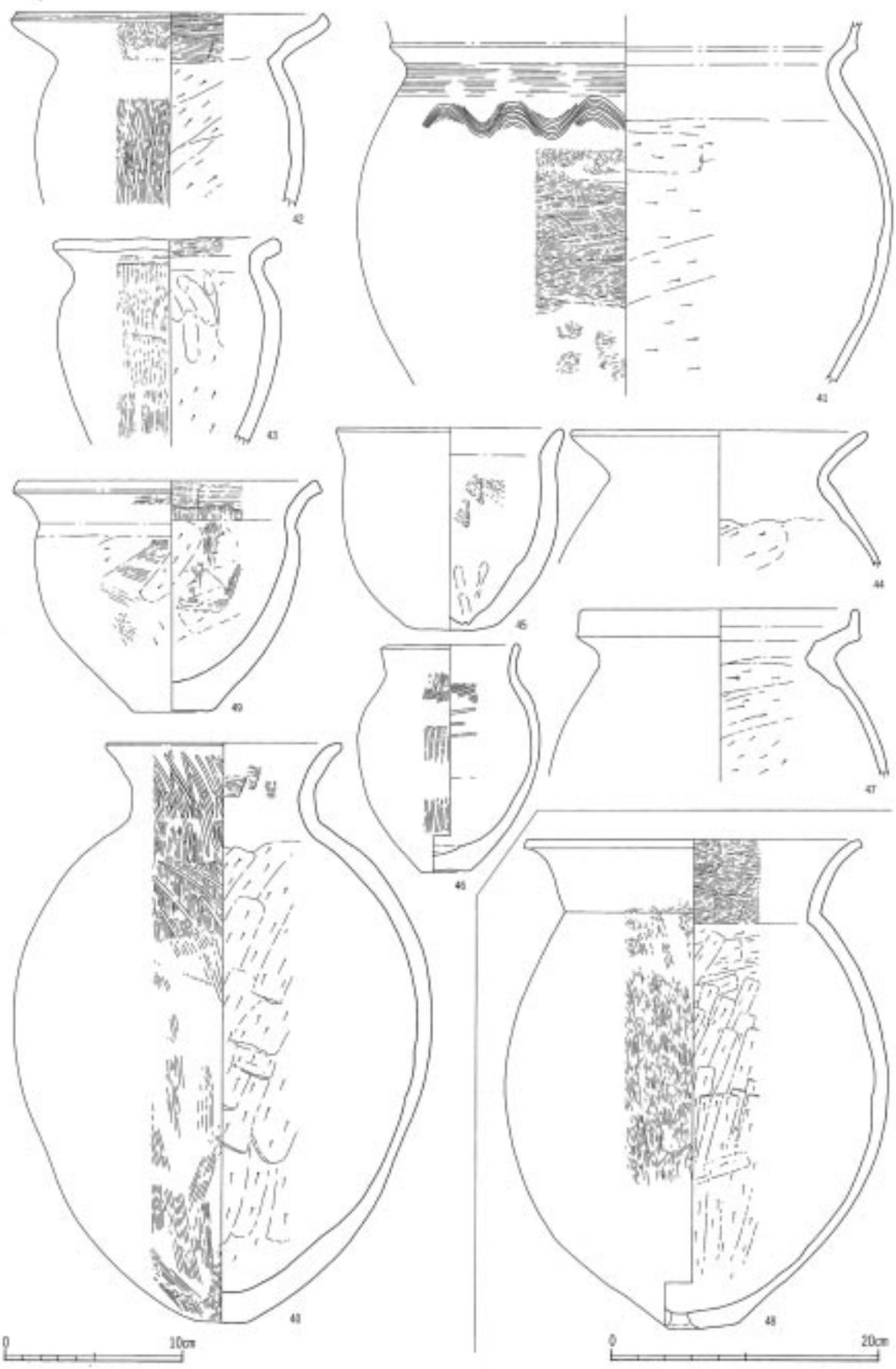
第38図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物実測図 [1] (S = 1 : 3)



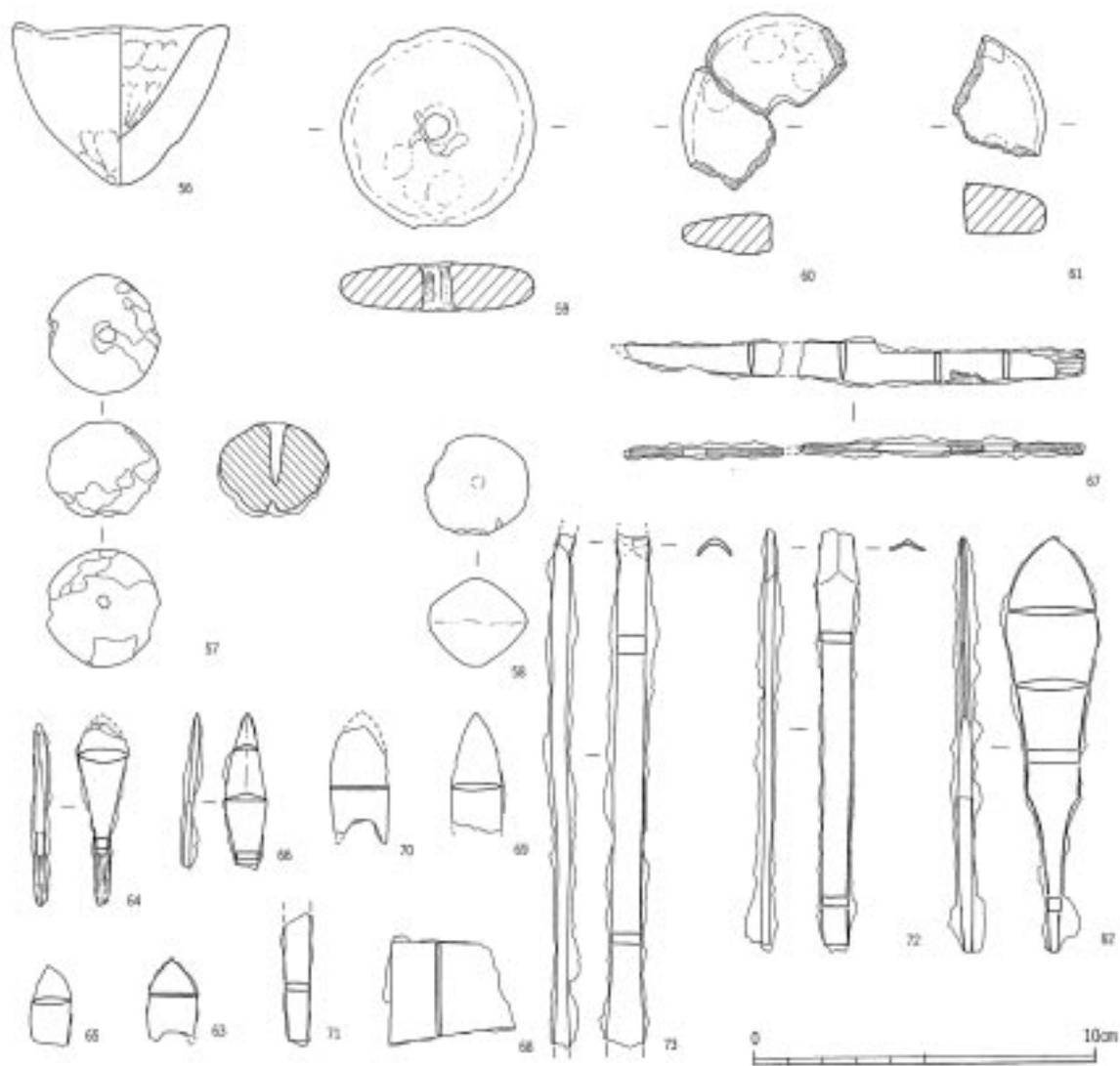
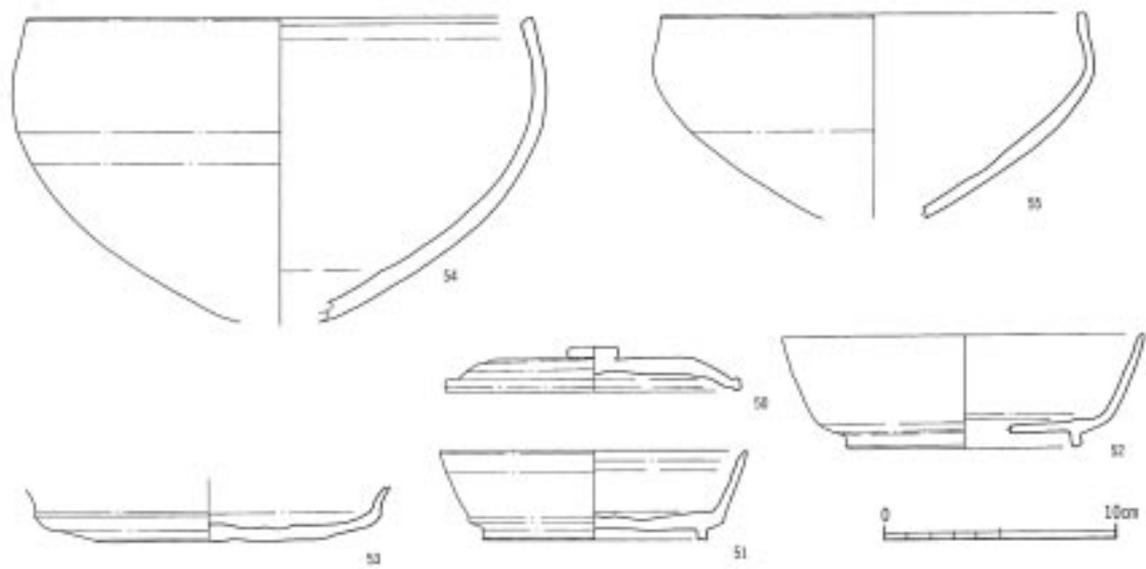
第39图 大町七九谷A地点遺跡出土遺物実測図 [2] (S=1:3)



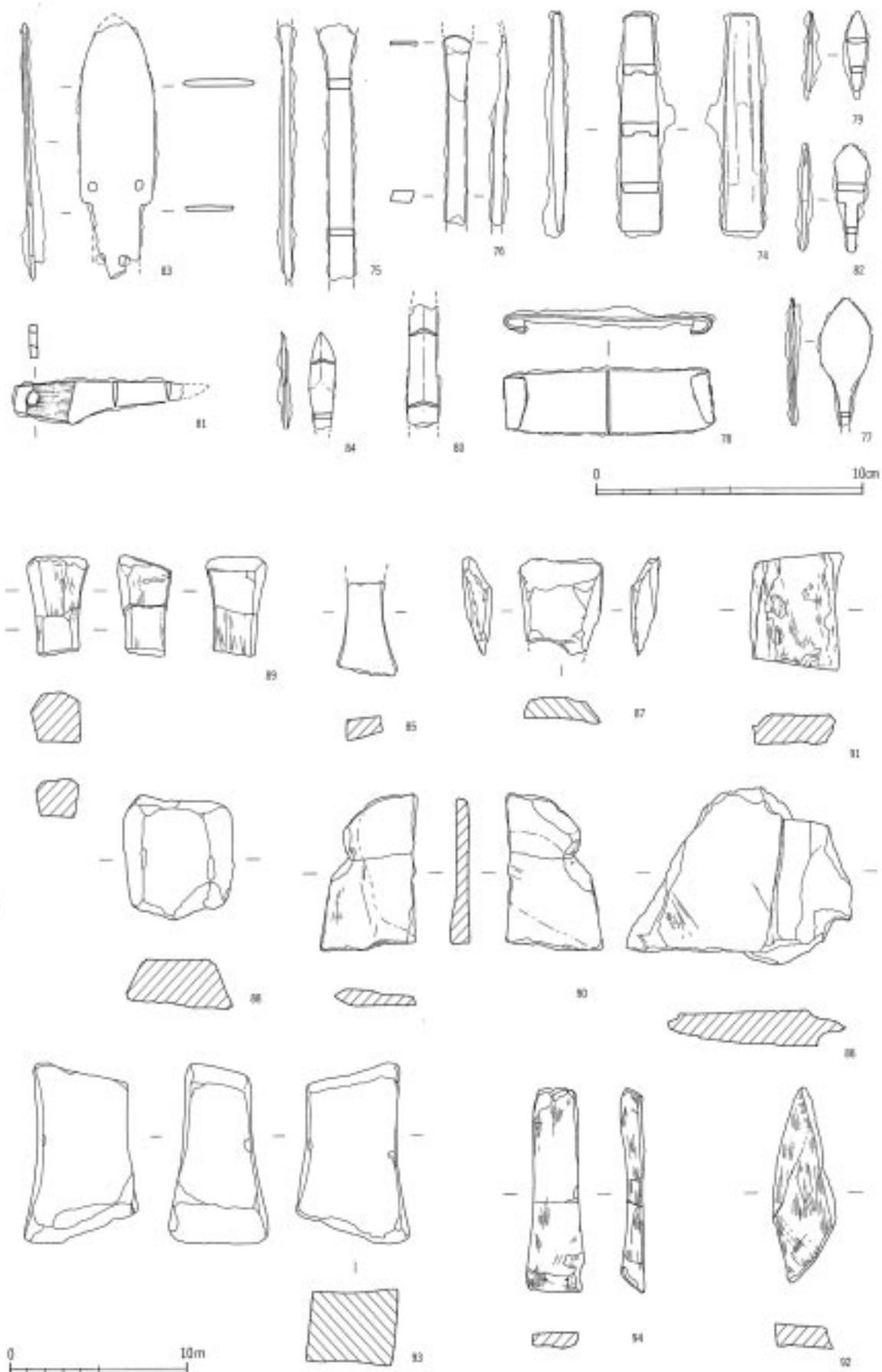
第40図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物実測図 [3] (S = 1 : 3)



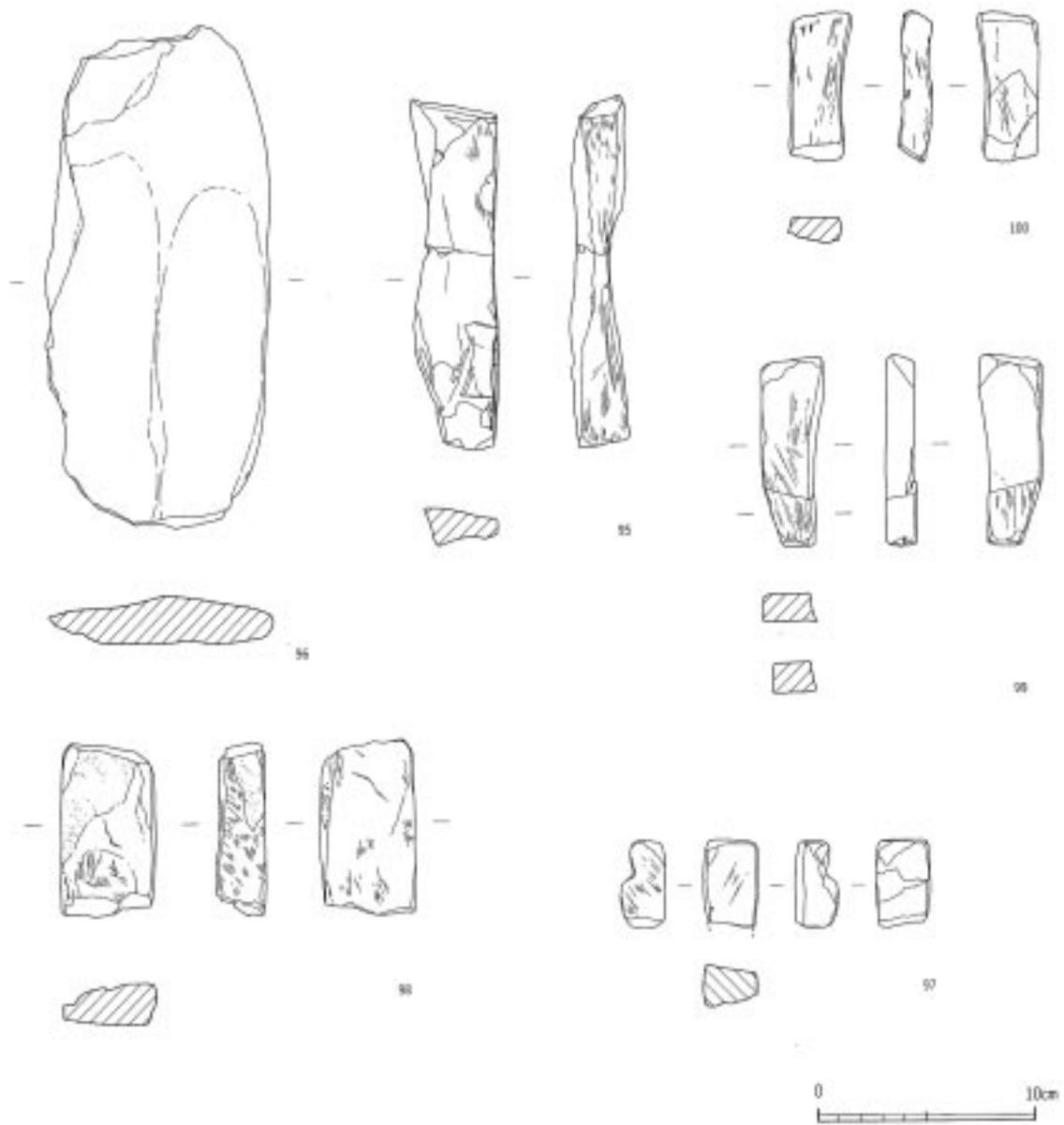
第41図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物実測図 [4] (S=1:3, 48-S=1:4)



第 42 図 大町七九谷 A 地点遺跡出土遺物実測図 [ 5 ] ( S = 1 : 3 , 1 : 2 )



第43图 大町七九谷A地点遺跡出土遺物実測図 [6] (S=1:2, 1:3)



第44図 大町七九谷A地点遺跡出土遺物実測図 [7] (S = 1 : 3)

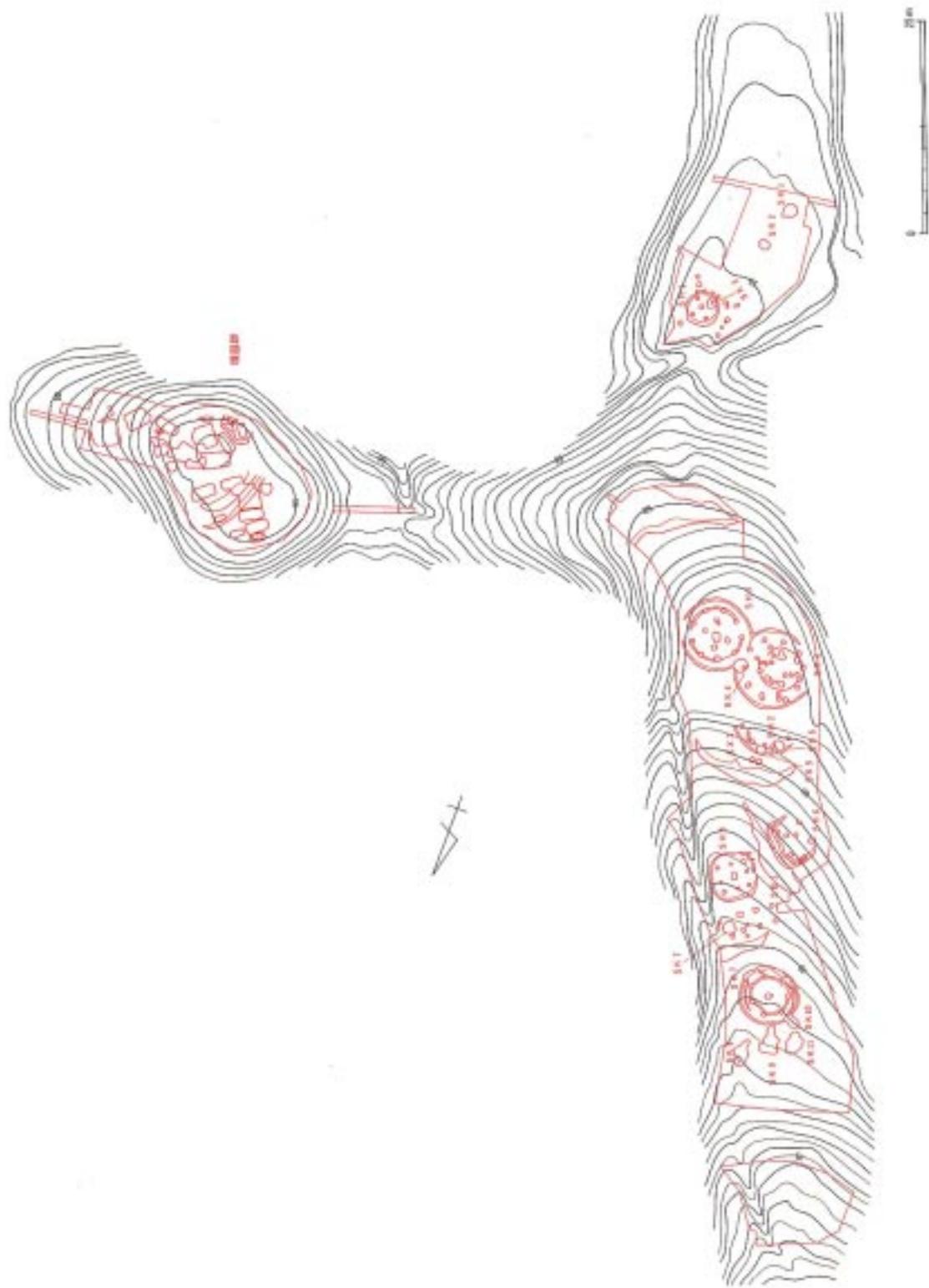
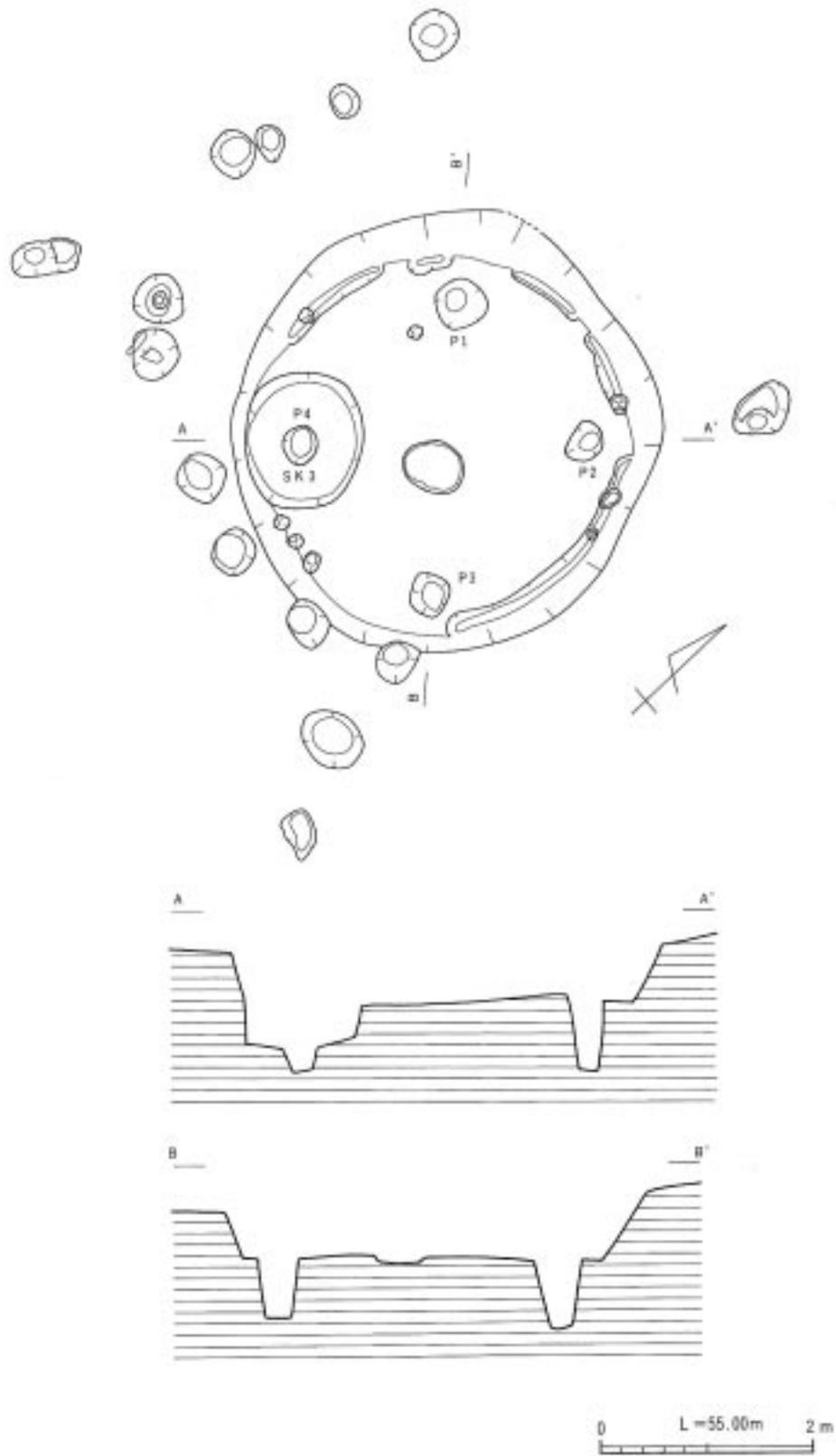
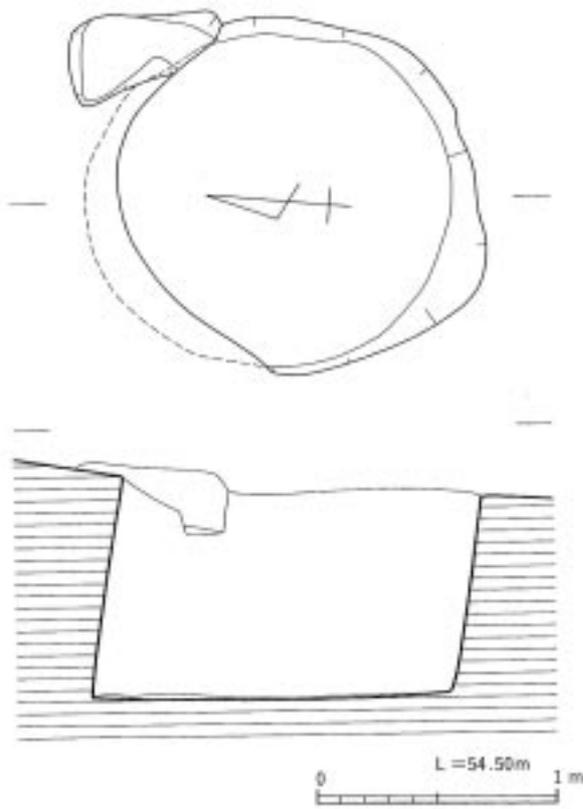


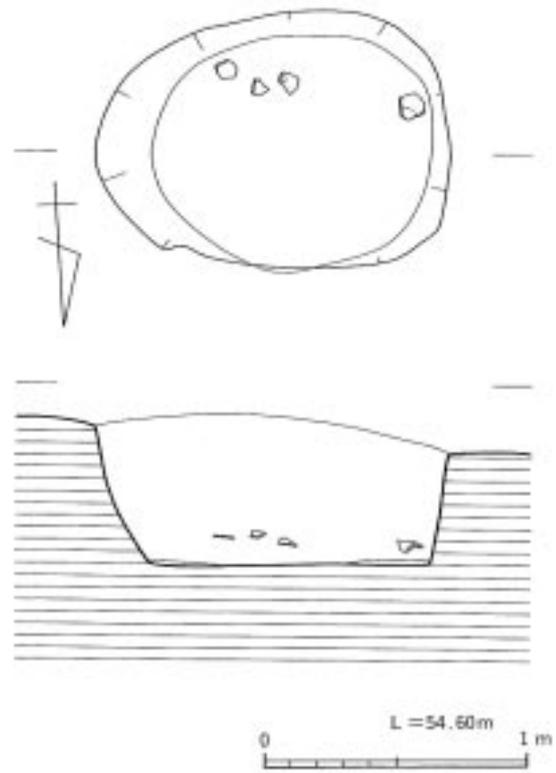
圖45 大町七九番目地点遺跡遺構配置図 (S = 1 : 500)



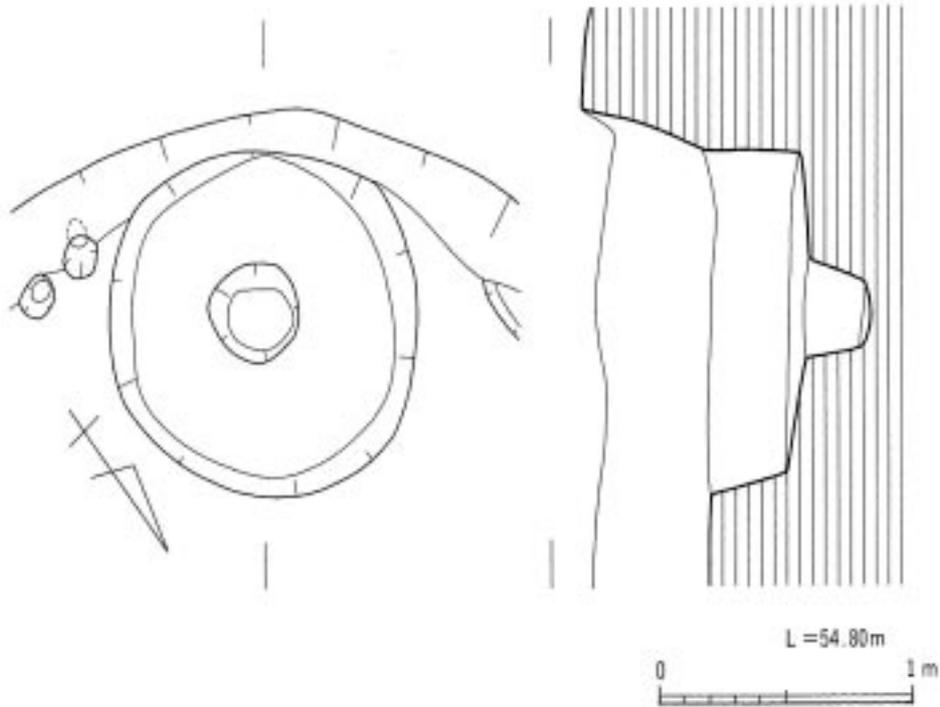
第46図 SH 1 実測図 (S = 1 : 60)



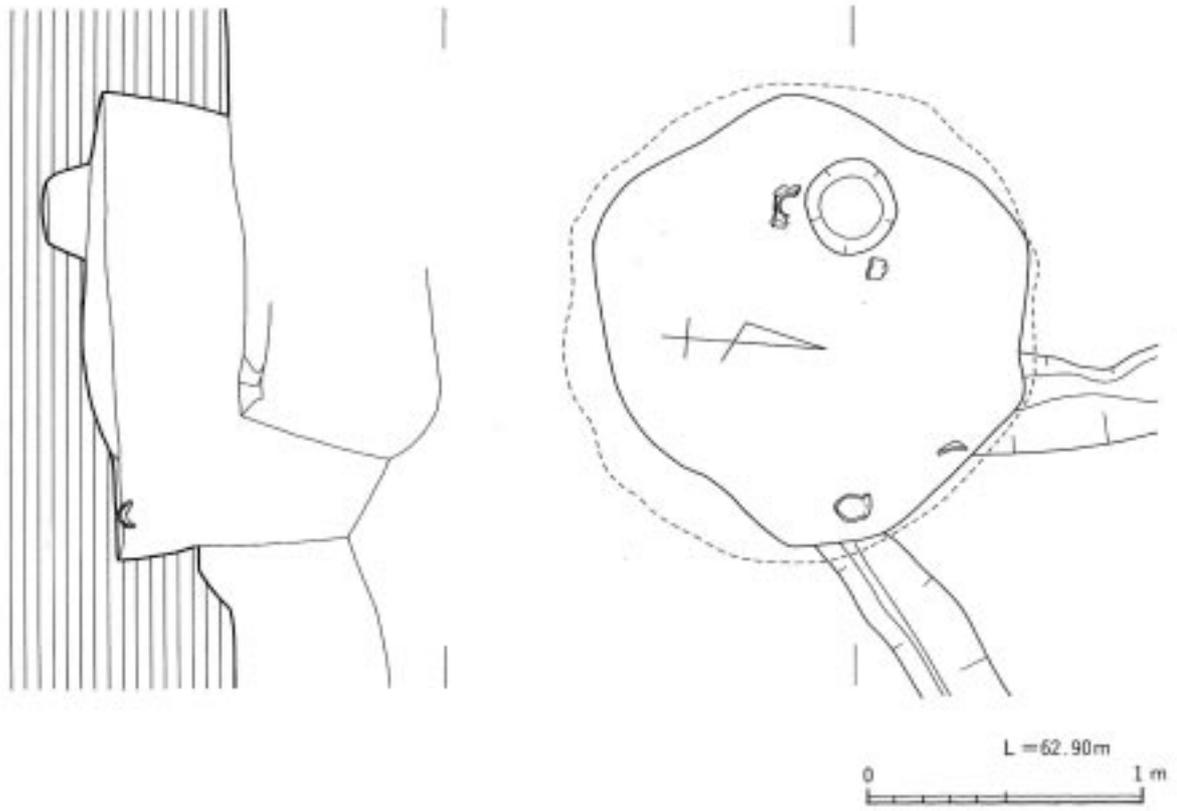
第47図 SK 1実測図 (S = 1 : 30)



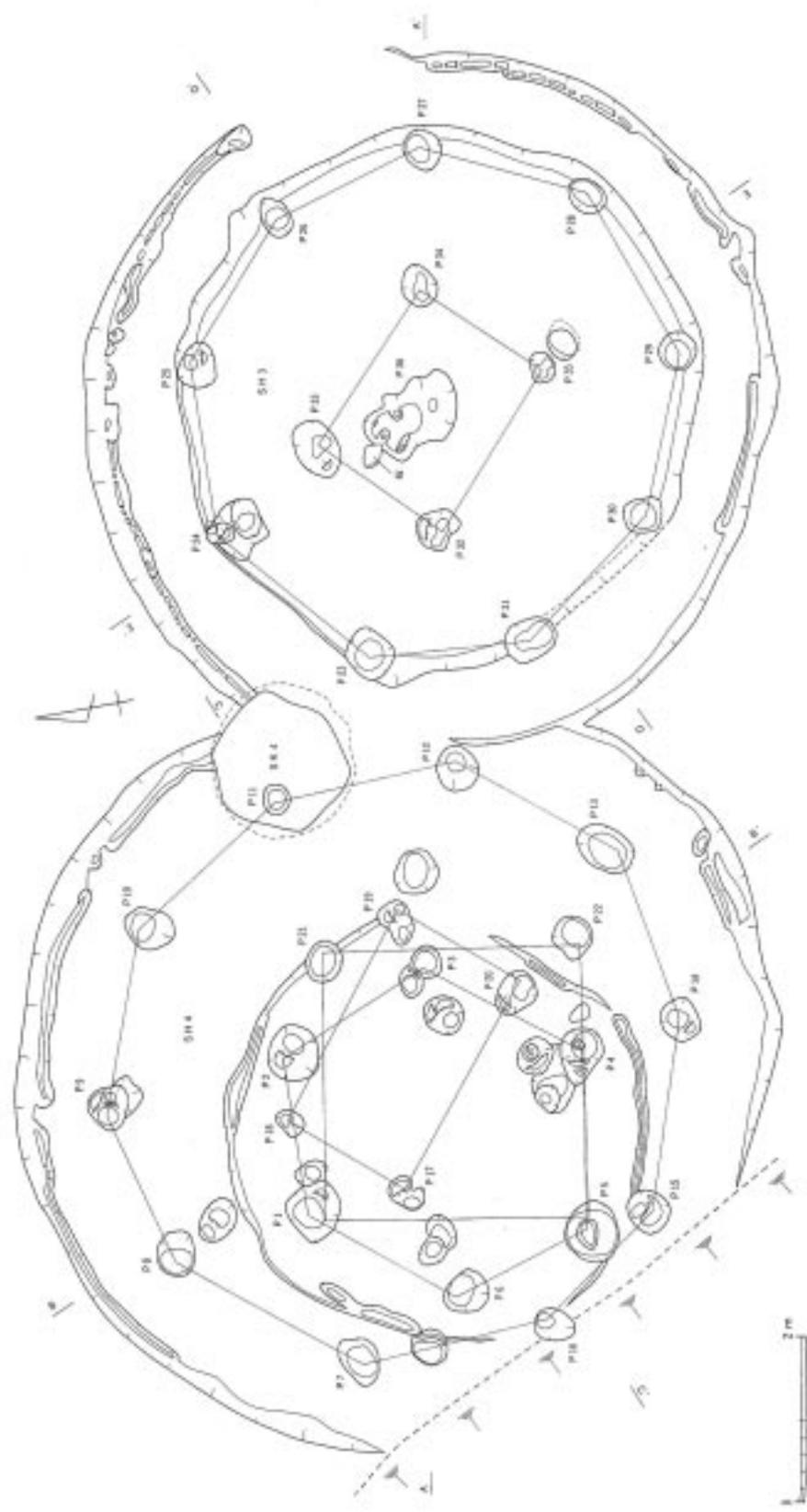
第48図 SK 2実測図 (S = 1 : 30)



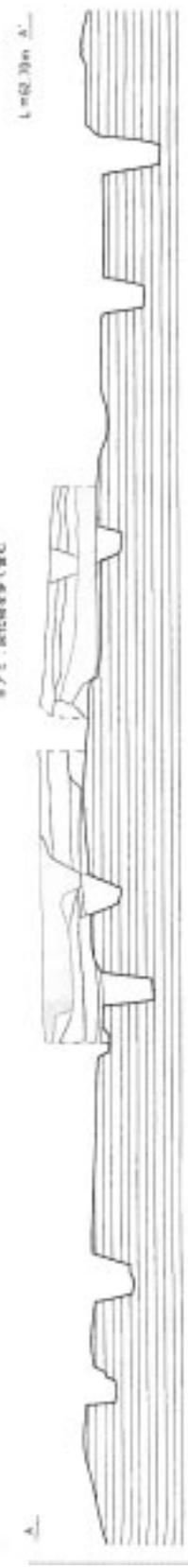
第49図 SK 3実測図 (S = 1 : 30)



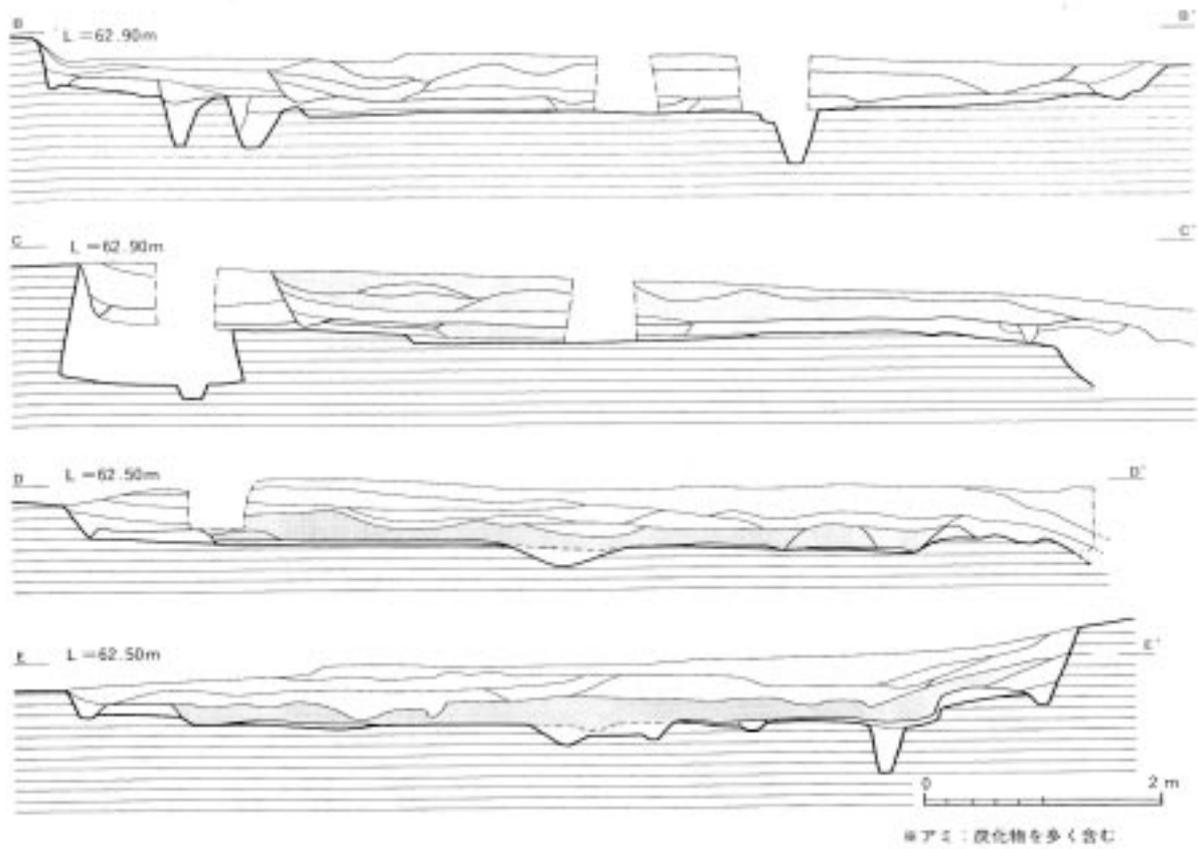
第50図 SK 4 実測図 (S = 1 : 30)



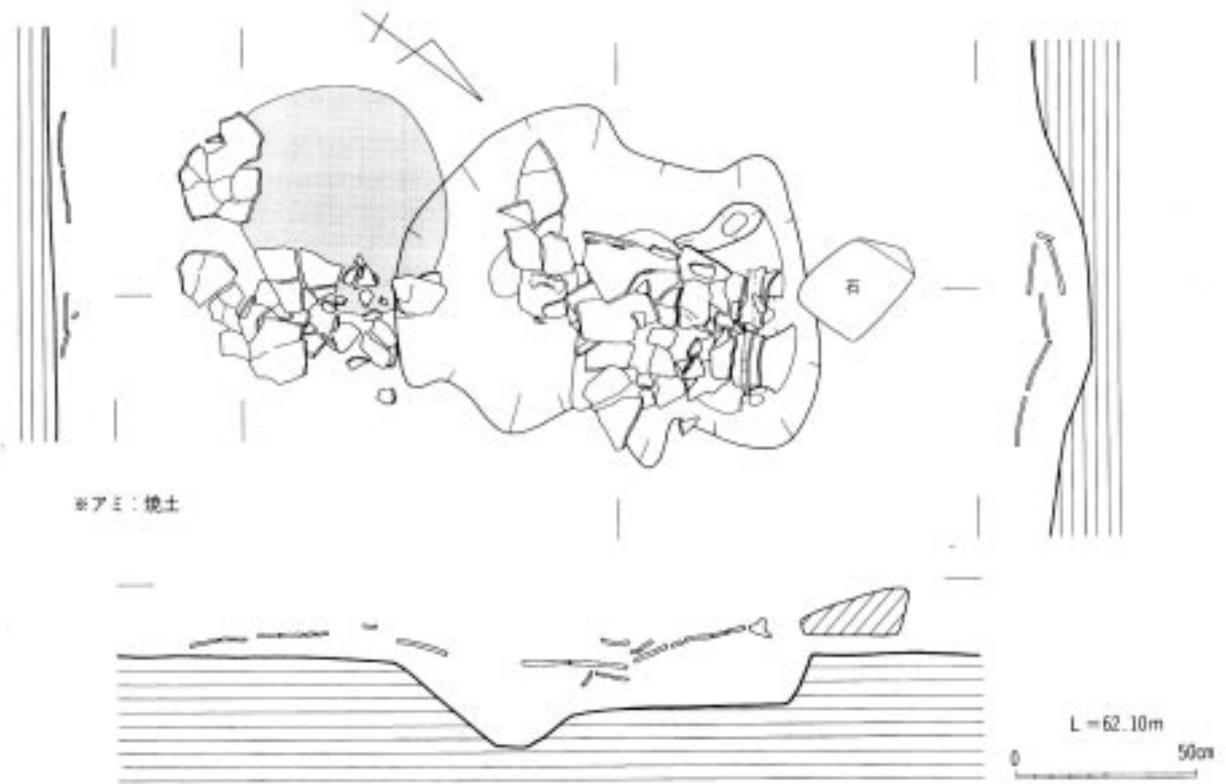
07C : 西比羅多(遺址)



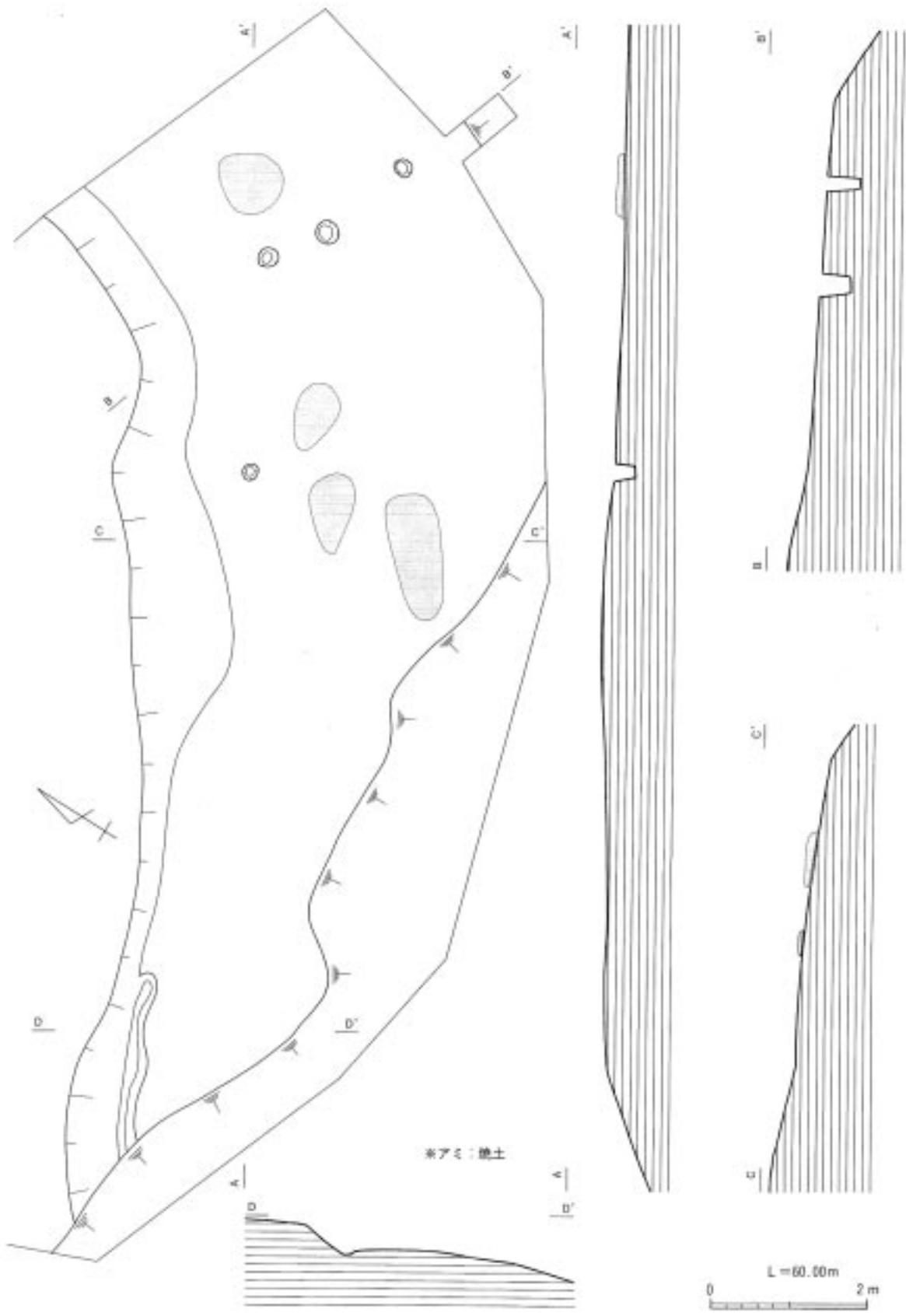
第51圖 SH3・4美洲園 (S=1:60)



第52図 SH 3・4 断面図 (S = 1 : 60)



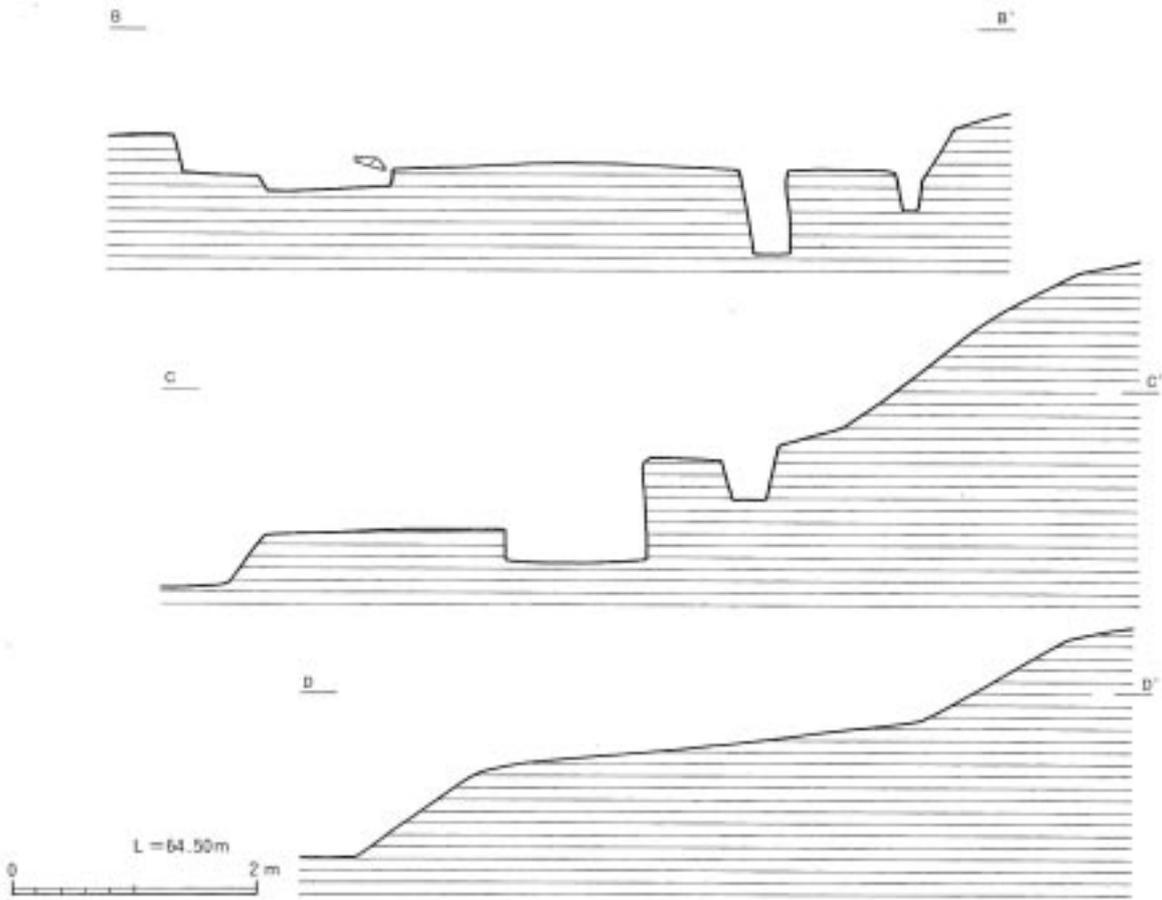
第53図 SH 3 土器出土状況実測図 (S = 1 : 20)



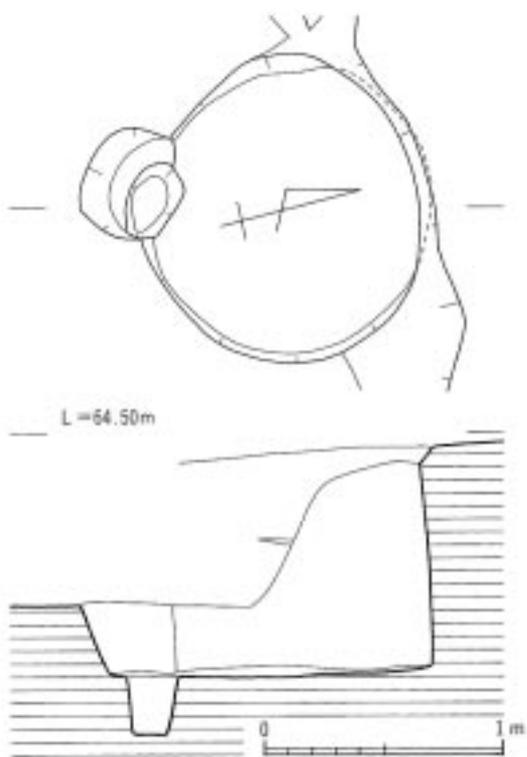
第54図 SX実測図 (S = 1 : 70)



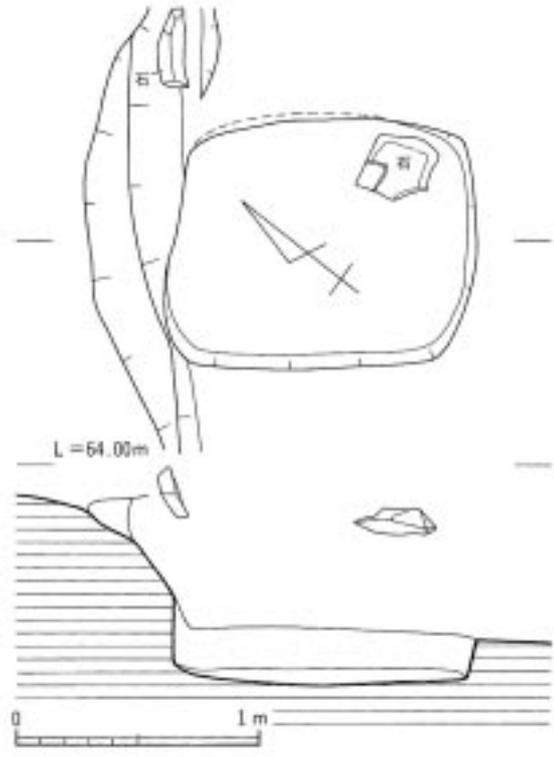
第55図 SX2・SH2実測図 (S=1:60)



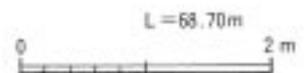
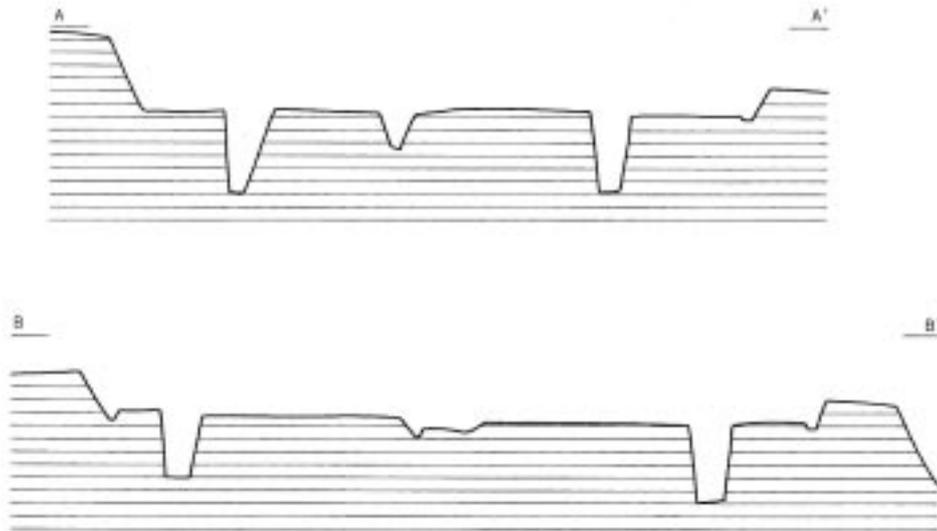
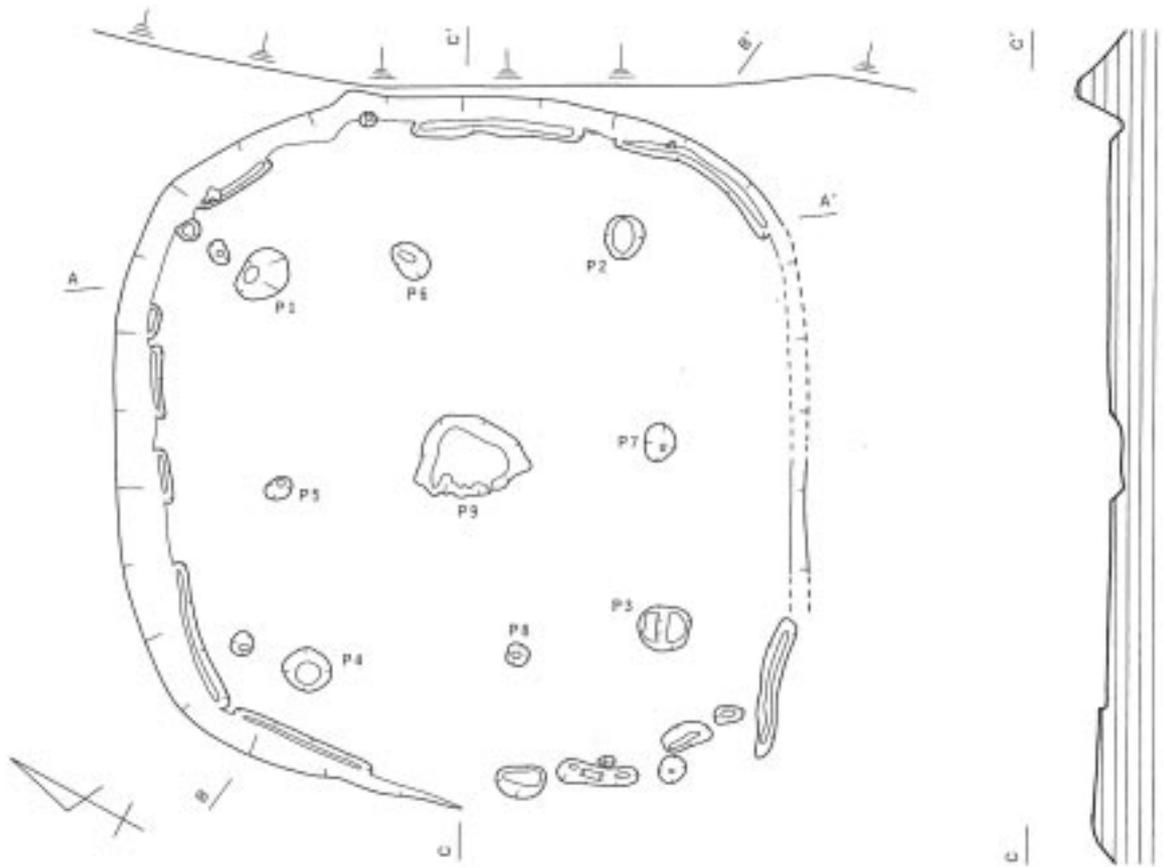
第56図 SX2・SH2断面図 (S = 1 : 60)



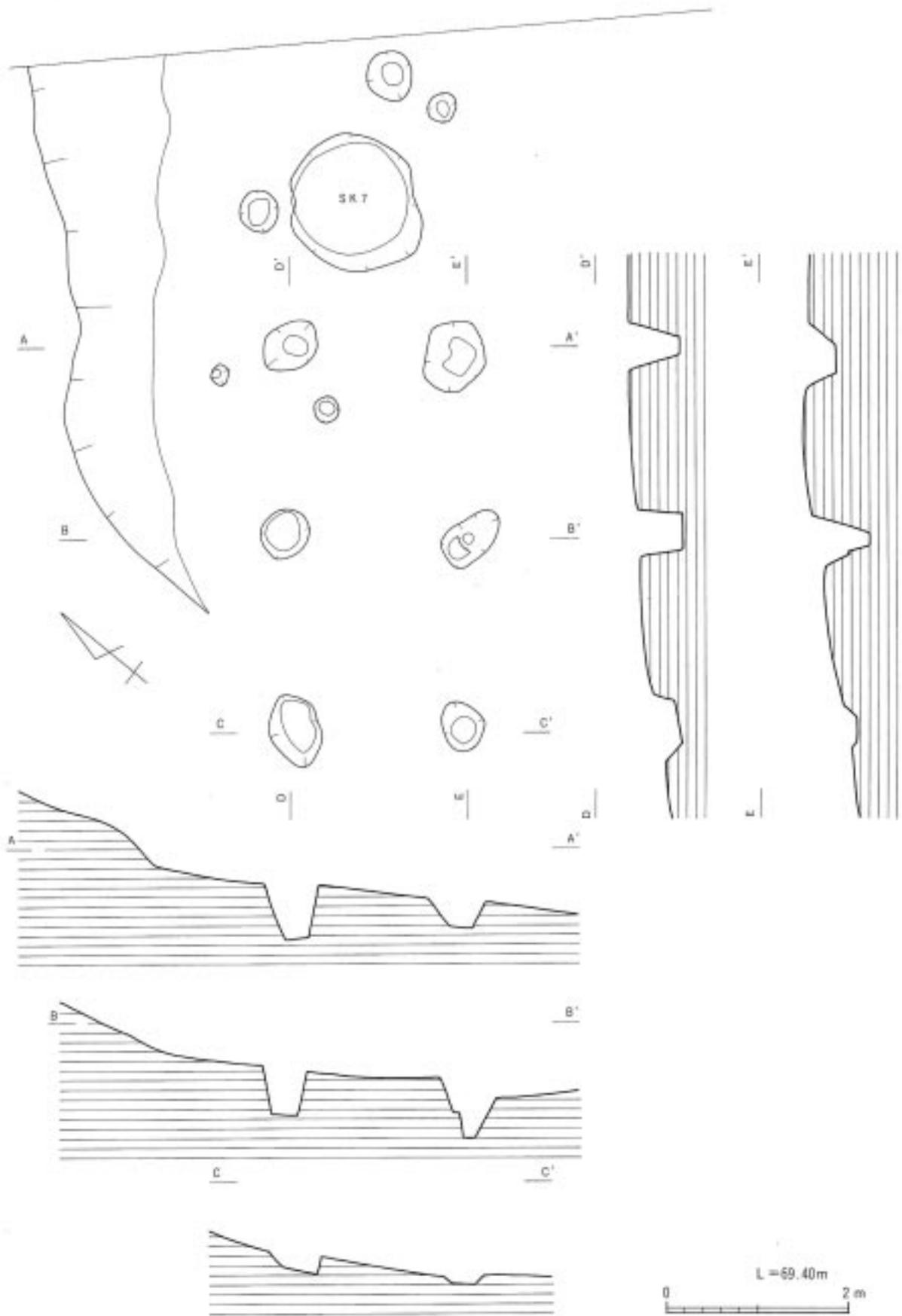
第57図 SK5実測図 (S = 1 : 30)



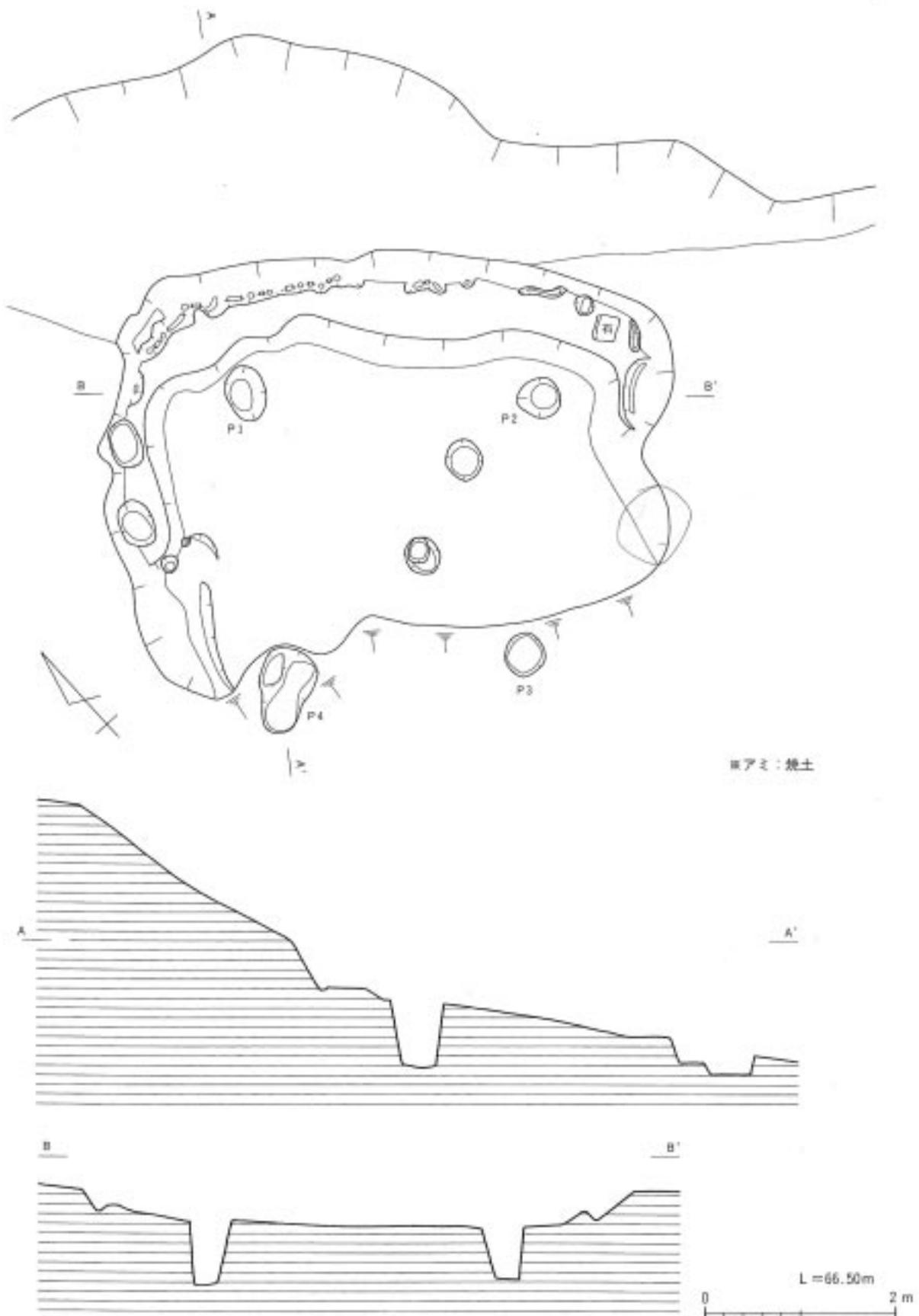
第58図 SK6実測図 (S = 1 : 30)



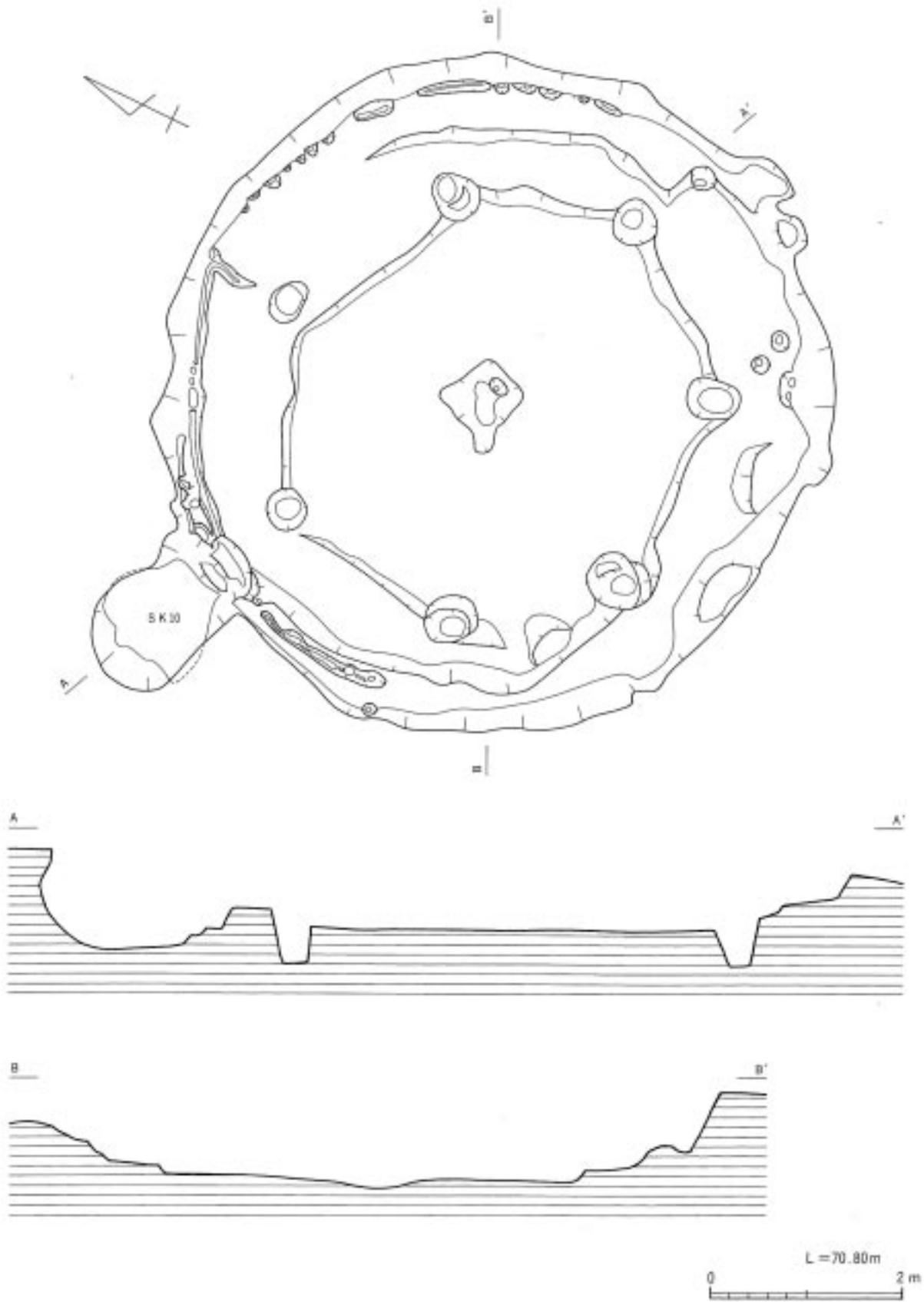
第59図 SH5実測図 (S = 1 : 60)



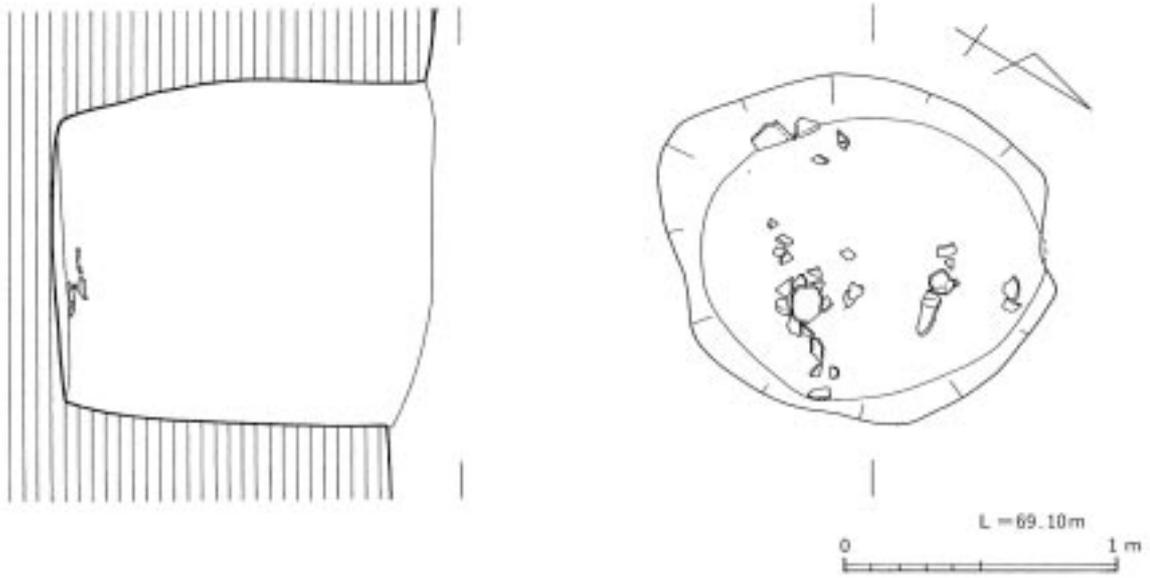
第60図 SB1実測図 (S = 1 : 60)



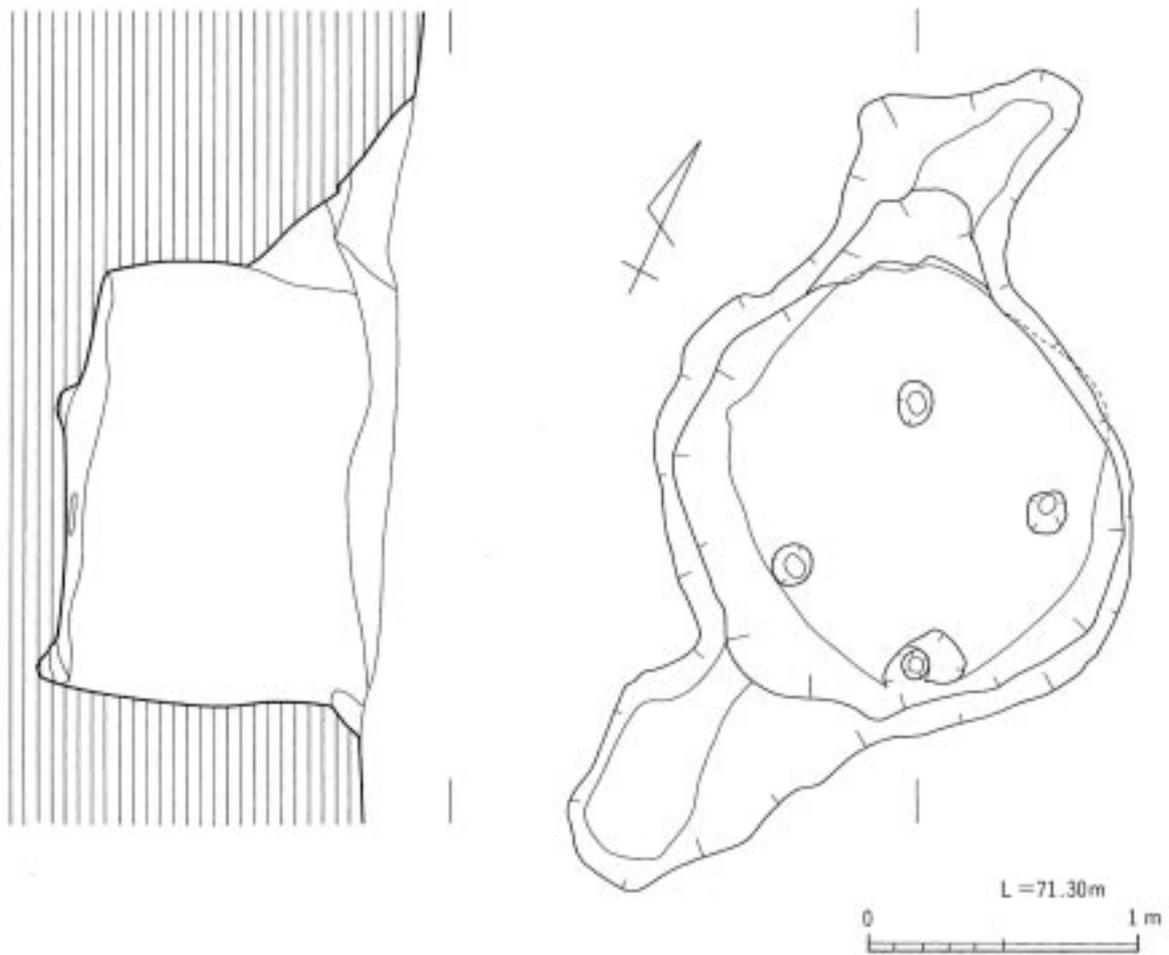
第61図 SH6実測図 (S = 1 : 60)



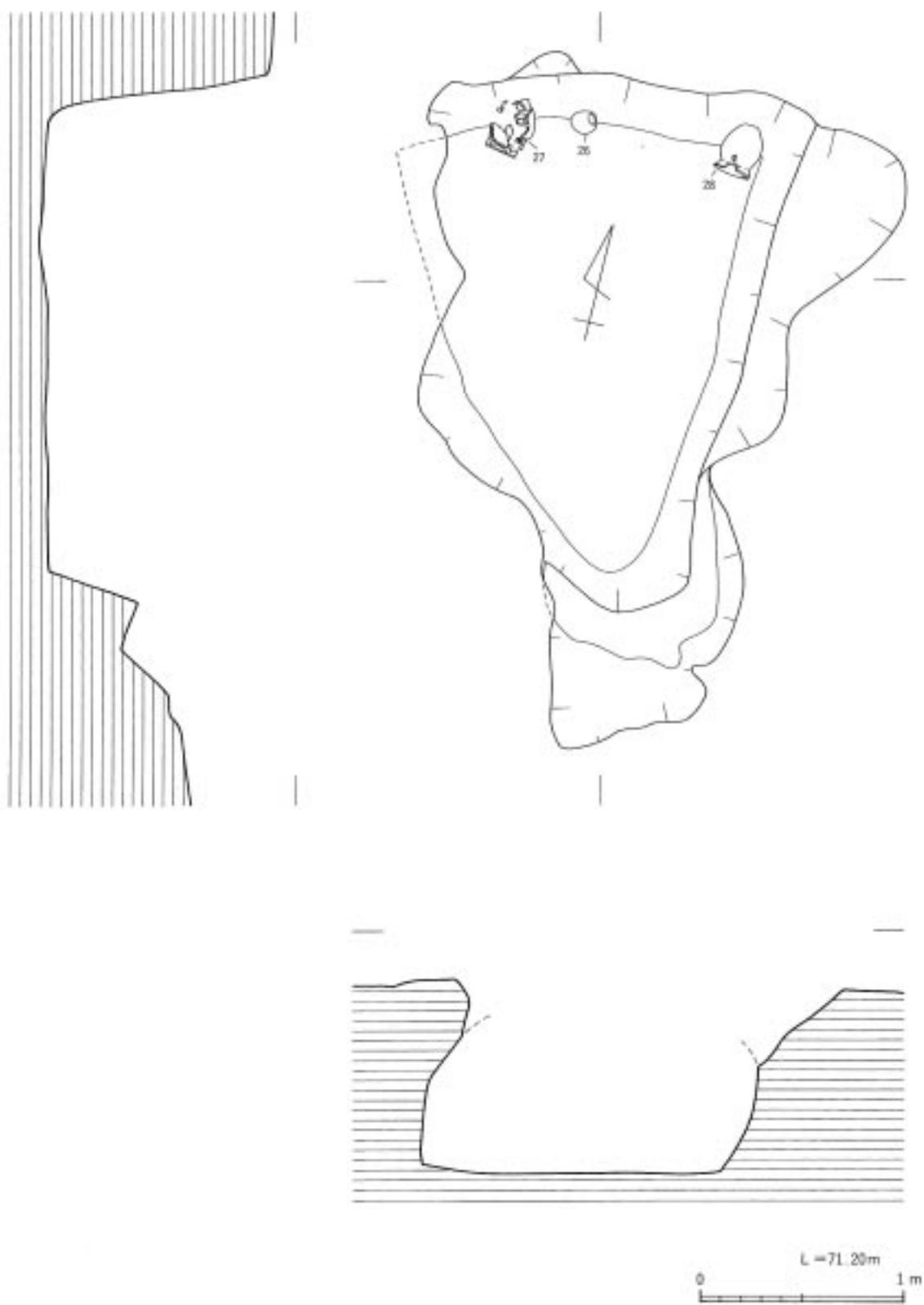
第62図 SH7実測図 (S = 1 : 60)



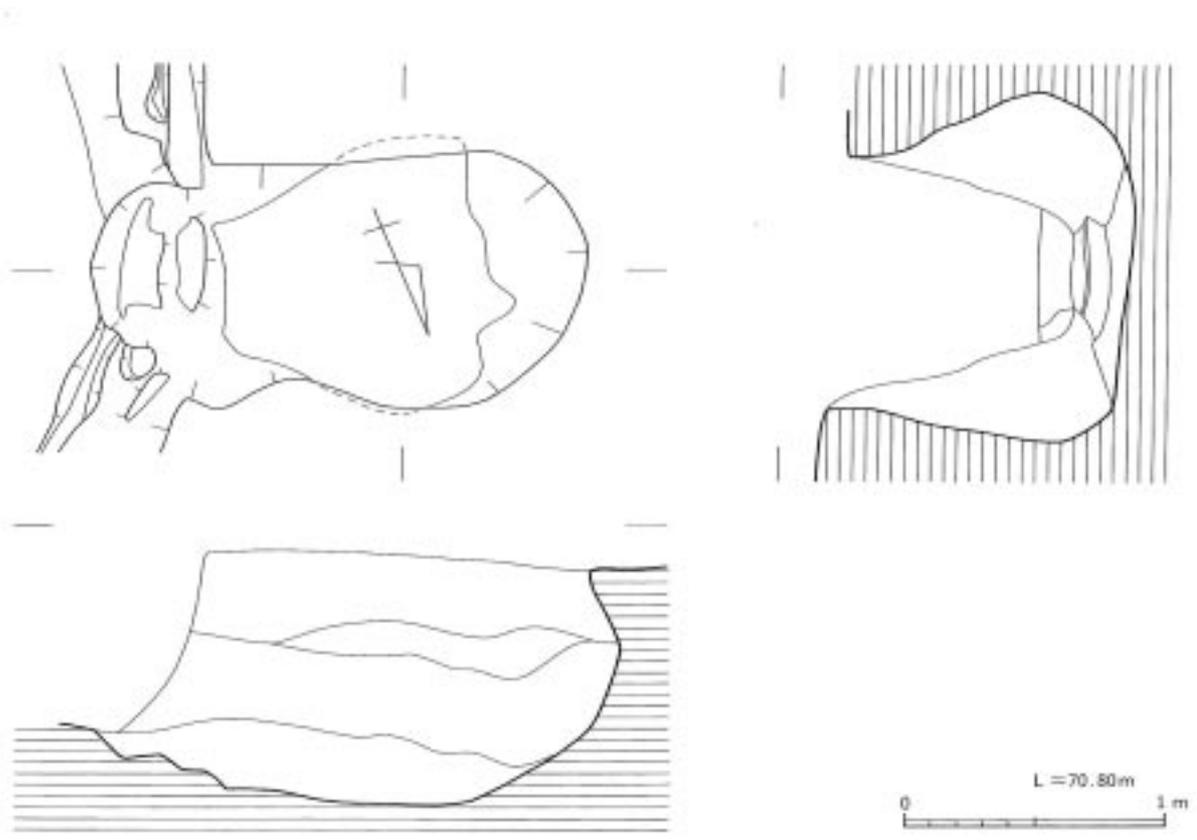
第 63 図 SK 7 実測図 (S = 1 : 30)



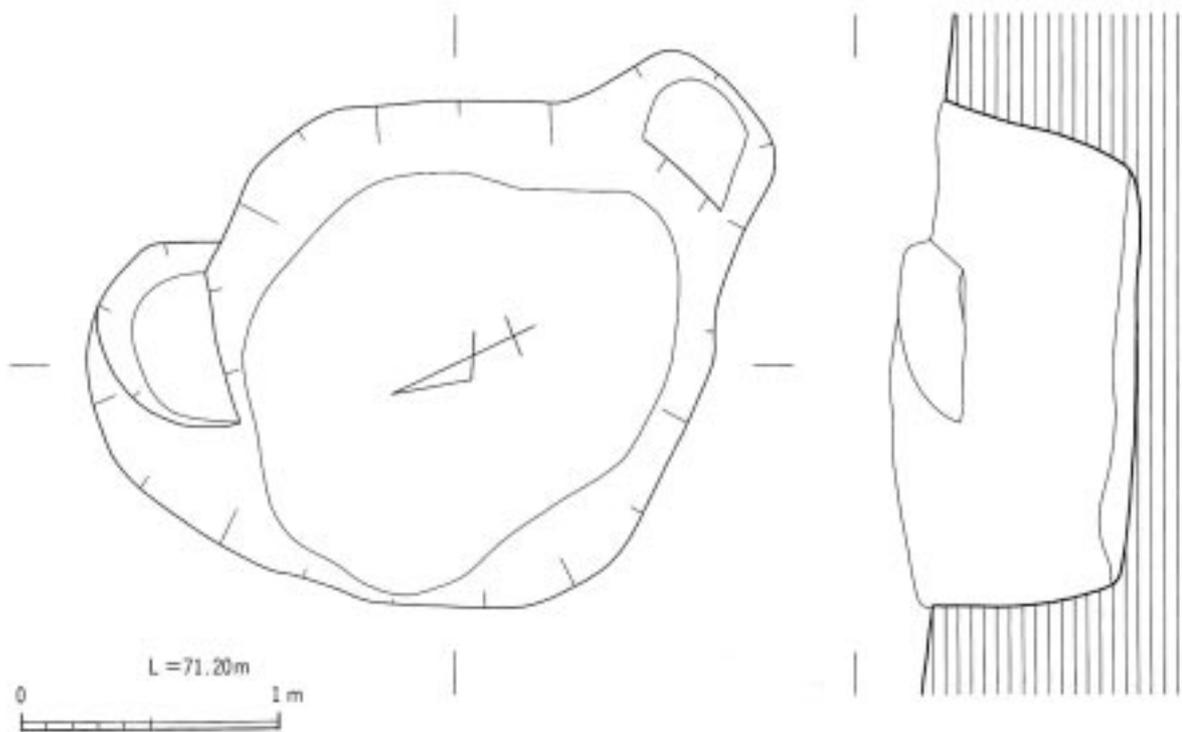
第 64 図 SK 8 実測図 (S = 1 : 30)



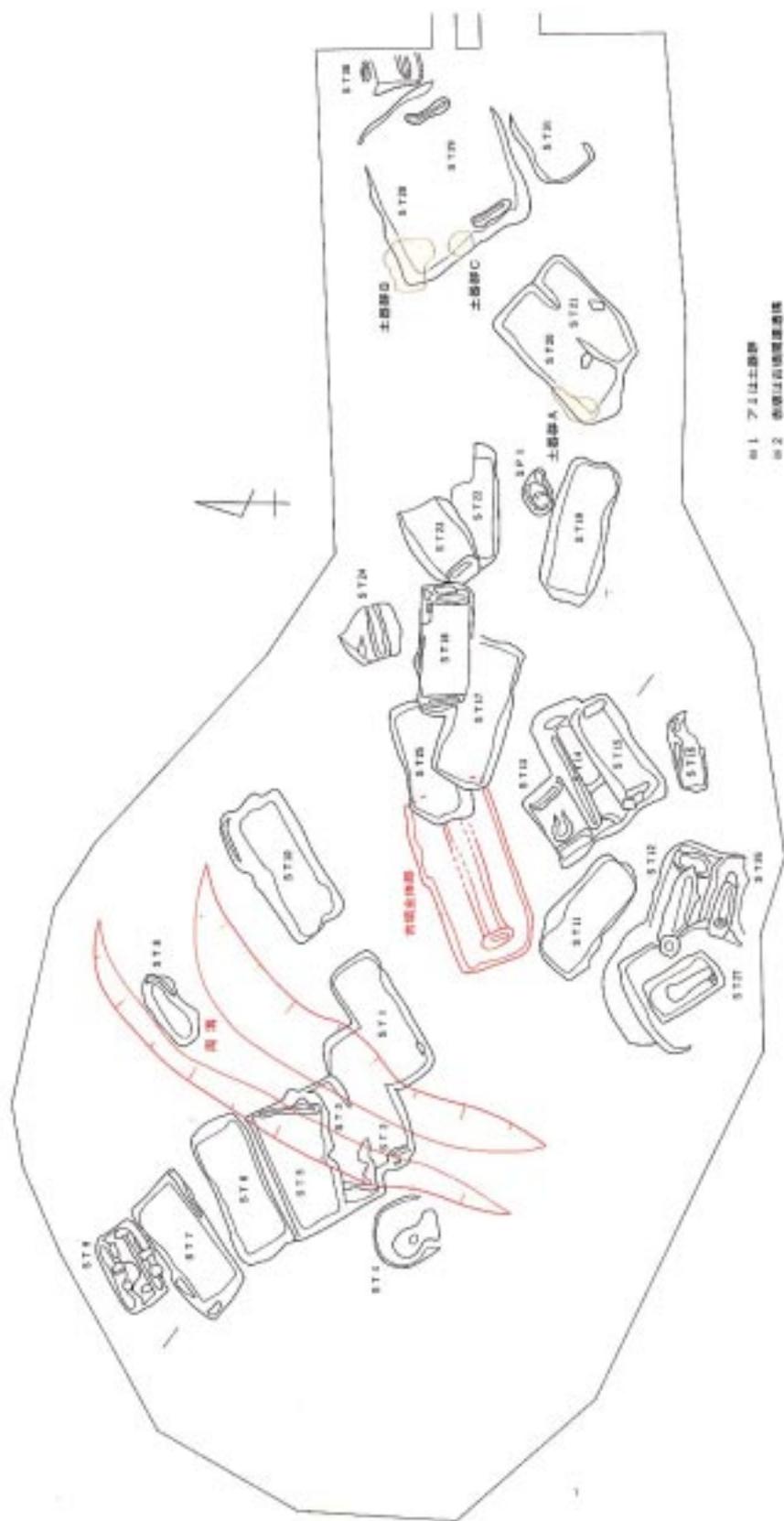
第 65 図 SK 9 実測図 (S = 1 : 30)



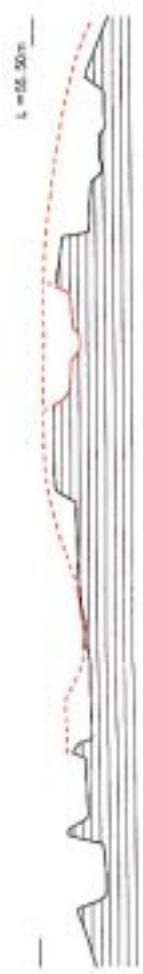
第 66 図 S K 10 実測図 (S = 1 : 30)



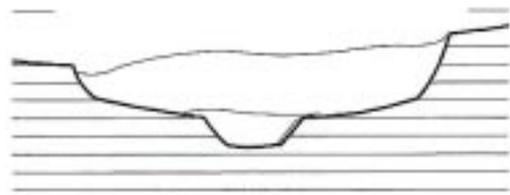
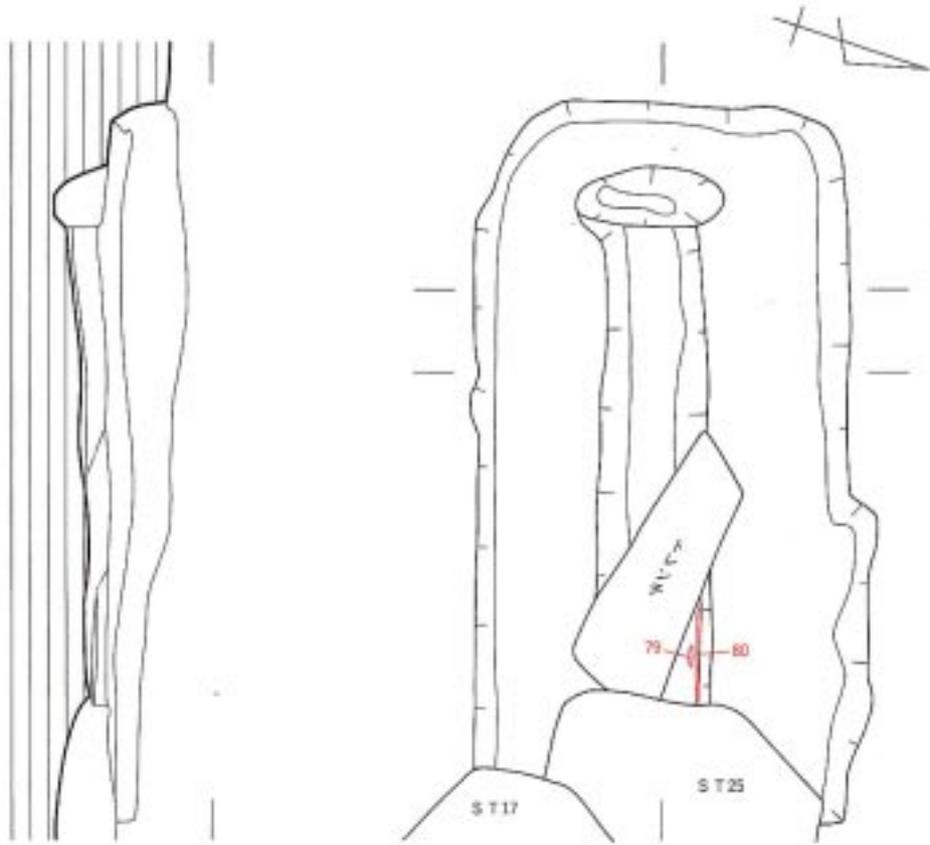
第 67 図 S K 11 実測図 (S = 1 : 30)



01 7 11土器群  
02 赤土山前段遺構遺跡

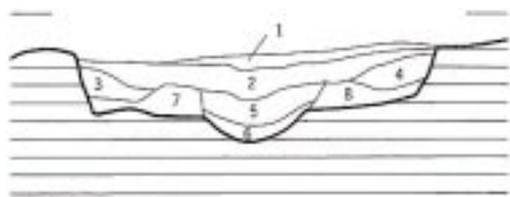


第66圖 大町七九新B地点遺跡構造詳況配置圖 (S = 1 : 100)

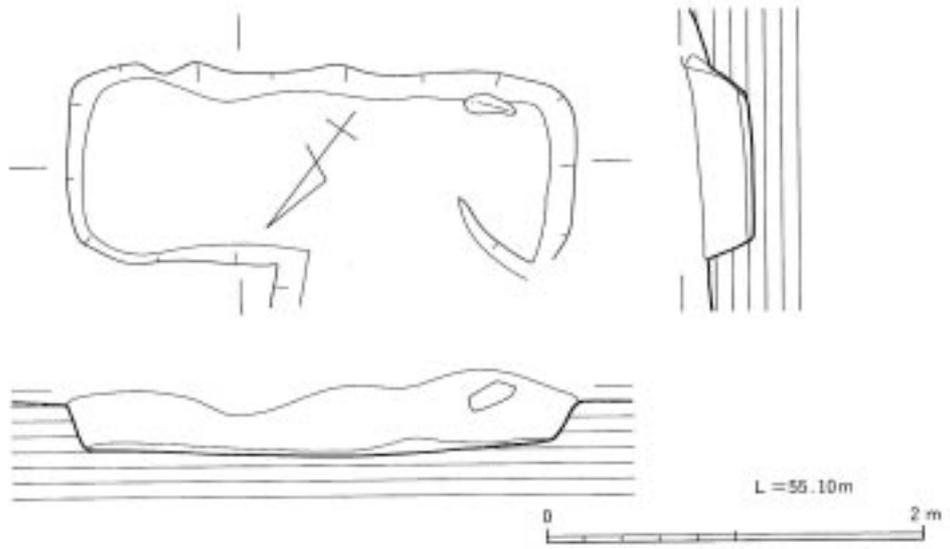


土層説明

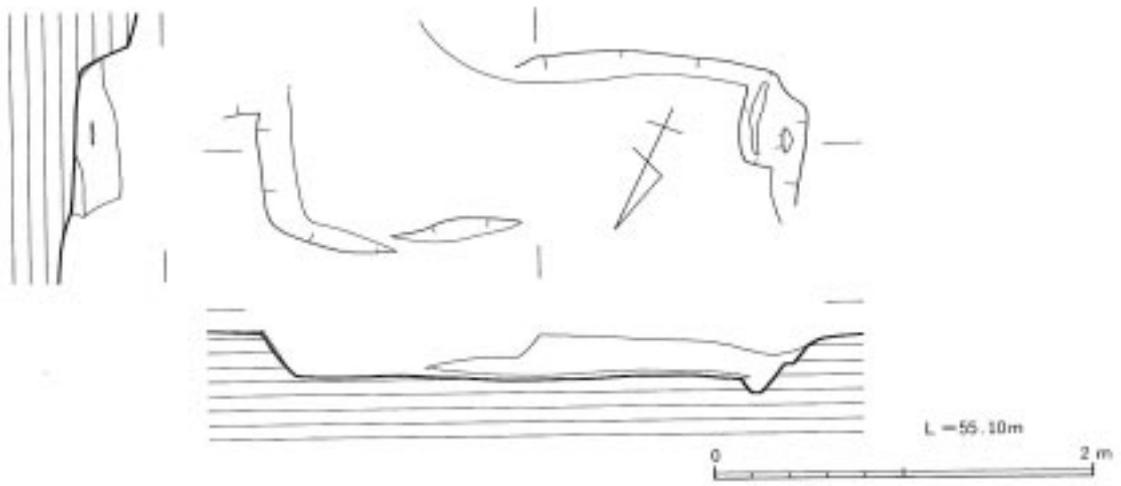
- 1 淡黄褐色砂質土
- 2 淡橙褐色砂質土 (パイラン土多く含む)
- 3 黄褐色砂質土 (パイラン土含む)
- 4 黄褐色砂質土 (3と同質)
- 5 暗黄褐色砂質土
- 6 淡黄褐色砂質土 (パイラン土多く含む)



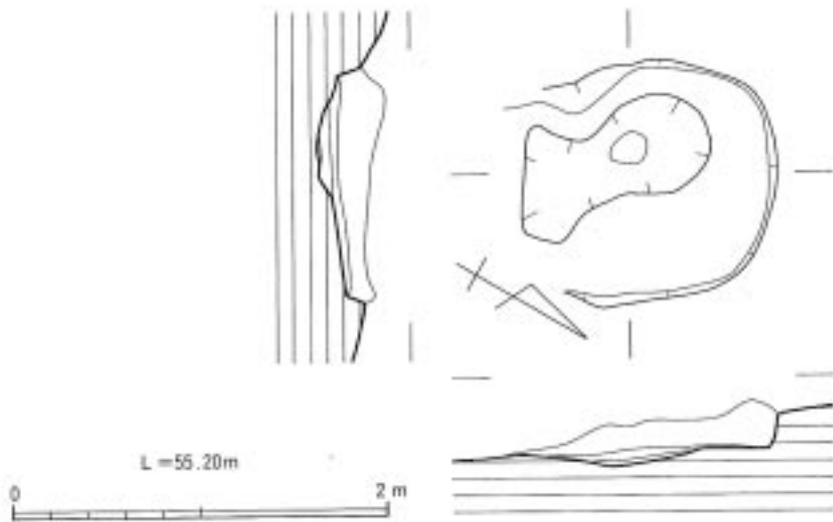
第 69 図 大町七九谷古墳主体部実測図 (S = 1 : 80)



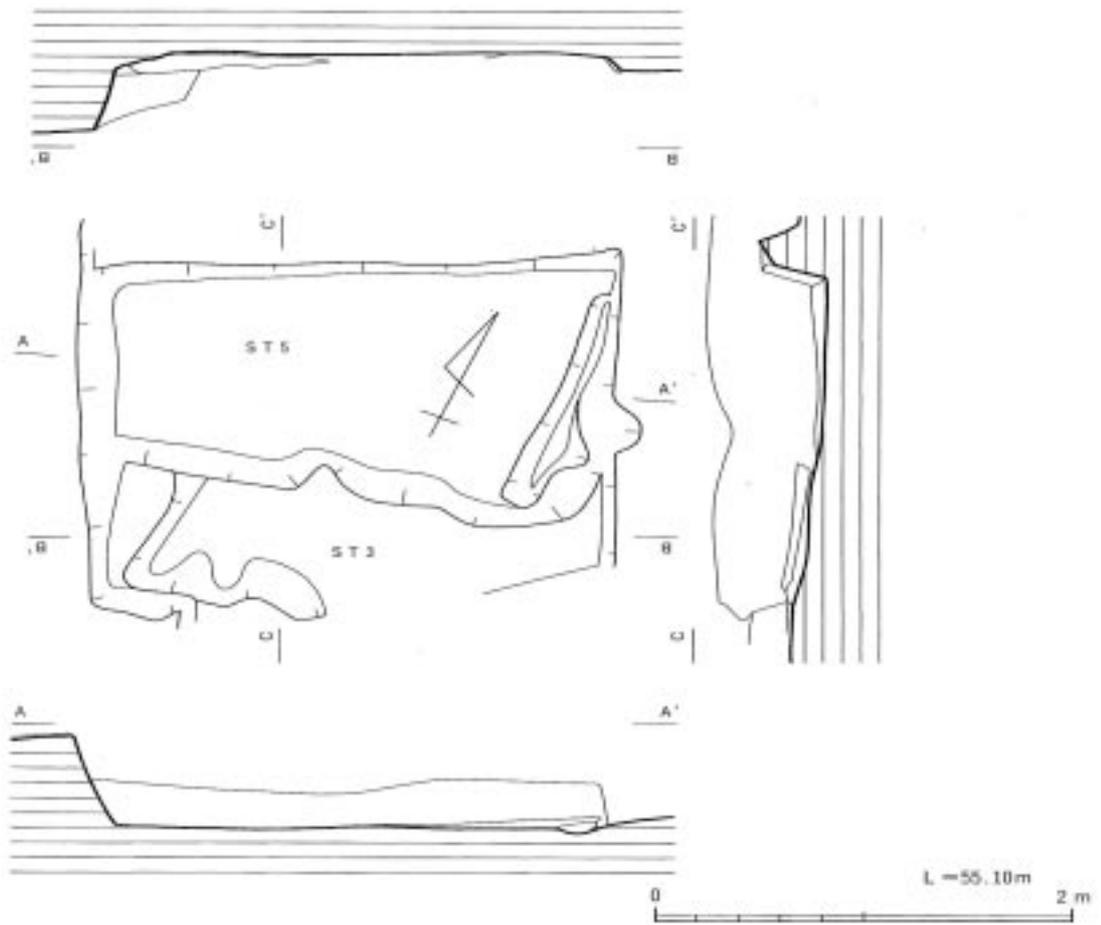
第70図 ST 1 実測図 (S = 1 : 40)



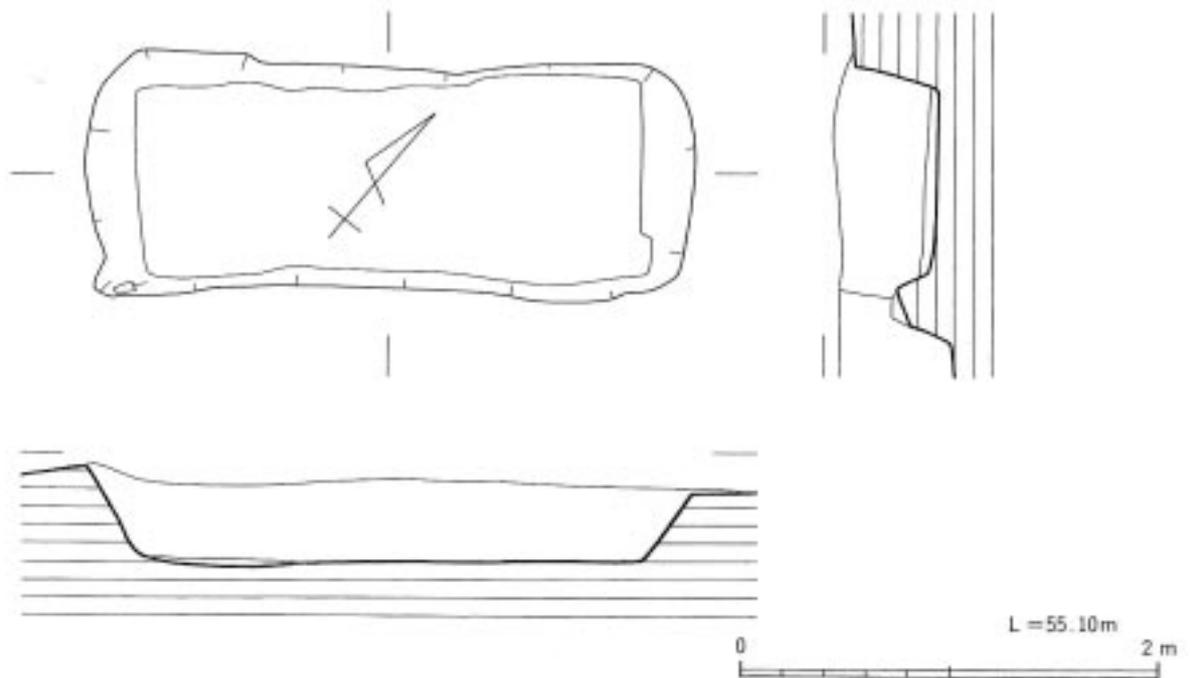
第71図 ST 2 実測図 (S = 1 : 40)



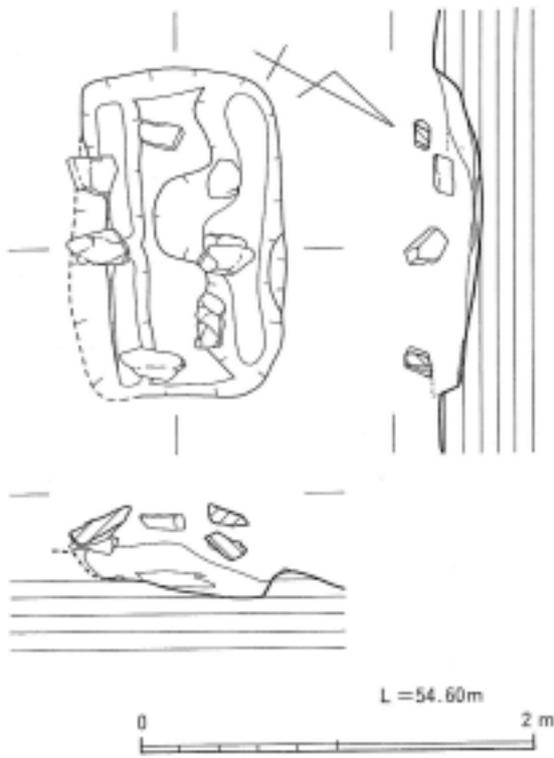
第72図 ST 4 実測図 (S = 1 : 40)



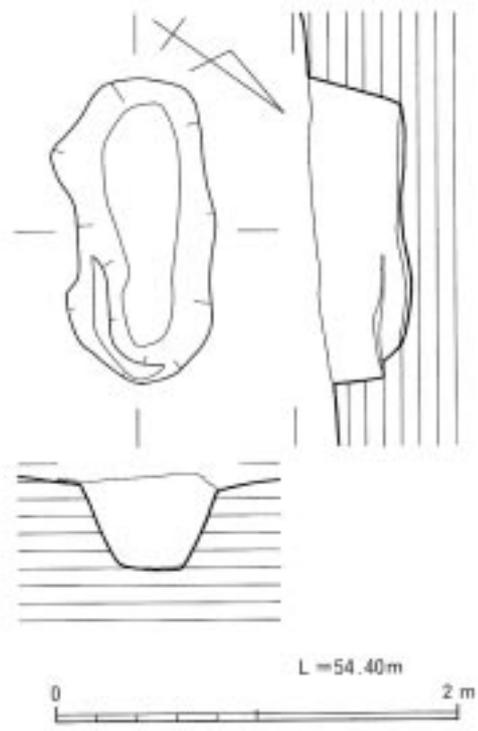
第73図 ST 3・5実測図 (S = 1 : 40)



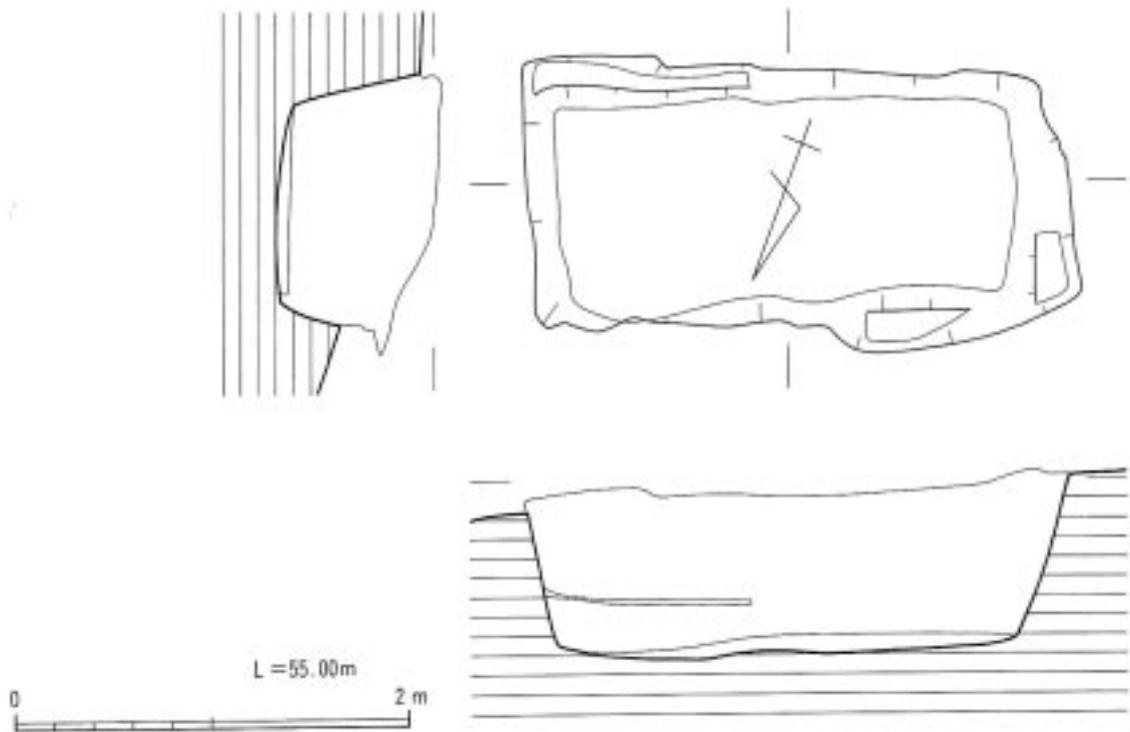
第74図 ST 6実測図 (S = 1 : 40)



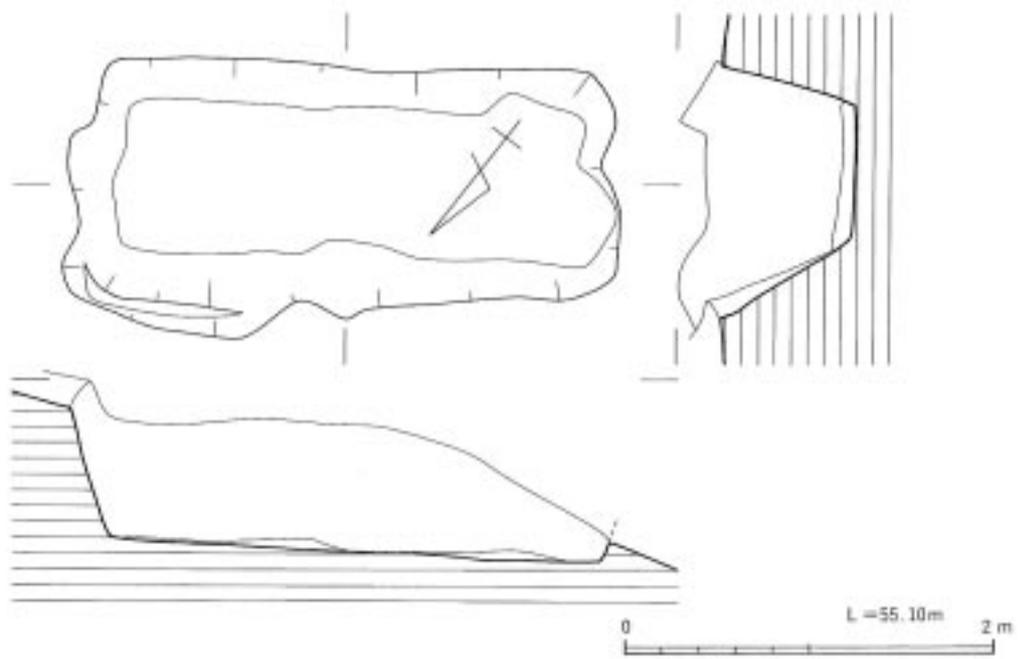
第75図 ST 9実測図 (S = 1 : 40)



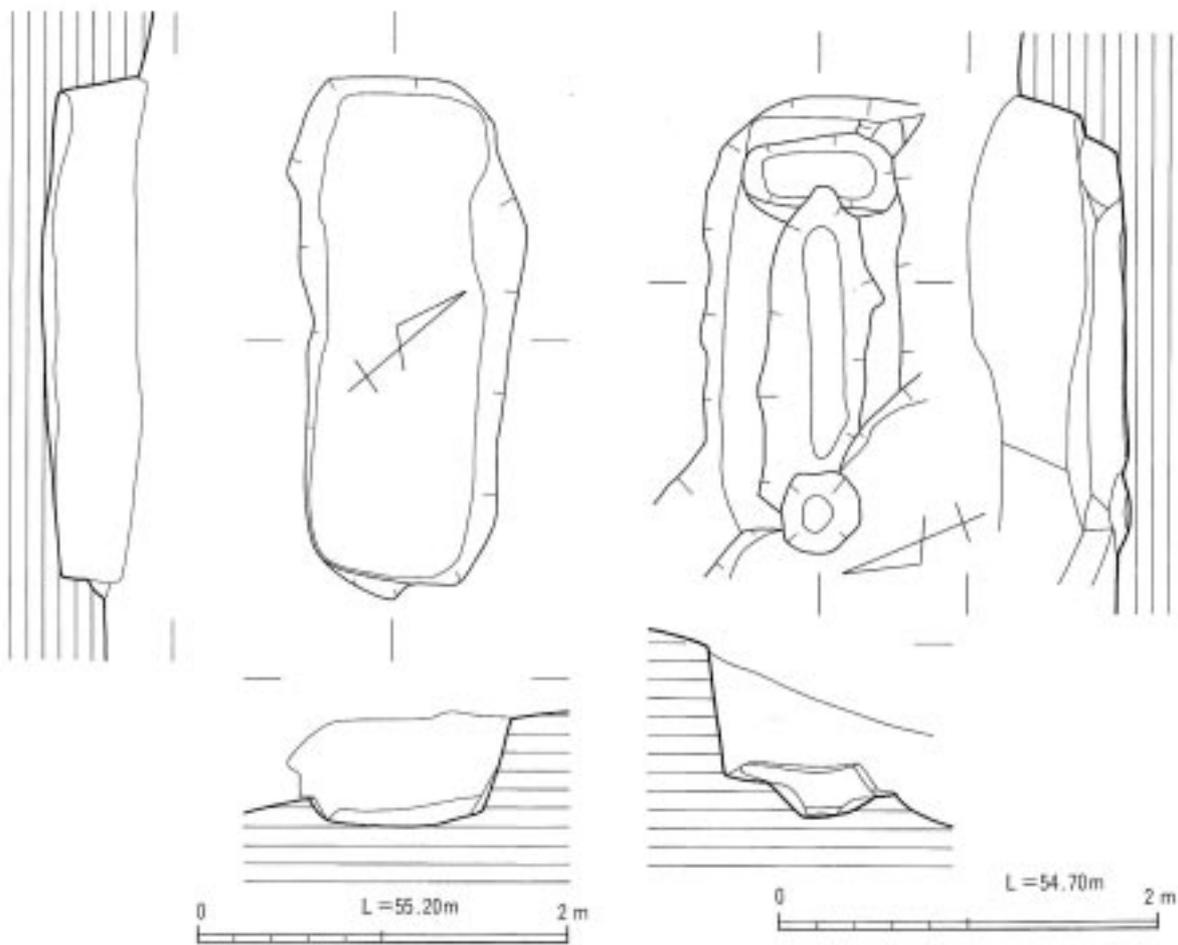
第76図 ST 8実測図 (S = 1 : 40)



第77図 ST 7実測図 (S = 1 : 40)

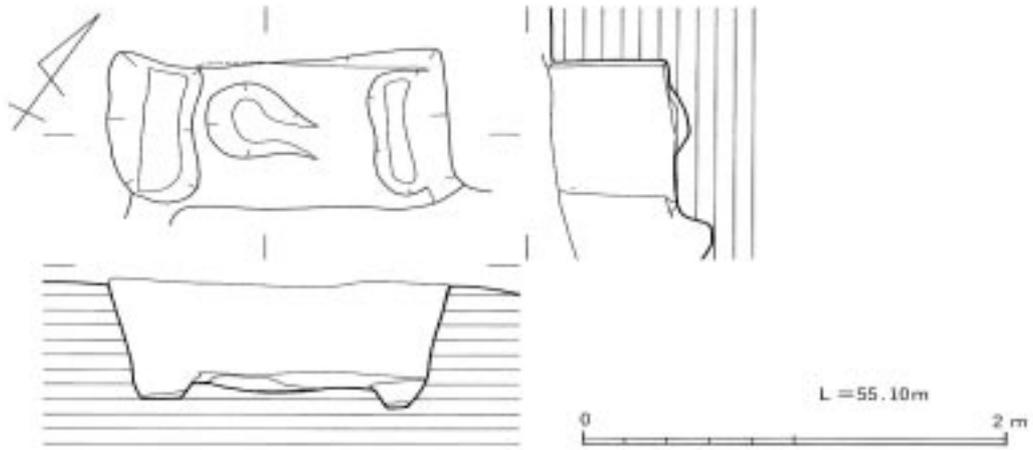


第78図 S T 10実測図 (S = 1 : 40)

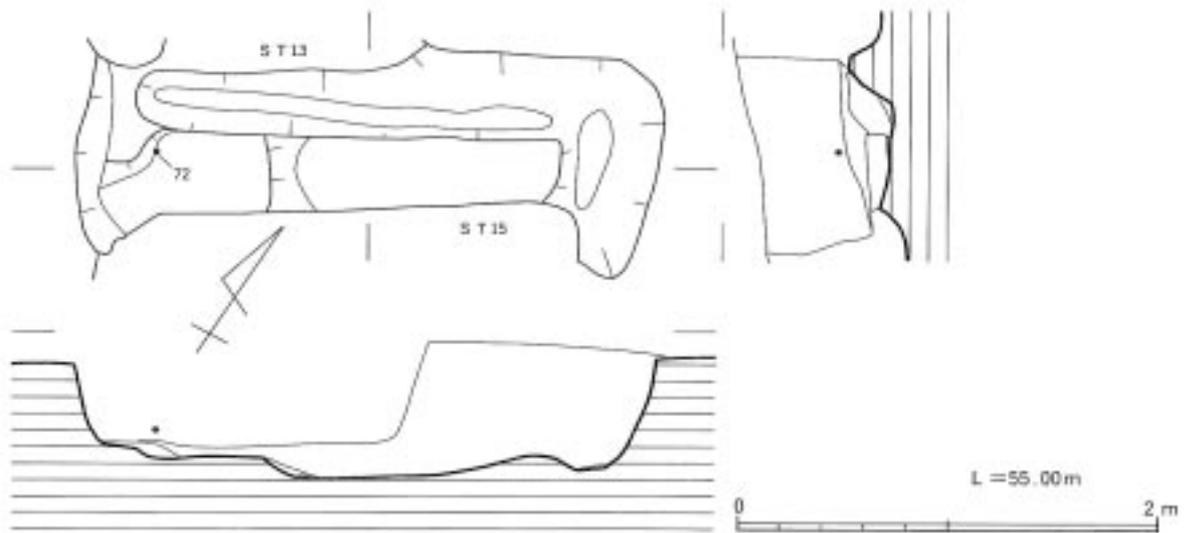


第79図 S T 11実測図 (S = 1 : 40)

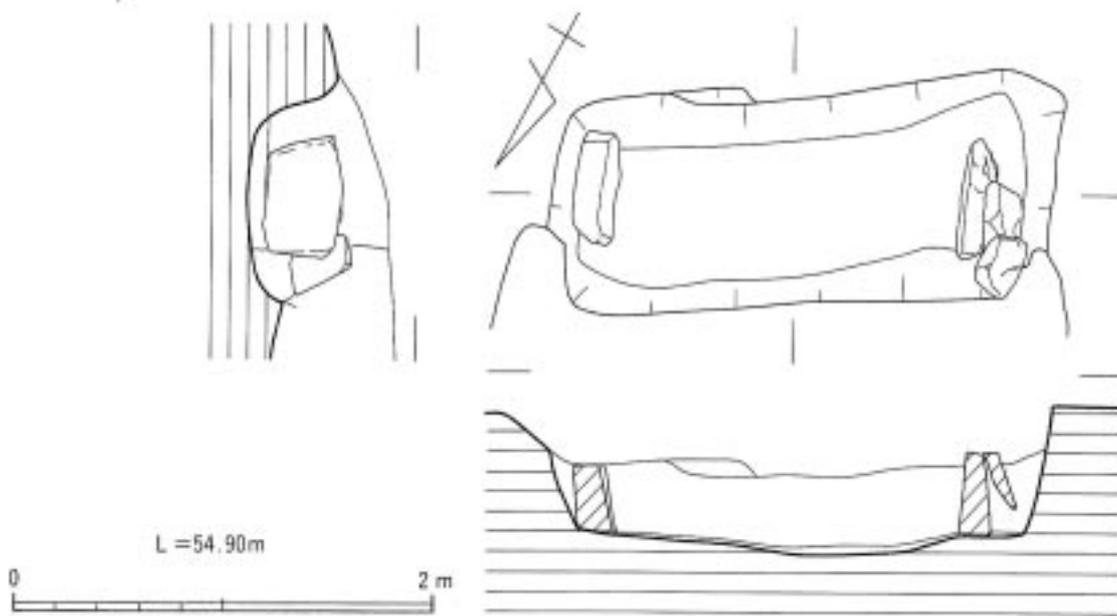
第80図 S T 12実測図 (S = 1 : 40)



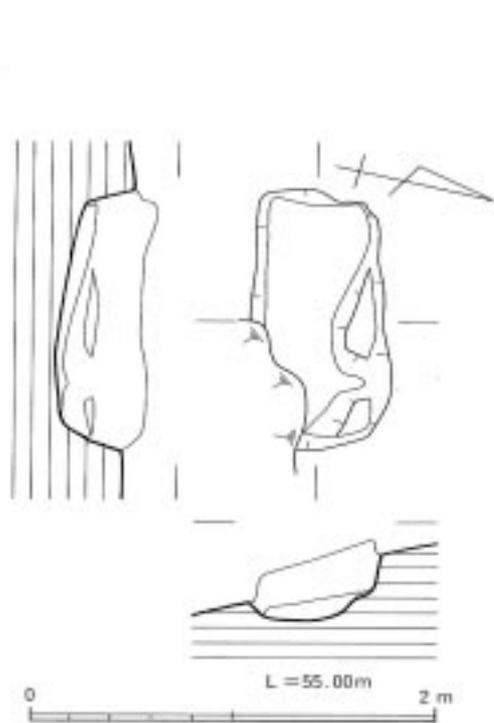
第 81 図 ST 13 実測図 (S = 1 : 40)



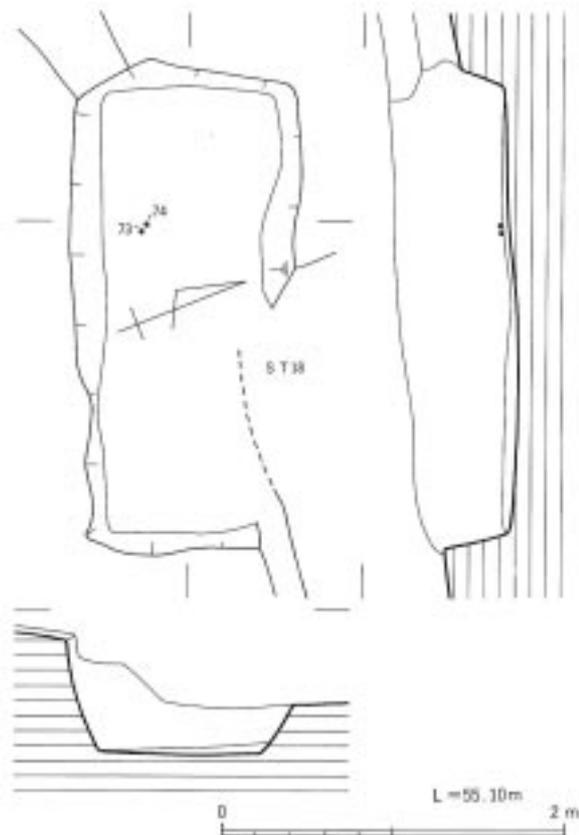
第 82 図 ST 14 実測図 (S = 1 : 40)



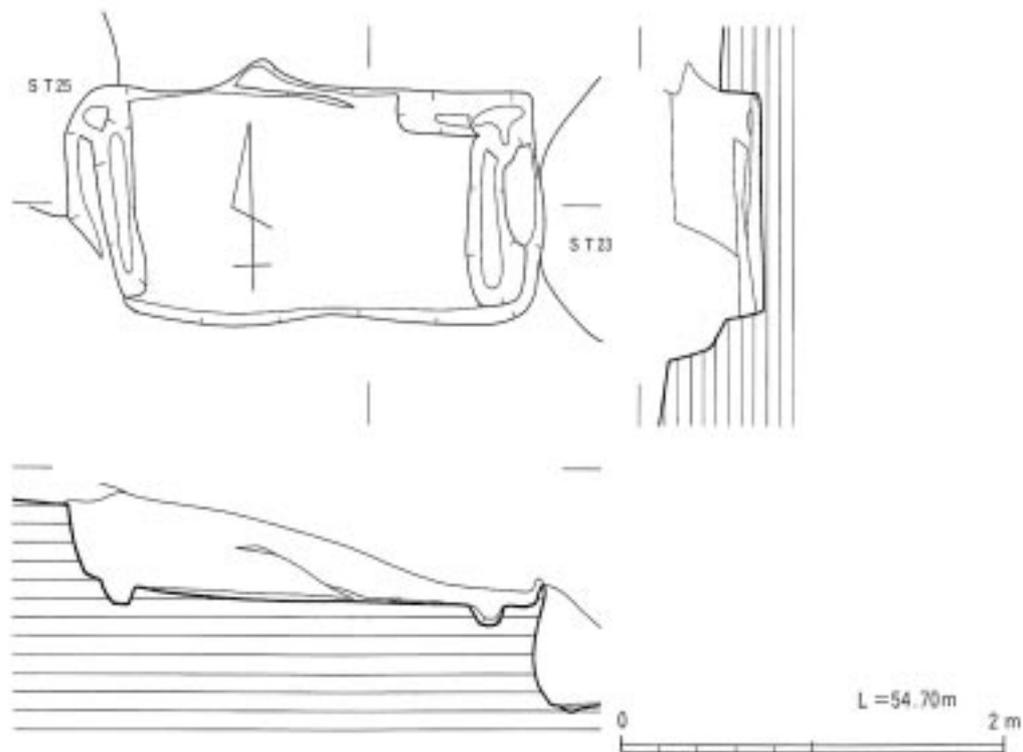
第 83 図 ST 15 実測図 (S = 1 : 40)



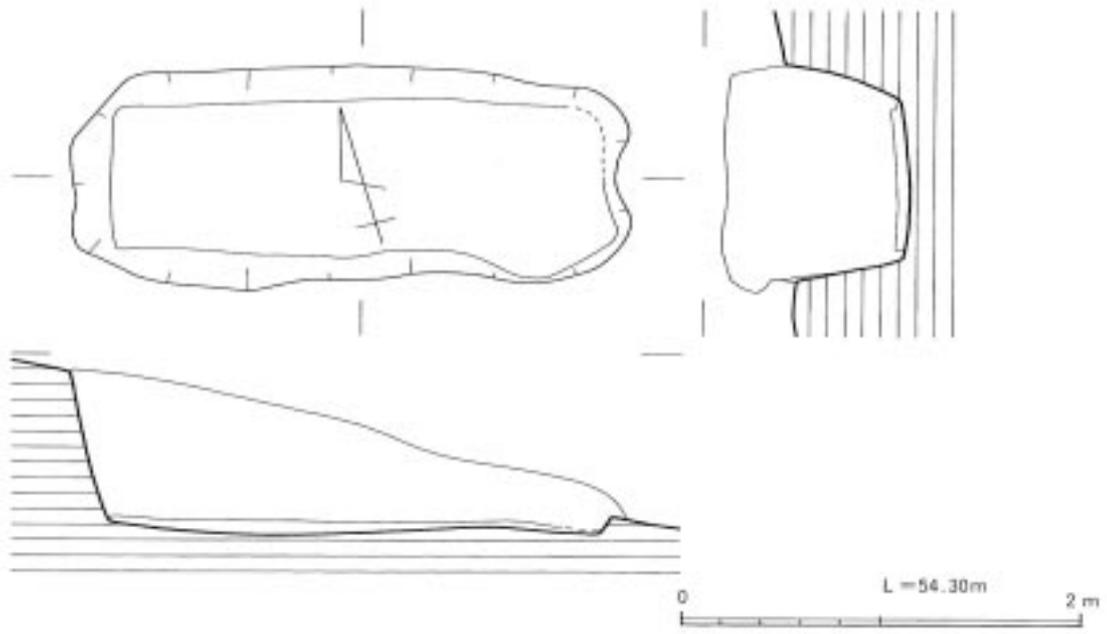
第 84 図 S T 16 実測図 (S = 1 : 40)



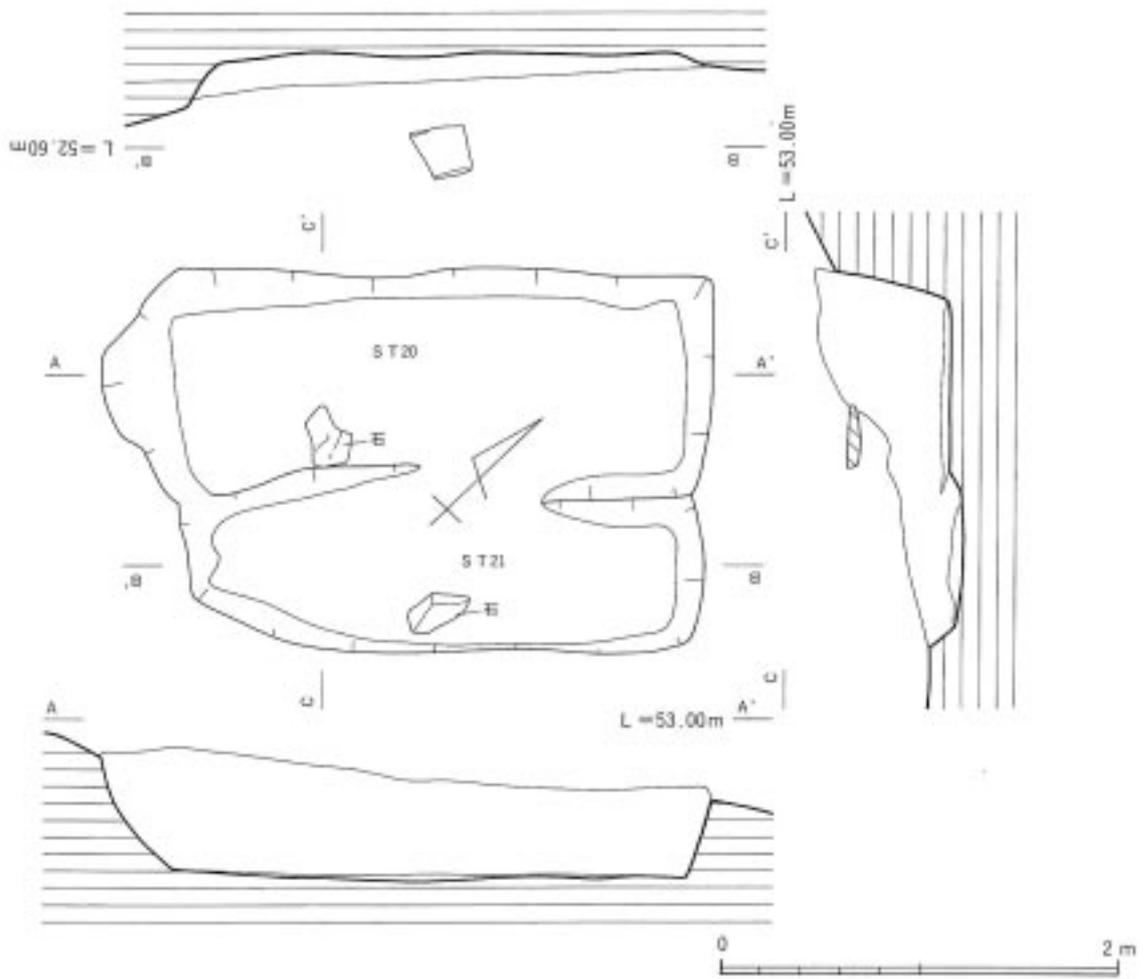
第 85 図 S T 17 実測図 (S = 1 : 40)



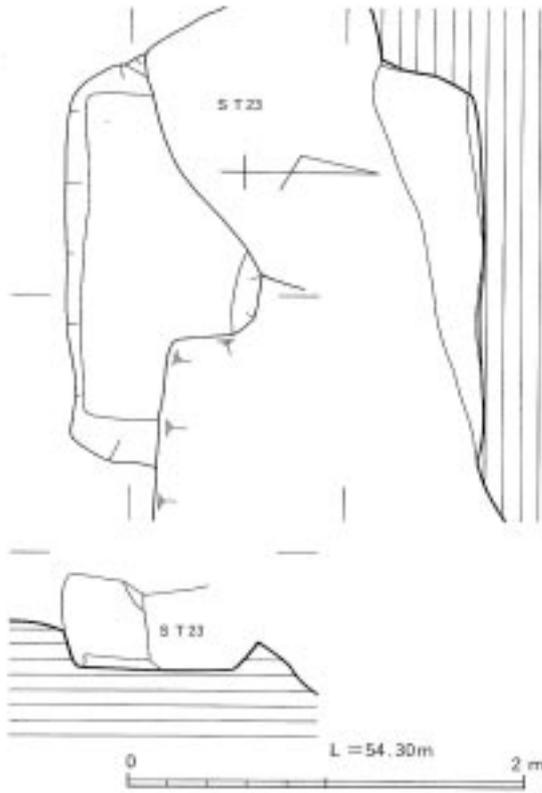
第 86 図 S T 18 実測図 (S = 1 : 40)



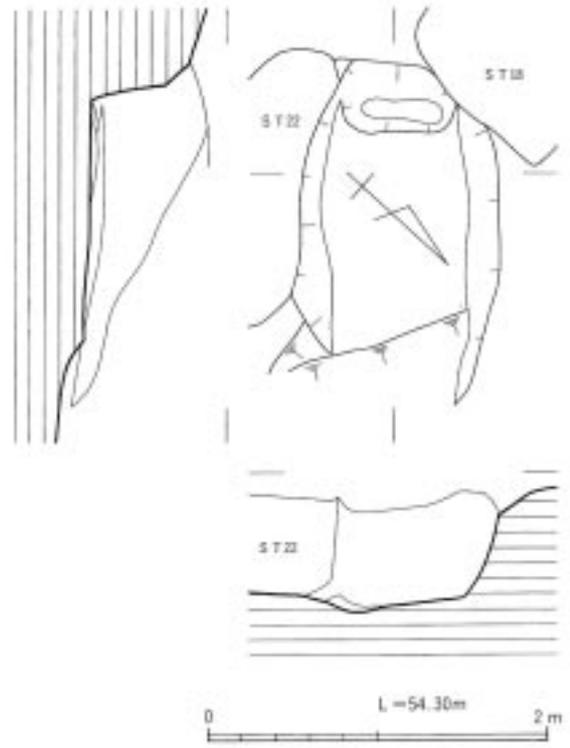
第 87 図 S T 19 実測図 (S = 1 : 40)



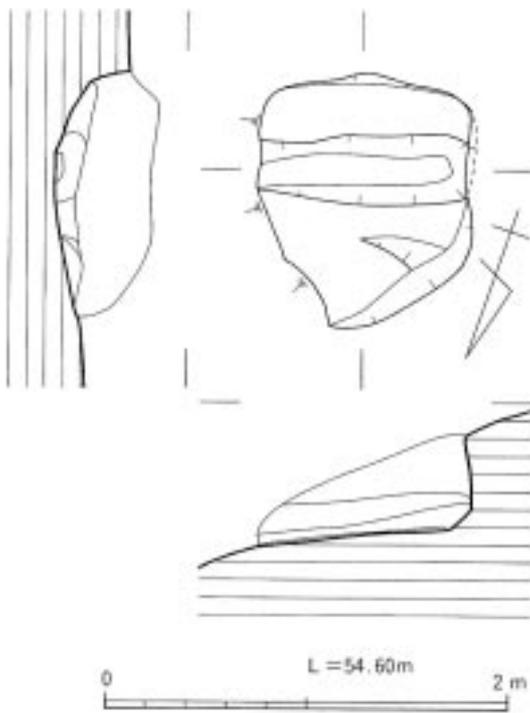
第 88 図 S T 20 · 21 実測図 (S = 1 : 40)



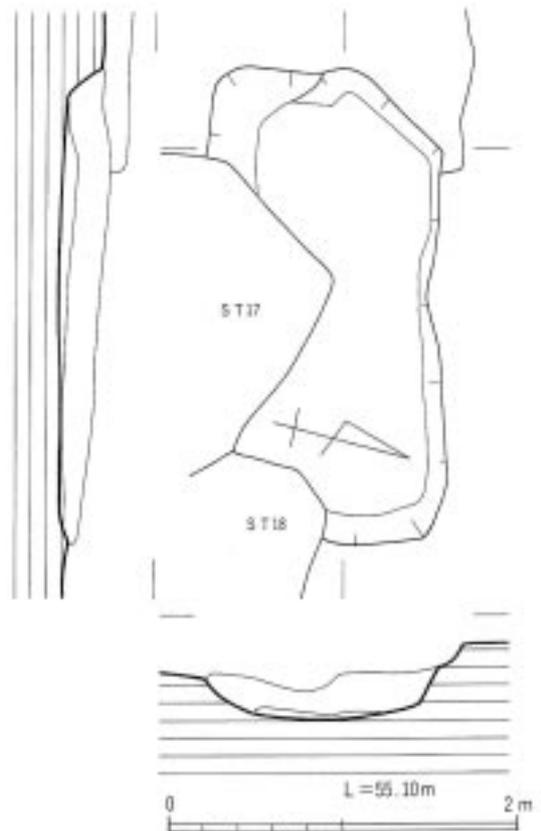
第89図 ST 22実測図 (S = 1 : 40)



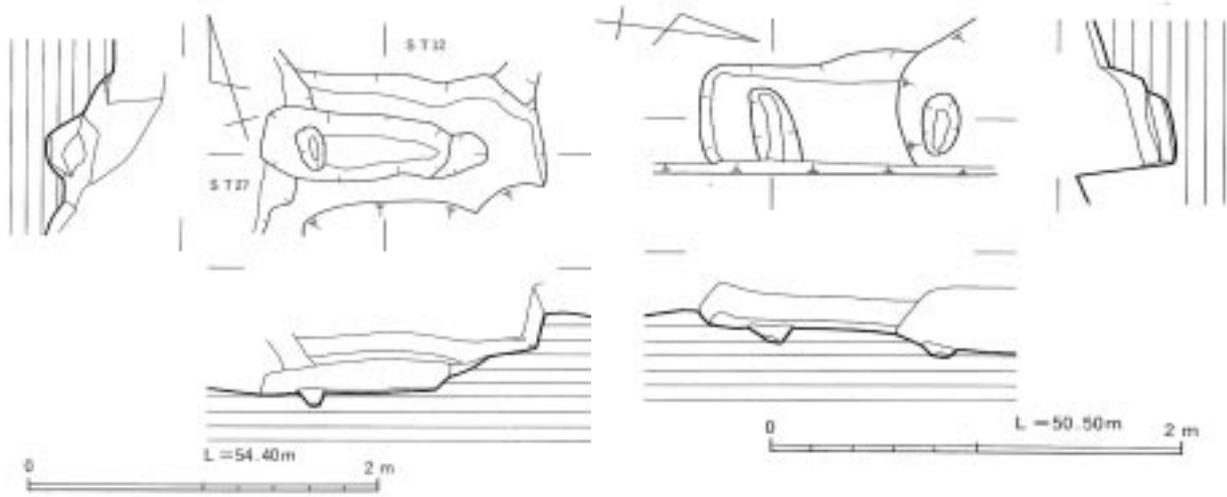
第90図 ST 23実測図 (S = 1 : 40)



第91図 ST 24実測図 (S = 1 : 40)

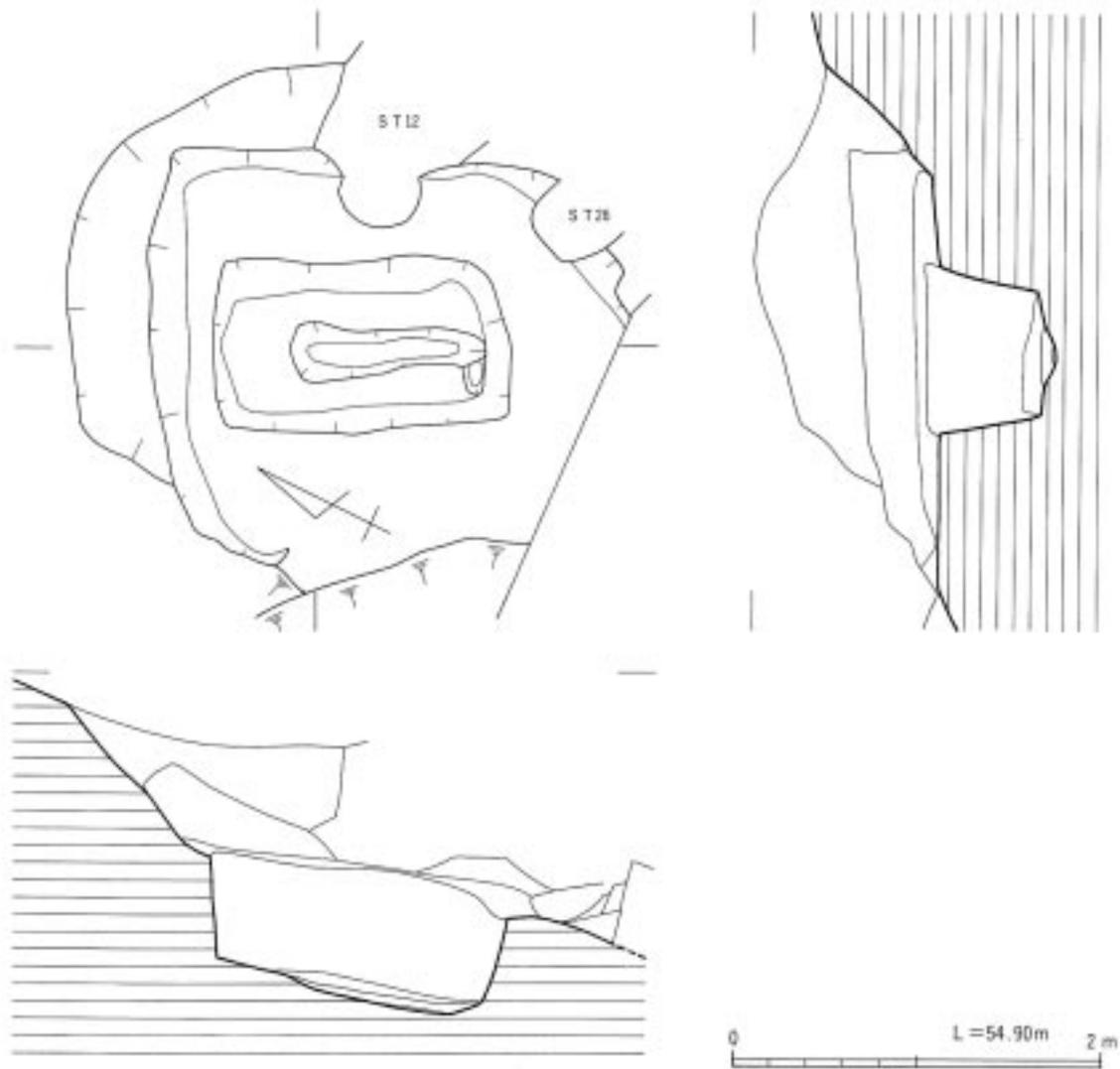


第92図 ST 25実測図 (S = 1 : 40)

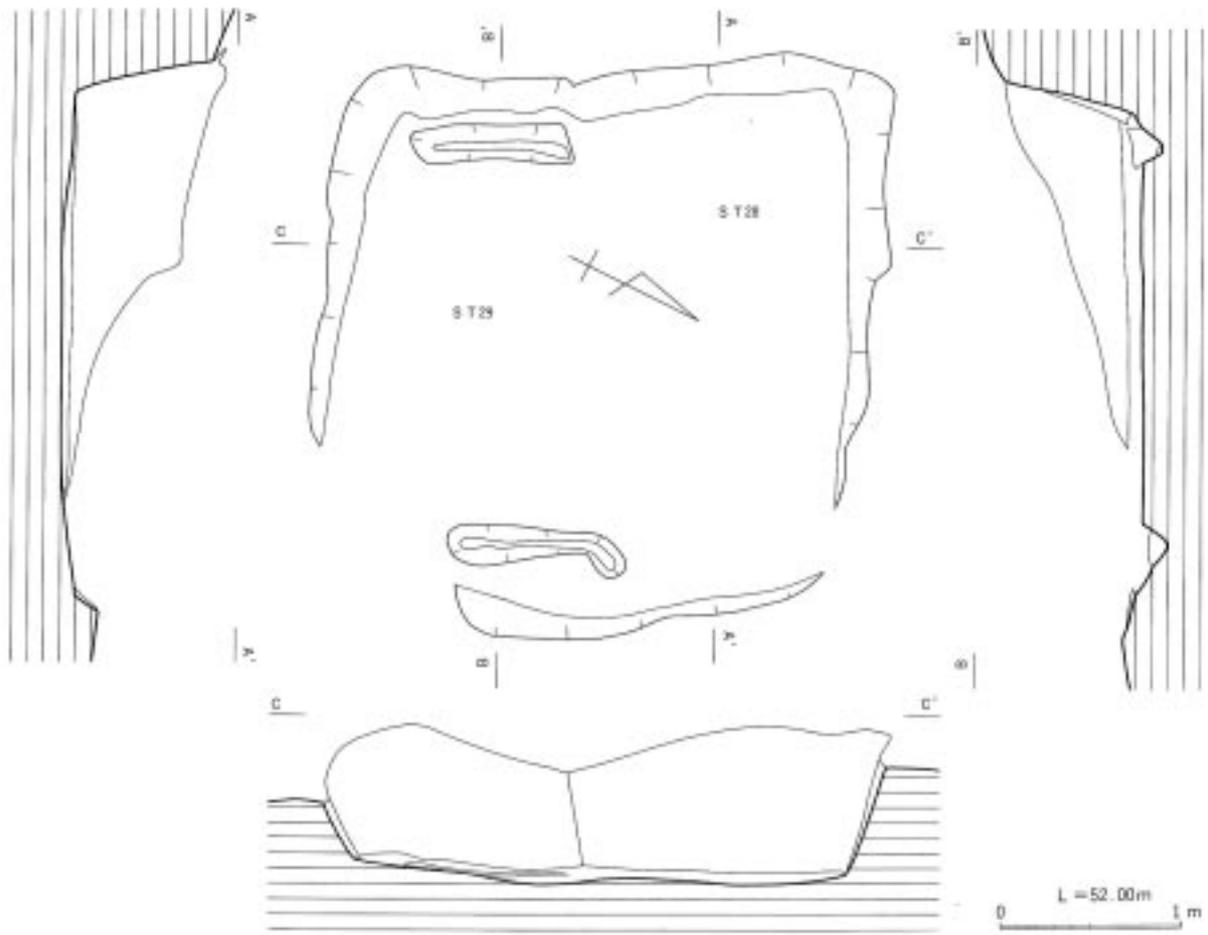


第93図 S T 26実測図 (S = 1 : 40)

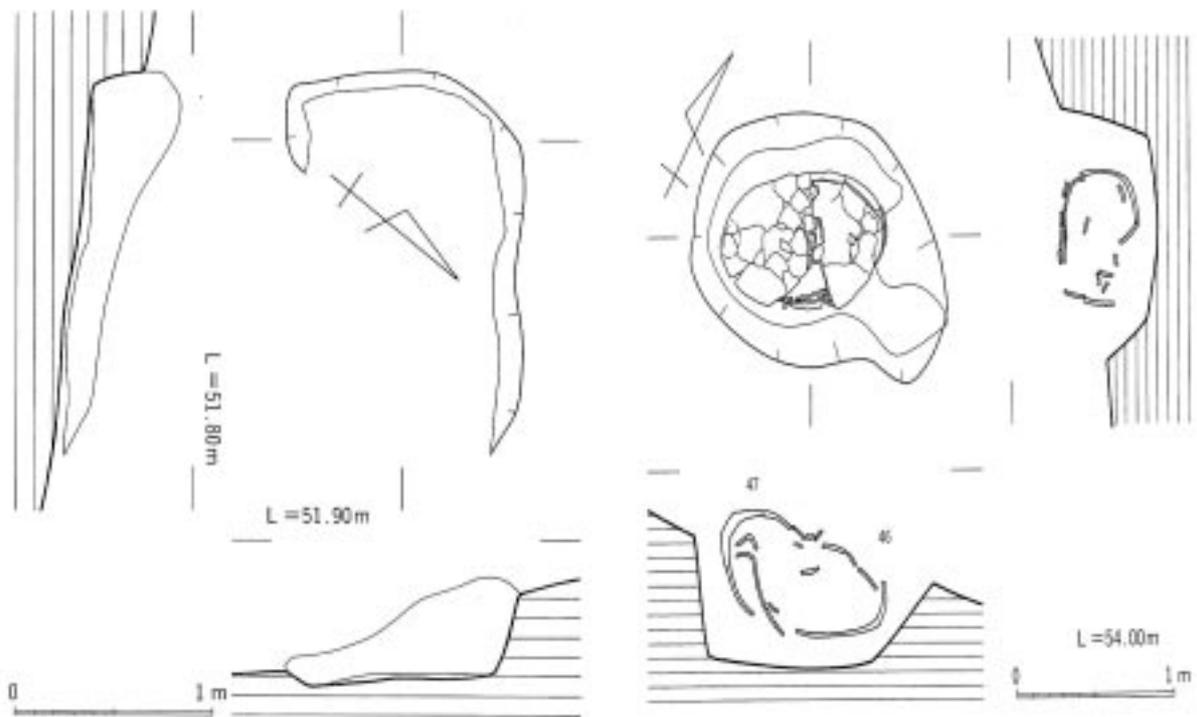
第94図 S T 30実測図 (S = 1 : 40)



第95図 S T 27実測図 (S = 1 : 40)

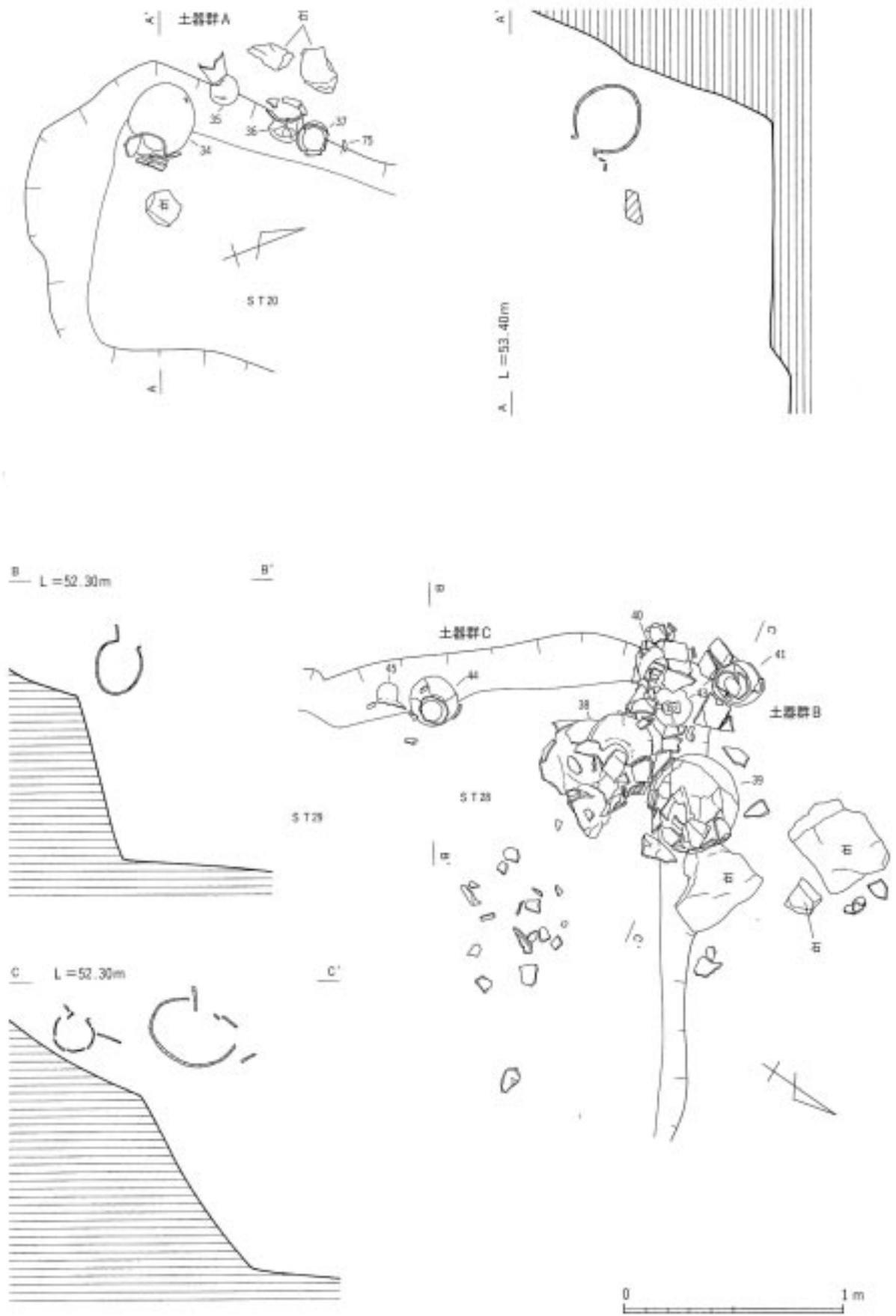


第96図 S T 28・29実測図 (S = 1 : 40)

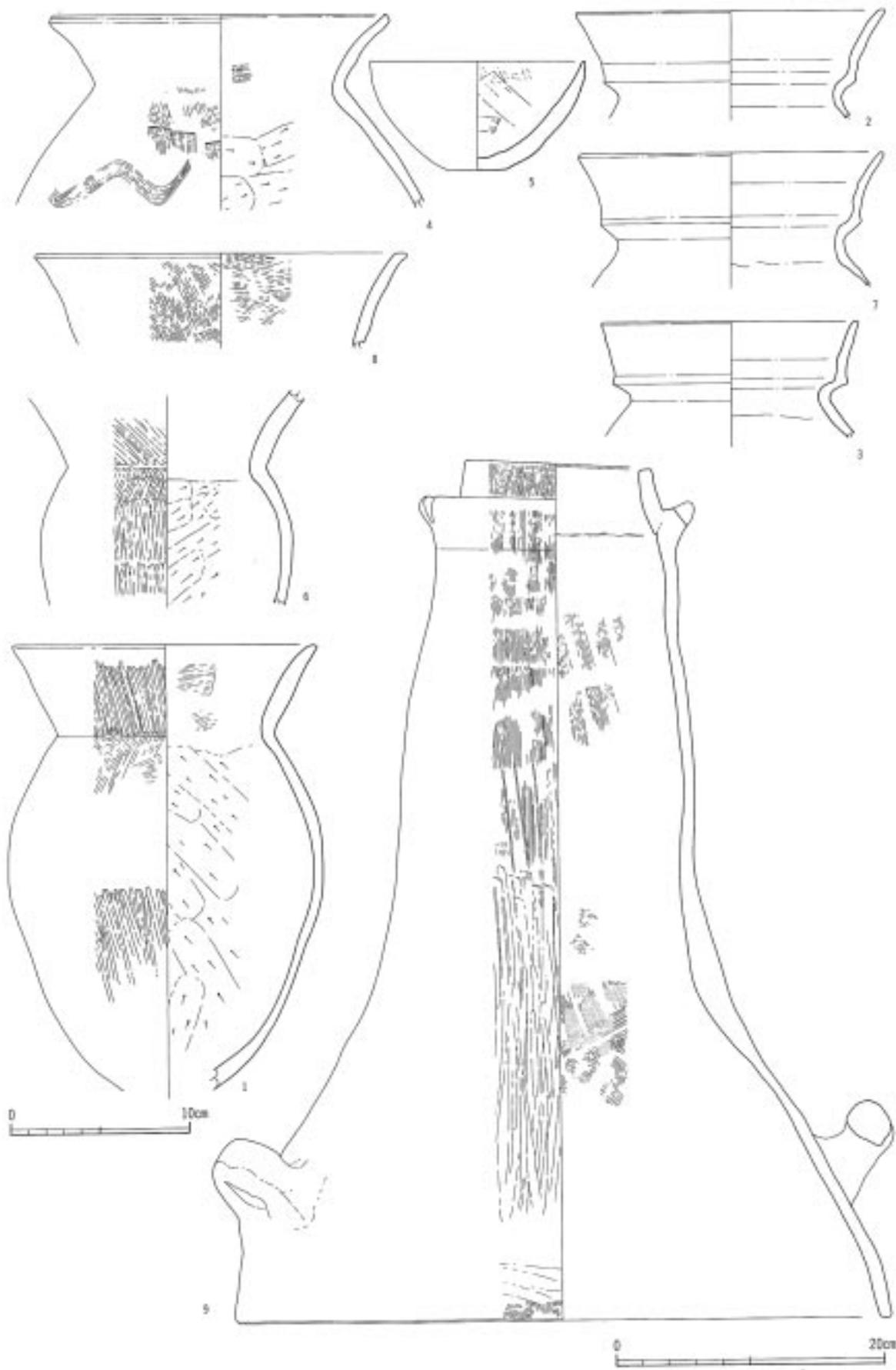


第97図 S T 31実測図 (S = 1 : 40)

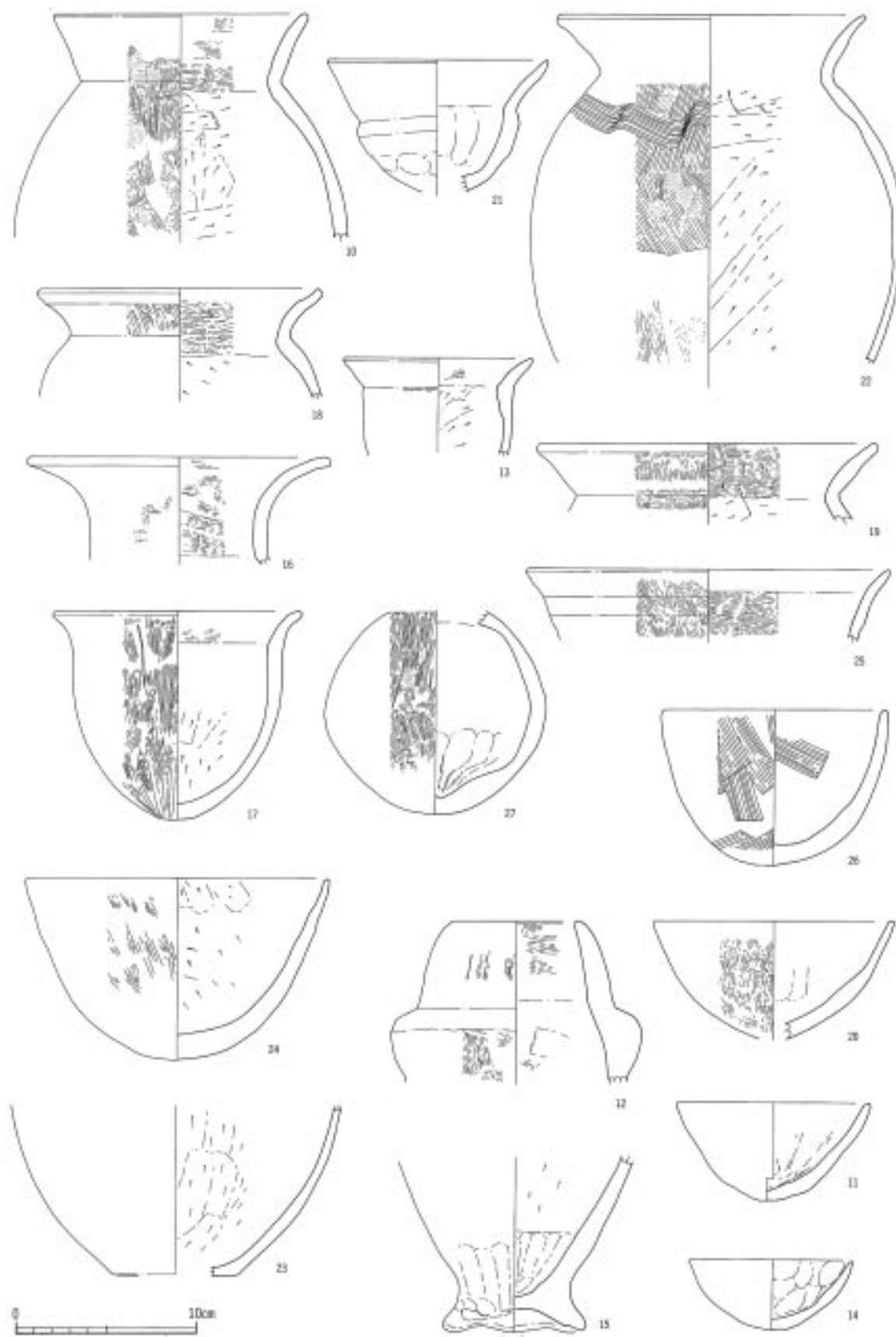
第98図 S P 1実測図 (S = 1 : 40)



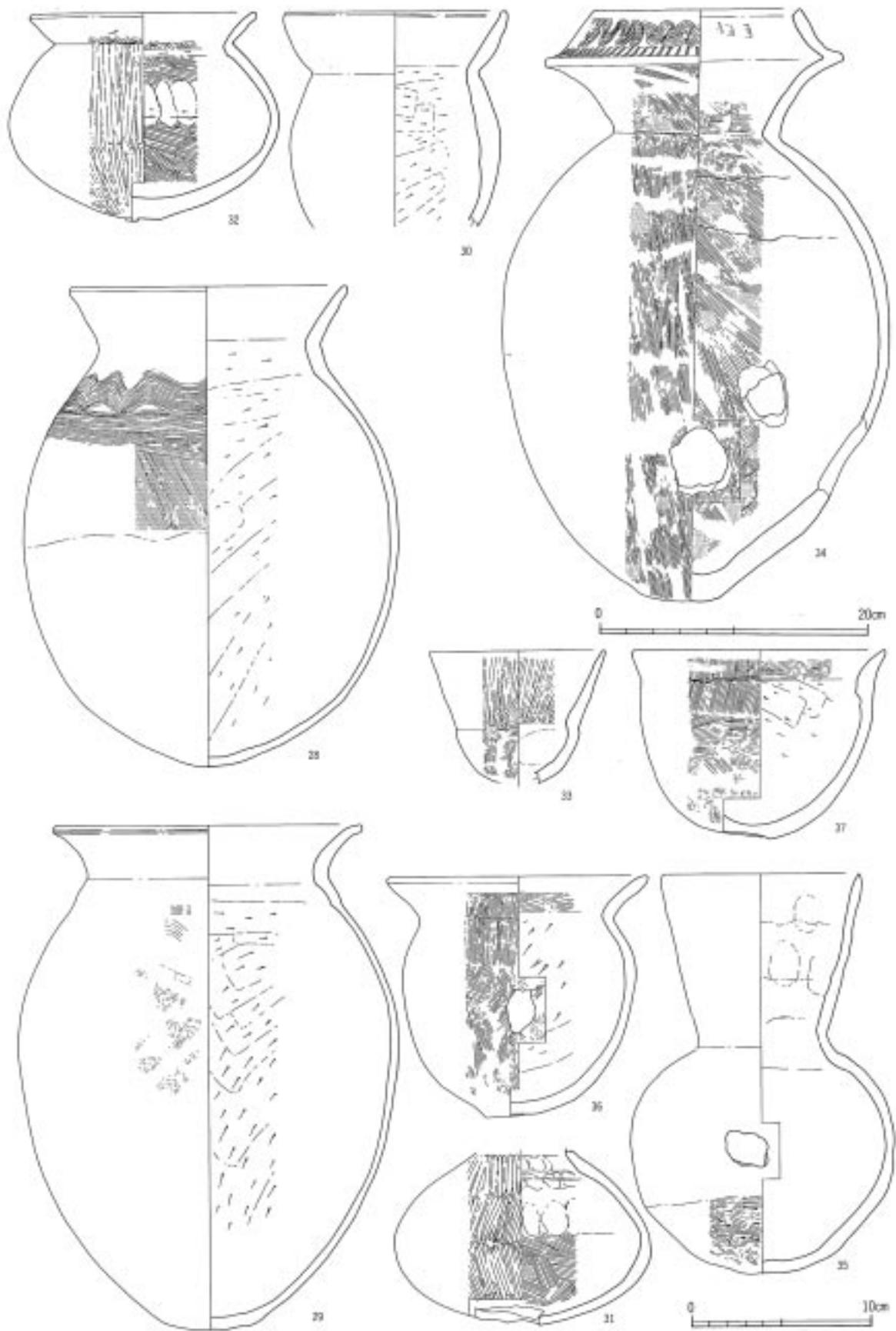
第99図 土器群A・B・C実測図 (S=1:25)



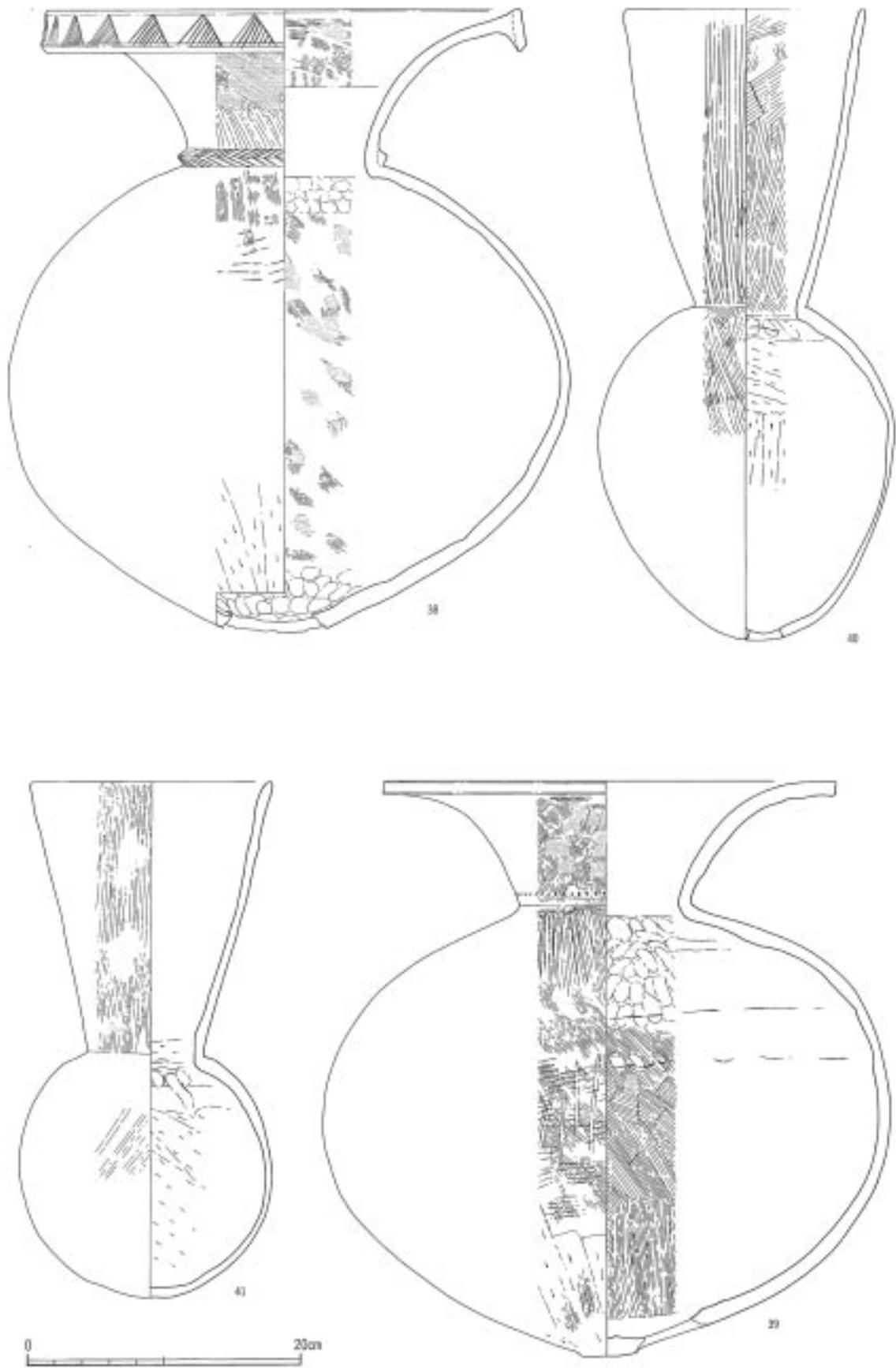
第 100 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 1 ] ( S = 1 : 3 , 9 - S = 1 : 4 )



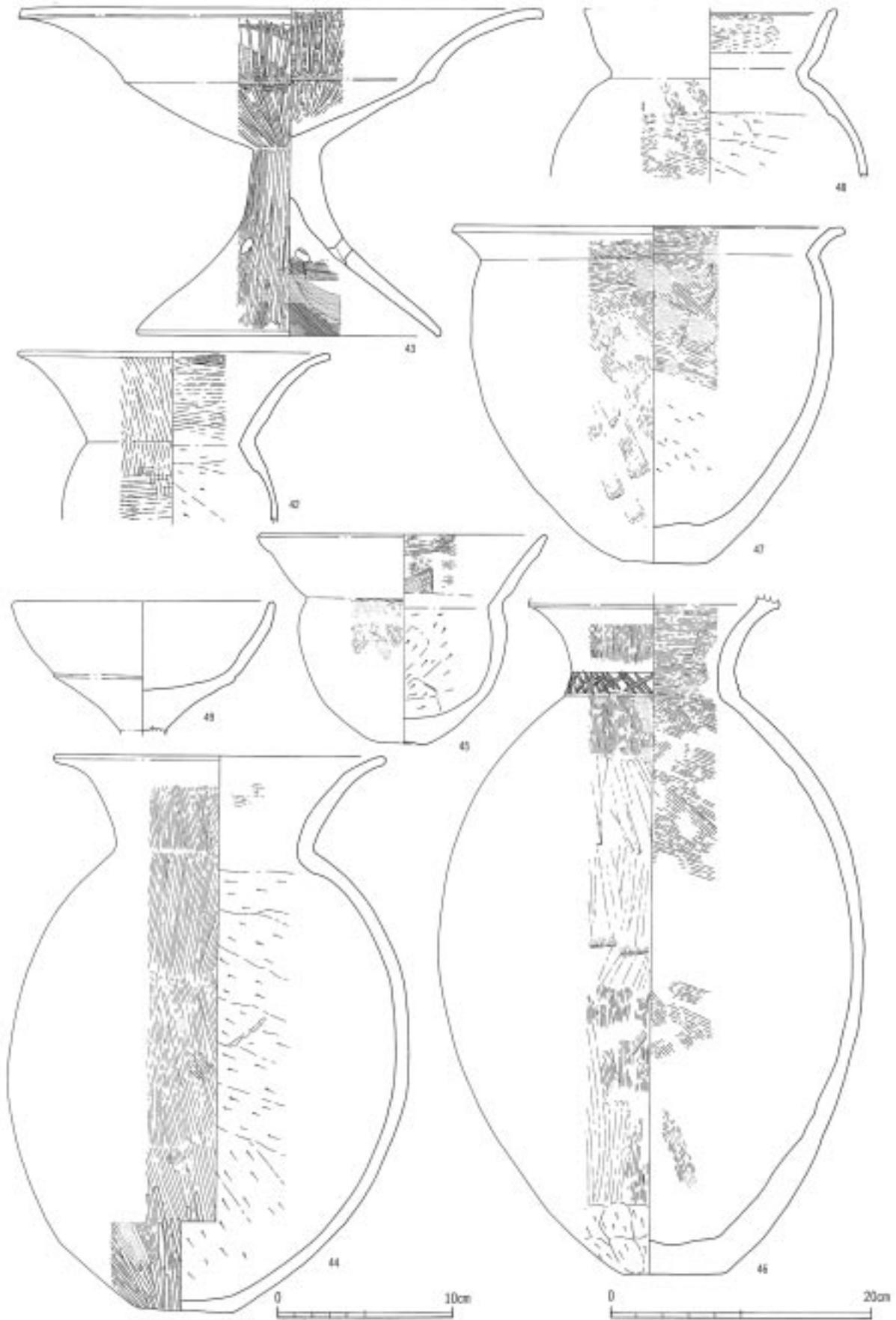
第 101 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 2 ] ( S = 1 : 3 )



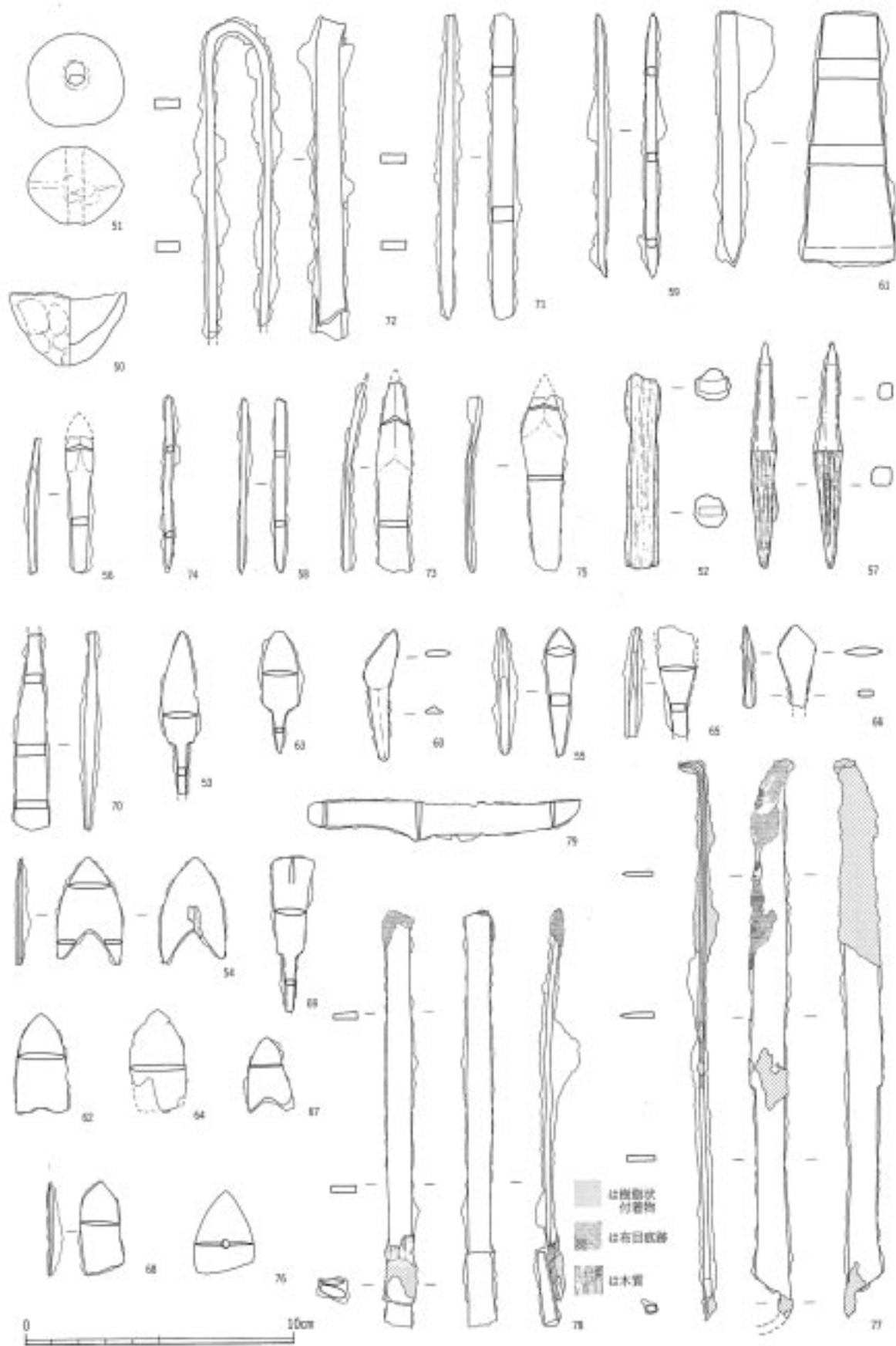
第 102 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 3 ] ( S = 1 : 3 , 34 - S = 1 : 4 )



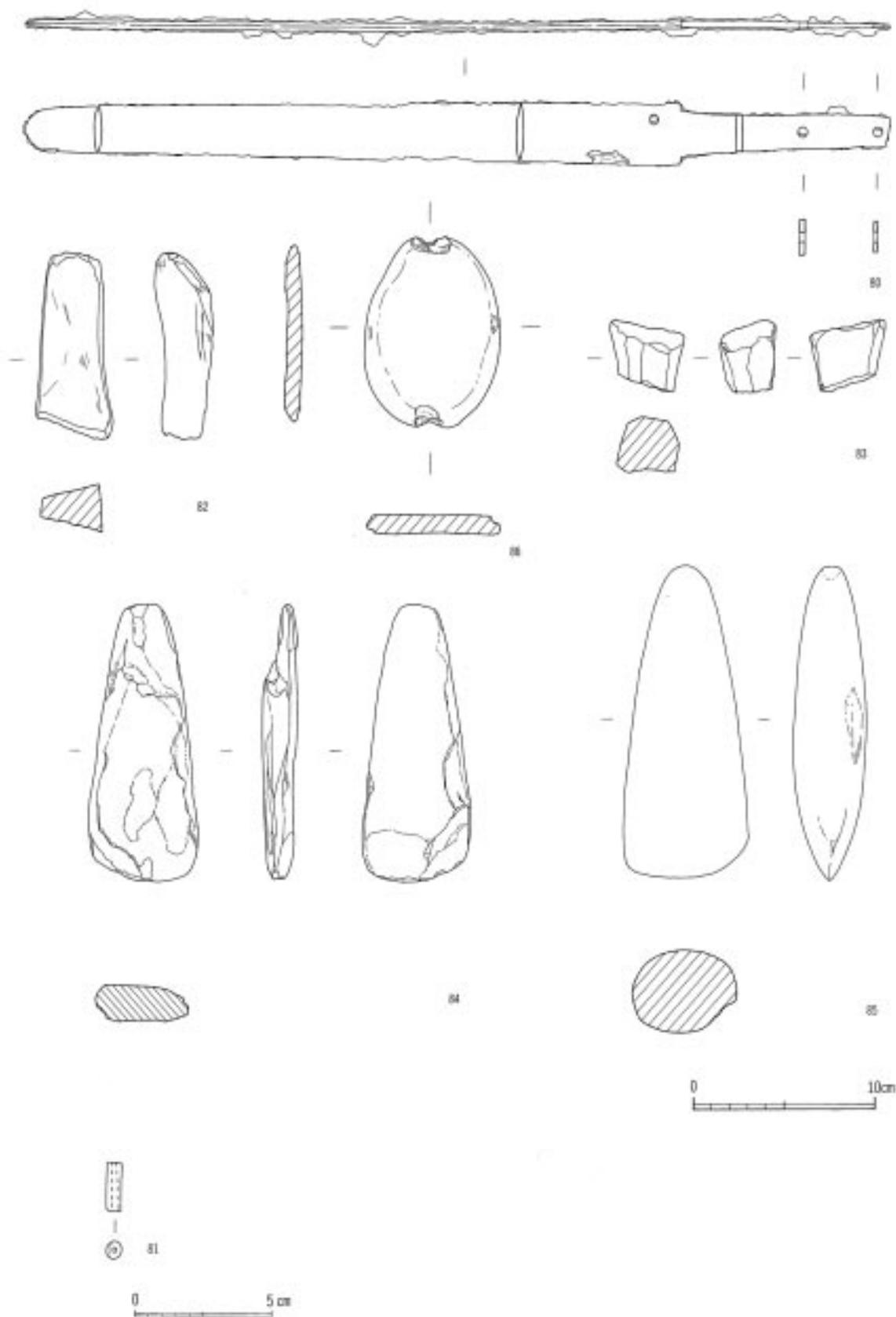
第 103 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 4 ] ( S = 1 : 4 )



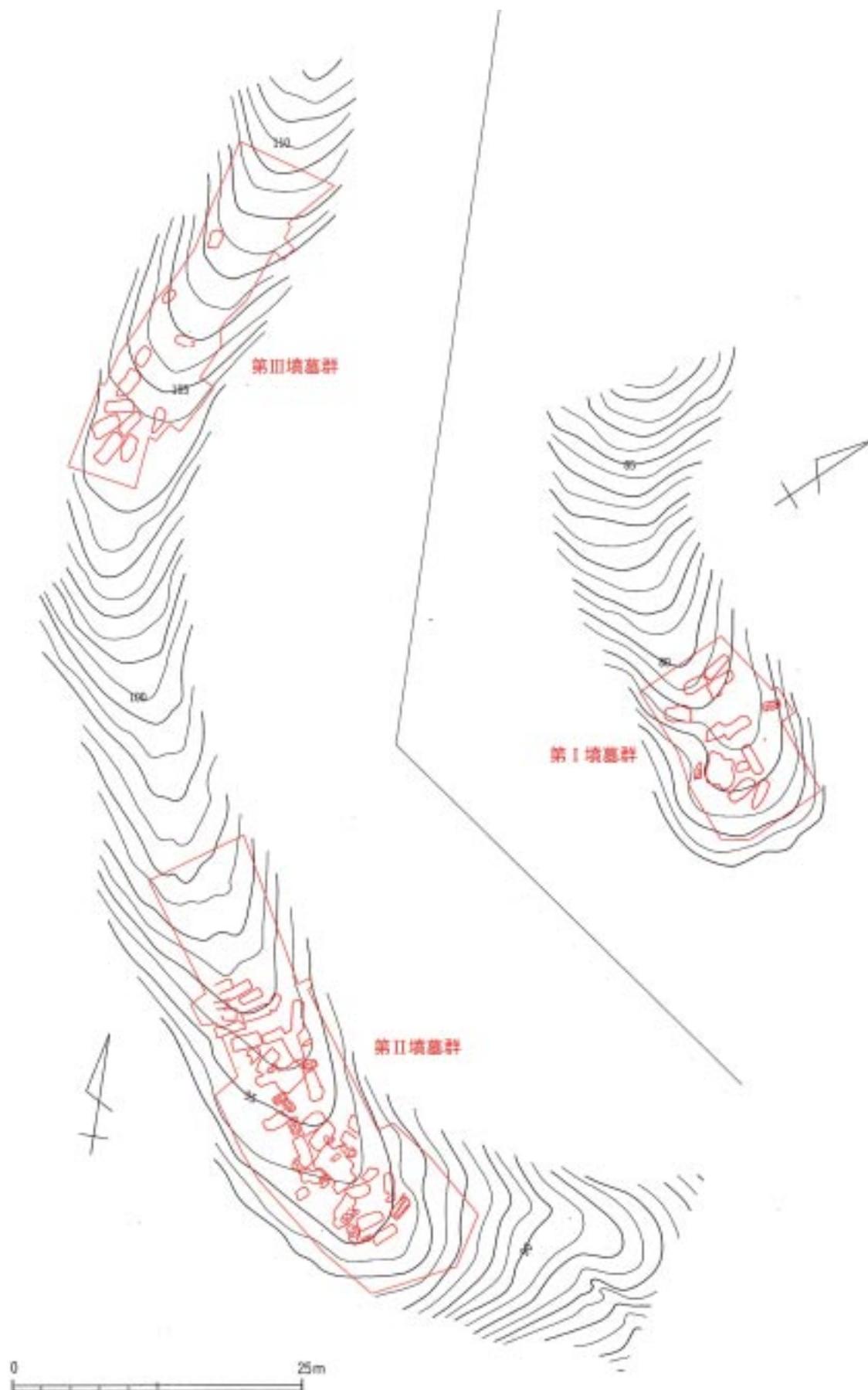
第 104 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 5 ] ( S = 1 : 3 , 46 · 47 - S = 1 : 4 )



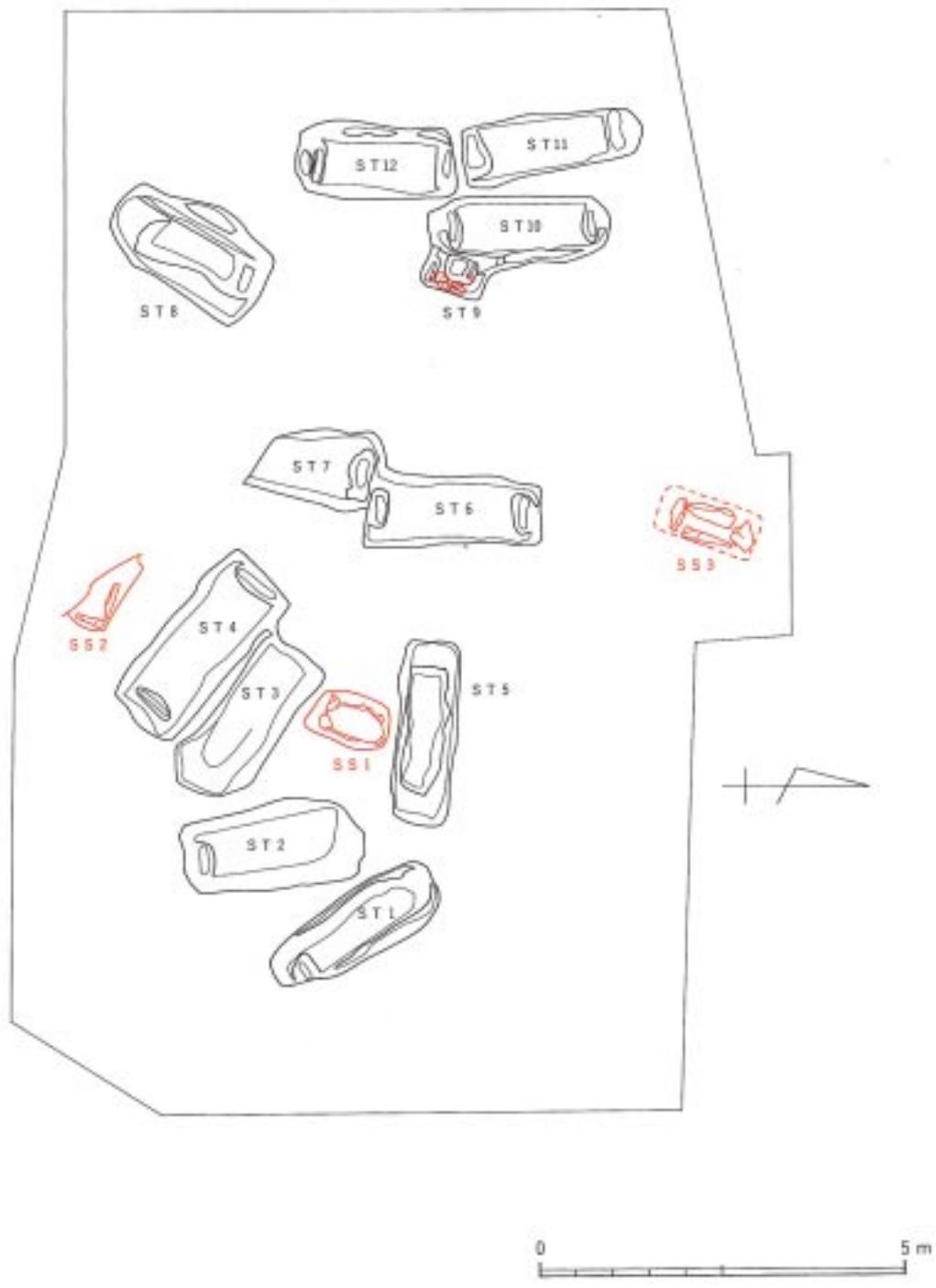
第 105 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 6 ] ( S = 1 : 2 )



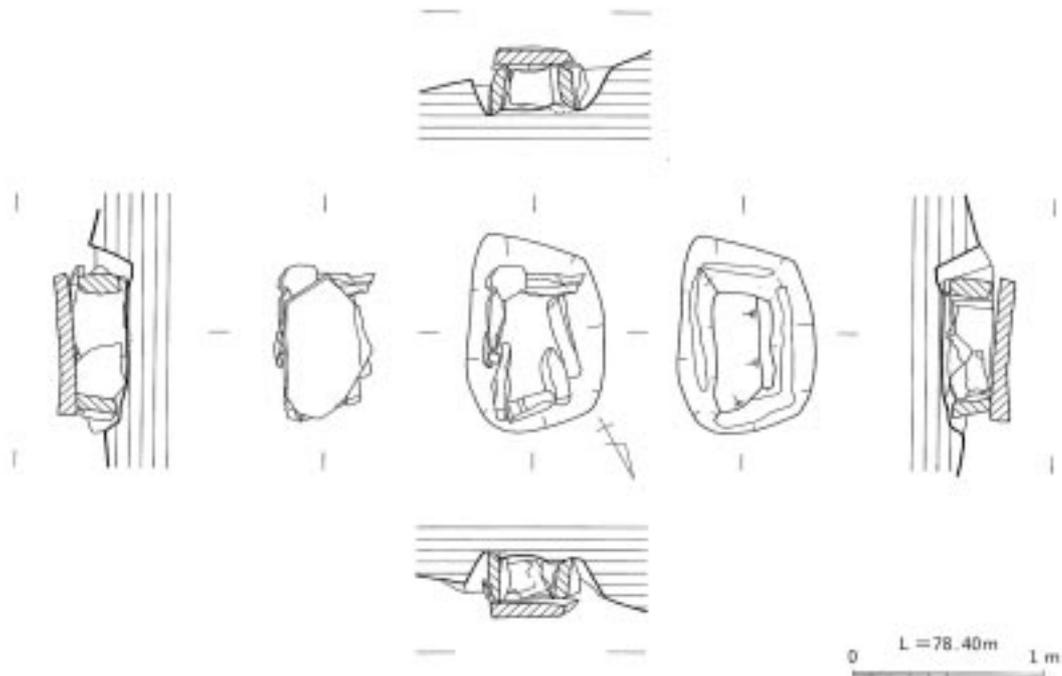
第 106 図 大町七九谷 B 地点遺跡出土遺物実測図 [ 7 ] ( S = 1 : 3 , 81 - S = 1 : 2 )



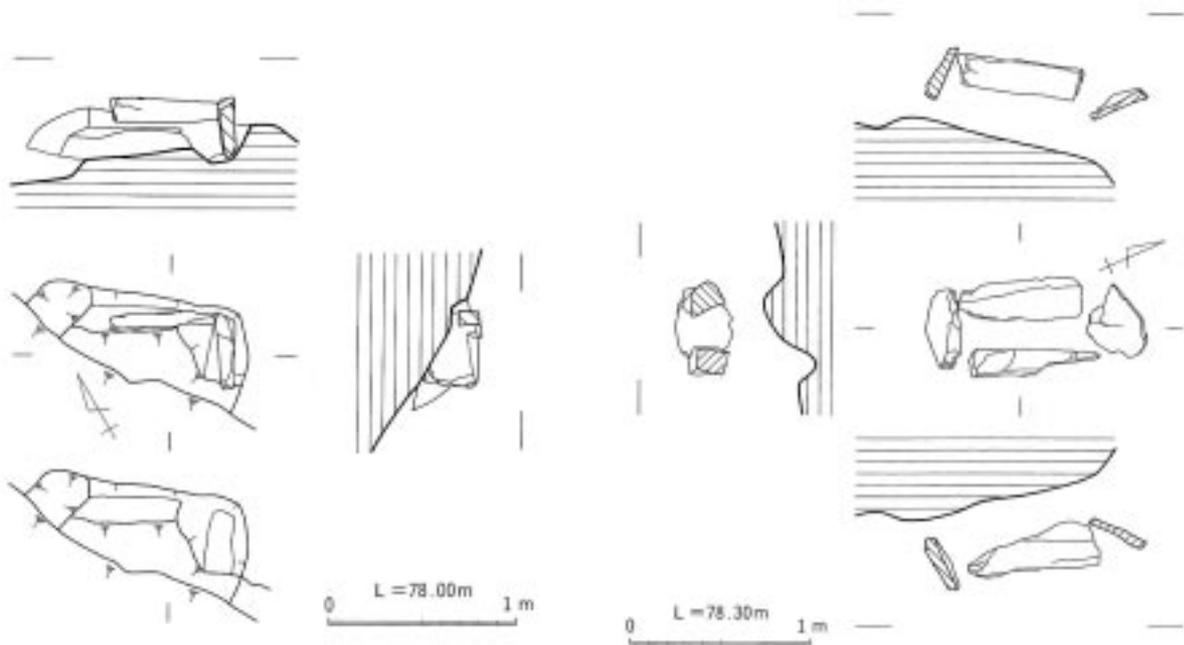
第 107 図 大町七九谷 C 地点遺跡遺構配置図 (S = 1 : 100)



第 108 図 大町七九谷 C 地点遺跡第 I 墳墓群遺構配置図 (S = 1 : 100)

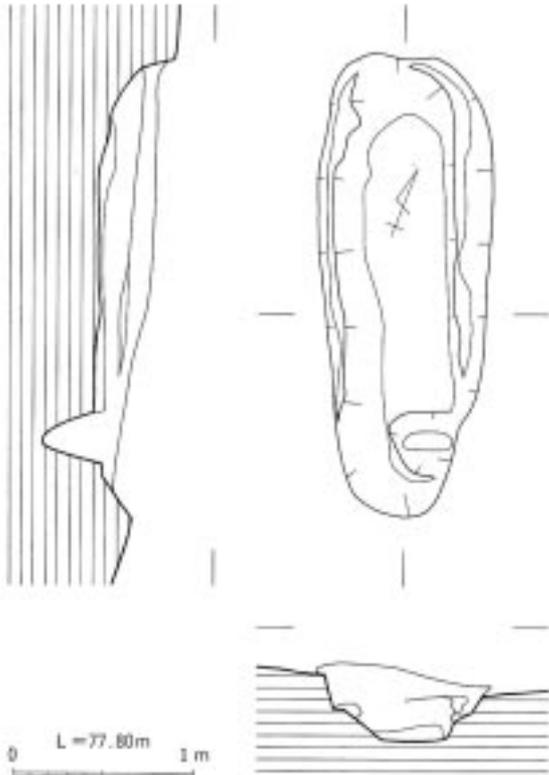


第109図 S S 1 実測図 (S = 1 : 40)

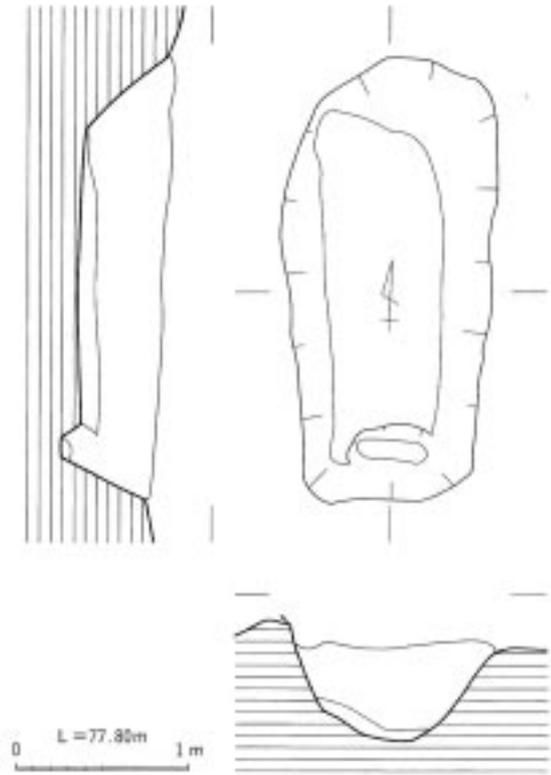


第110図 S S 2 実測図 (S = 1 : 40)

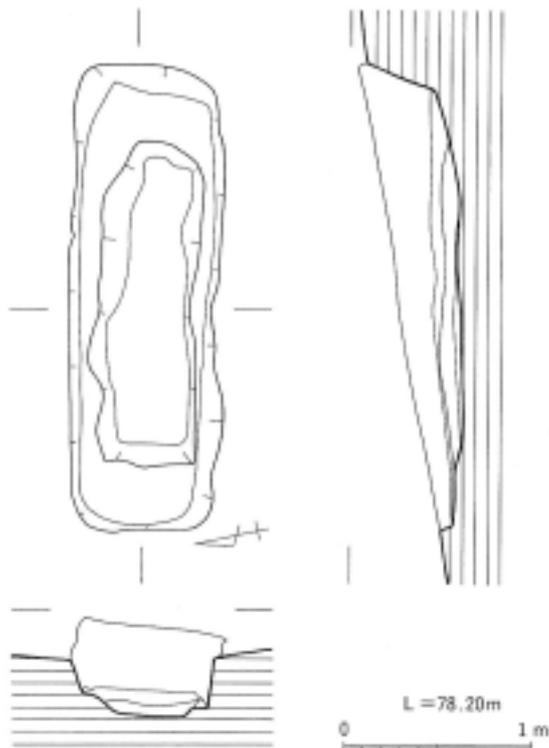
第111図 S S 3 実測図 (S = 1 : 40)



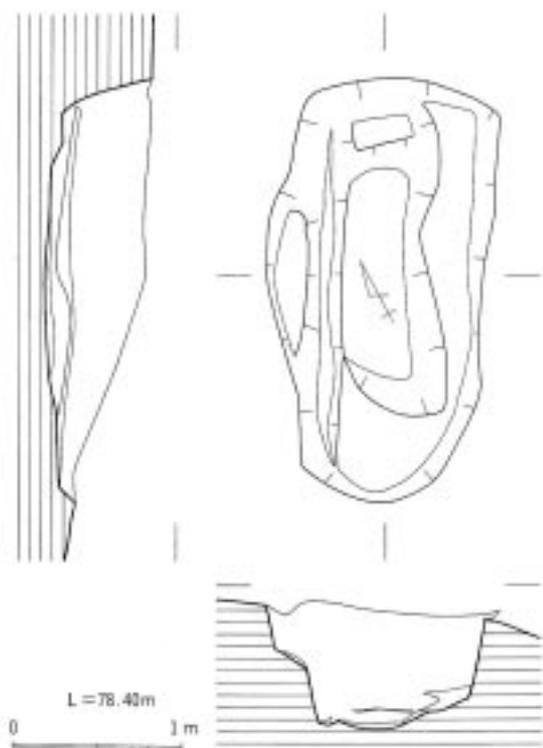
第 112 図 S T 1 実測図 (S = 1 : 40)



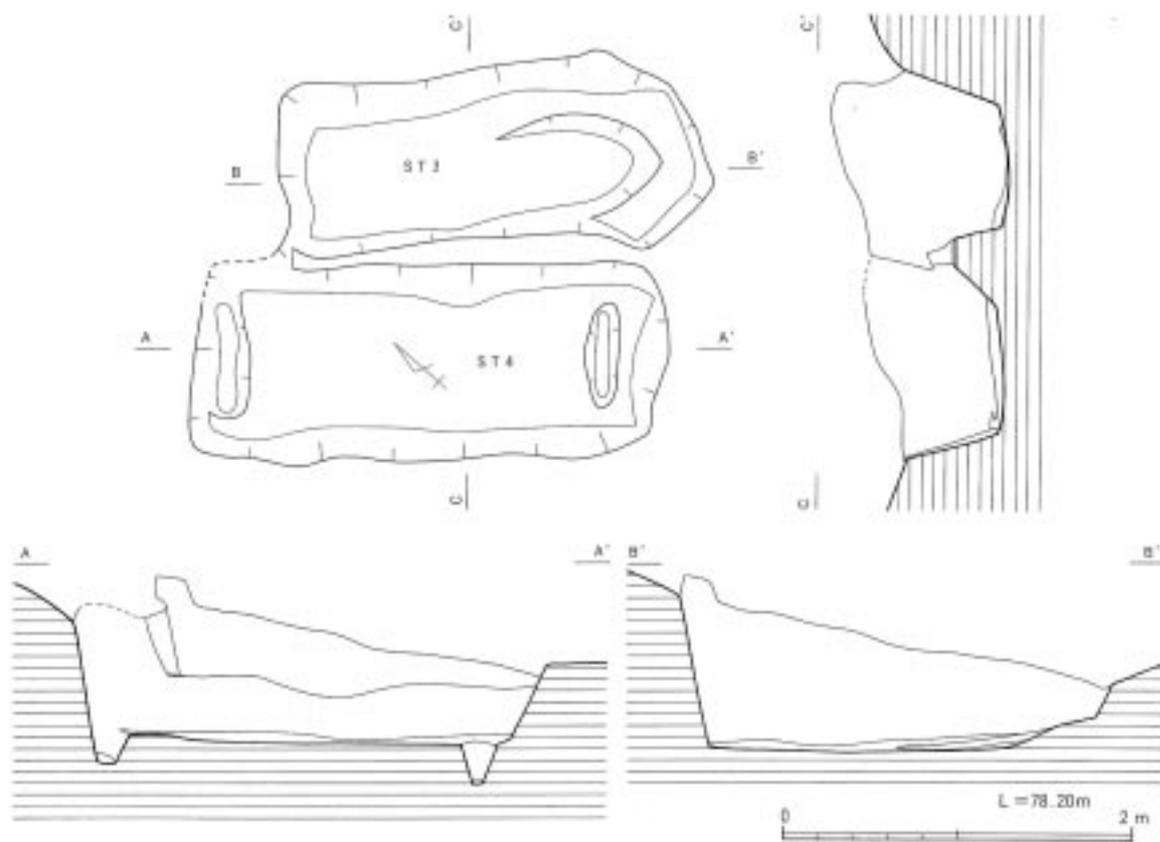
第 113 図 S T 2 実測図 (S = 1 : 40)



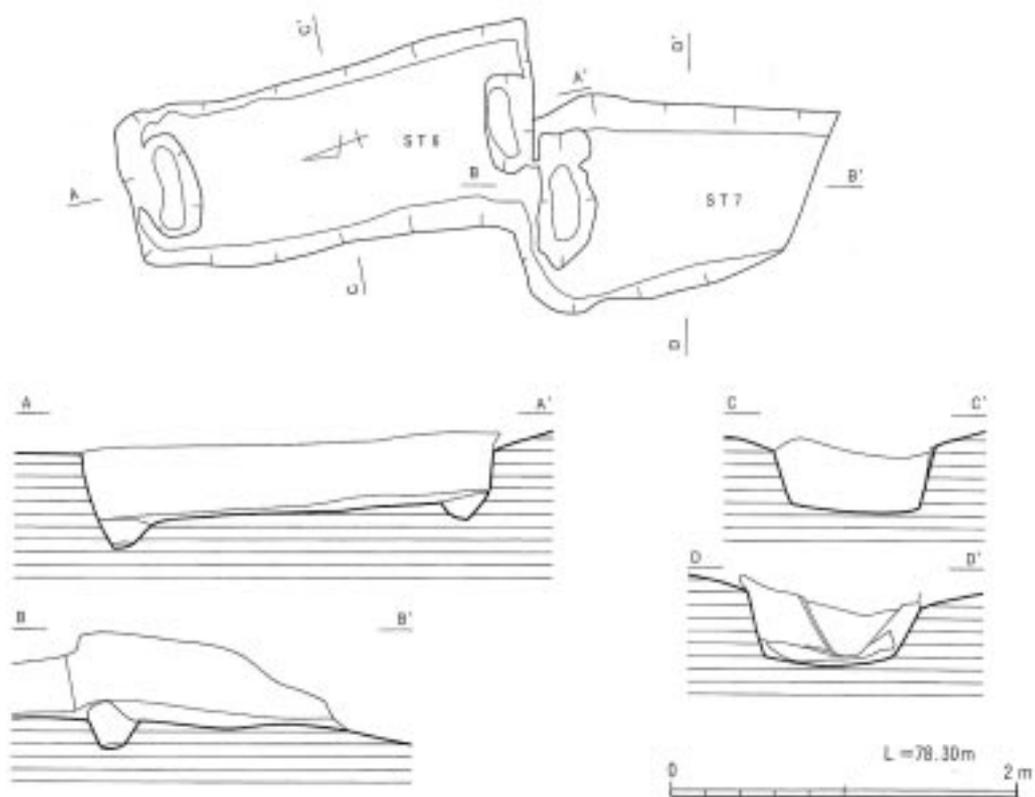
第 114 図 S T 5 実測図 (S = 1 : 40)



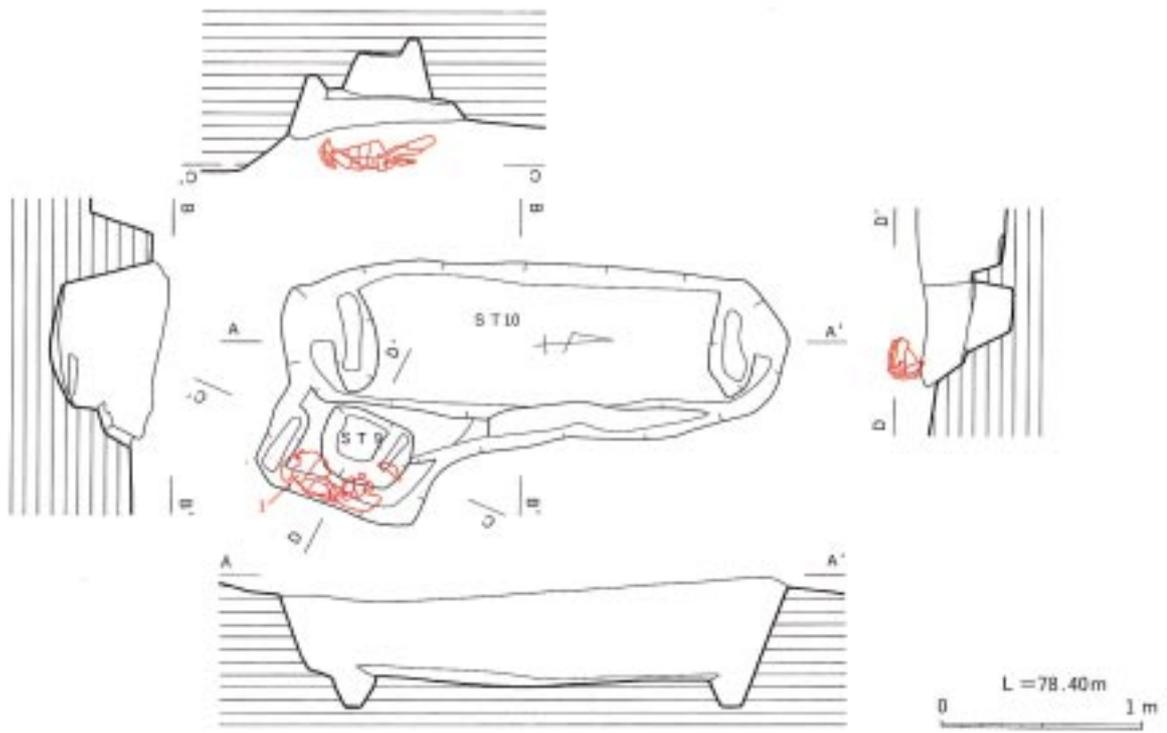
第 115 図 S T 8 実測図 (S = 1 : 40)



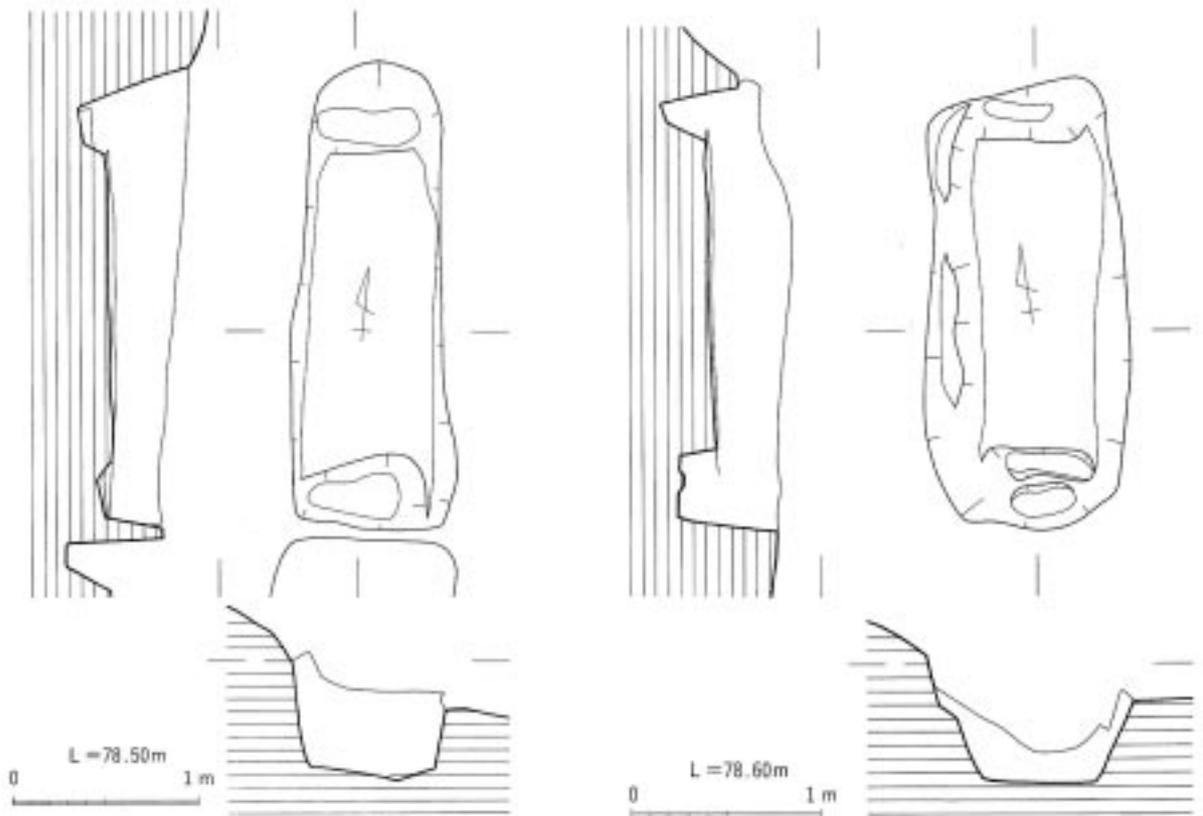
第116図 ST 3・4 実測図 (S = 1 : 40)



第117図 ST 6・7 実測図 (S = 1 : 40)



第 118 図 S T 9 ・ 10 実測図 ( S = 1 : 40 )



第 119 図 S T 11 実測図 ( S = 1 : 40 )

第 120 図 S T 12 実測図 ( S = 1 : 40 )

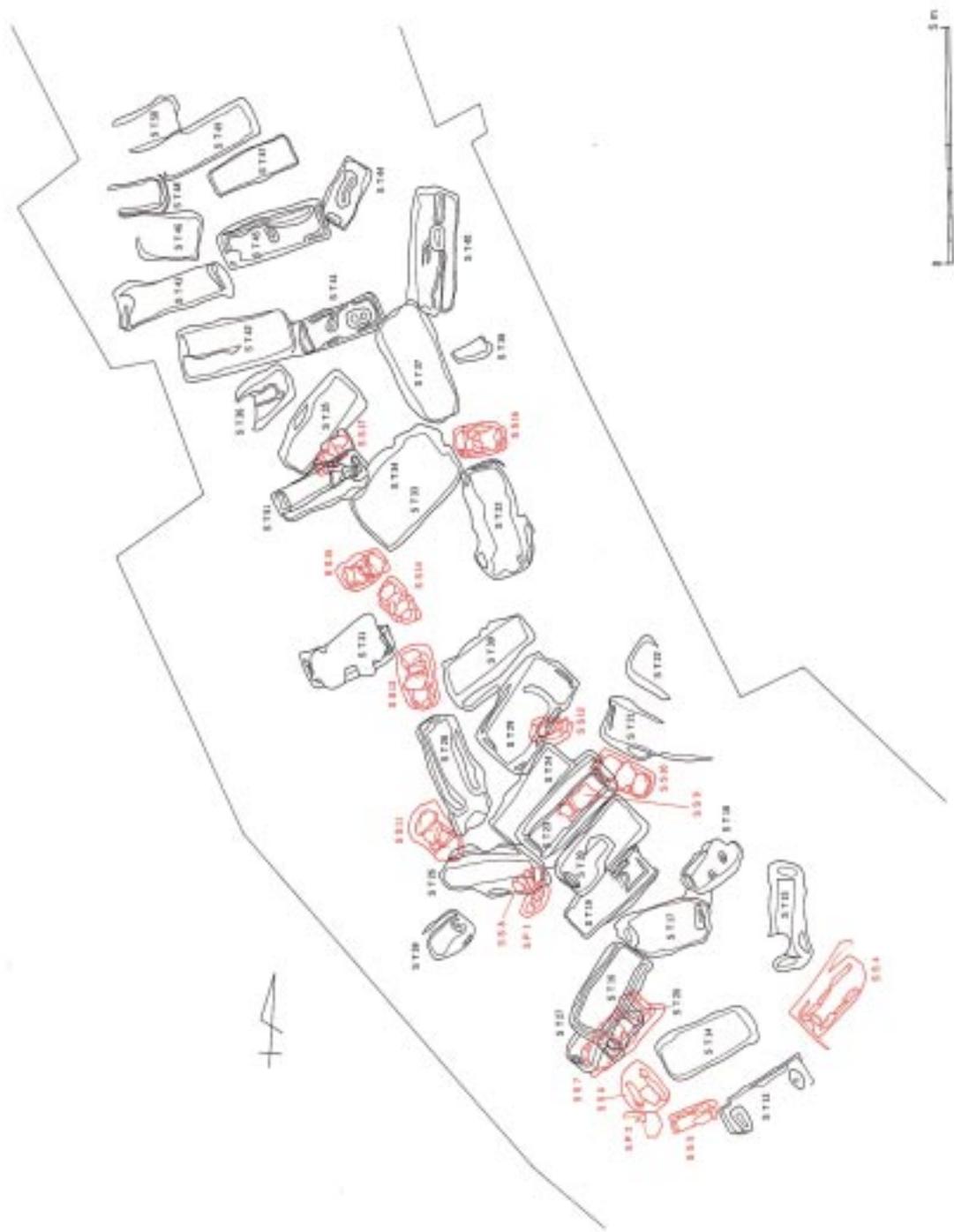
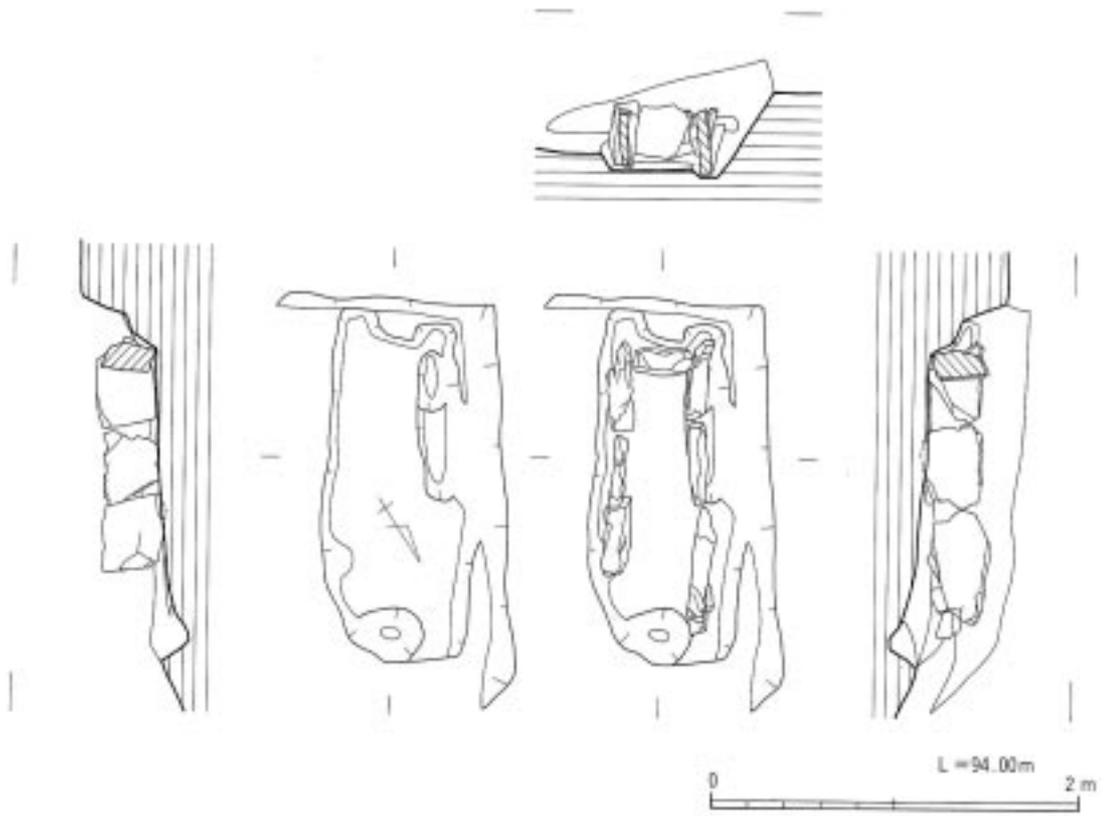
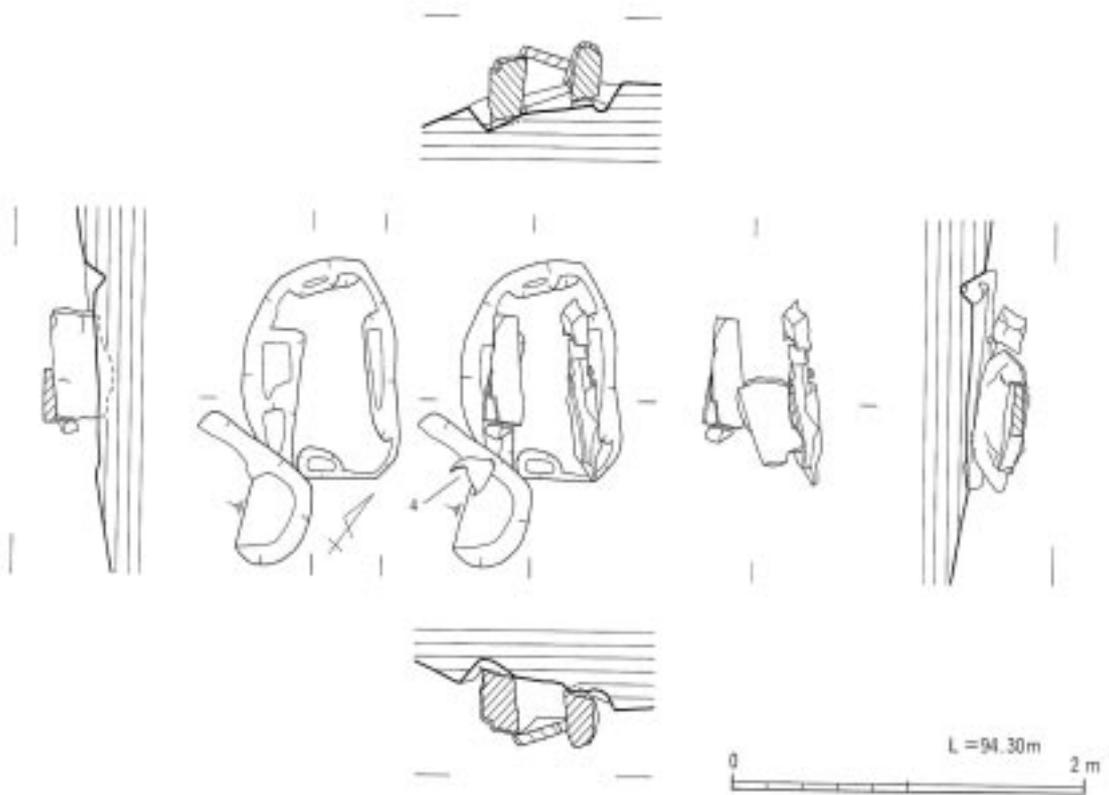


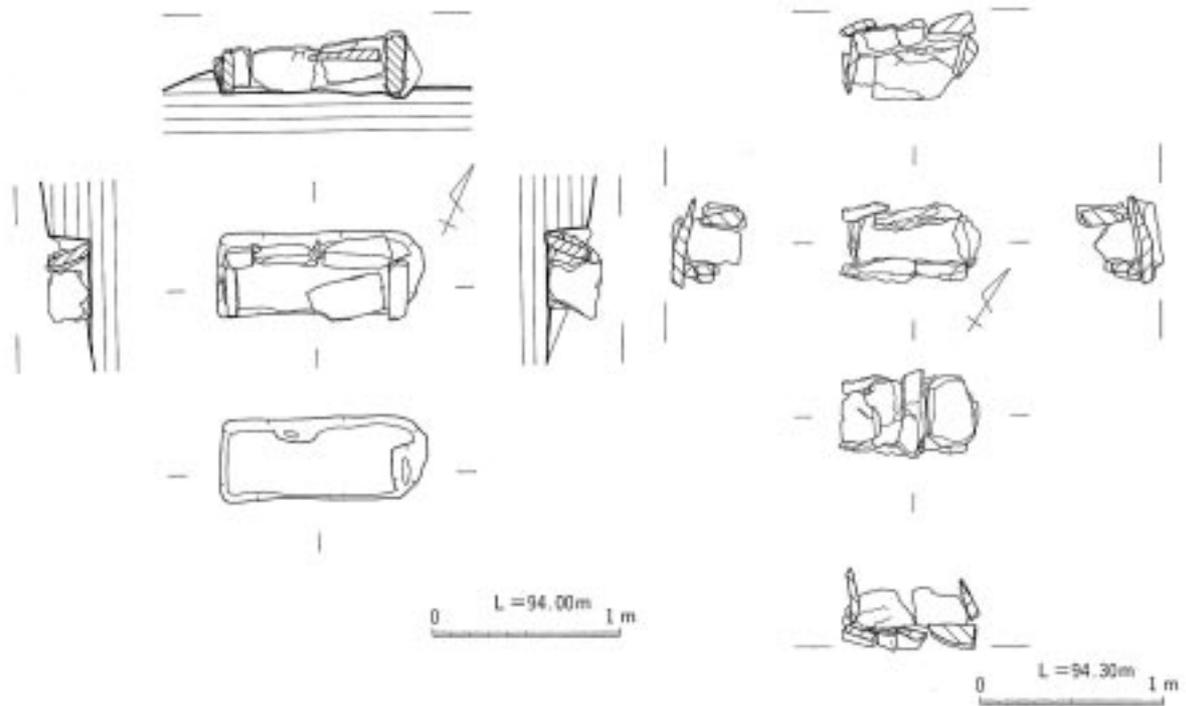
圖121 大町七九番C地点遺跡第II墳墓群遺構配置圖 (S = 1 : 100)



第122図 S S 4 実測図 (S = 1 : 40)

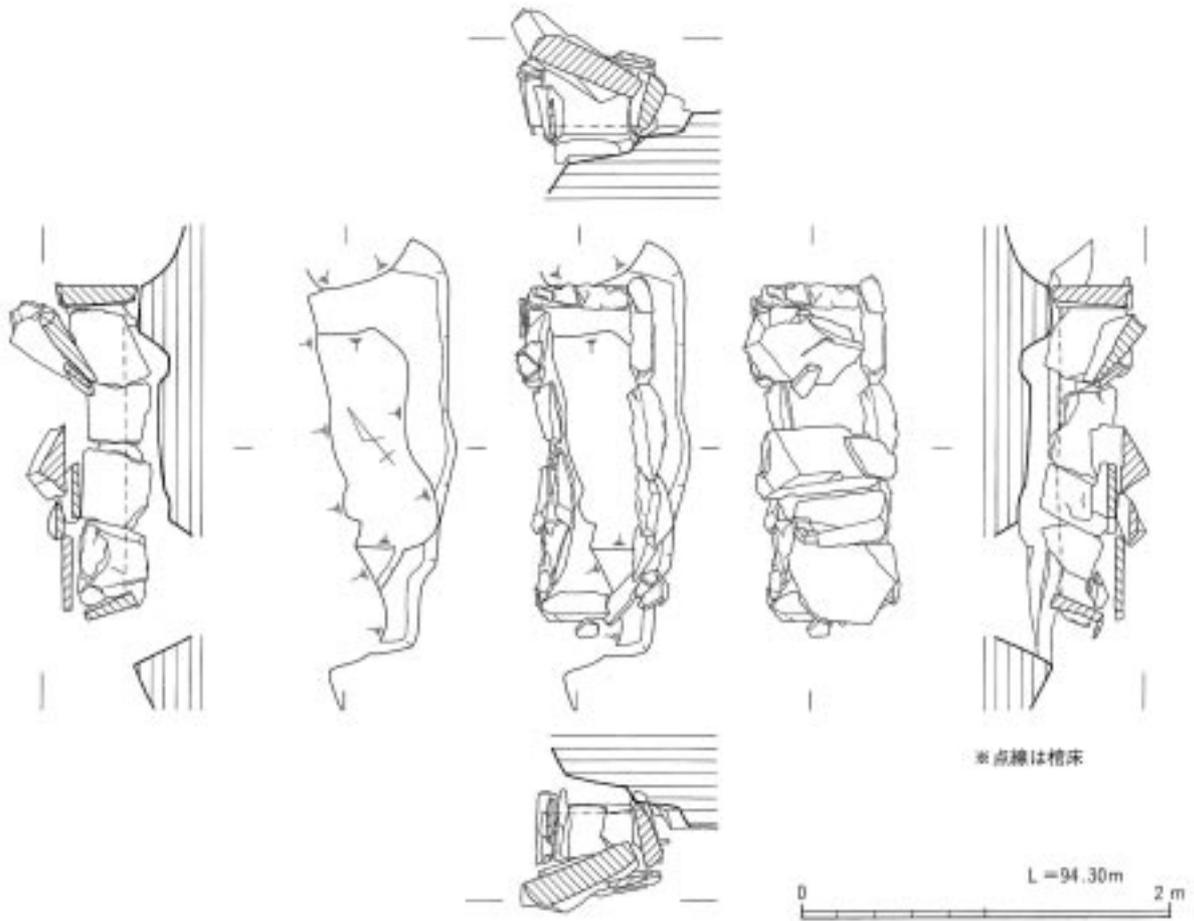


第123図 S S 6 · S P 2 実測図 (S = 1 : 40)

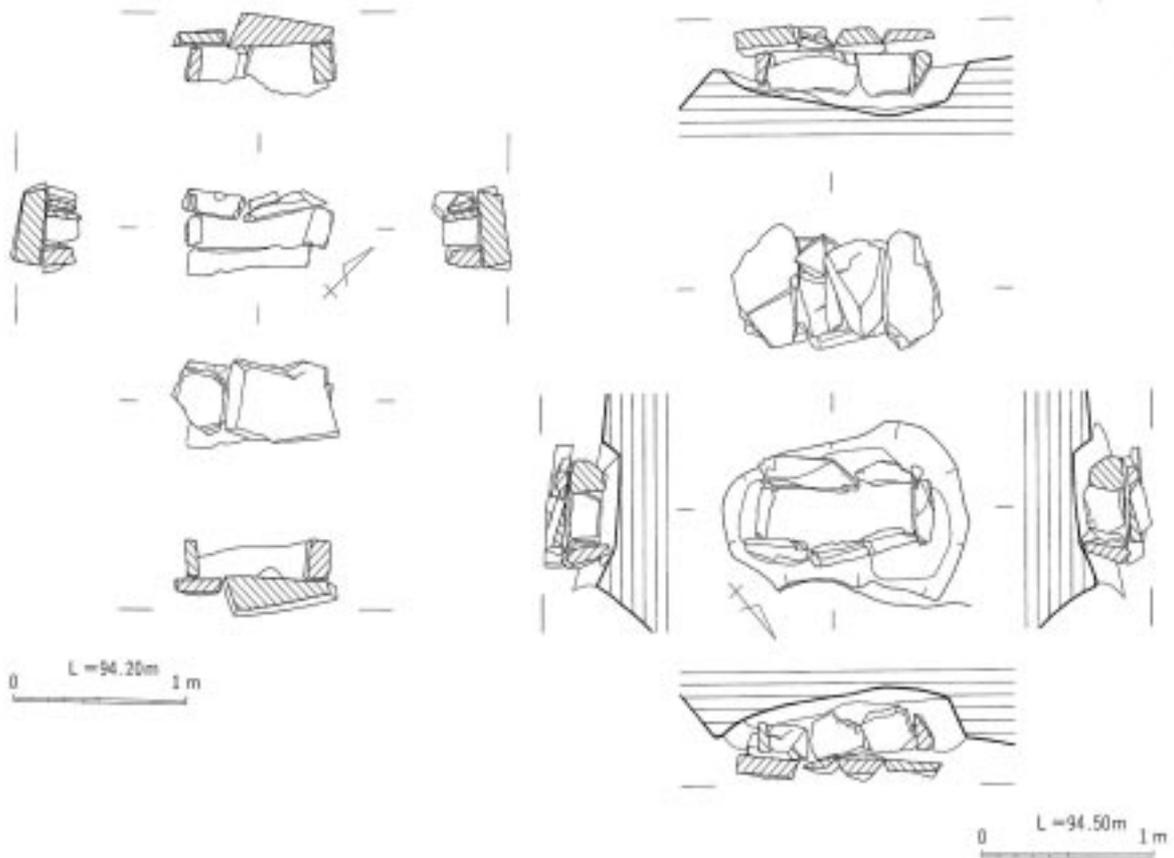


第124図 S S 5実測図 (S = 1 : 40)

第125図 S S 8実測図 (S = 1 : 40)

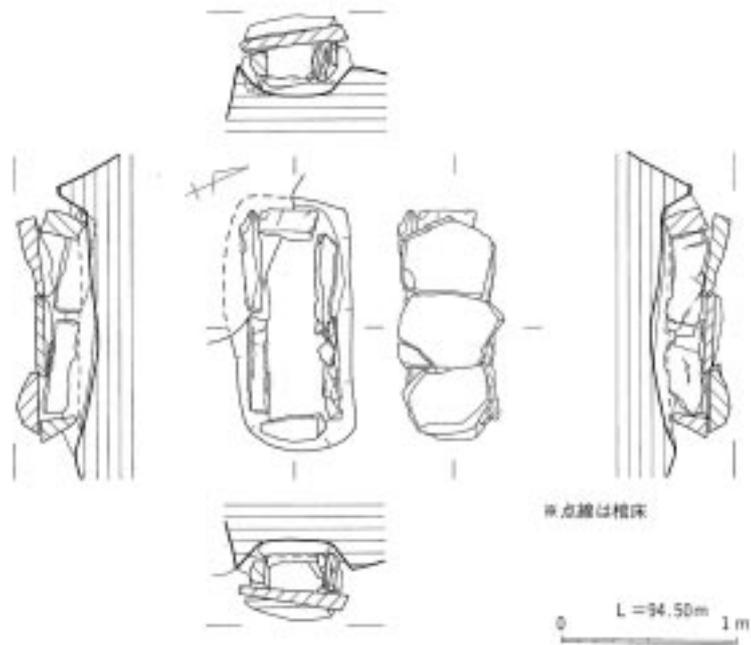


第126図 S S 7実測図 (S = 1 : 40)

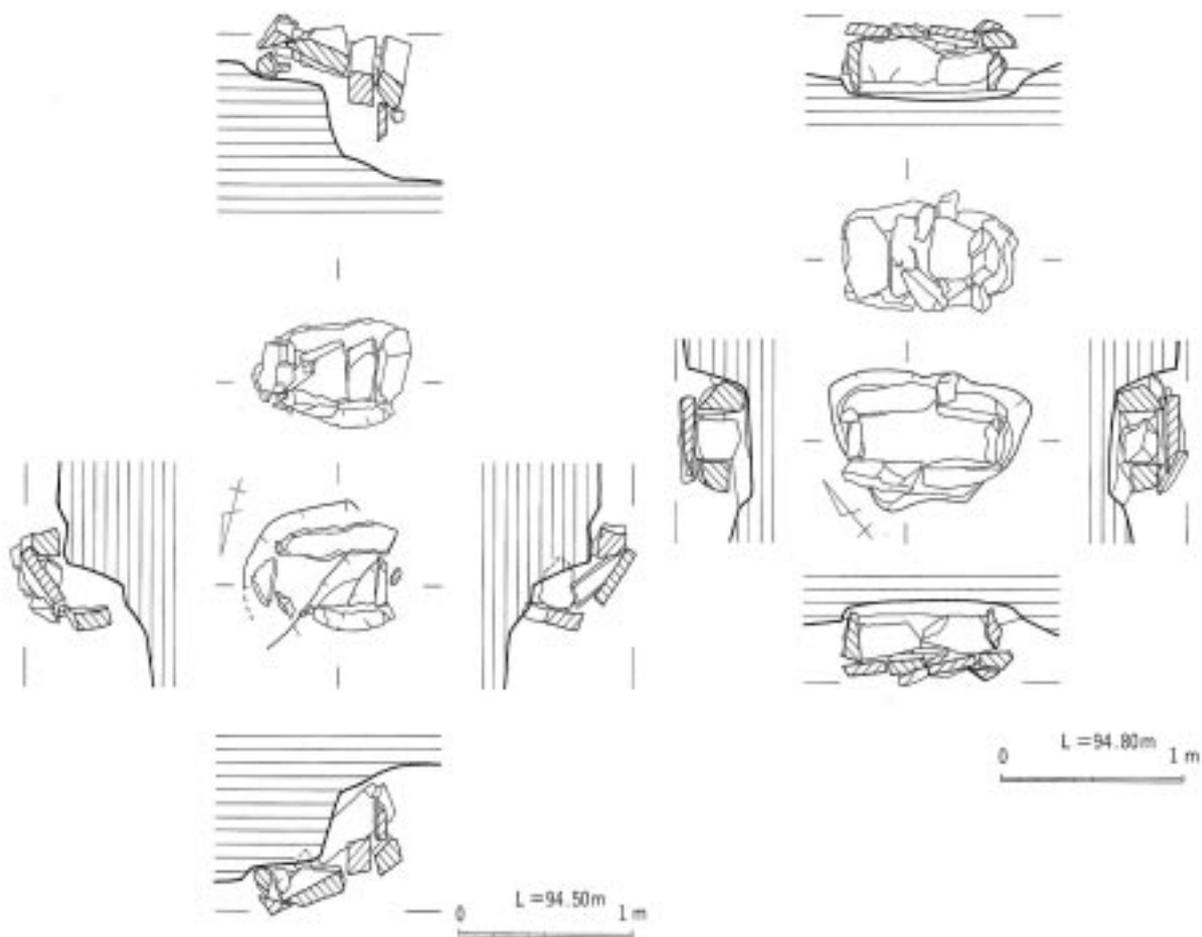


第 127 图 S S 9 实测图 (S = 1 : 40)

第 128 图 S S 11 实测图 (S = 1 : 40)

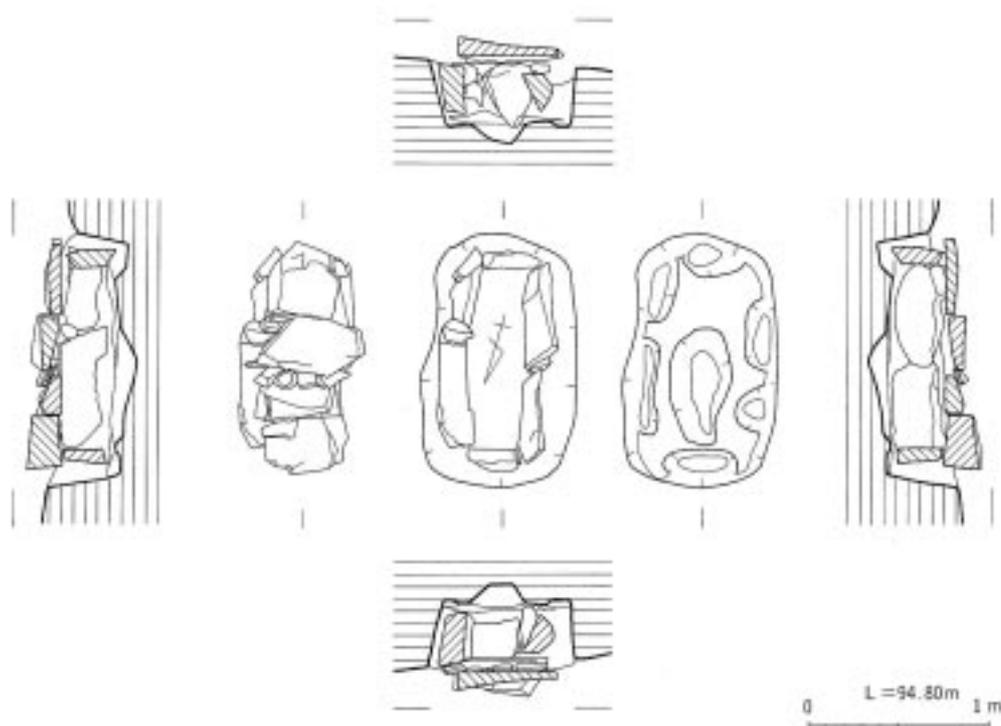


第 129 图 S S 10 实测图 (S = 1 : 40)

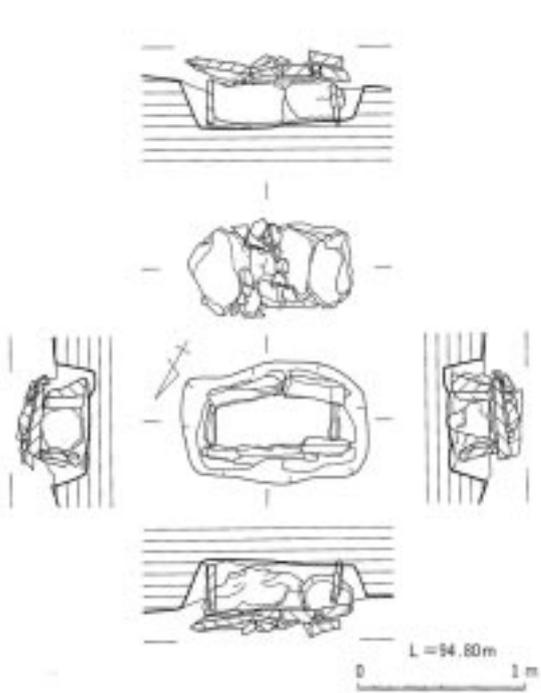


第130图 S S 12 实测图 (S = 1 : 40)

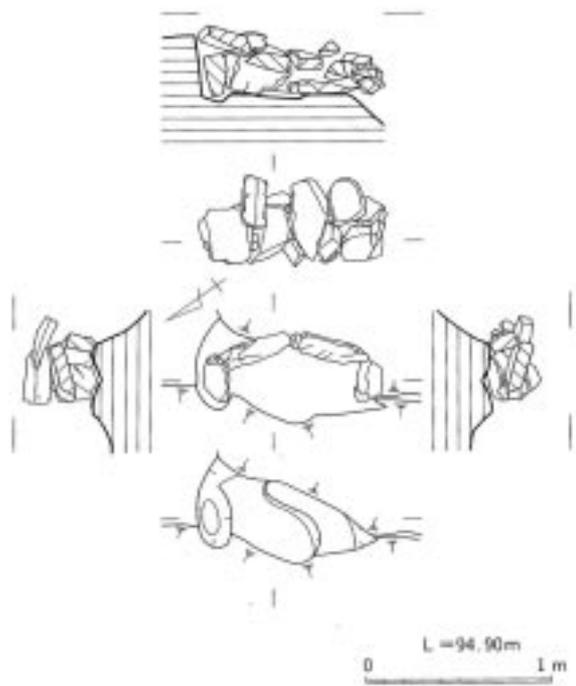
第131图 S S 14 实测图 (S = 1 : 40)



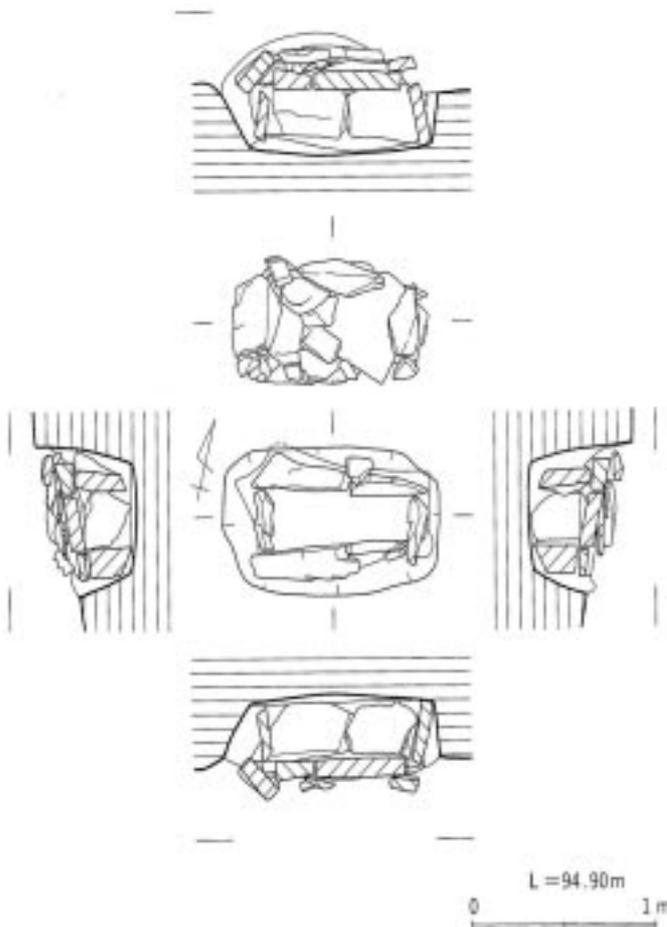
第132图 S S 13 实测图 (S = 1 : 40)



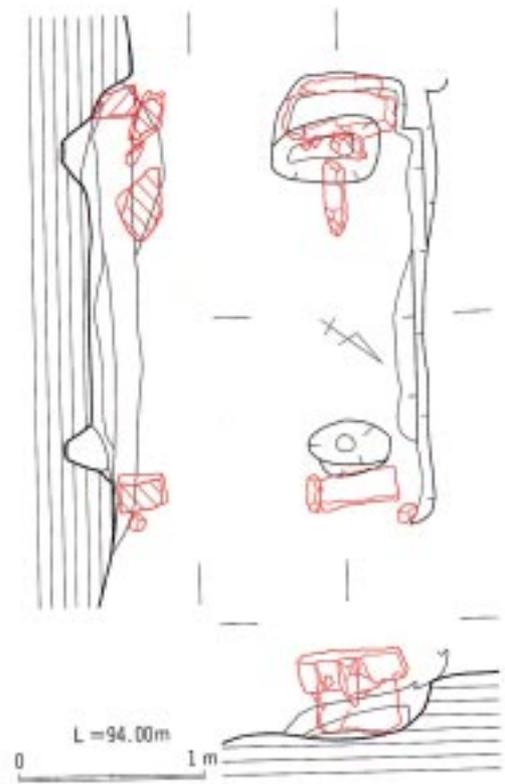
第 133 図 S S 15 実測図 (S = 1 : 40)



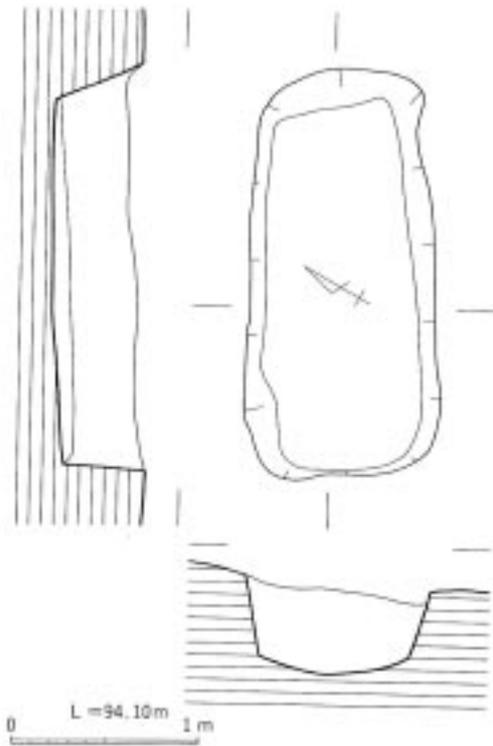
第 134 図 S S 17 実測図 (S = 1 : 40)



第 135 図 S S 16 実測図 (S = 1 : 40)



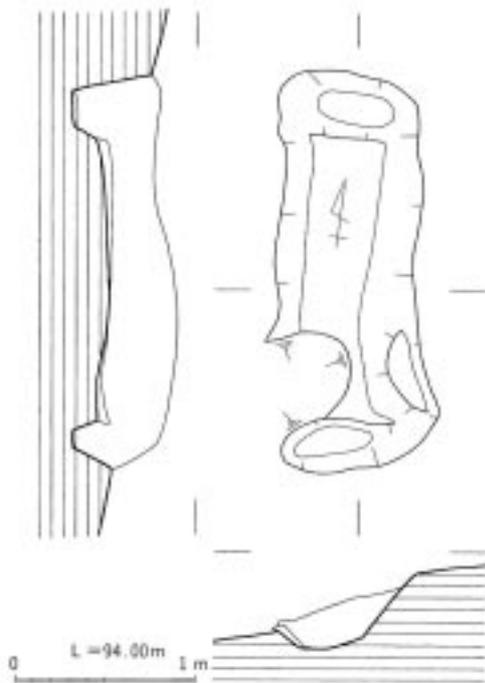
第 136 図 S T 13 実測図 (S 第 1



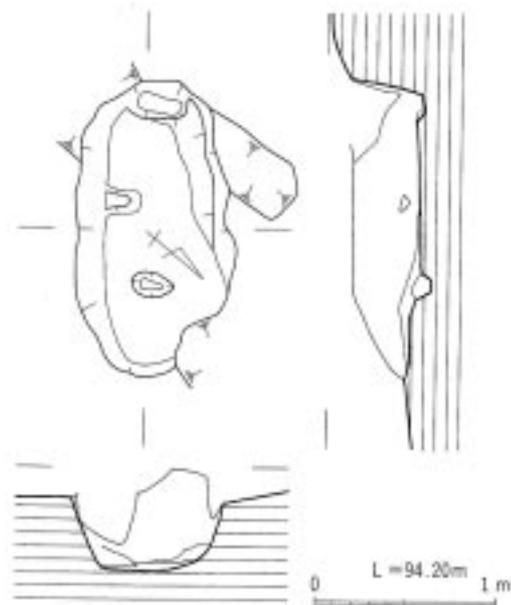
第 137 図 S T 14 実測図 (S = 1 : 40)



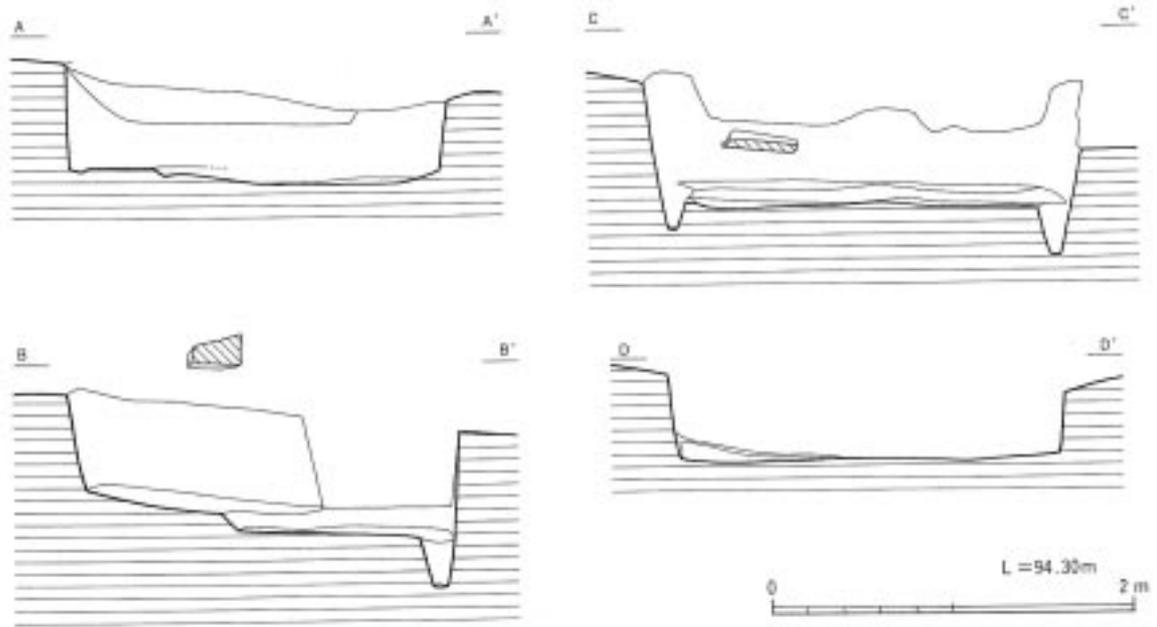
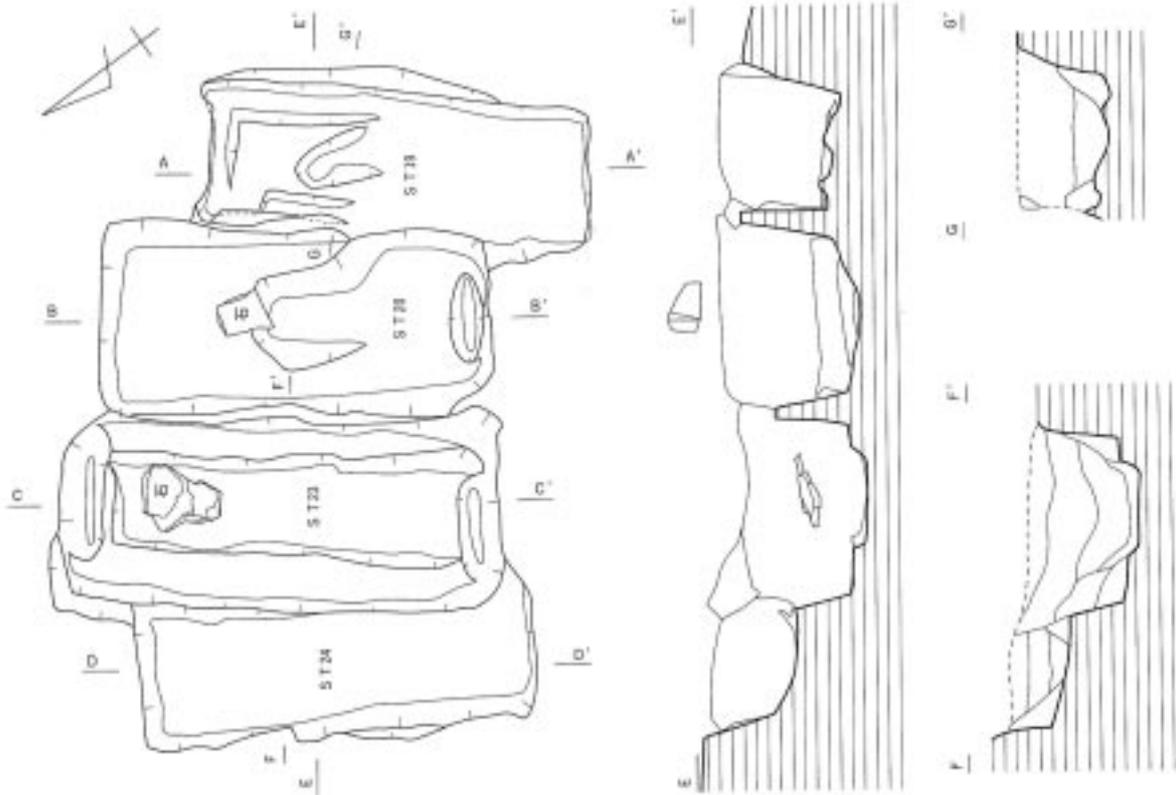
第 138 図 S T 16・25・27 図 (S = 1 : 40)



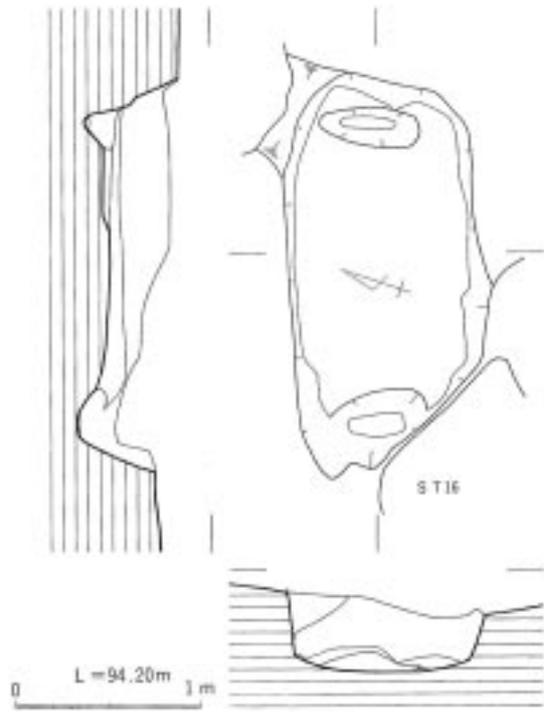
第 139 図 S T 15 実測図 (S = 1 : 40)



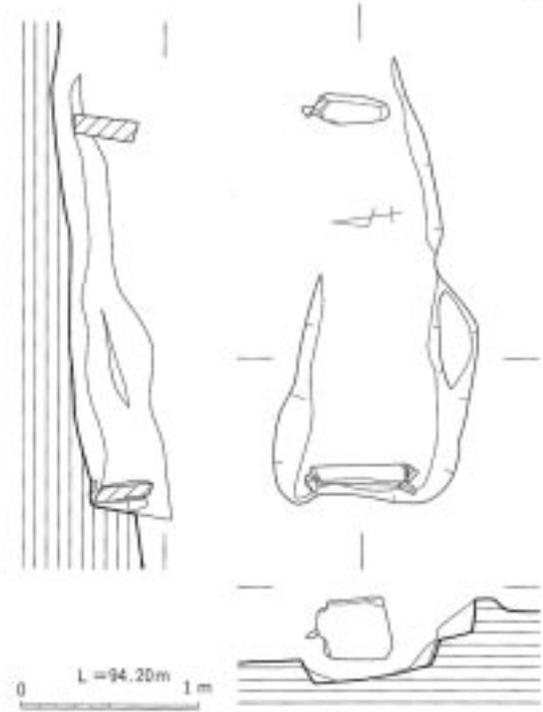
第 140 図 S T 18 実測図 (S = 1 : 40)



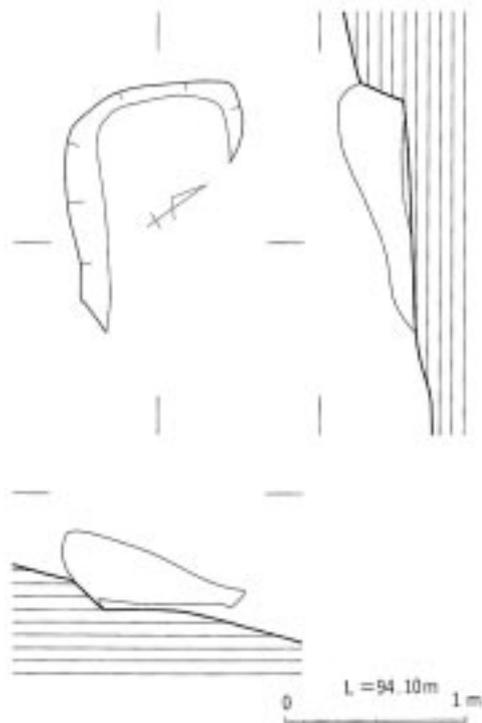
第141图 ST 19·20·23·24 实测图 (S = 1 : 40)



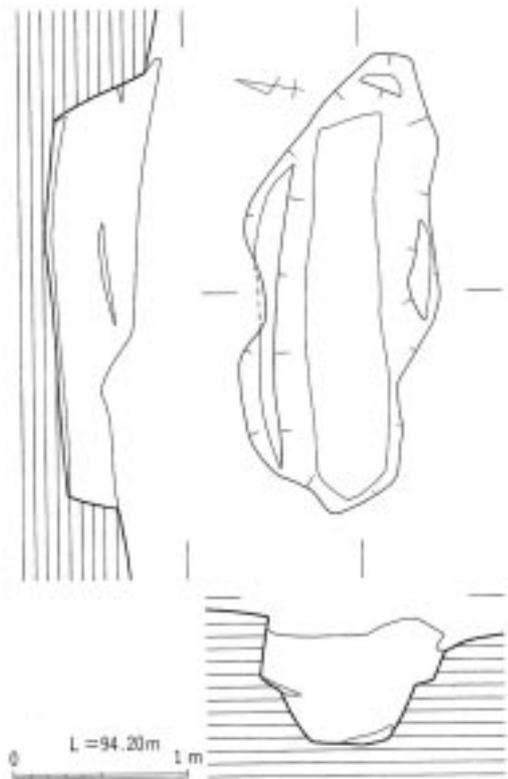
第 142 図 S T 17 実測図 (S = 1 : 40)



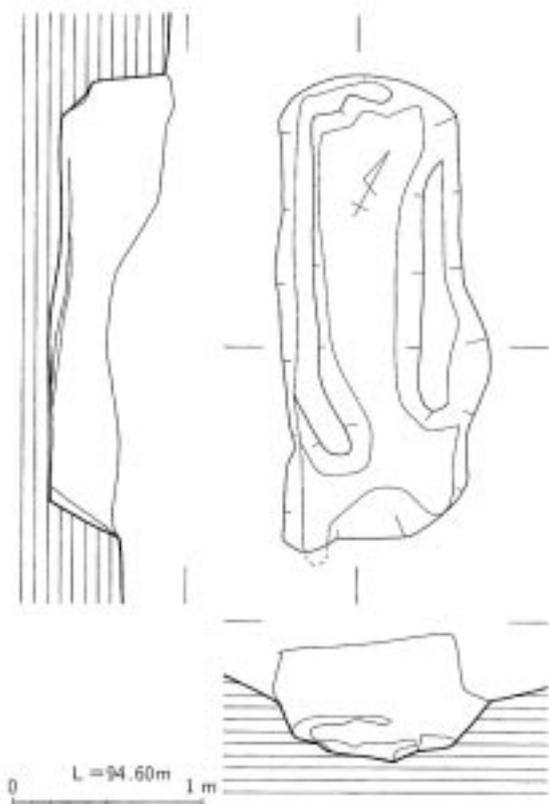
第 143 図 S T 21 実測図 (S = 1 : 40)



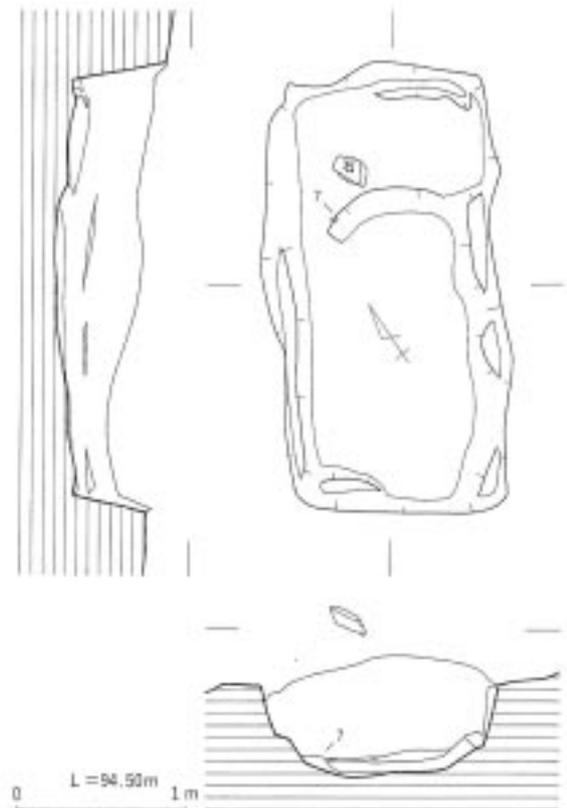
第 144 図 S T 22 実測図 (S = 1 : 40)



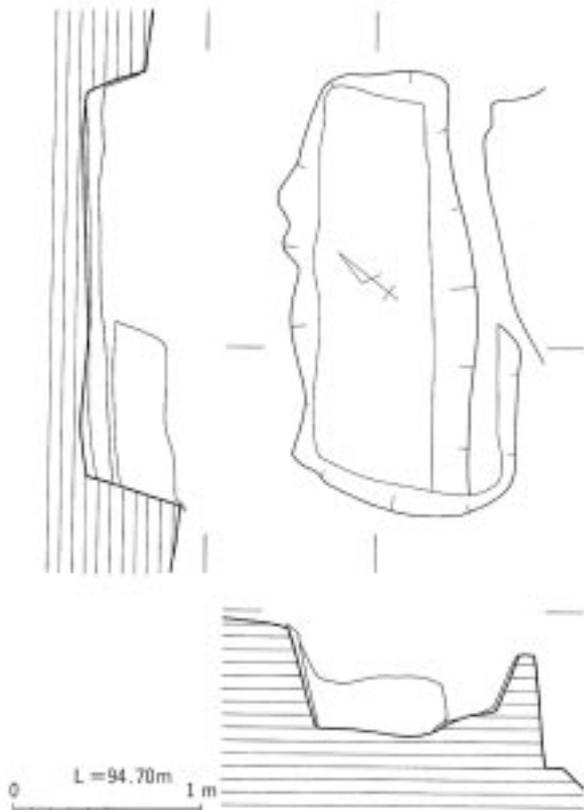
第 145 図 S T 26 実測図 (S = 1 : 40)



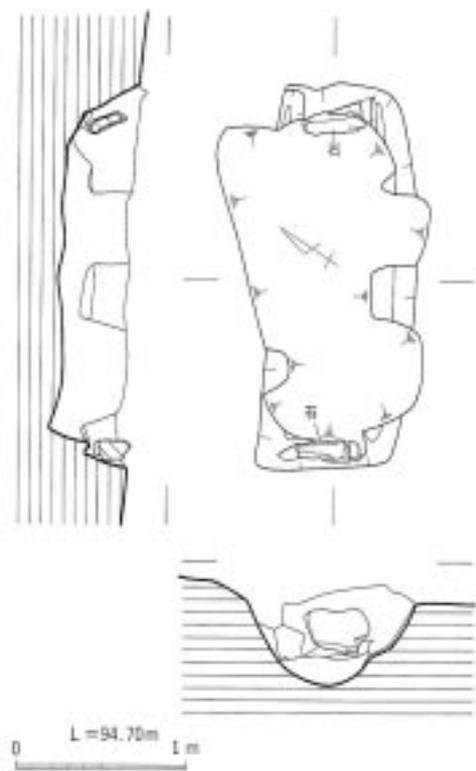
第 146 図 S T 28 実測図 (S = 1 : 40)



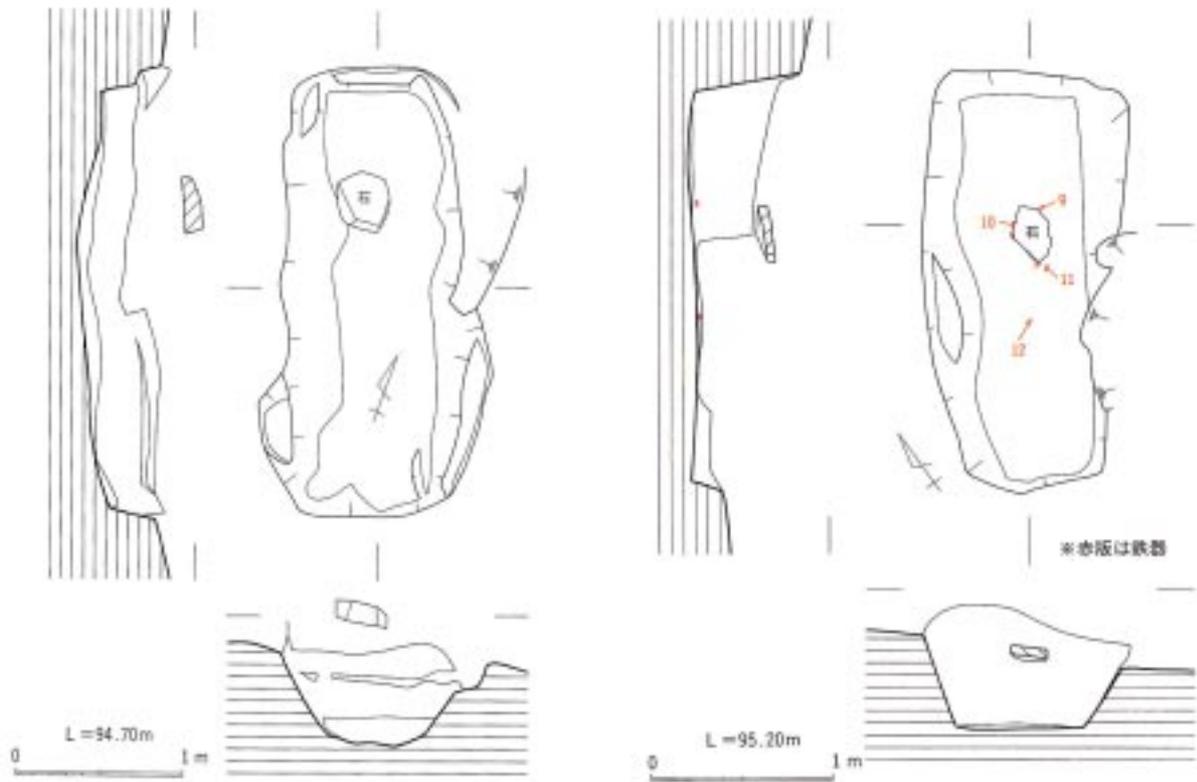
第 147 図 S T 29 実測図 (S = 1 : 40)



第 148 図 S T 30 実測図 (S = 1 : 40)

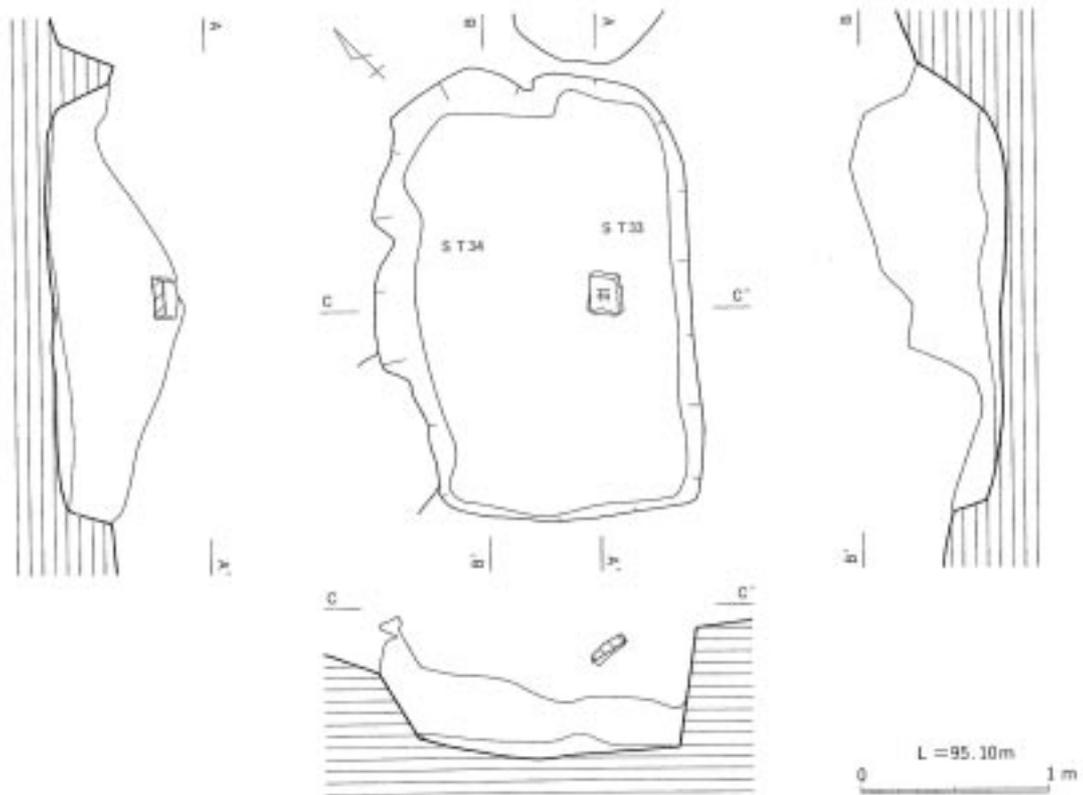


第 149 図 S T 31 実測図 (S = 1 : 40)

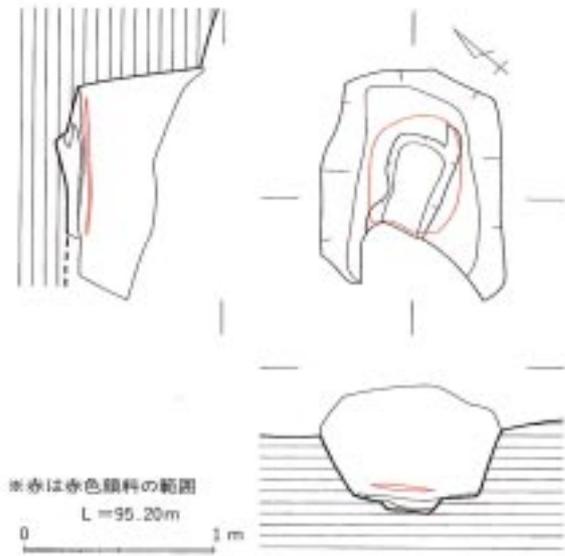


第150図 S T 32実測図 (S = 1 : 40)

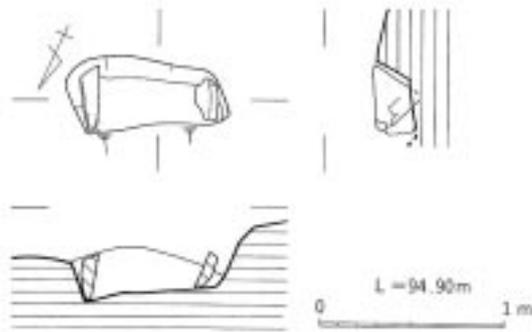
第151図 S T 35実測図 (S = 1 : 40)



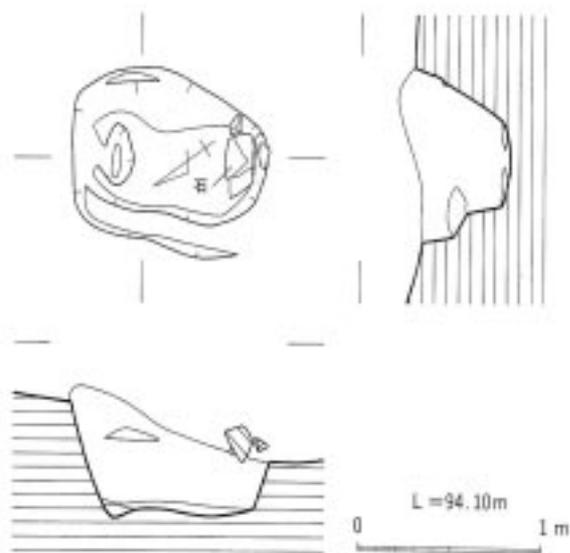
第152図 S T 33・34実測図 (S = 1 : 40)



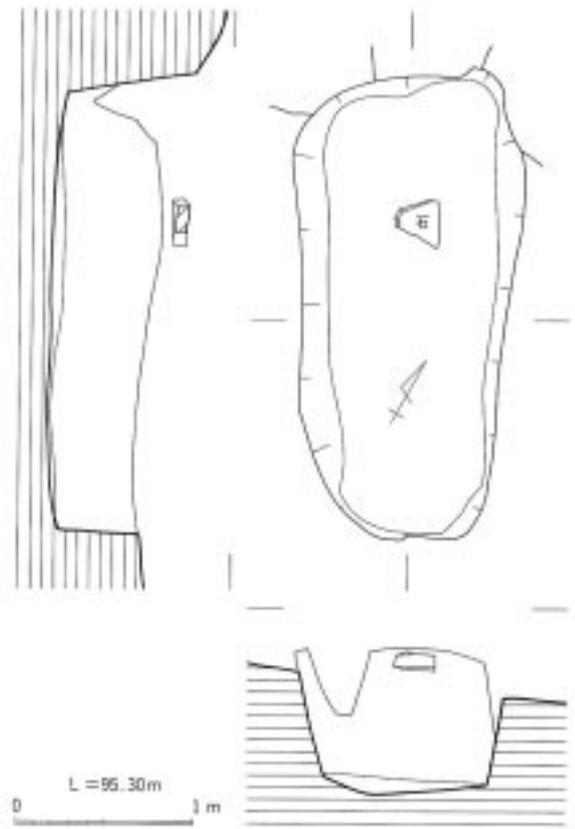
第 153 図 S T 36 実測図 (S = 1 : 40)



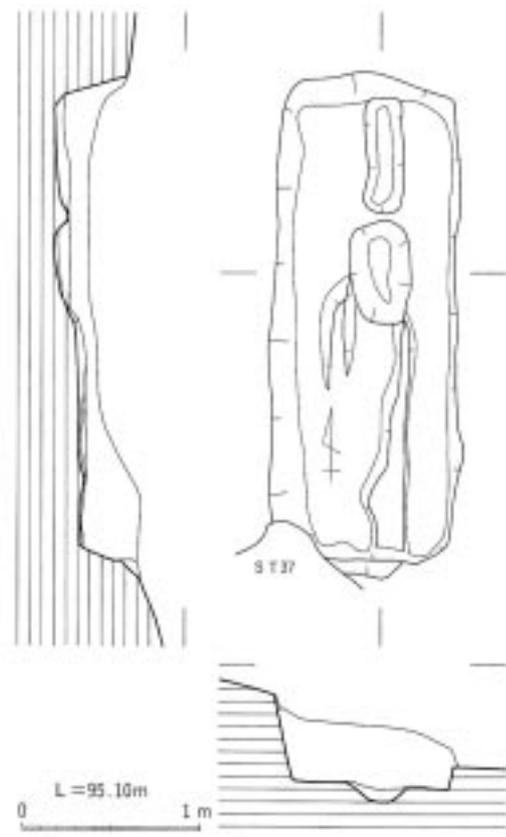
第 155 図 S T 38 実測図 (S = 1 : 40)



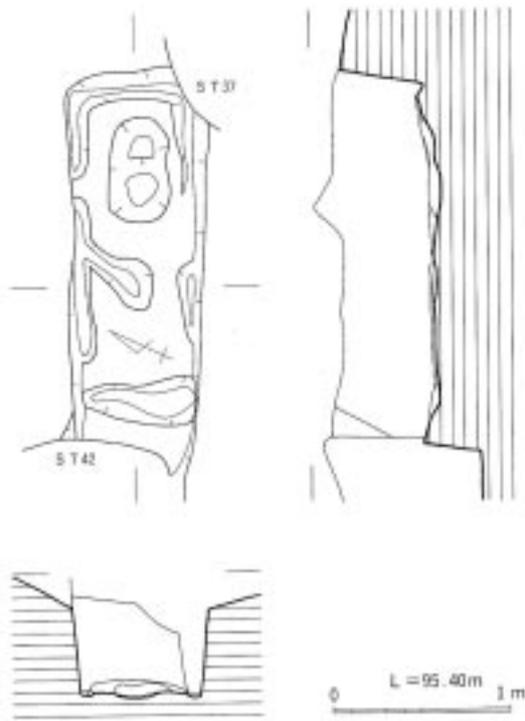
第 156 図 S T 39 実測図 (S = 1 : 40)



第 154 図 S T 37 実測図 (S = 1 : 40)



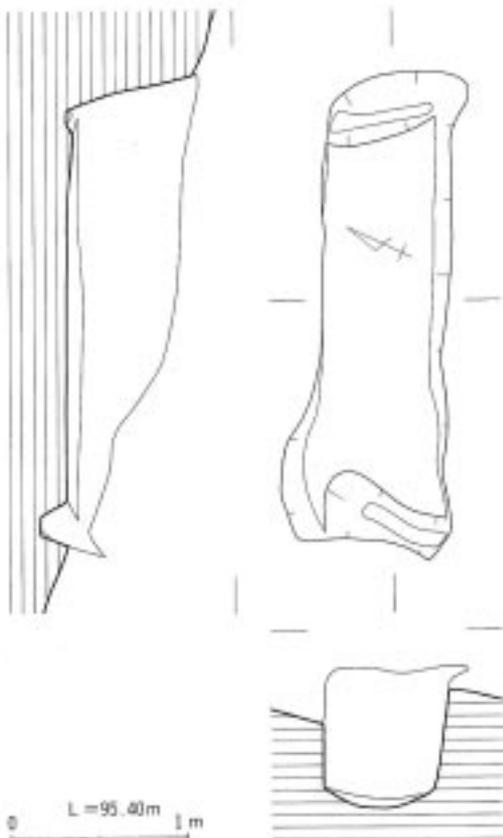
第 157 図 S T 40 実測図 (S = 1 : 40)



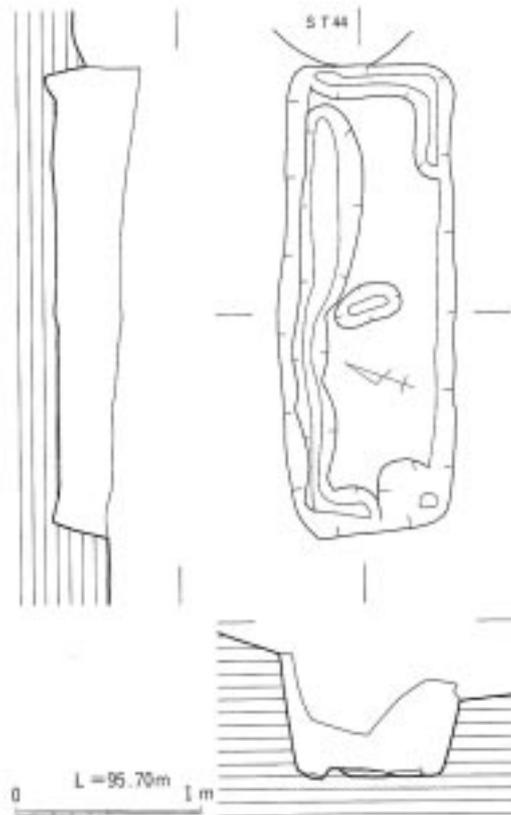
第 158 図 S T 41 実測図 ( S = 1 : 40 )



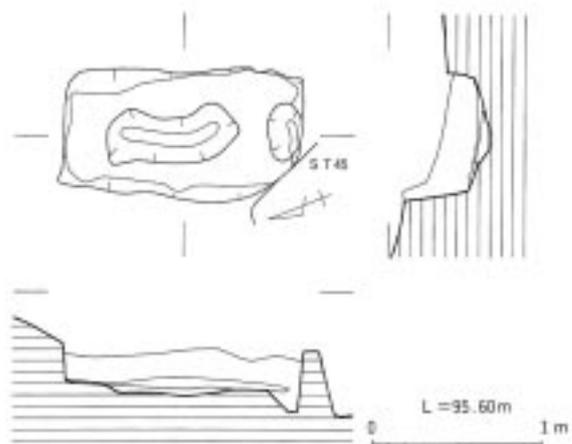
第 159 図 S T 42 実測図 ( S = 1 : 40 )



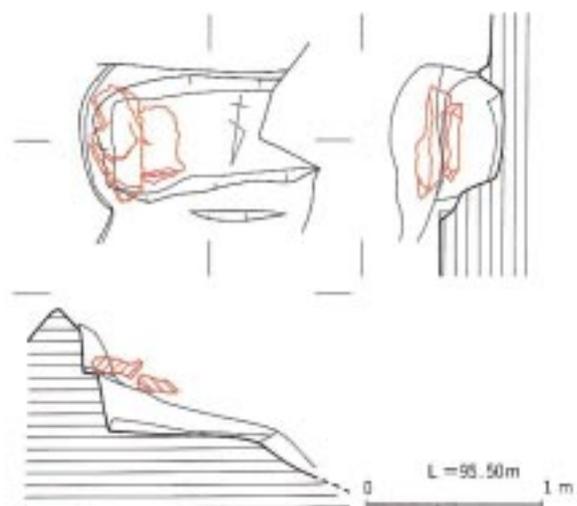
第 160 図 S T 43 実測図 ( S = 1 : 40 )



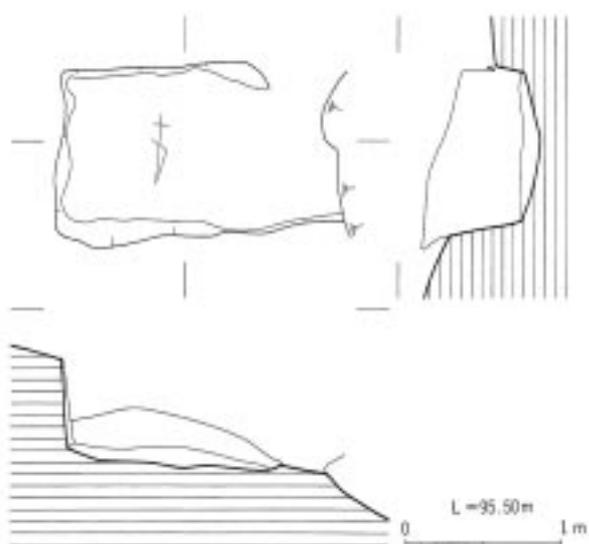
第 161 図 S T 45 実測図 ( S = 1 : 40 )



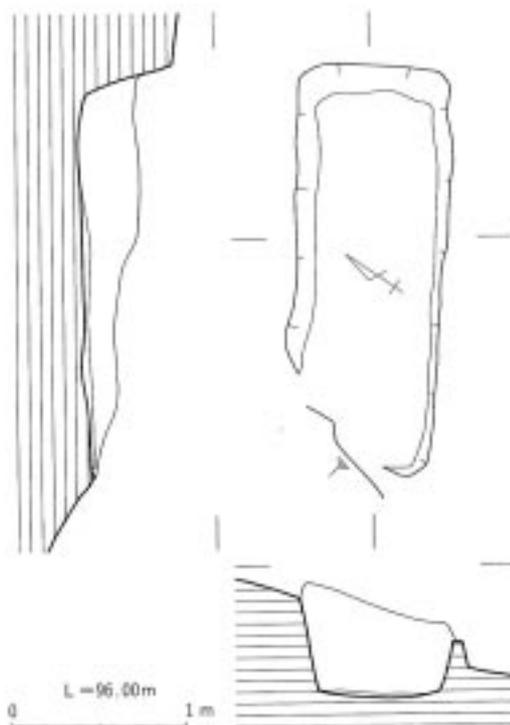
第 162 図 S T 44 実測図 (S = 1 : 40)



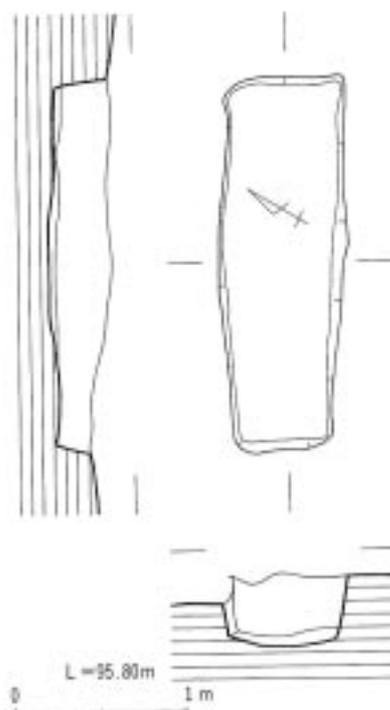
第 163 図 S T 48 実測図 (S = 1 : 40)



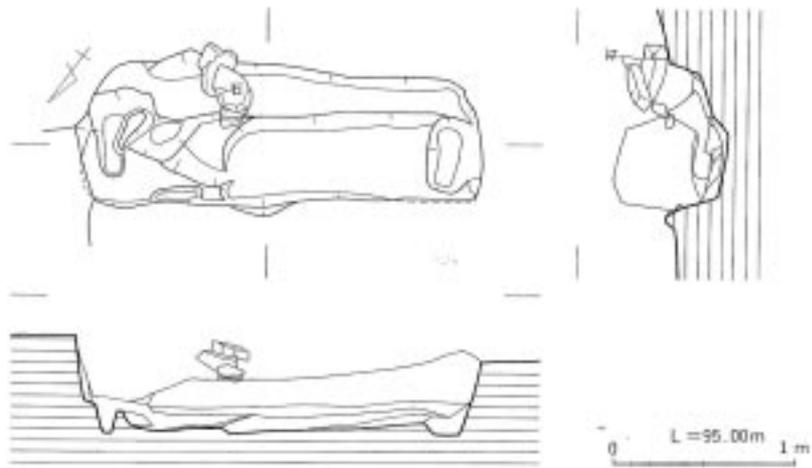
第 164 図 S T 46 実測図 (S = 1 : 40)



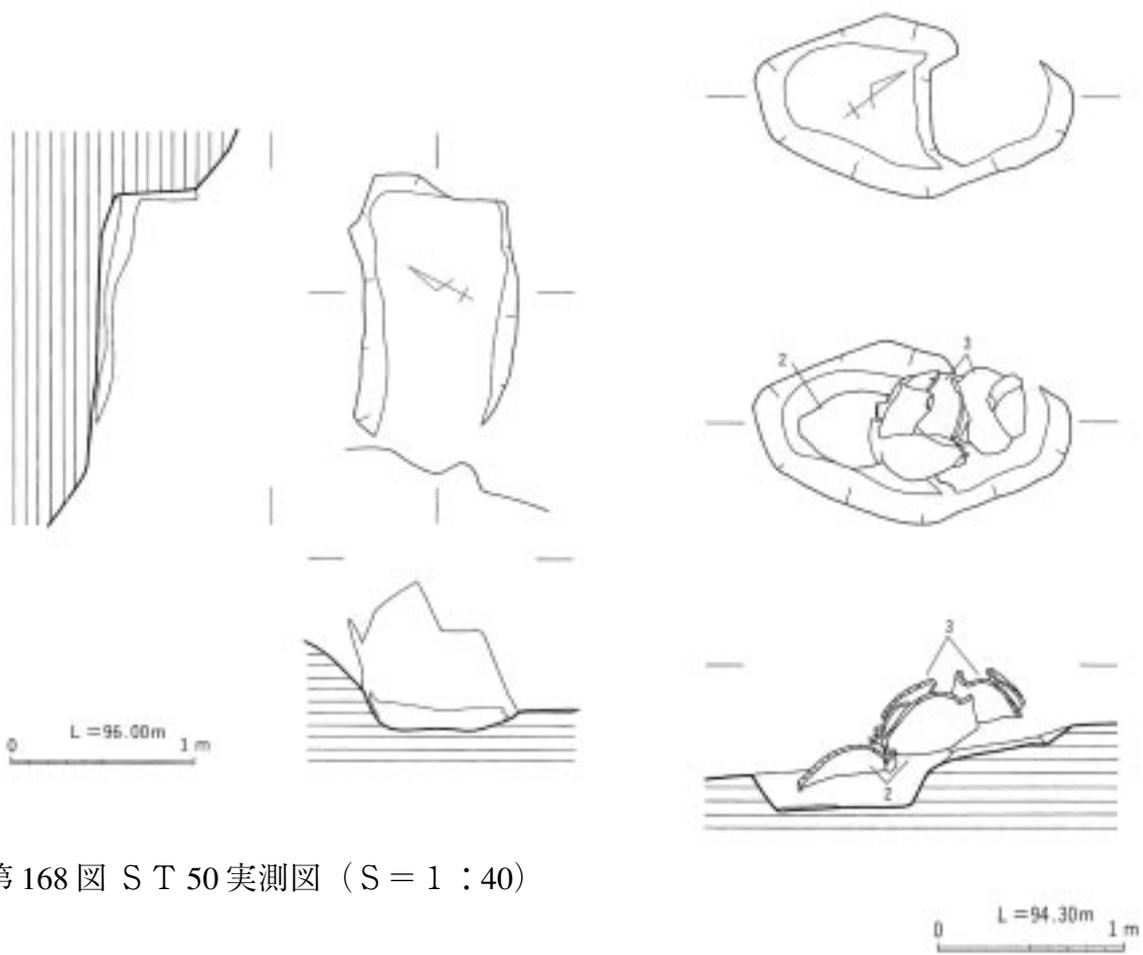
第 165 図 S T 49 実測図 (S = 1 : 40)



第 166 図 S T 47 実測図 (S = 1 : 40)

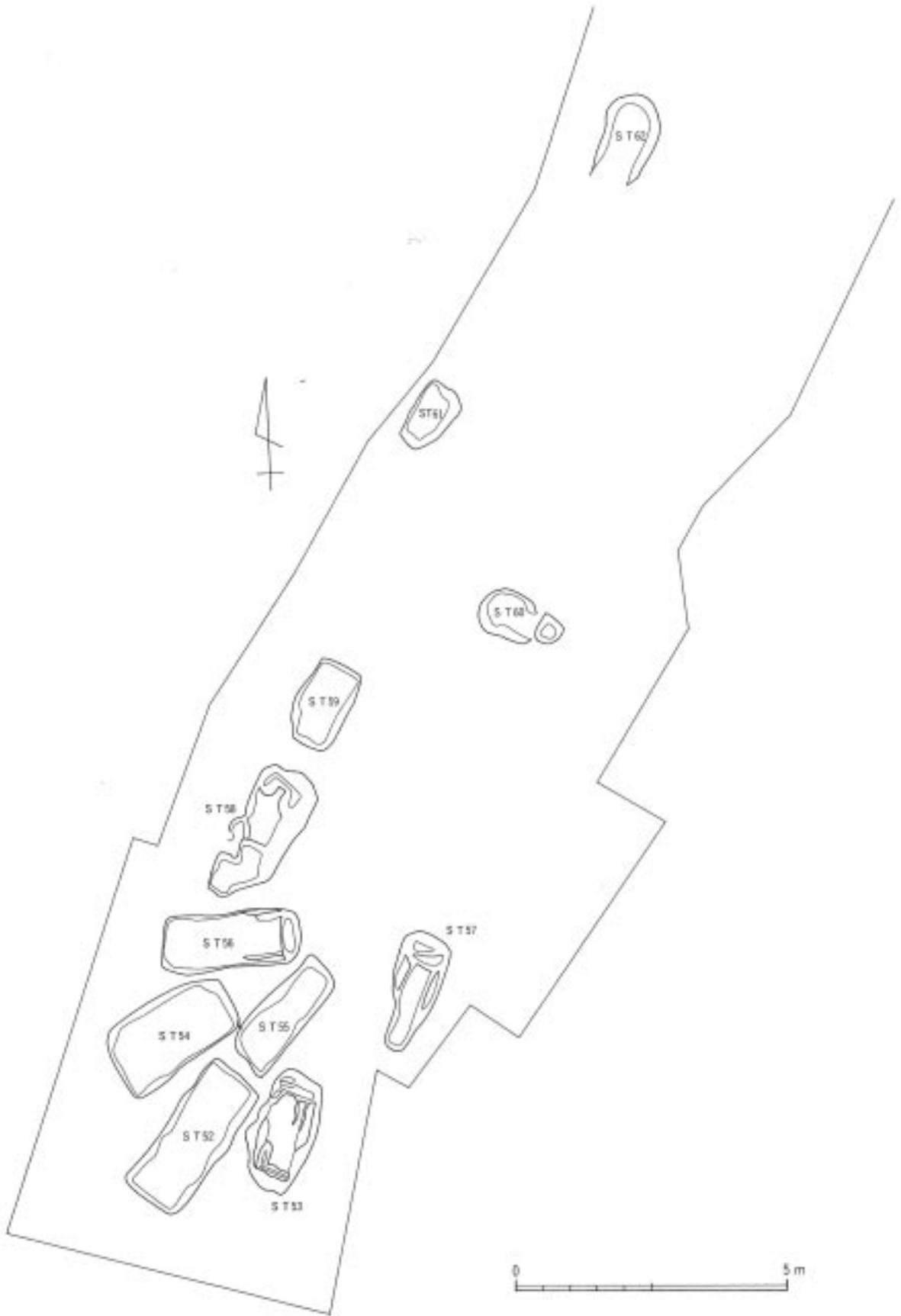


第 167 図 S T 51 実測図 (S = 1 : 40)

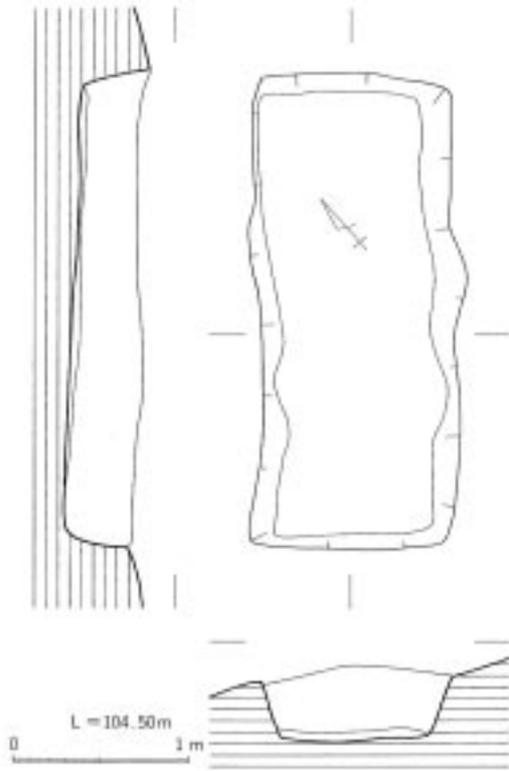


第 168 図 S T 50 実測図 (S = 1 : 40)

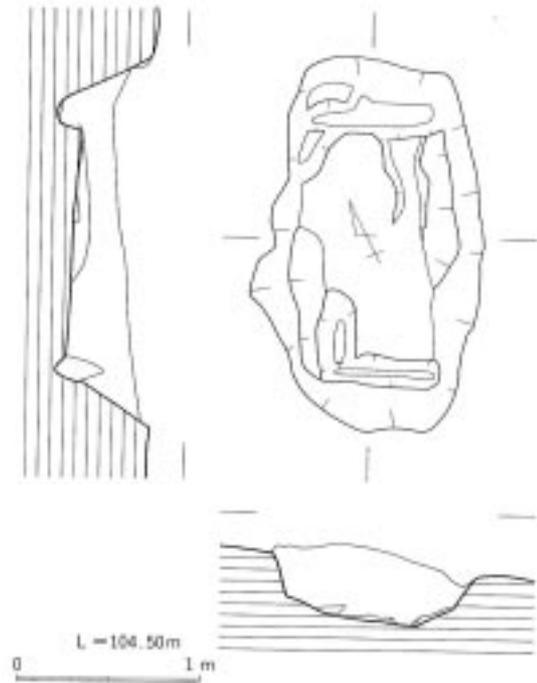
第 169 図 S P 1 実測図 (S = 1 : 40)



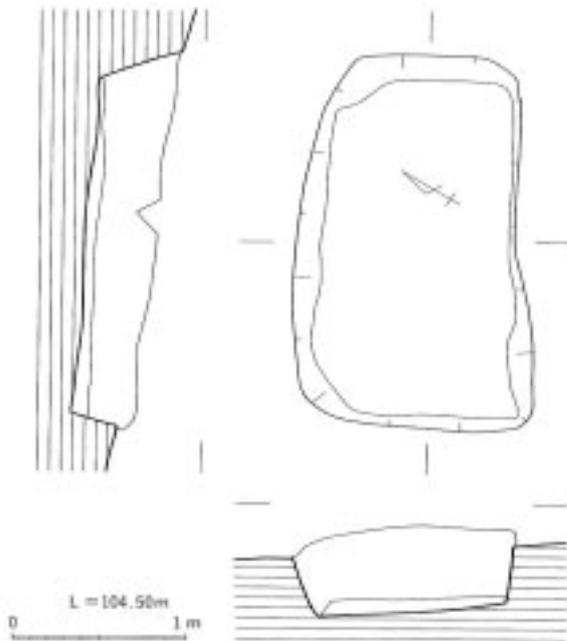
第 170 図 大町七九谷 C 地点遺跡第Ⅲ墳墓群遺構配置図 (S = 1 : 100)



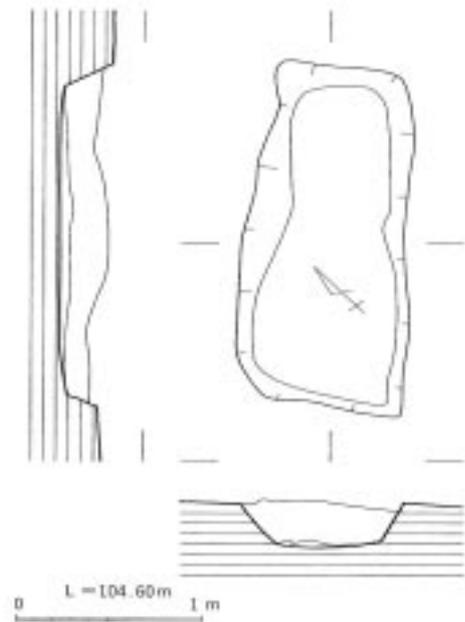
第 171 図 S T 52 実測図 (S = 1 : 40)



第 172 図 S T 53 実測図 (S = 1 : 40)



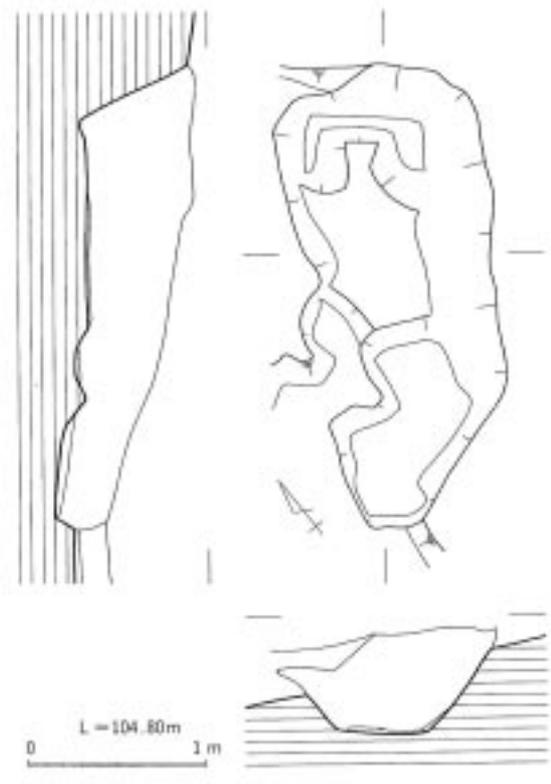
第 173 図 S T 54 実測図 (S = 1 : 40)



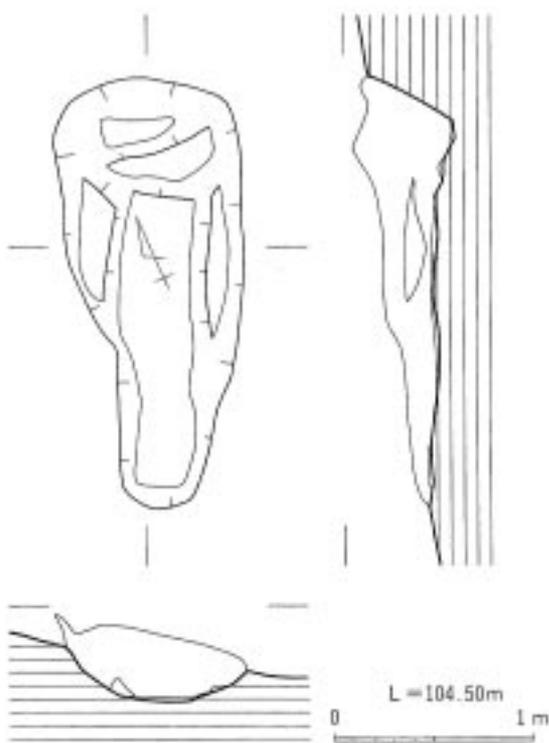
第 174 図 S T 55 実測図 (S = 1 : 40)



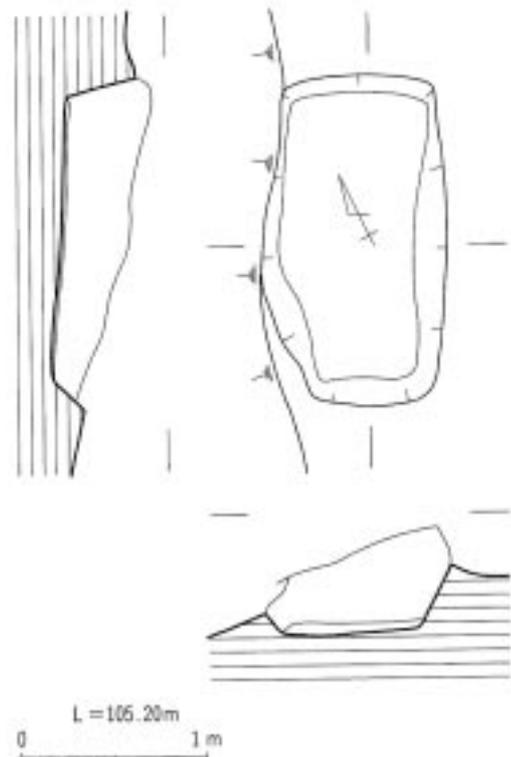
第 175 図 S T 56 実測図 (S = 1 : 40)



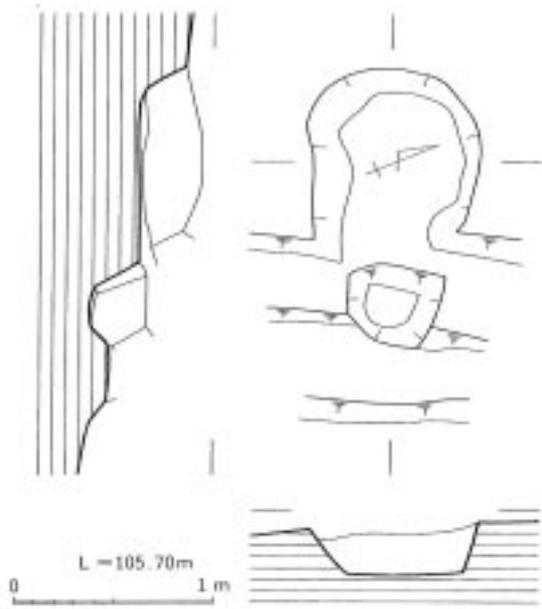
第 176 図 S T 58 実測図 (S = 1 : 40)



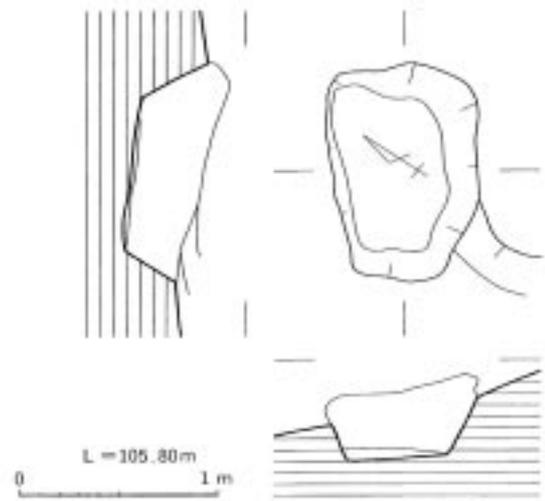
第 177 図 S T 57 実測図 (S = 1 : 40)



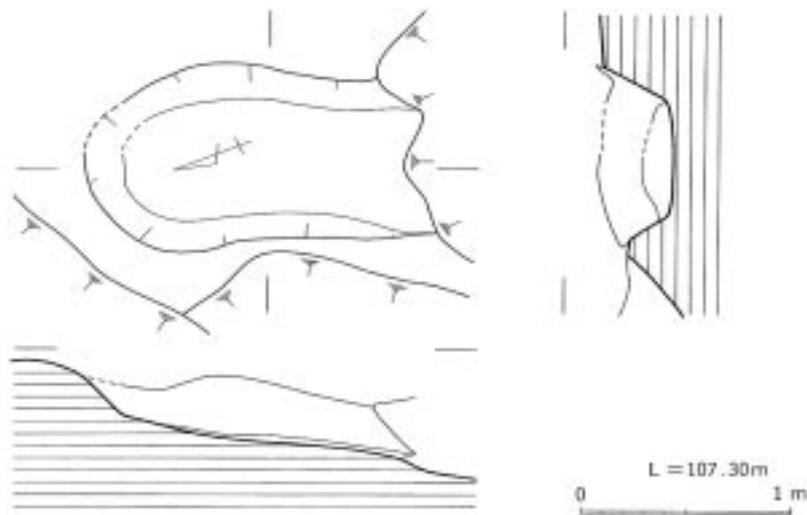
第 178 図 S T 59 実測図 (S = 1 : 40)



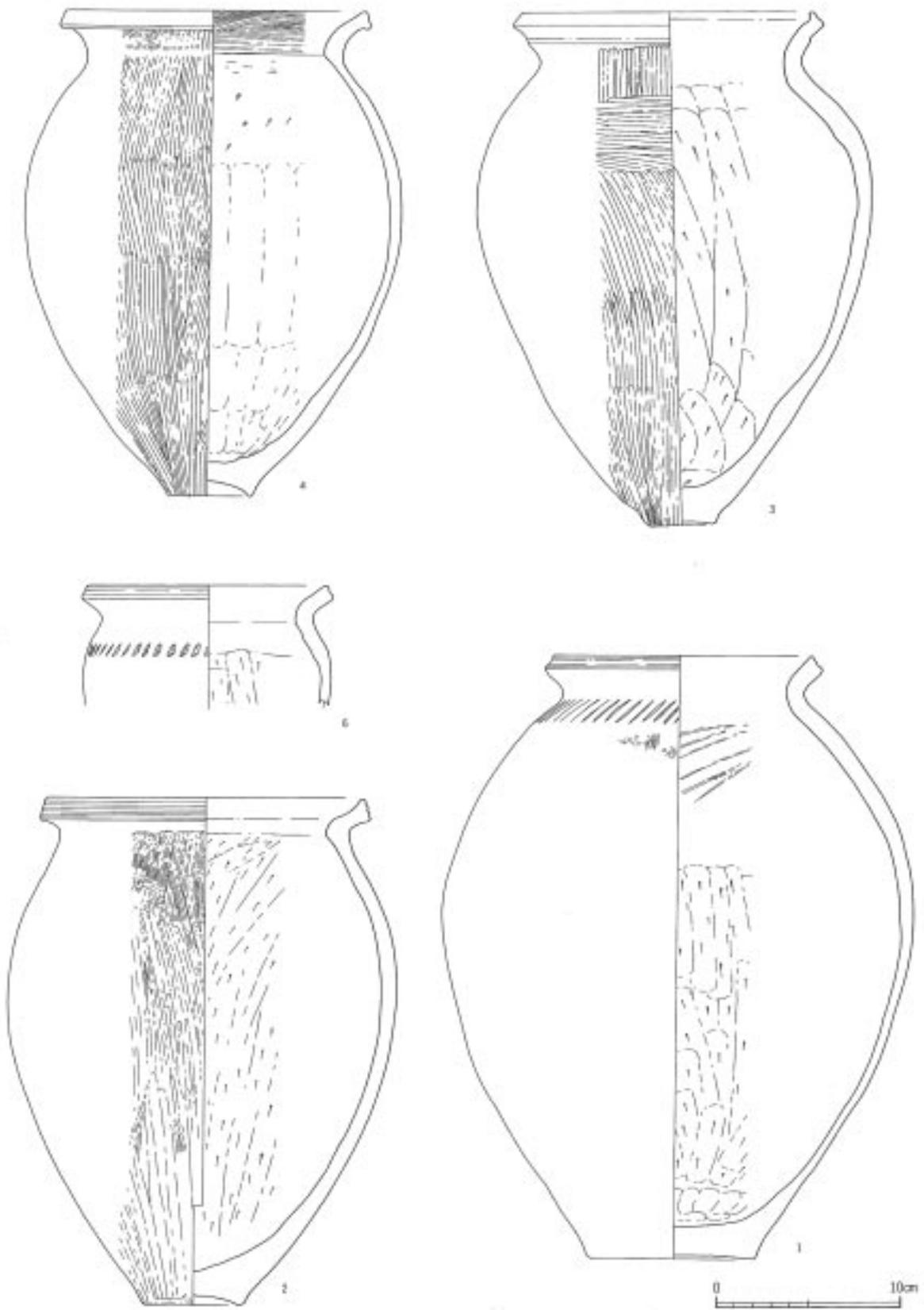
第 179 图 S T 60 实测图 (S = 1 : 40)



第 180 图 S T 61 实测图 (S = 1 : 40)



第 181 图 S T 62 实测图 (S = 1 : 40)



第 182 図 大町七九谷 C 地点遺跡出土遺物実測図 [ 1 ] ( S = 1 : 3 )

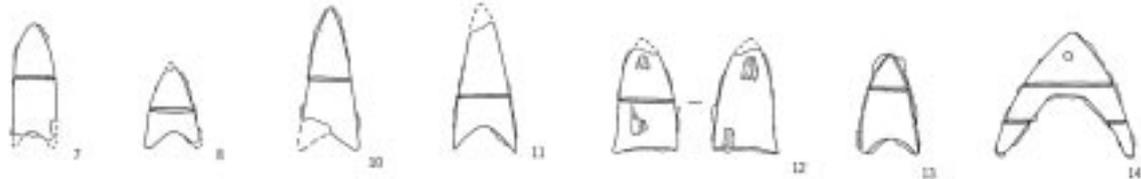
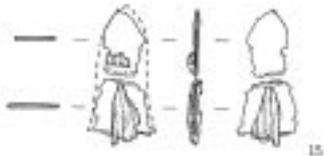
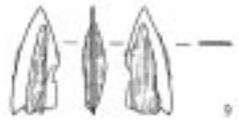
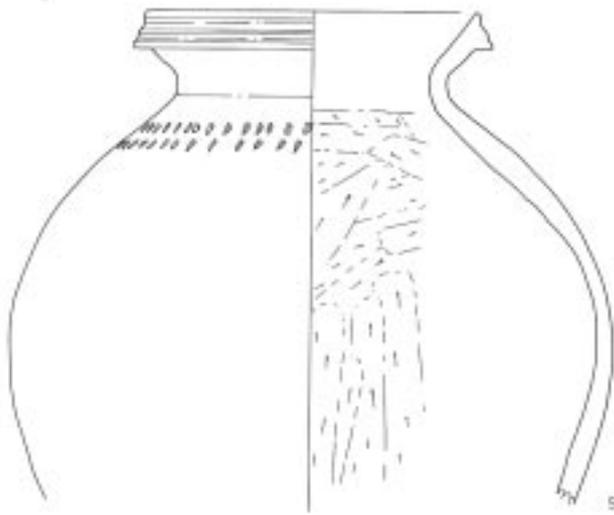


圖 版



a SH1 (北から)

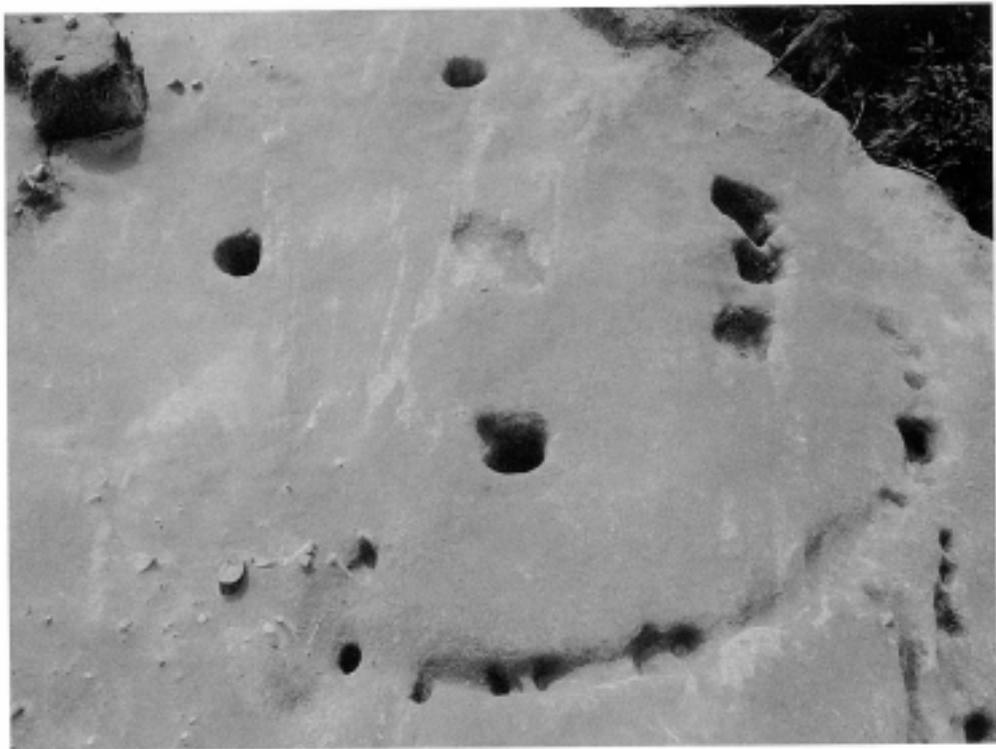


b SH2 (北から)

図版 2



a SH3 (北東から)



b SH4 (北から)

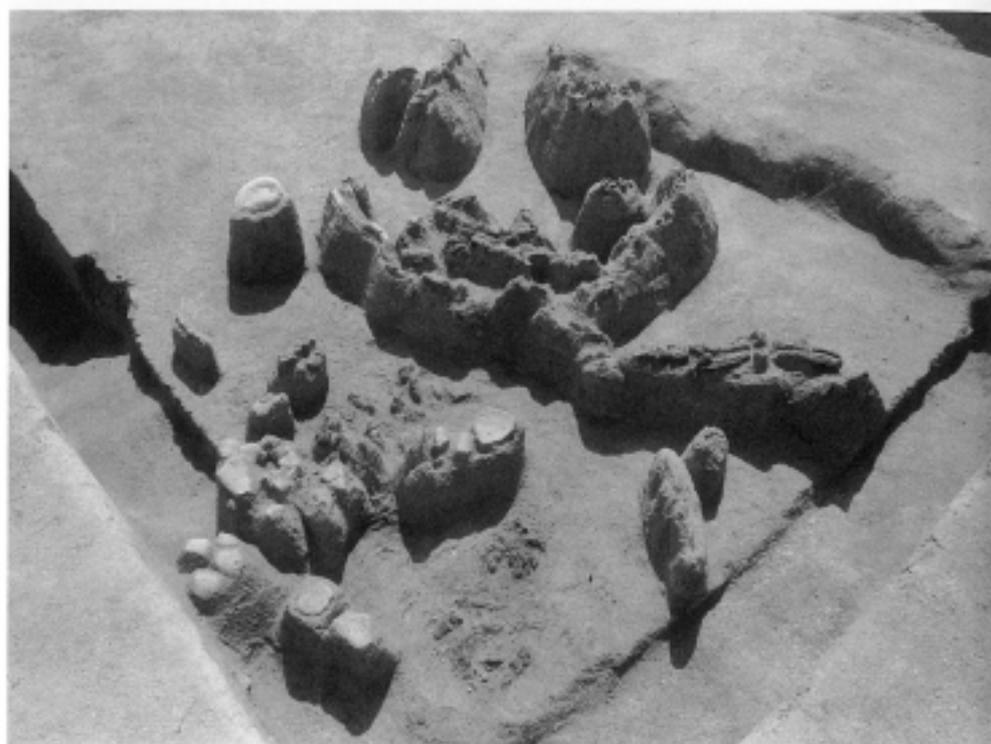


a SH5・SK5 (北から)



b SH6 (北東から)

図版 4



a SH7 炭化材検出状況 (北から)



b SH7 (北東から)



a SH 8 (南東から)



b SH 9・SK13 (北東から)

図版 6



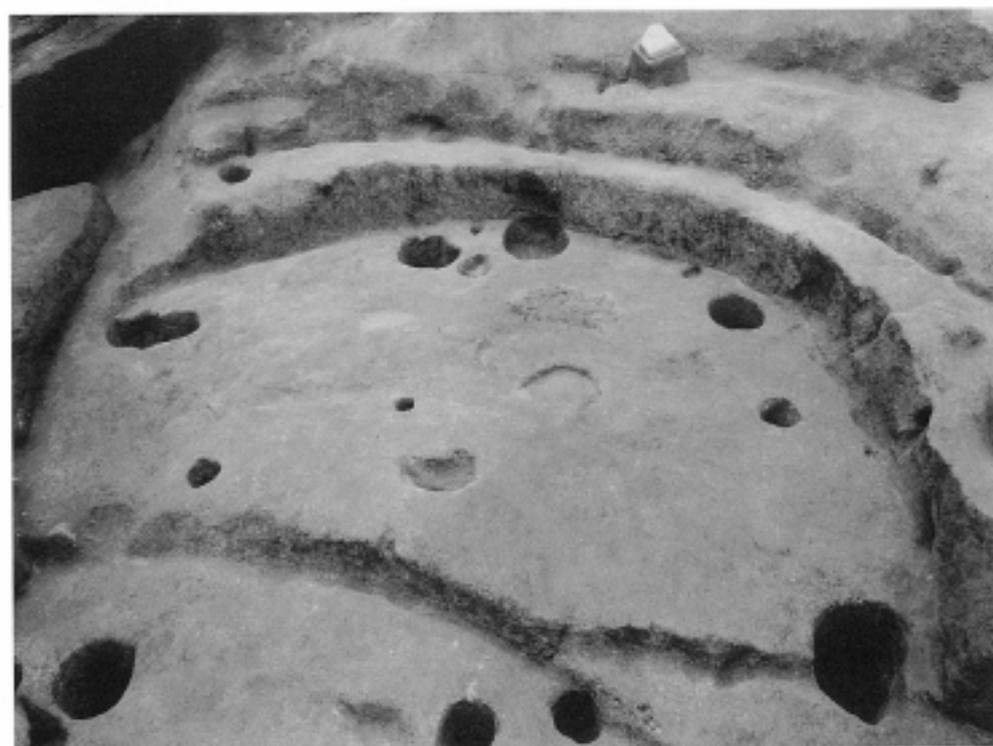
a SH10・SK14 (北西から)



b SH11 (東から)



a SH12炭化材検出状況 (北東から)

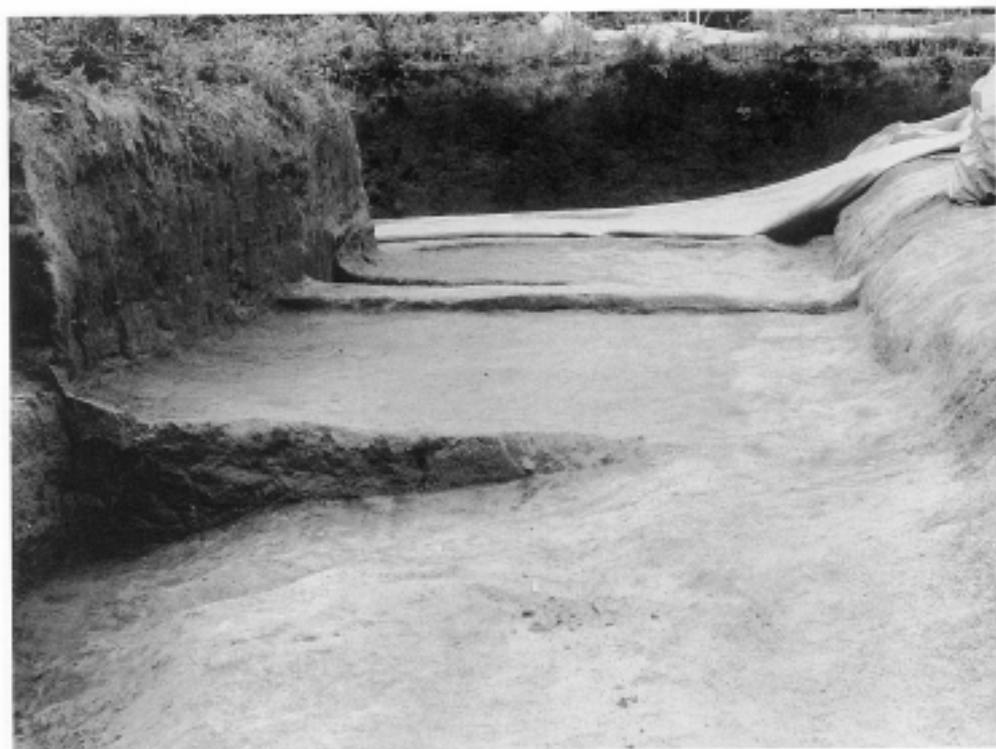


b SH12 (北東から)

図版 8



(a) SB1 (北西から)



(b) SX1 (南東から)



a SX2 (北から)



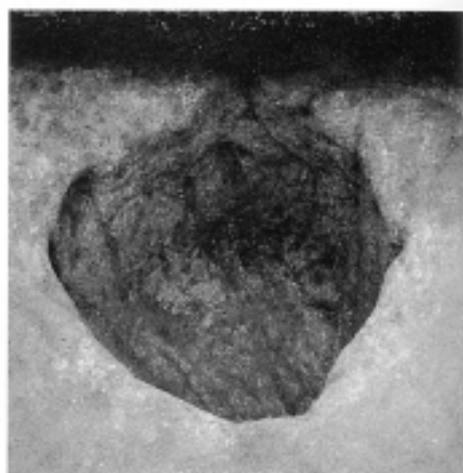
b SX3 (北西から)



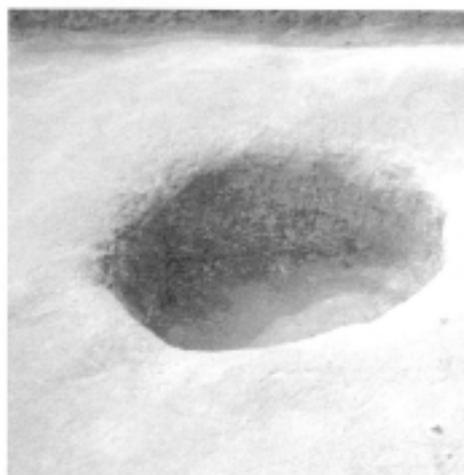
a SK1 (南から)



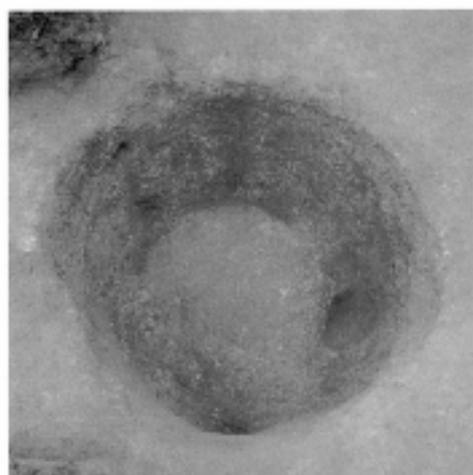
b SK2 (東から)



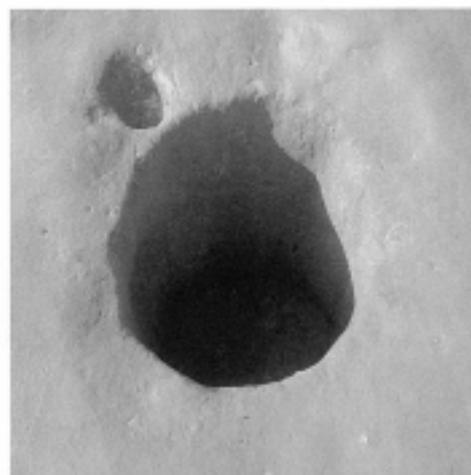
c SK3 (北東から)



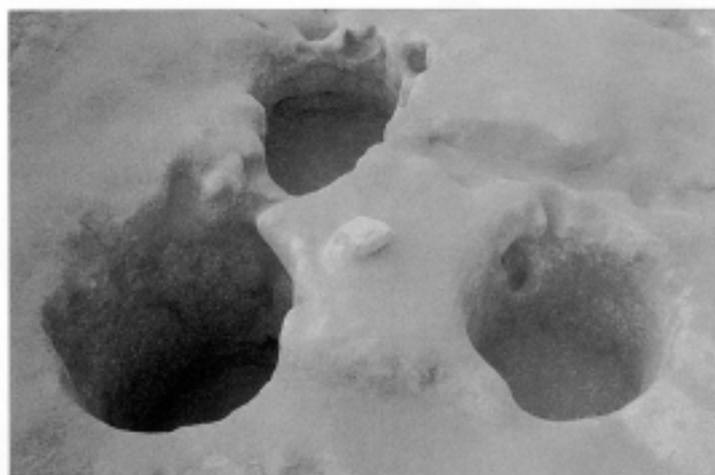
d SK4 (北東から)



a SK6 (北東から)



b SK7 (南東から)



c SK8・9・10 (南東から)



d SK11・12 (北東から)

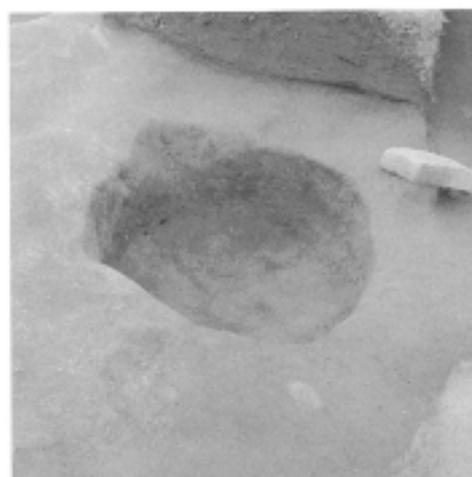
図版12



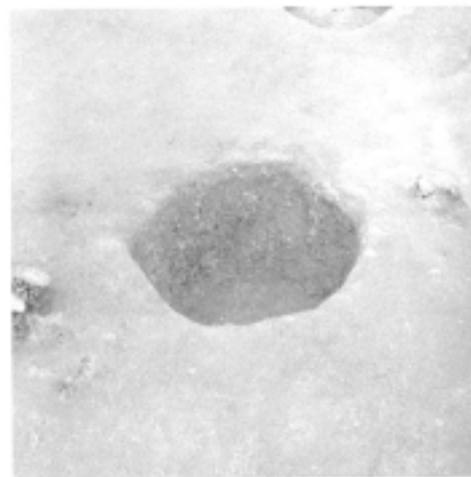
a SK15 (南西から)



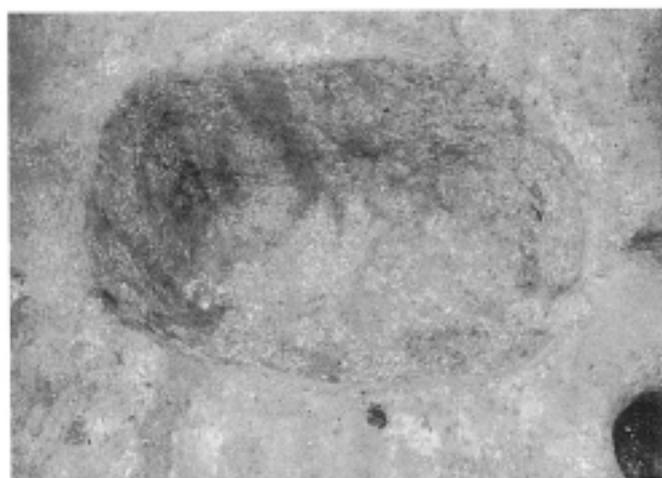
b SK16 (北西から)



c SK17 (北から)



d SK18 (南東から)



e ST1 (南東から)



a B地点遺跡近景（調査後・北西から）



b B地点遺跡墳墓群近景（調査後・南西から）

図版14



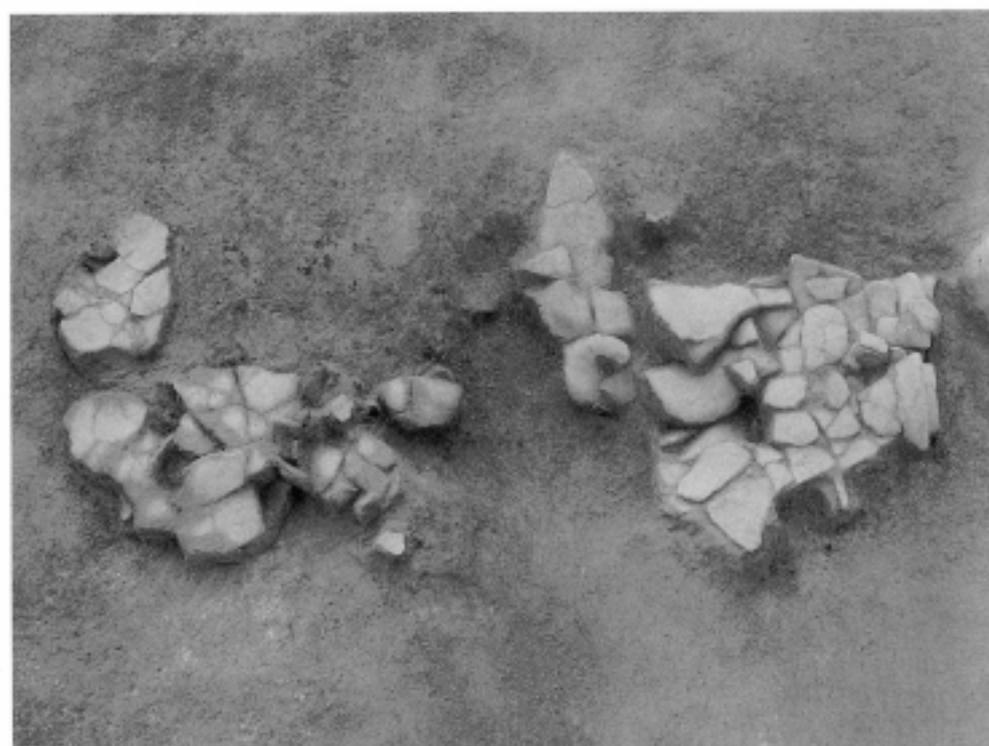
a SH1 (東から)



b SH2・SX2 (東から)



a SH3 (北から)



b SH3土器出土状況 (北東から)

図版16



a SH4 (北東から)



b SH4 鉄器出土状況 (北東から)



a SH5 (北から)



b SH6 (北西から)



a SH7 (南東から)



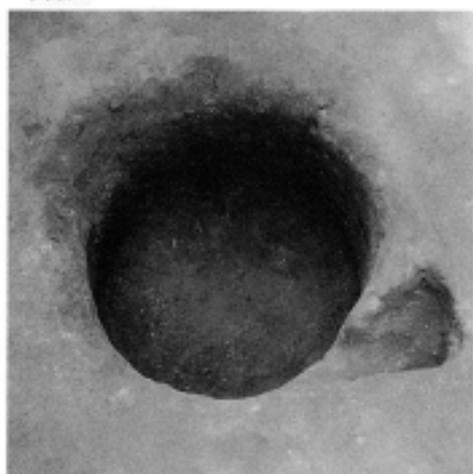
b SB1・SK7 (北から)



a SX1 (西から)



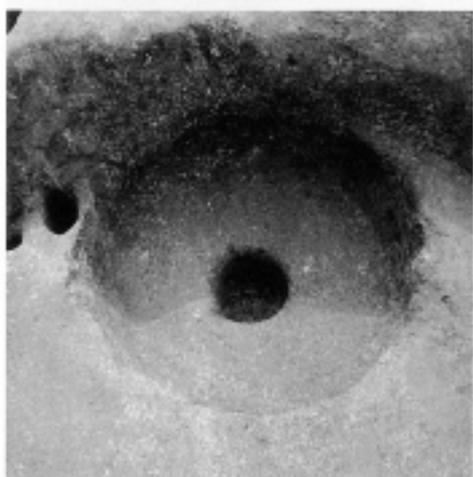
b SX2 (南から)



a SK1 (東から)



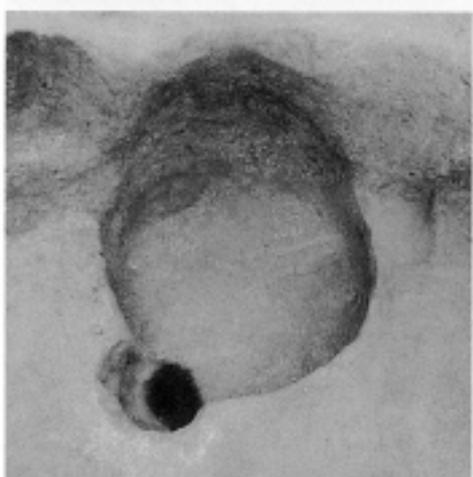
b SK2 (北から)



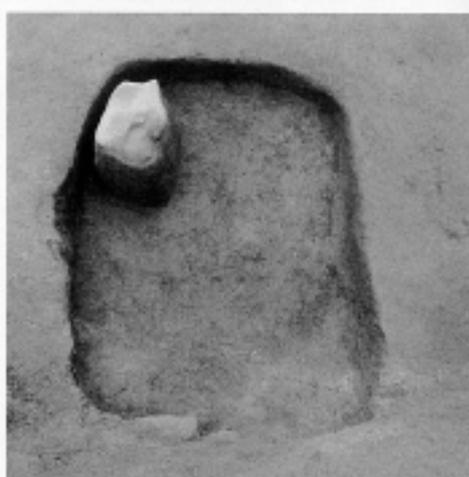
c SK3 (北東から)



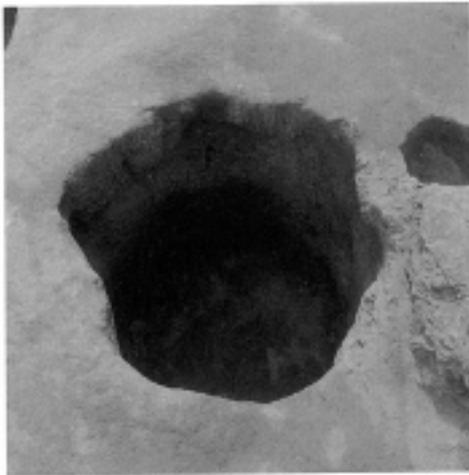
d SK4 (南西から)



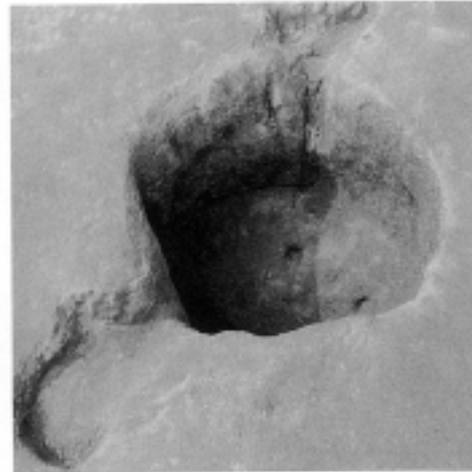
e SK5 (南から)



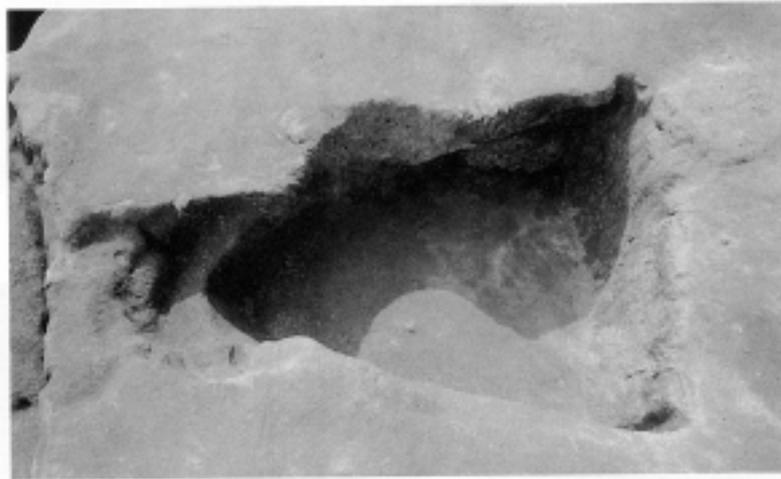
f SK6 (北西から)



a SK7 (東から)



b SK8 (南東から)

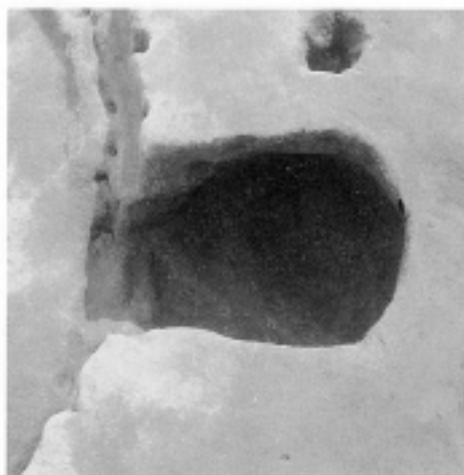


c SK9 (東から)

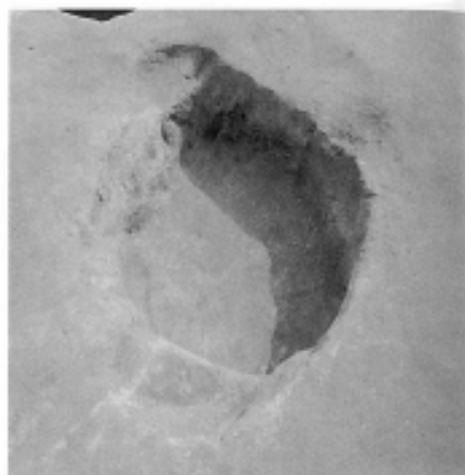


d SK9土器出土状況 (南から)

図版22



a SK10 (北東から)



b SK11 (北から)



c B地点遺跡墳墓群検出状況 (西から)



a 大町七九谷古墳周溝検出状況 (西から)



b 大町七九谷古墳主体部 (南西から)



a 大町七九谷古墳主体部（北西から）



b 大町七九谷古墳主体部鉄器出土状況（南東から）



a ST1・2 (北西から)



b ST3・5・6 (南東から)



a ST4 (北東から)



b ST7・10 (北西から)



c ST8 (北西から)



a ST9 (北西から)



b ST10 (南東から)



c ST11 (南西から)



a ST13 (南東から)



b ST15 (北西から)



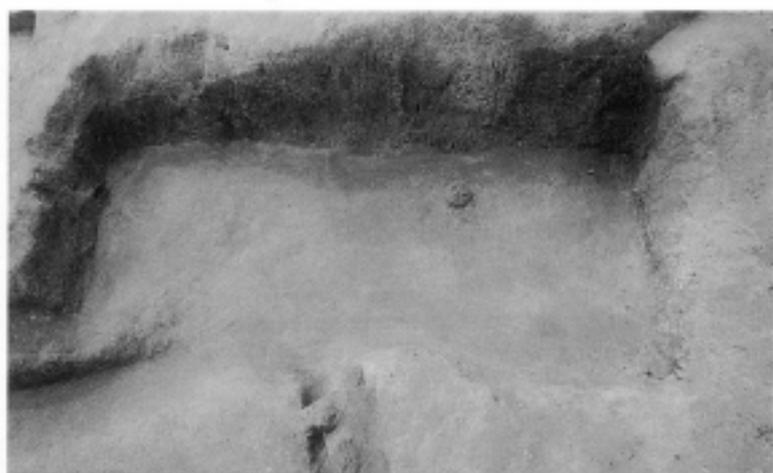
c ST16 (南から)



a ST12・26 (南西から)



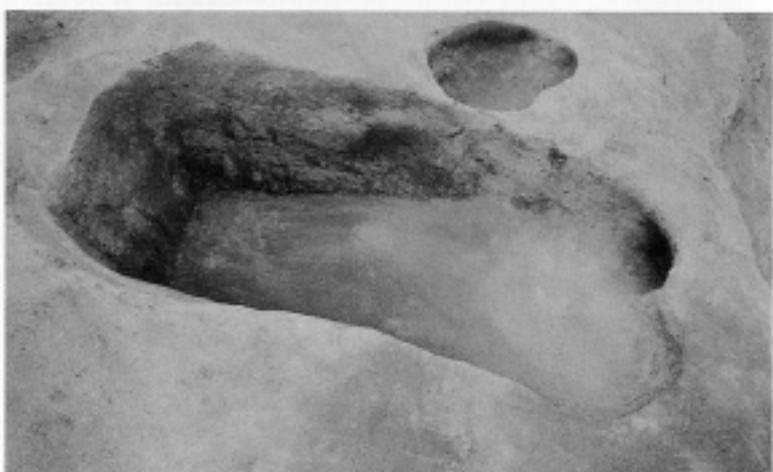
b ST13・14・15 (北西から)



a ST17 (北東から)



b ST18 (南から)



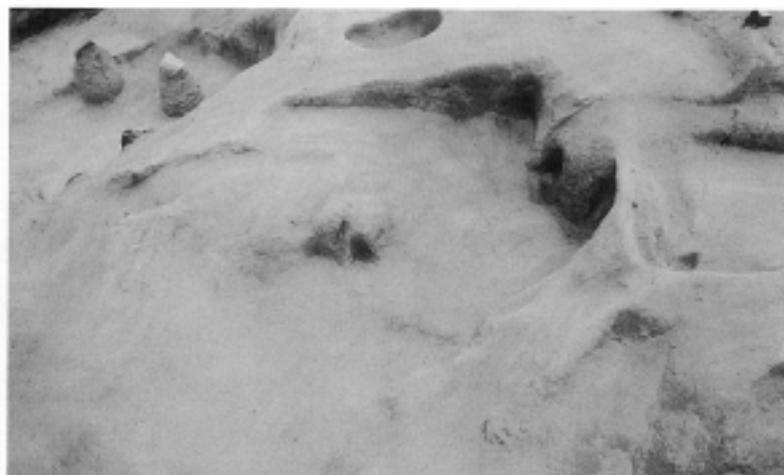
c ST19・SP1 (南から)



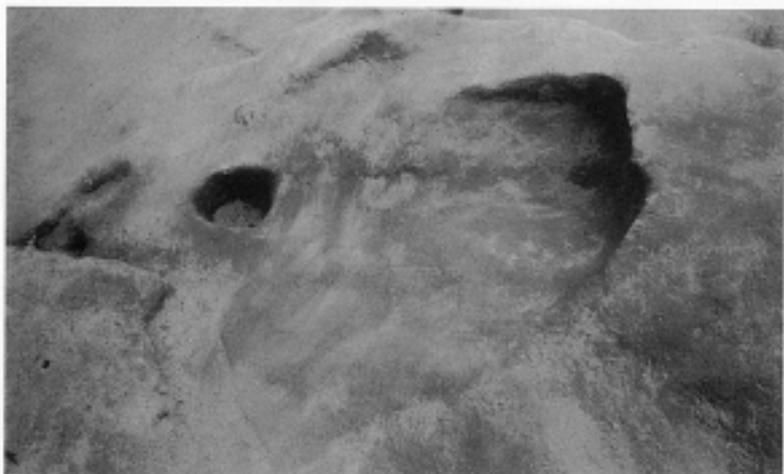
a ST20・21 (南東から)



b 土器群A検出状況 (南東から)



a ST22・23 (北から)



b ST24 (北から)



c ST25 (北から)



a ST28・29 (北東から)



b 土器群B・C検出状況 (東から)



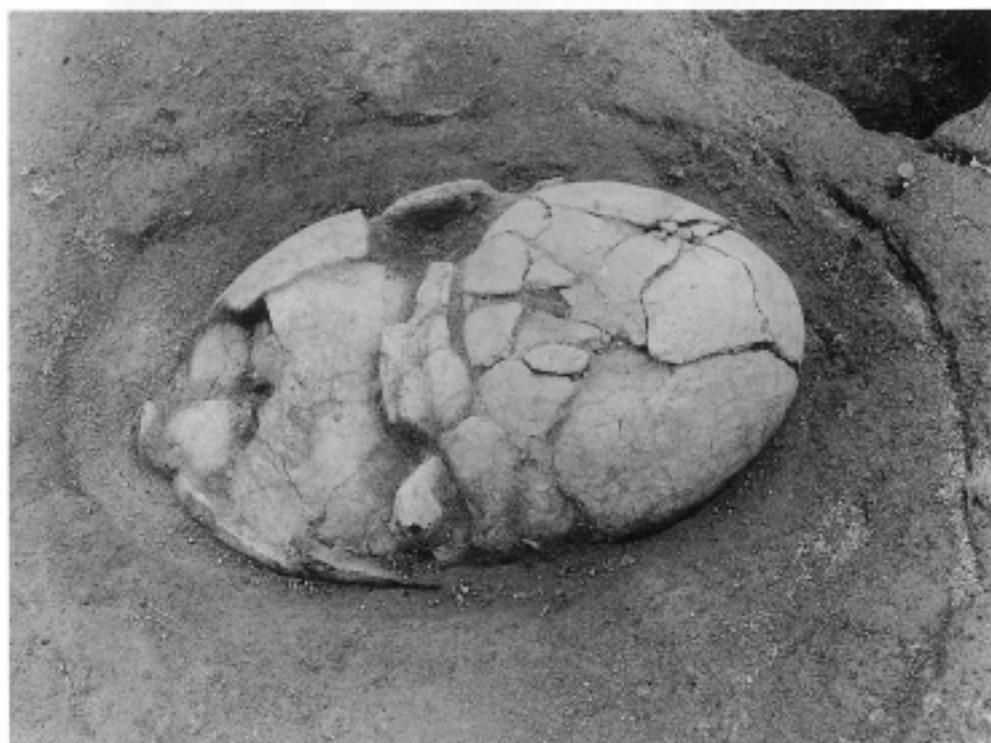
a ST27 (南西から)



b ST30 (東から)



a S T31 (南東から)



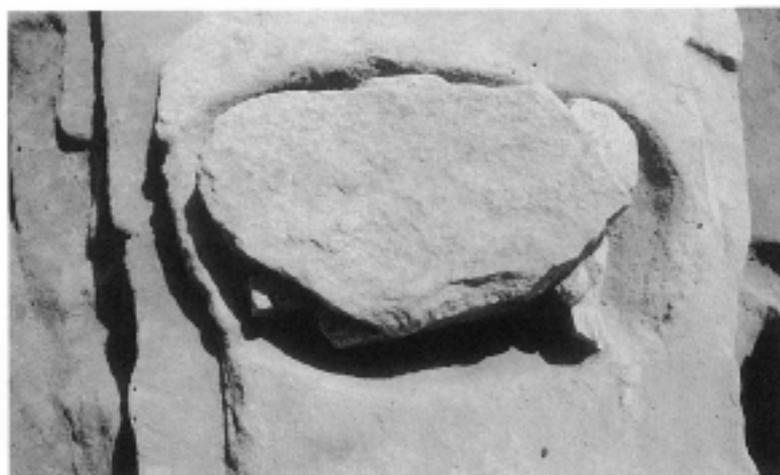
b S P1 (北西から)



a C地点遺跡第I墳墓群近景(西から)



b SS2(南西から)



a SS1 (西から)



b SS1 蓋石除去後 (西から)



c SS3 (西から)



a ST1 (北東から)



b ST2 (東から)



c ST5 (北から)



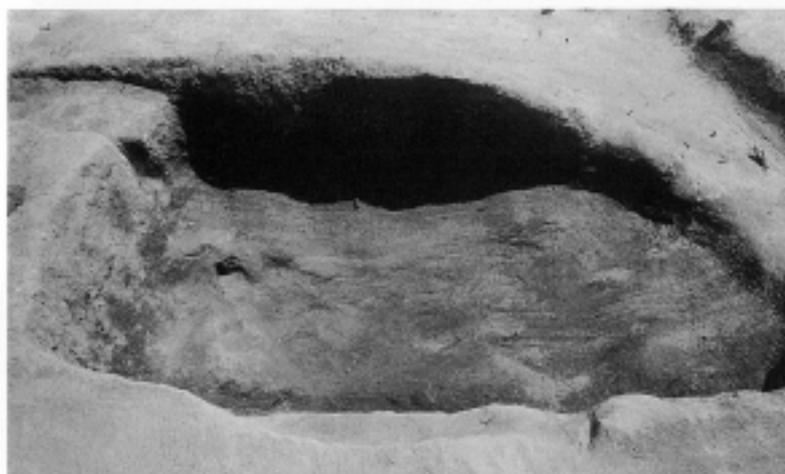
a ST3・4 (北東から)



b ST6 (東から)



a ST 7 (東から)



b ST 8 (北西から)



c ST 9・10 (東から)



a ST9直上土器出土状況(南東から)



b ST11(西から)

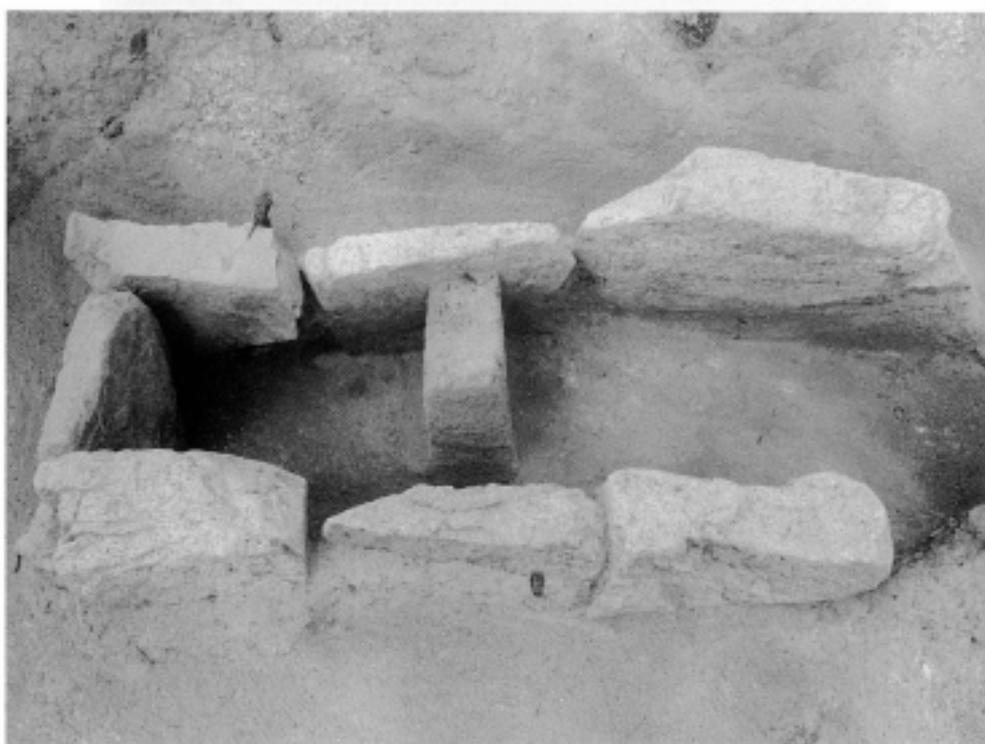


c ST12(西から)

図版42



a C地点遺跡第II墳墓群近景（北西から）



b SS4（南東から）



a SS5 (南東から)



b SS6・SP2 (南西から)



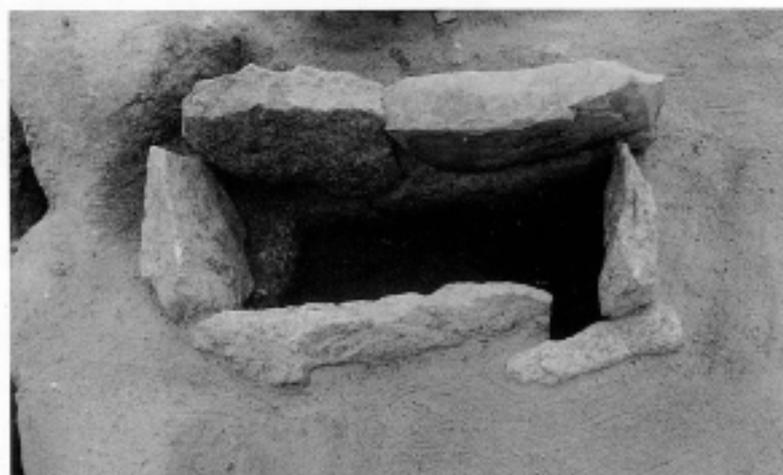
c SS6 蓋石除去後 (南西から)



a SS7 (南東から)



b SS8 (北西から)



c SS8 蓋石除去後 (北西から)



a SS 9 (北西から)



b SS 9 蓋石除去後 (北西から)



c SS 10 (北東から)



a SS10蓋石除去後（北東から）



b SS11（北東から）



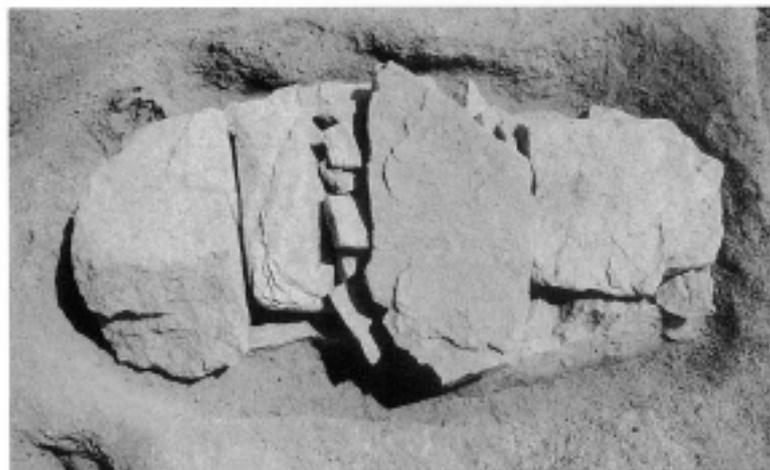
c SS11蓋石除去後（北西から）



a S S12 (北から)



b S S12蓋石除去後 (北から)



c S S13 (西から)

図版48



a S S13蓋石除去後 (西から)



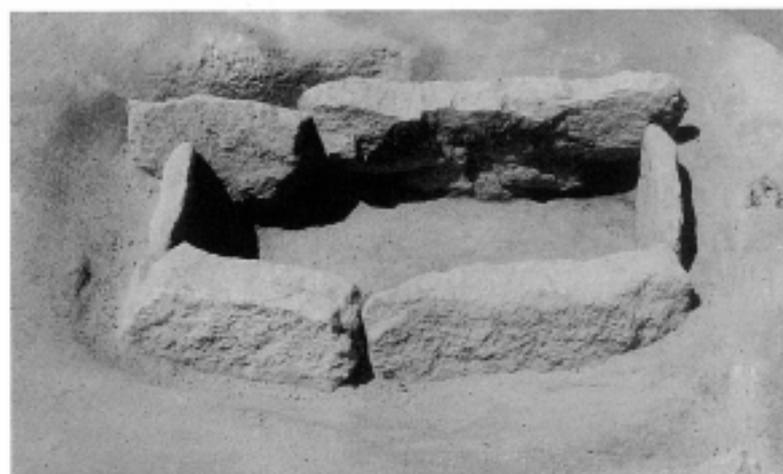
b S S14 (南西から)



c S S14蓋石除去後 (北東から)



a SS15 (南東から)



b SS15蓋石除去後 (南東から)



c SS15土器出土状況 (南西から)



a S S16 (北から)



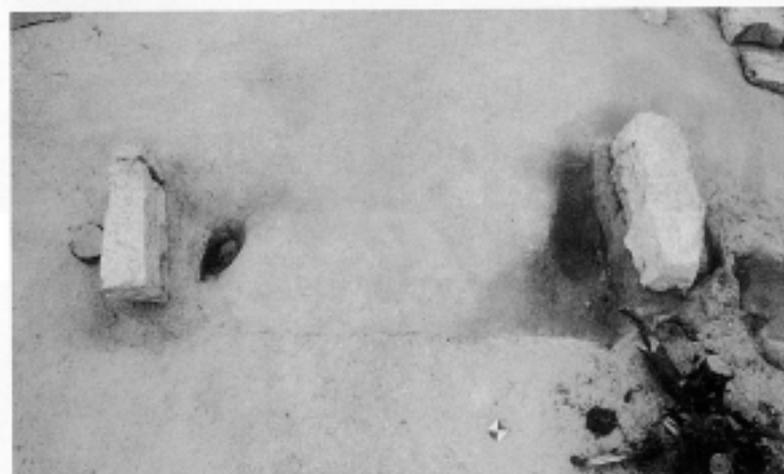
b S S16蓋石除去後 (北から)



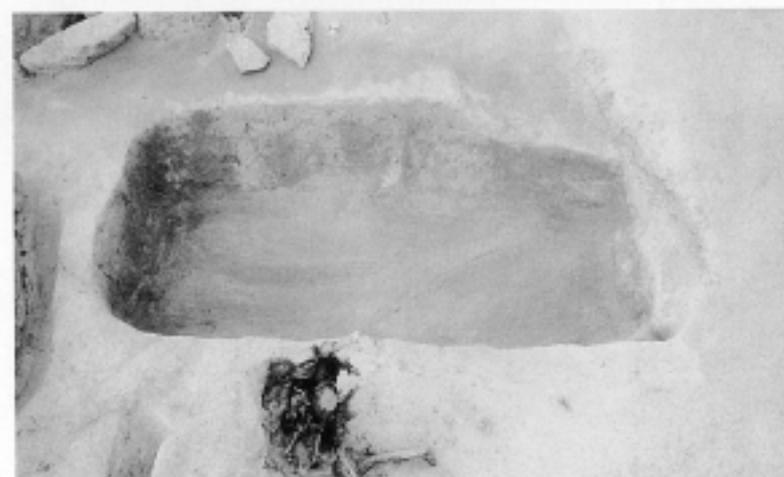
c S S17 (北西から)



a S S17蓋石除去後 (南東から)



b S T13 (北西から)



c S T14 (南東から)



a ST15 (西から)



b ST16・25・27・SS7 (北西から)



a ST17 (南東から)



b ST18 (南東から)



c ST19 (北西から)

図版54



a ST20・23・24 (北西から)



b ST21 (北東から)



a ST26 (南から)



b ST28 (東から)



c ST29・SS12 (北西から)



a ST30 (南東から)



b ST31 (南東から)



c ST32 (北東から)



a ST33・34 (南東から)



b ST35・SS17 (北西から)



a ST35鉄器出土状況(南西から)



b ST35鉄器出土状況(南東から)



a ST36 (北西から)



b ST37 (北東から)



c ST38 (南東から)



a ST39 (北西から)



b ST40 (東から)



c ST41 (北西から)



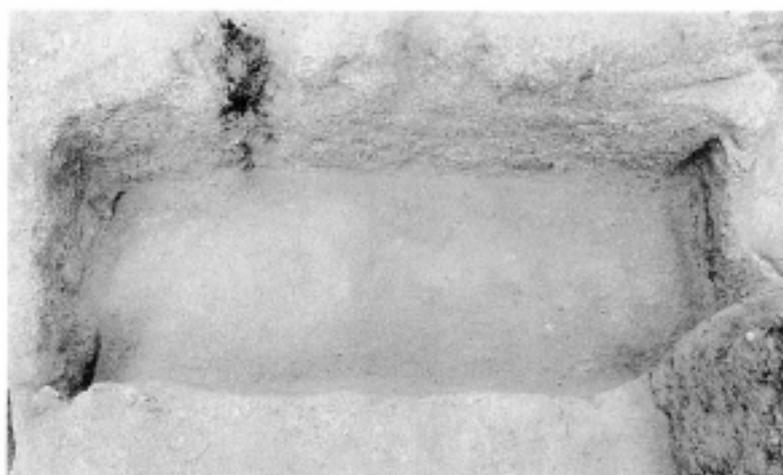
a ST42 (南から)



b ST43 (南東から)



c ST44 (南東から)



a ST45 (南東から)



b ST46・48 (南から)



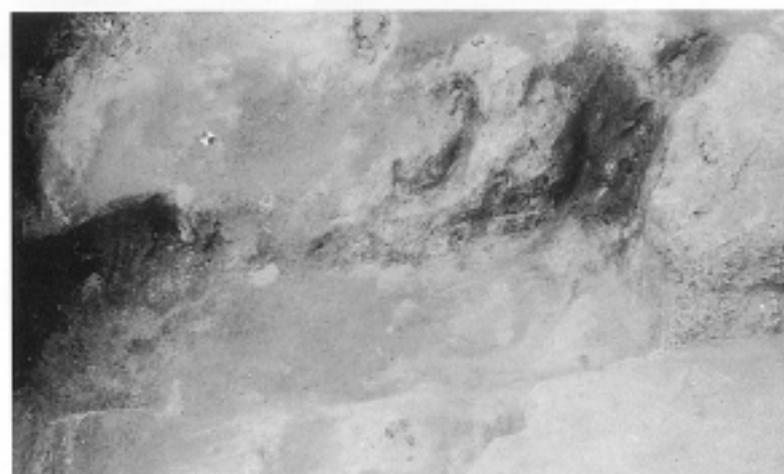
c ST47 (南東から)



a ST48 (南東から)



b ST49 (南東から)



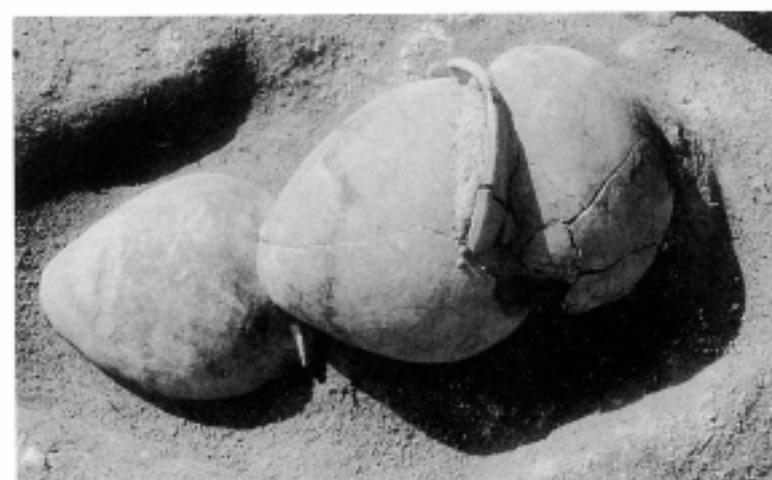
c ST50 (南東から)



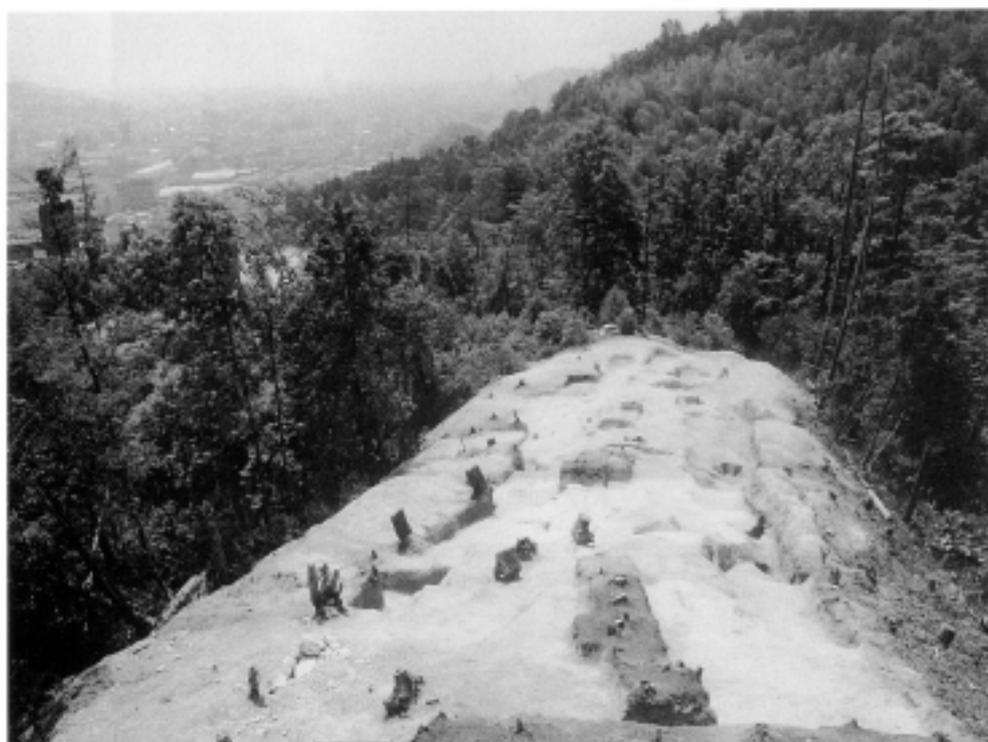
a ST51 (北西から)



b SP1 (北西から)



c SP1土器一部除去後 (南東から)

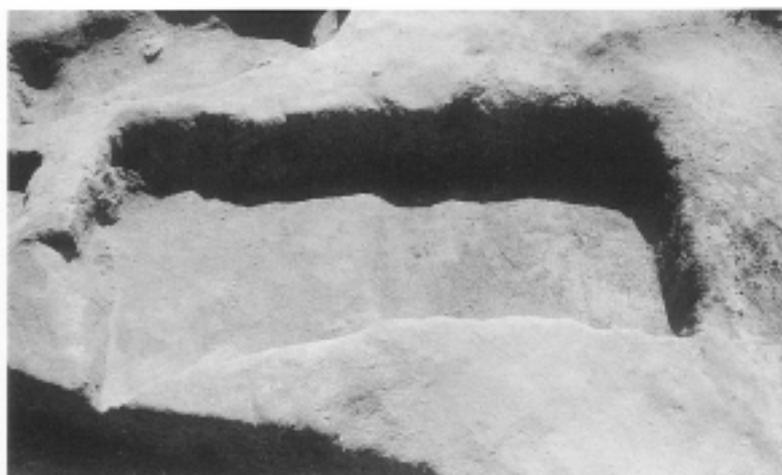


a C地点遺跡第Ⅲ墳基群近景（北東から）



b ST52~59（北東から）

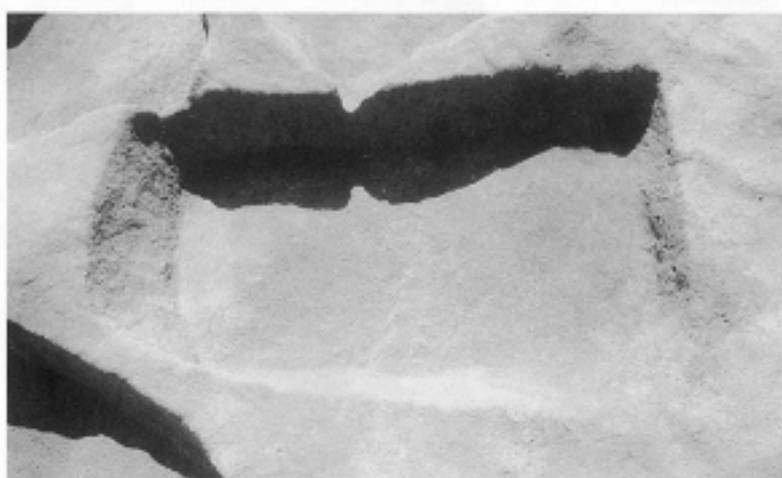
図版66



a ST52 (北西から)



b ST53 (北西から)



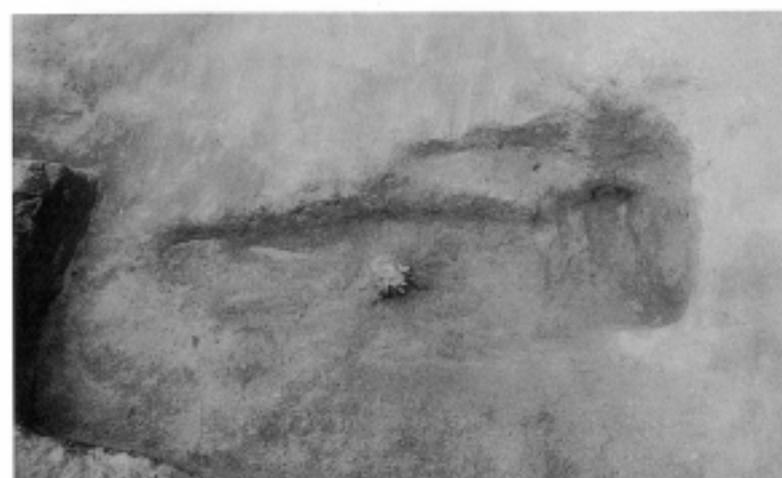
c ST54 (北から)



a ST55 (北西から)



b ST56 (南東から)



c ST57 (南東から)



a ST58 (南東から)



b ST59 (北西から)



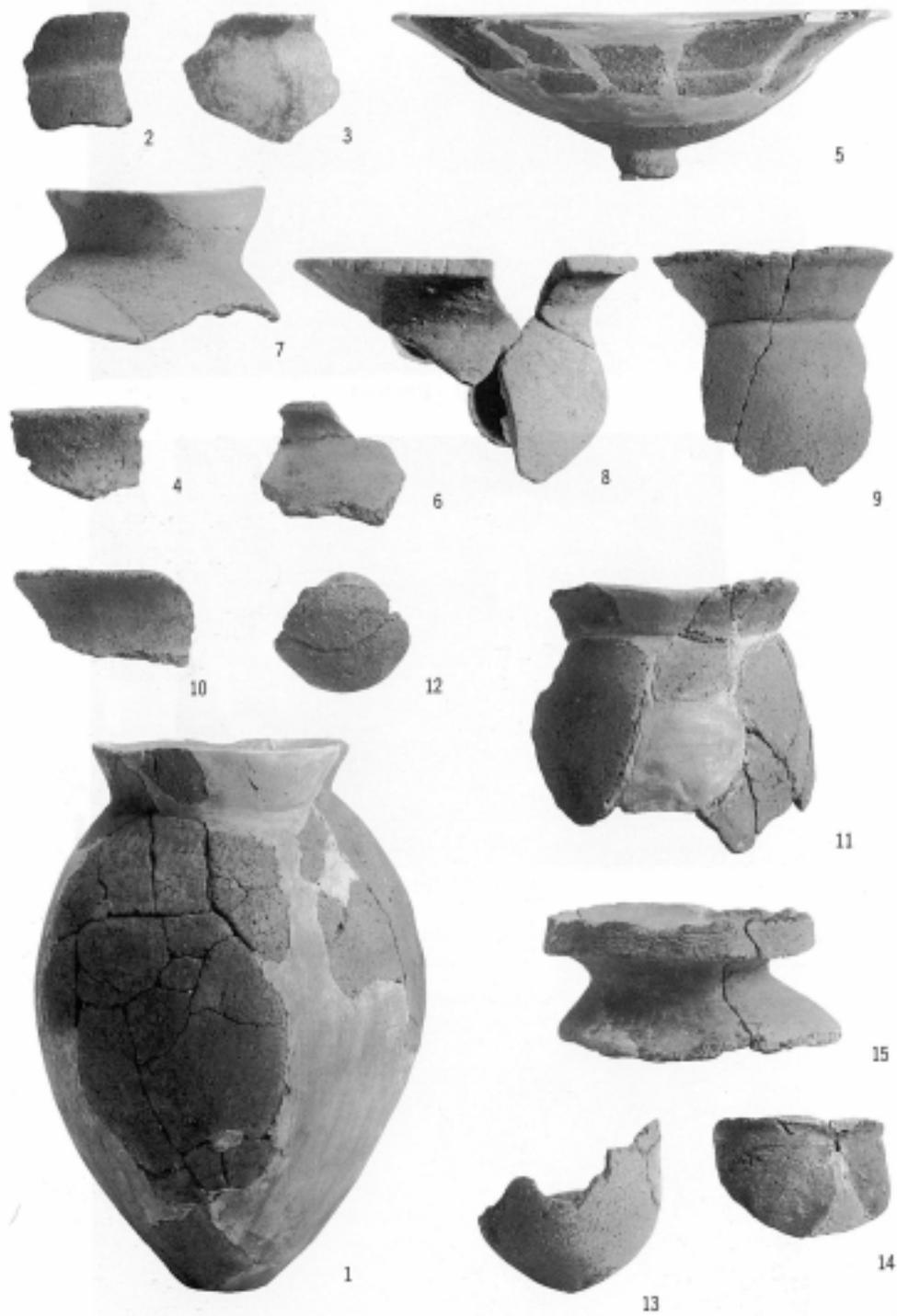
c ST60 (北東から)



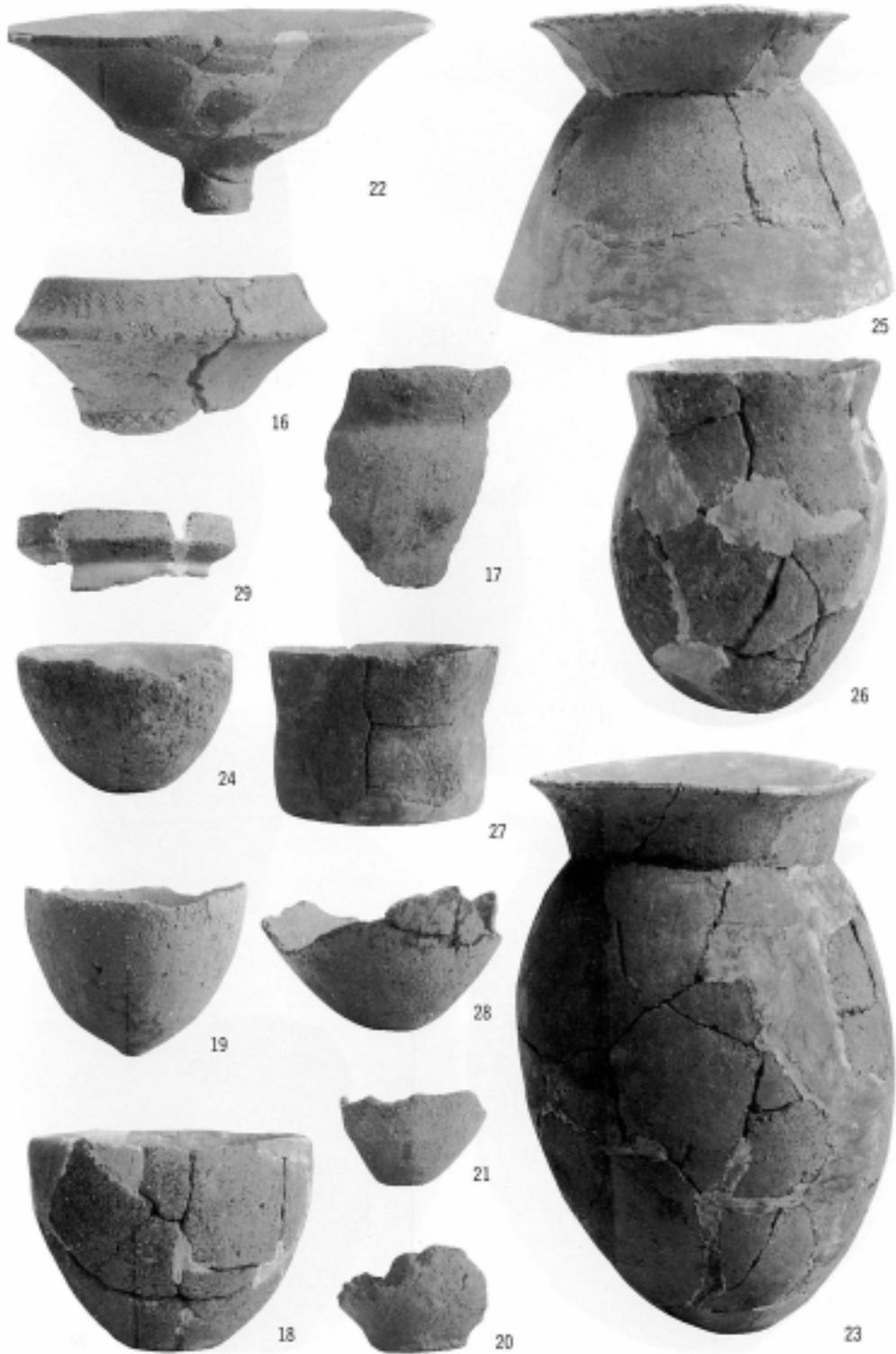
a ST61 (北西から)



b ST62 (南から)

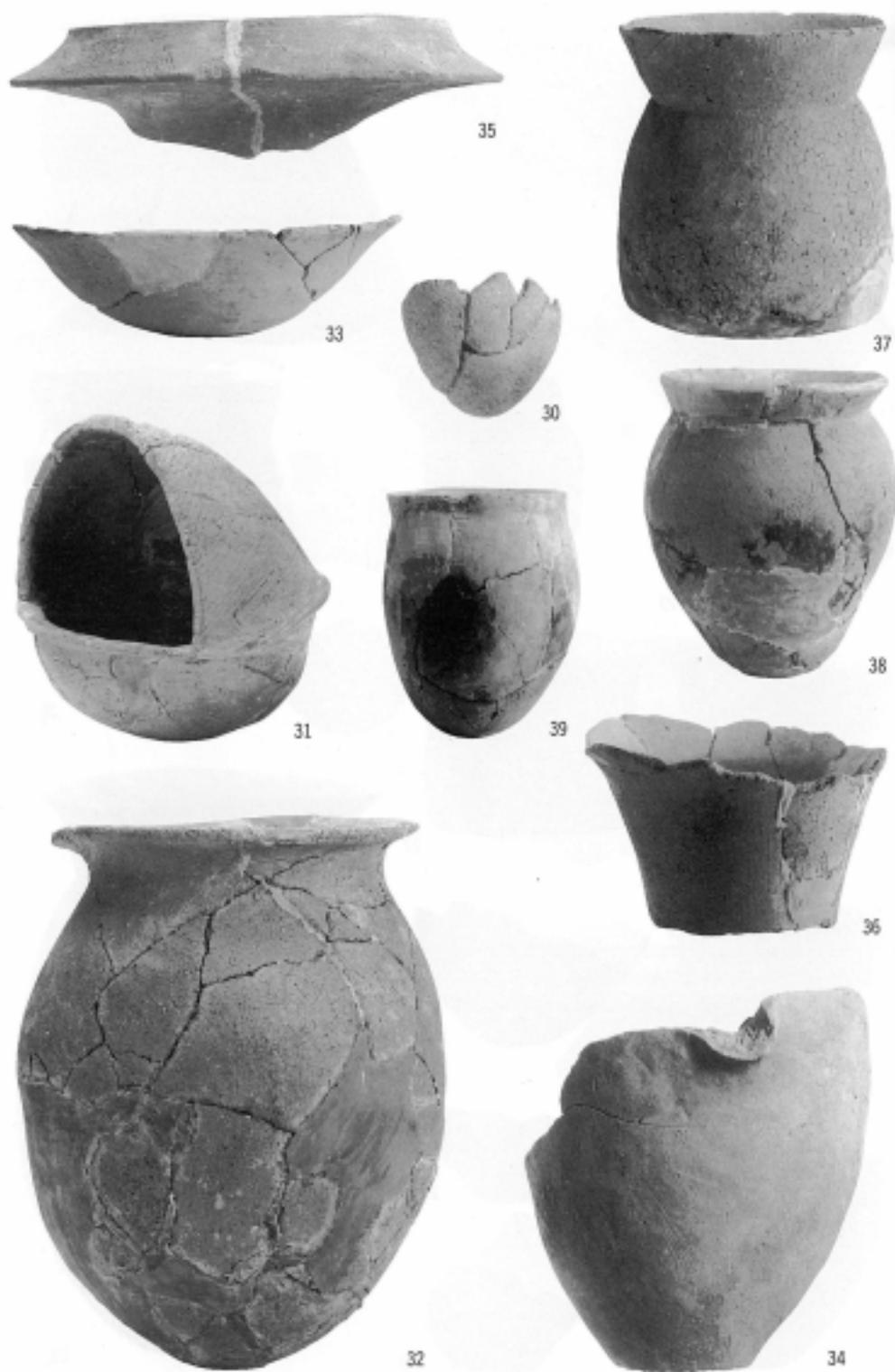


大町七九谷A地点遺跡出土遺物 (1)

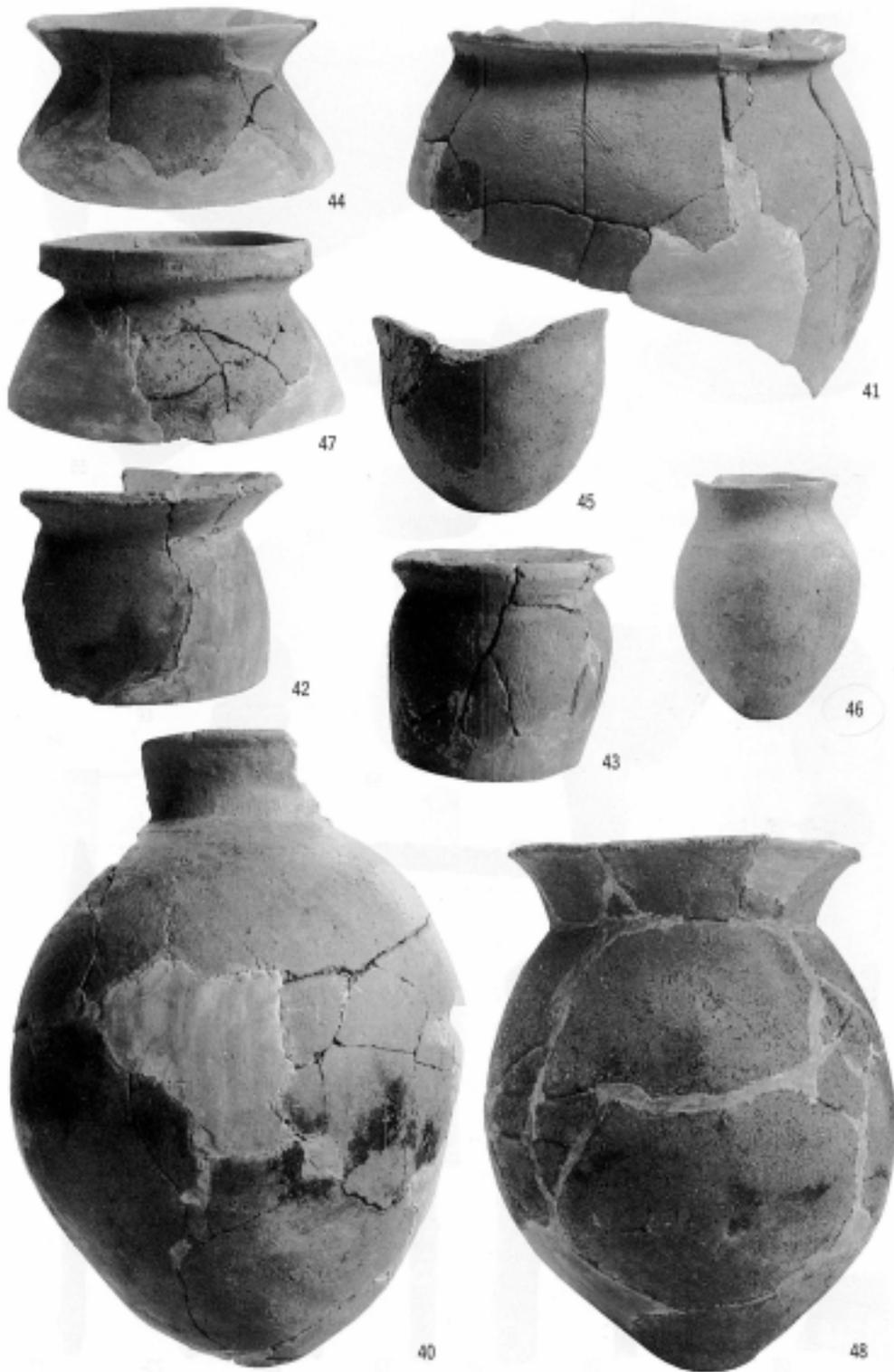


大町七九谷A地点遺跡出土遺物 (2)

図版72

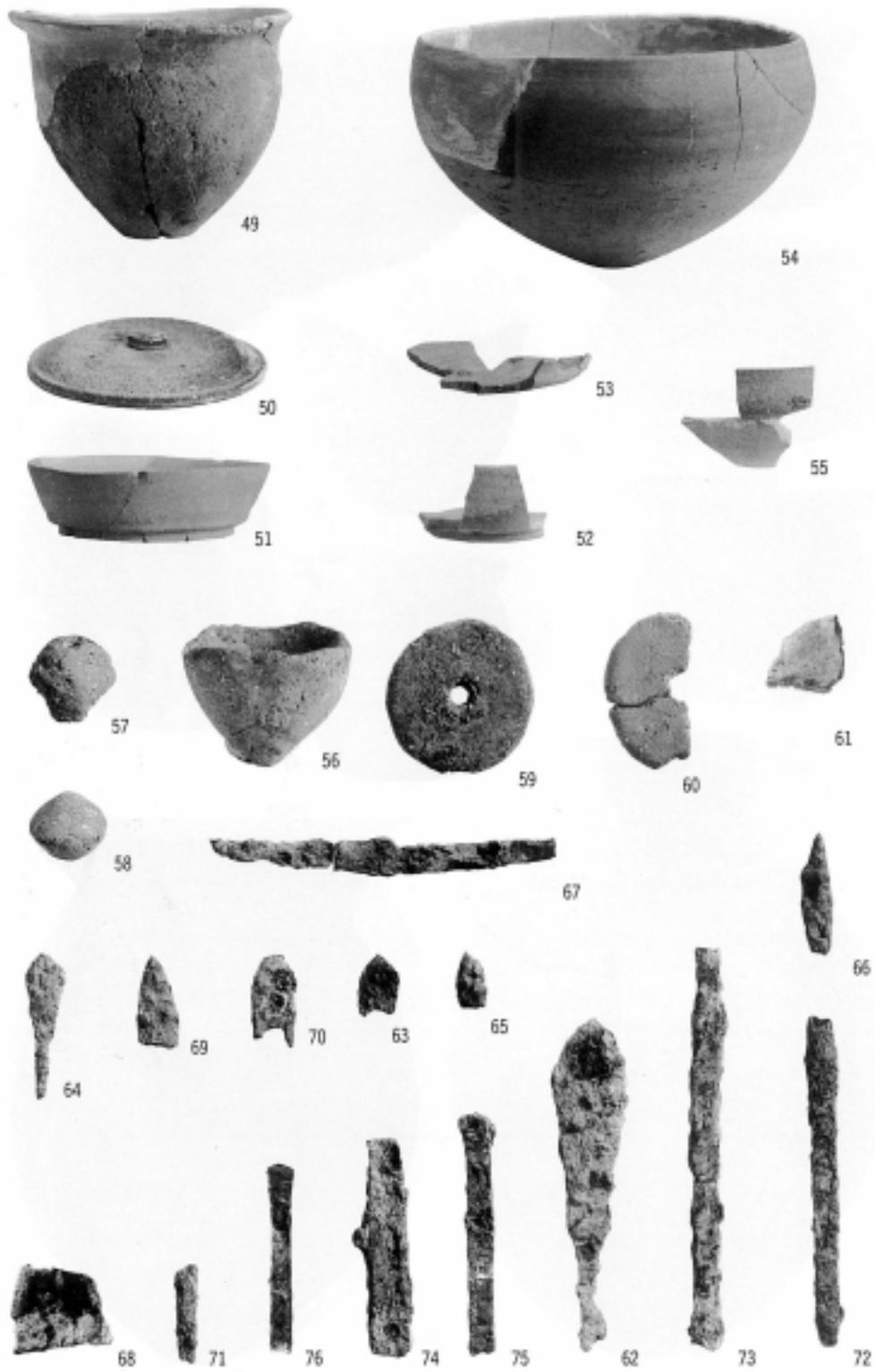


大町七九谷A地点遺跡出土遺物 (3)

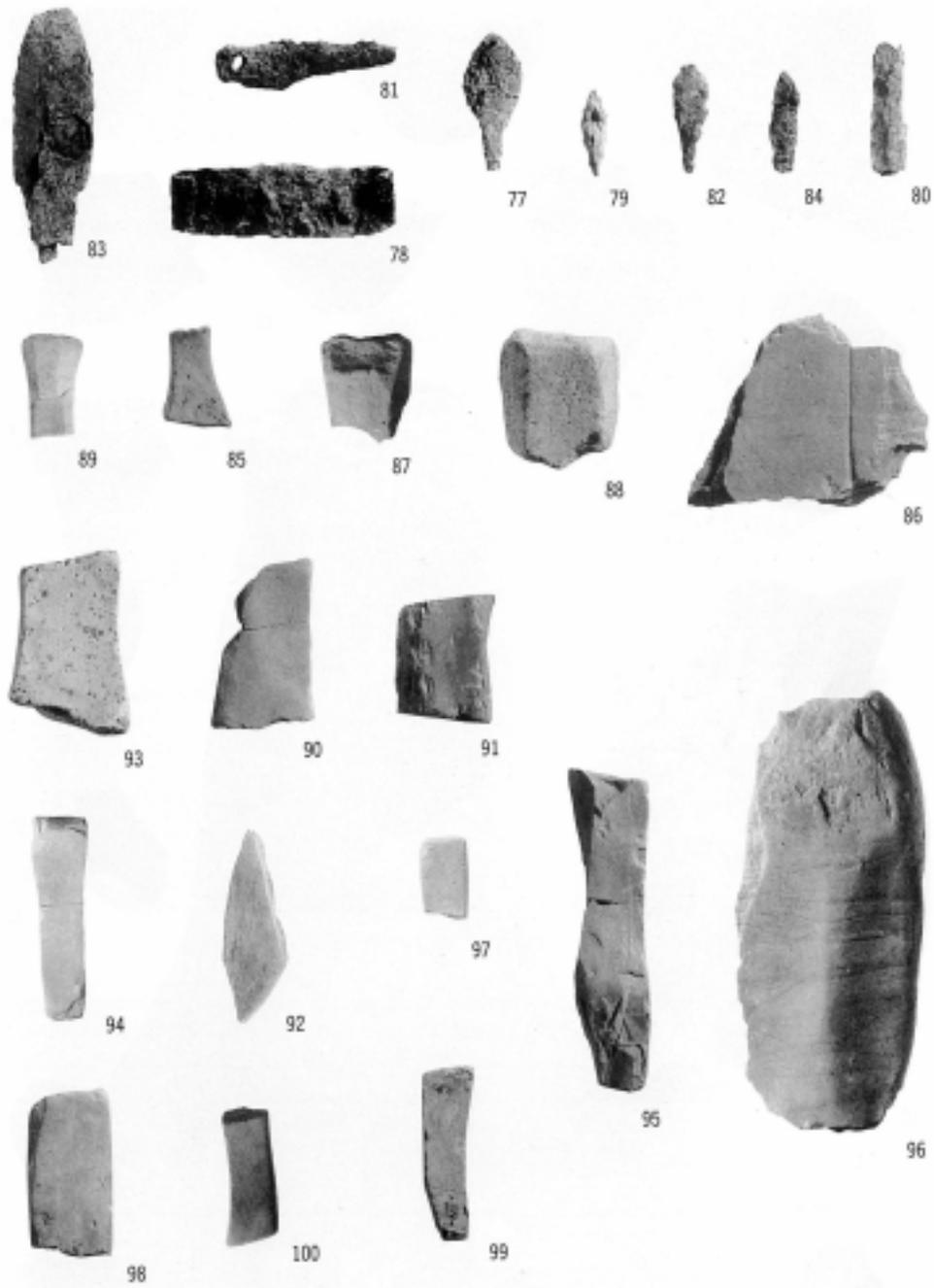


大町七九谷A地点遺跡出土遺物 (4)

図版74

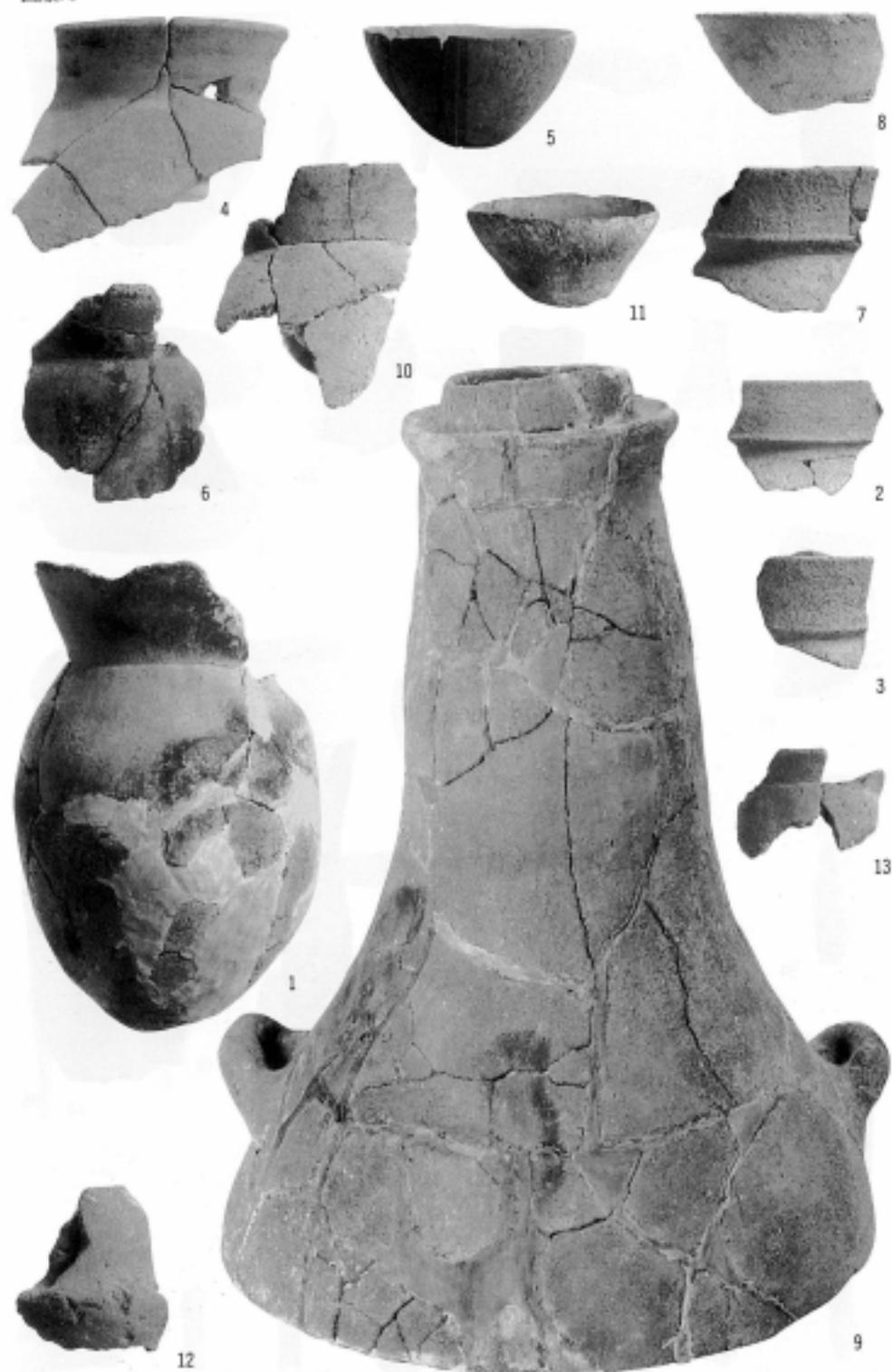


大町七九谷A地点遺跡出土遺物 (5)

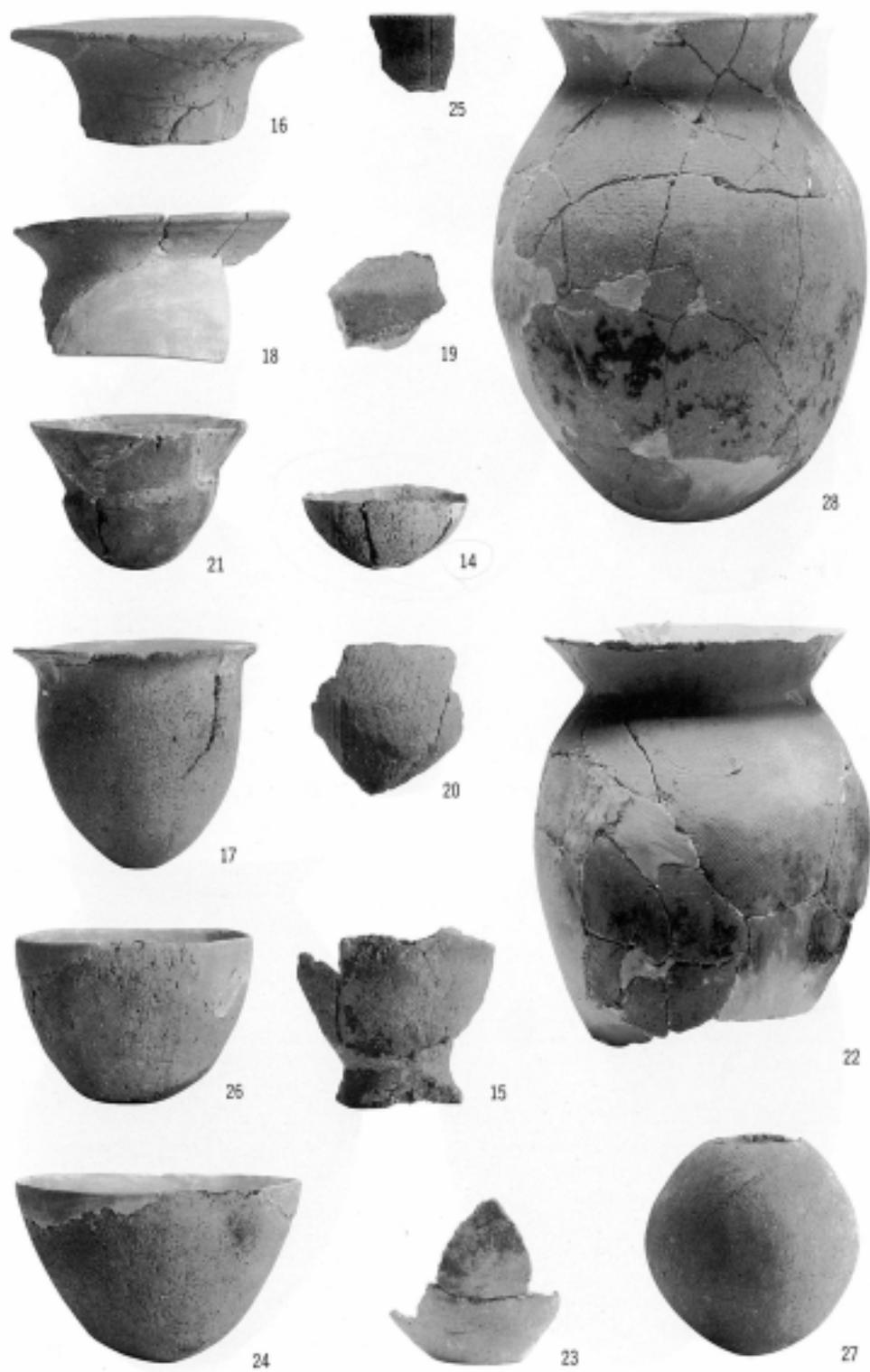


大町七九谷A地点遺跡出土遺物 (6)

图版76



大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (1)



大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (2)



17



30



32



36



31



35



33



34



29

大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (3)



大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (4)



39



42

43

大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (5)



48



49



44



46



45



47

大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (6)

図版82

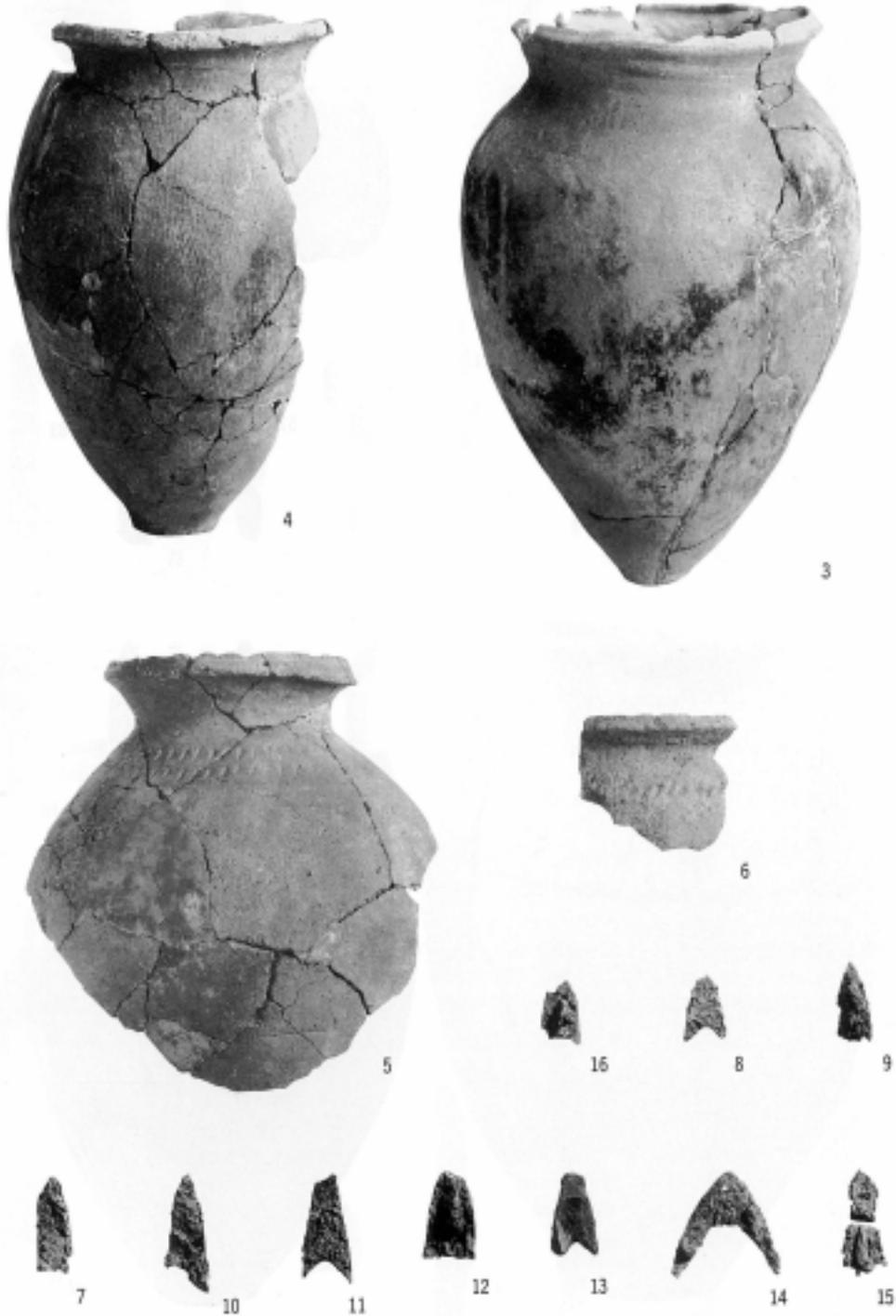


大町七九谷B地点遺跡出土遺物 (7)



大町七九谷B地点遺跡(上)・C地点遺跡(下)出土遺物

图版84



大町七九谷C地点遺跡出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	おおまちしちくだにいせきぐん ーひろしましあさみなみくおおまちしょざいー							
書名	大町七九谷遺跡群 ー広島市安佐南区大町所在ー							
副書名								
巻次								
シリーズ名	財団法人広島市文化財団発掘調査報告書							
シリーズ番号	第4集							
編著者名	村田亜紀夫							
編集機関	財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課							
所在地	〒730-0812 広島県広島市中区加古町4番17号 アステールプラザ内							
発行年月日	西暦1999年12月24日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ’ ”	° ’ ”			
おおまちしちくだに ちてんいせき 大町七九谷A地点遺跡	ひろしまけんひろしましあさみなみく 広島県広島市安佐南区	34102	ー	34° 27’ 10”	132° 27’ 35”	19970512 く 19990514	8,800m <sup>2</sup>	住宅造成に伴 う発掘調査
おおまちしちくだに ちてんいせき 大町七九谷B地点遺跡	おおまちあざしちくだに 大町字七九谷							
おおまちしちくだに ちてんいせき 大町七九谷C地点遺跡								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大町七九谷A地点遺跡	集落 墳墓	弥生時代	住居跡 12軒 土坑 18基 掘立柱建物跡 1棟 土壙墓 1基	弥生土器 須恵器 土師器 鉄器 土製品 砥石 外	平坦面を階段状に造成し、堅穴住居を造る。			
大町七九谷B地点遺跡	集落 墳墓 古墳	弥生時代 古墳時代	住居跡 12軒 土坑 18基 掘立柱建物跡 1棟 土壙墓 1基 土器棺墓 1基 古墳 1基	弥生土器 須恵器 土師器 鉄器 土製品 砥石 外	焼失住居 1軒 支尾根に墳墓群 素環頭刀子が出土			
大町七九谷C地点遺跡	墳墓	弥生時代	土壙墓 62基 石棺墓 17基 土器棺墓 2基	弥生土器 鉄器	3群に分かれて分布			

財団法人広島市文化財団発掘調査報告書 第4集

# 大町七九谷遺跡群

— 広島市安佐南区大町所在 —

1999年12月

編集発行 財団法人広島市文化財団  
広島市中区加古町4番17号 TEL(082)248-0427

印刷 大村印刷株式会社  
広島市南区的場町一丁目3-7